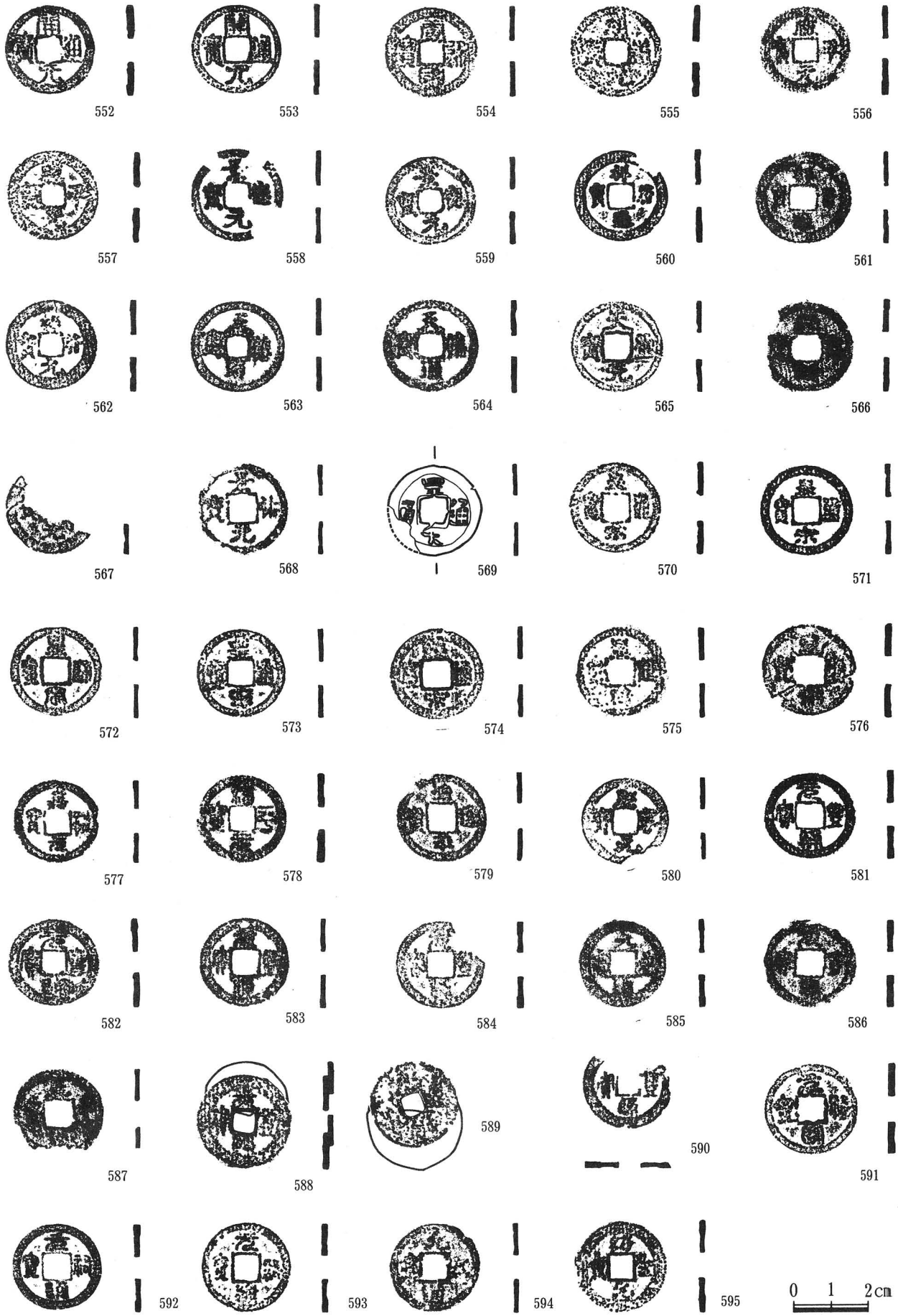
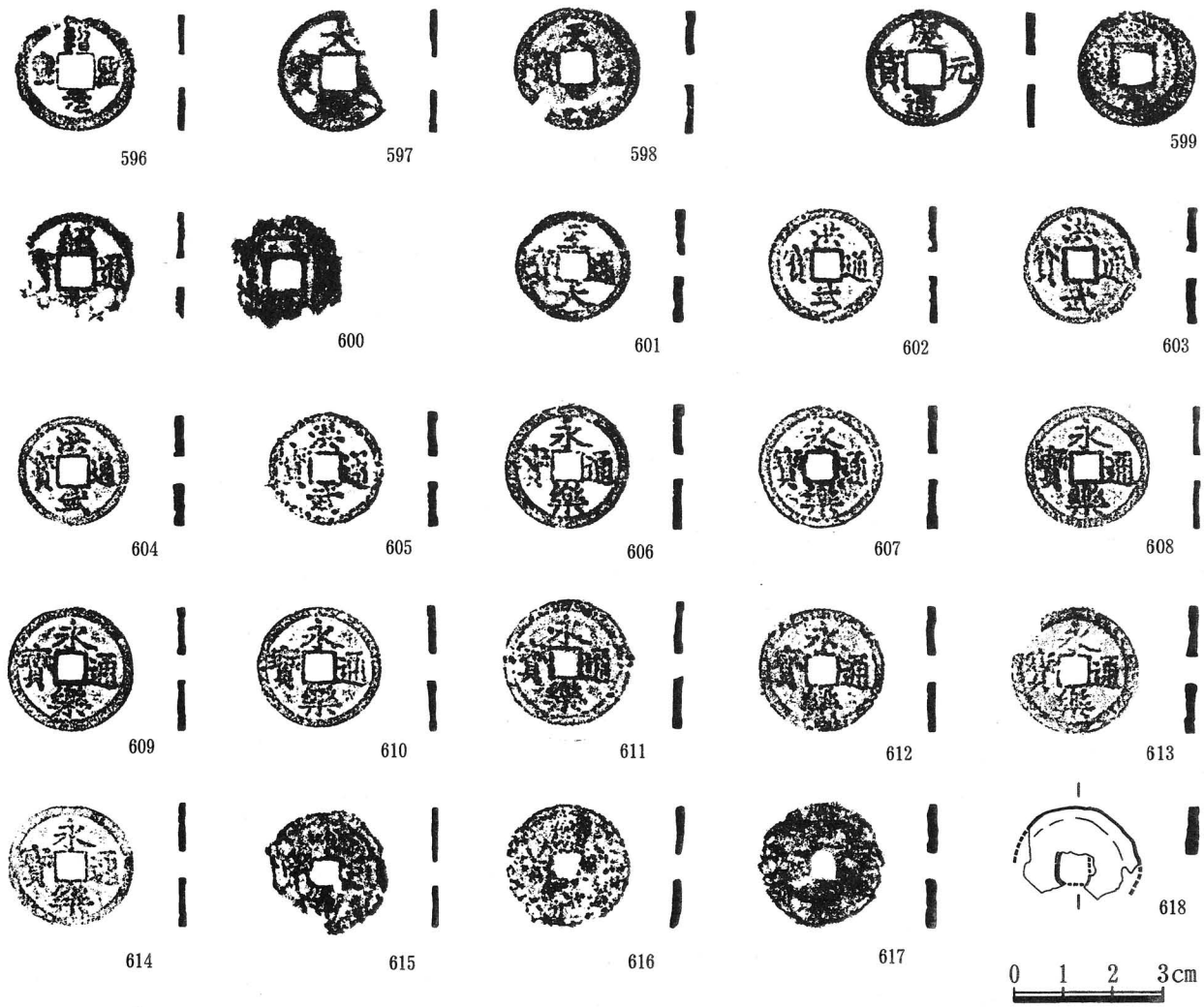


第143図　ＳＫ-78出土銭貨実測図（１）



第144図　ＳＫ-78出土銭貨実測図（２）

深鉢(189)、三足付鉢(186・194・255)、備前焼の擂鉢(187・188・190・199・200・202・204・223・228・233・236～237・242～245・249・252・253など）や甕・大甕（195・201・203・205・206・210・211・213・215～216・238など)、在地系の鉢や壷甕類、瀬戸の香炉(234)、輸入陶磁器の白磁・青磁・青花・褐釉陶器などが出土している。

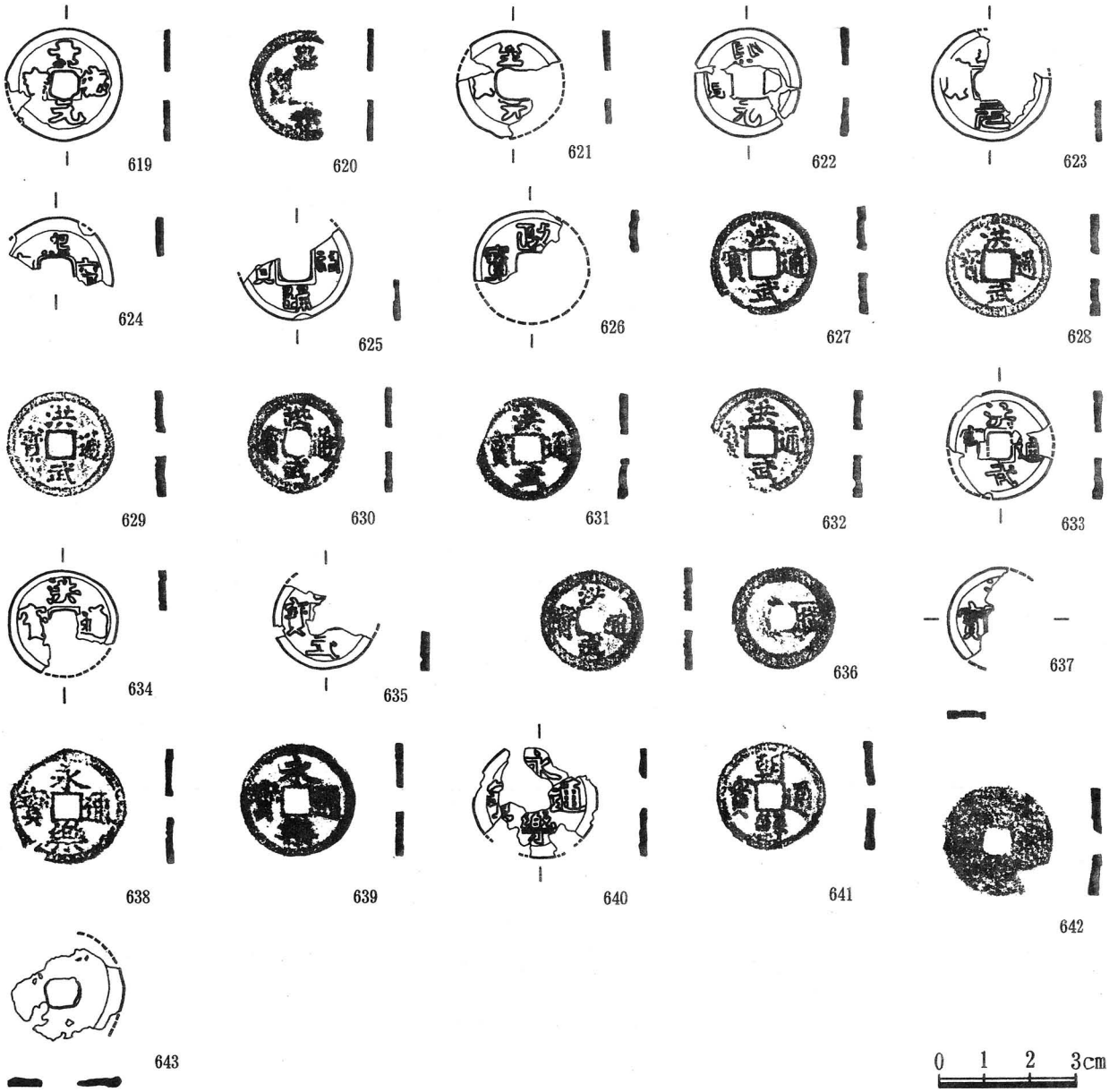
白磁（第134・135図）は、玉縁や口禿げ皿が１点もみられない。つまり、13世紀代までは細々とした居館だったと推定できる。全体的には、15世紀代を主とする八角小杯や切高台の皿と景徳鎮の16世紀代の皿が多い。小杯と切高台の皿の量は、市内屈指である。321の小皿外底には、「八」もしくは「二」の様な朱墨が認められる。当遺物は、西南部の24号建物西桁の北から２番目の柱穴から出土しており、地鎮祭で埋納された可能性がある。朱墨としては、市内２例目である[(1)]。

青磁（第135～137図）は、12～13世紀の劃花文碗から、鎬蓮弁文碗、ラマ式蓮弁文碗、印花文碗、雷文帯碗、稜花型皿、稜花型盤、剣先蓮弁文碗へと16世紀前半まで、切れ目なく出土している。主体は13世紀後半の鎬蓮弁文碗からで、白磁とほぼ同じくする。量的に突出したり著しく減退する時期は無いようであるが、稜花型皿は少ない。また、稜花型盤は市内初出土であり、当時の繁栄ぶ

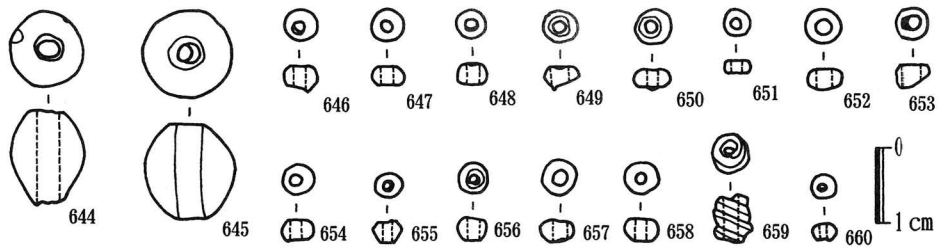
りが窺える。

青花（第138～140図）は碗・皿類で構成され、景徳鎮窯産が多い。446と447は同一個体かもしれないが、市内初の大型タイプの合子である。

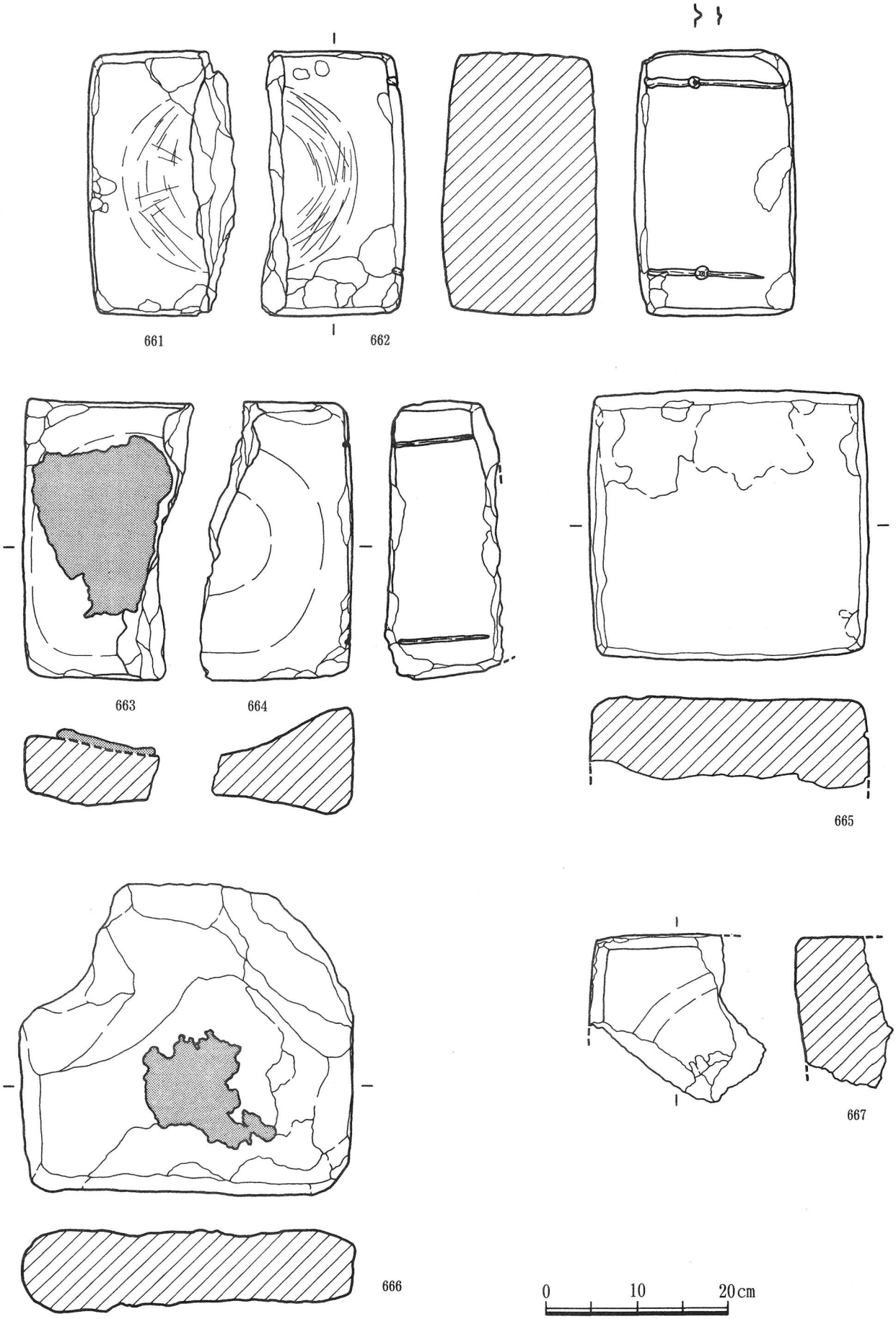
褐釉陶器（第140図）は少なく、壷甕類の破片が若干出土している。



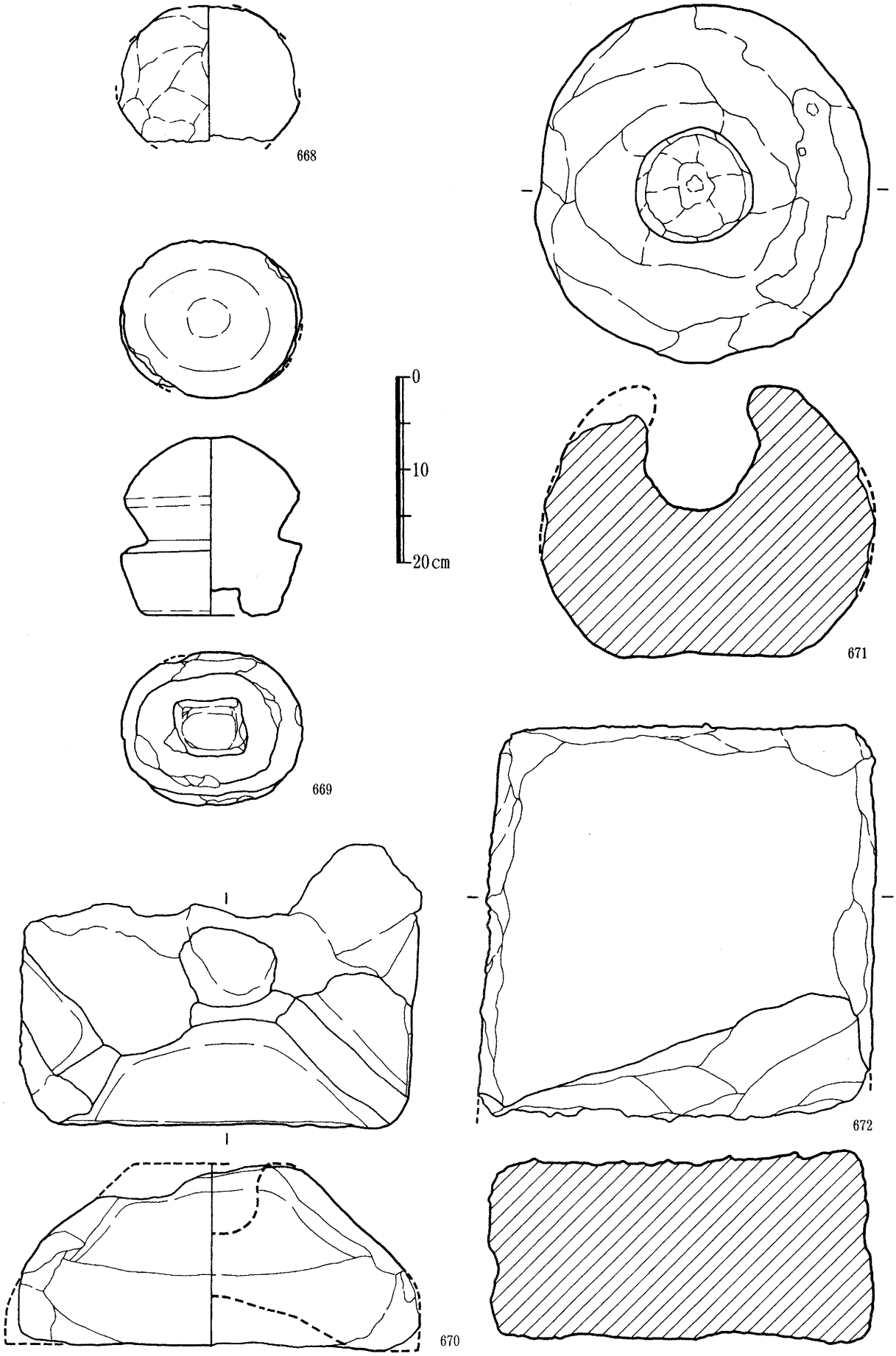
第145図　Ⅵ区出土銭貨実測図　**619**：SK-100、**620・623～624**：SZ-31、**621**：SZ-32、**625**：2594、**626**：SD-61、**627**：1402、**628・632・634**：SZ-24、**629**：SZ-27、**630**：2920、**631**：SZ-35、**633**：2236、**635～637**：1422、**636**：SZ-08、**638・641**：SD-54、**639**：SD-61、**640**：SD-49、**642**：SK-65、**643**：163、**622**：排土Ⅲ層



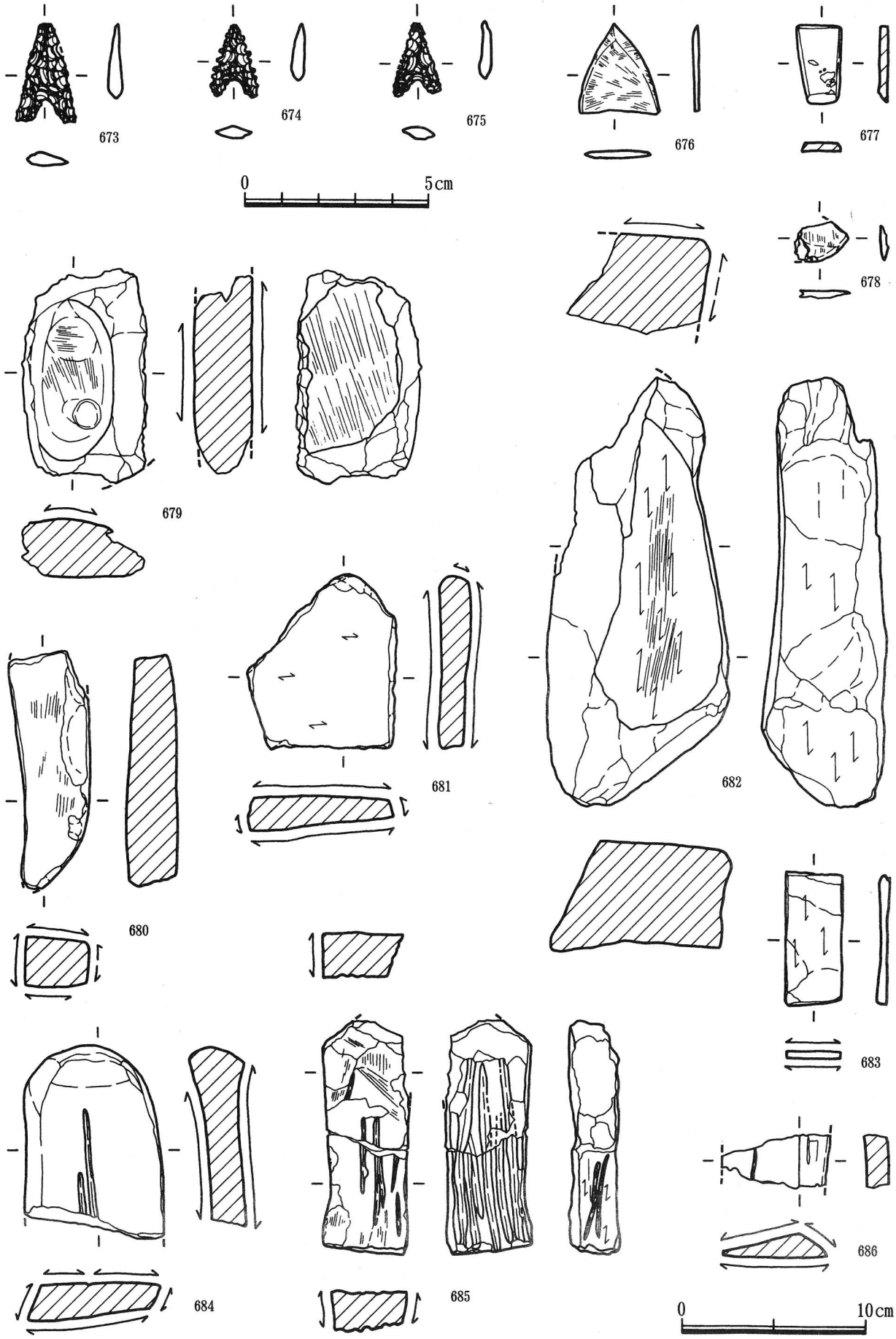
第146図　Ⅵ区出土　玉類実測図　**644**：SK-111、**645～659**：SZ-03、**660**：Ⅱ層



第147図　ＳＫ-17出土石材実測図　アミ目は白色粘土

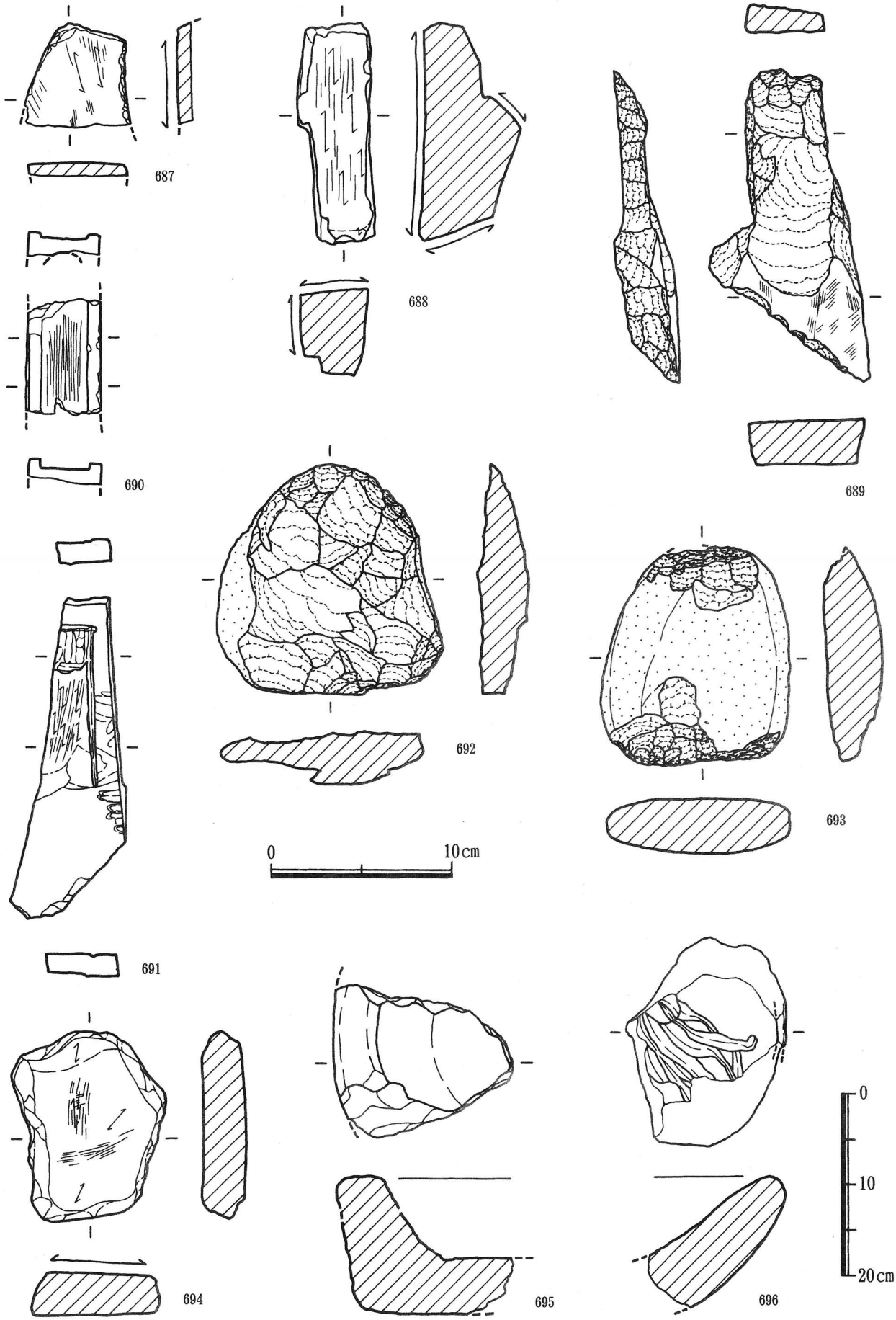


第148図　ＳＤ-40出土　五輪塔実測図

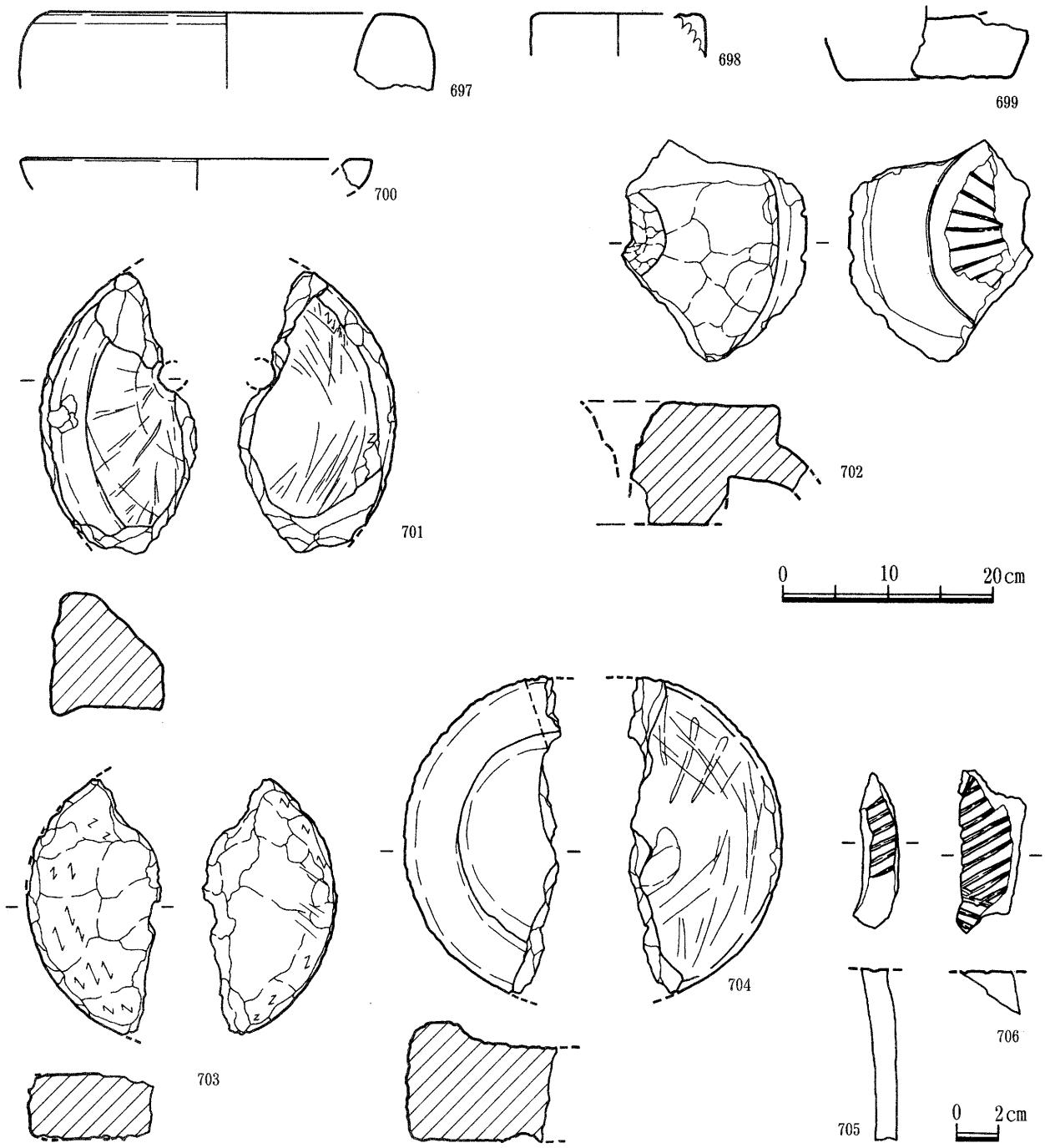


第149図　Ⅵ区出土石器・石製品実測図（1）

675：2552、**676**：SZ-27、**677**・**680**・**682**・**684**～**685**：SR-01、**679**：1310、**681**：SK-10、**683**：SK-56、**686**：359、**673**：Ⅲ層、**674**：Ⅳ層、**678**：排土



第150図　Ⅵ区出土石器・石製品実測図（２）　**687**：420、**688**：SR-01、**689～690**：SD-64、**691**：SK-58、**692**：SD-48、**693**：SZ-17、**694～695**：SK-117、**696**：SK-23



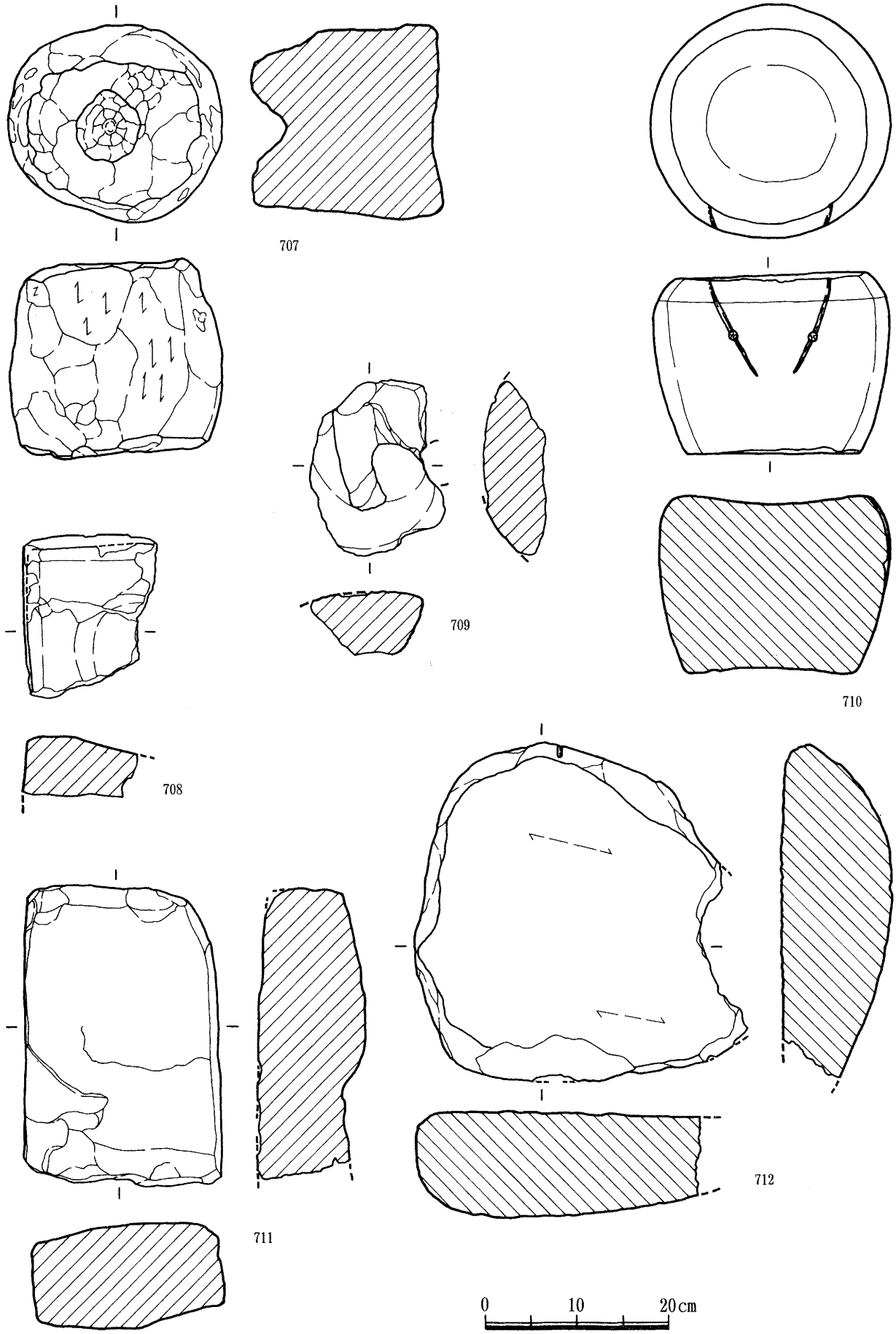
第151図　Ⅵ区出土石器・石製品実測図（3）　697：2332、698：SZ-15、699：SA-01、700：1746、701：SK-111、702：SR-01、703：SD-64、704：SD-39、705：SD-27、706：SZ-32

中世末～近世初頭の時期は、肥前の陶器皿が目立つ（第141図）。

近世に移行して間もなく一国一城令が発布されたため、遺構・遺物の量が限られる。調査区東南部の撹乱状の土層や01号道路上面～上位にかけての覆土から、肥前と薩摩の陶器が出土している。これらの内、碗皿類は肥前、鉢・甕類は薩摩が主となる傾向は、市内共通である。

18世紀代の遺物は皆無に等しく、19世紀代は若干の陶磁器が出土している。近世以降の堆積土は重機で削平したために情報量は限られる。

土製品は少なく、土錘２点（257・258）と鞴の羽口１点（259）が出土した程度である。土錘２



第152図　Ⅵ区出土石器・石製品実測図（4）　707：SK-114、708：SR-01、709：SD-39、710：SZ-09、711：SD-18、712：SA-02

点は同じタイプで、中世に属すると思われ、段丘下の川で使用していた漁網錘と思われる。鞴の羽口は、23号土壙墓の覆土から出土しているが、周辺で検出した炉址で使用されたものと推定される。

銭貨は、78号土坑以外では26枚出土した。620・621・625・627・630・633～637の10枚は柱穴から出土し、619と642の２枚は土坑から、他は撹乱坑や溝状遺構から出土している。これらの殆どは覆土に偶然混入したものと推定されるが、柱穴から出土したものは地鎮目的のものもあったと思われる。

鉄鍋・銭貨以外の金属製品は、土壙墓出土の鉄釘が多い他、鉄鏃１点（第189図-952)、刀子４点（957・961・962・969等）が出土している。954の鉄製品には刃部が無く、素材として持ち込まれていた可能性もある。

石器・石製品（第147～150図）の殆どは中世の遺物であり、砥石と石臼が目立つ。700・702・705・706は茶臼で、一般の石臼よりも粒子の細かい石材で製作されている。691は製作途中の硯で、城内で製作していた（量産ではなく、単品で）と推定される。軽石製五輪塔の地輪は、半截されて長方形に加工され、耐熱用材として利用されている。662と664・710には沈線と穿孔があり、同一個体と推定される。710は、大型柱穴の根石として据えられていた。柱穴の半分程まで拳大の礫を５～６段重ねた上に据えられていたが、堅固ではなかったために出土状態の実測図も写真も残せなかった。707は、114号土壙墓の南壁中央付近中位の壁面に密着して出土した。五輪塔水輪と推定されるが、磨滅・風化が著しい。灰色系の軽石塊は市内には露頭せず、鹿児島県錦江湾寄りの質感に似ている。

その他、96号建物の北西隅付近の、現代畦畔の土中から、宝暦７年（1757）製の「綉室妙線大姉」銘の墓石（長さ120㎝・幅20～26㎝・厚さ12㎝前後の溶結凝灰岩板石）が出土し、18世紀代にも居住者が居たことを物語る。

小結

遺構の密集・重複によって、掘立柱建物は20～30棟程度増加すると推定されるが、主要建物や明瞭な建物は復元できている。

区画溝は大きく３方向（東西～南北、北北西～南南東・西南西～東北東、北北東～南南西・西北西～東南東）の方画地割を基本とし、東西～南北方向が主体である。礫石建物は一棟も無いが、掘立柱建物は区画溝と同じ主軸方位をとり、計画的な構築がされている状況を看取でき、概略的変遷をたどることができそうである。大小様々な土坑も同様で、主軸方位によって分類可能である。

遺構の切り合いや出土遺物・文明ボラ混入の有無によって区画溝のある程度の変遷を想定し、その主軸方位と同一の建物がほぼ同時期の郭内建物と判断して、総体的な変遷を想定し、他の調査区も含めて第５節にまとめている。

註

(1) 長江浦地区遺跡群小路下遺跡から青磁碗の外底に「下」と朱墨した底部片１点が出土している。
えびの市教育委員会　『長江浦地区遺跡群』　2002

第153図　Ⅶ・Ⅸ区　遺構分布図

o．Ⅶ区

圃場整備工事の都合上、西側10～15m程を先に調査して、工事用道路として明け渡した。また、北縁方面については、可能な限り広げて調査したが、結果的には、Ⅷ区との繋がりが未解決に終わってしまった。航空写真撮影後、中央の黒色帯の遺物包含層約800m²を掘り下げた。

当地区はⅥ区と同様、Ⅲ層とⅣ層の凹凸面が繰り返され、建物群は微高地となるⅣ層上面に集中することから、西群と東群に分布する。中間の黒色帯には、遺構が殆ど無い。

遺構は、竪穴住居１軒のほか、竪穴状遺構１軒、掘立柱建物跡28棟、土坑２基、土壙墓１基、用途不明大型土坑２基、溝状遺構10条、道路跡２条などを検出した。

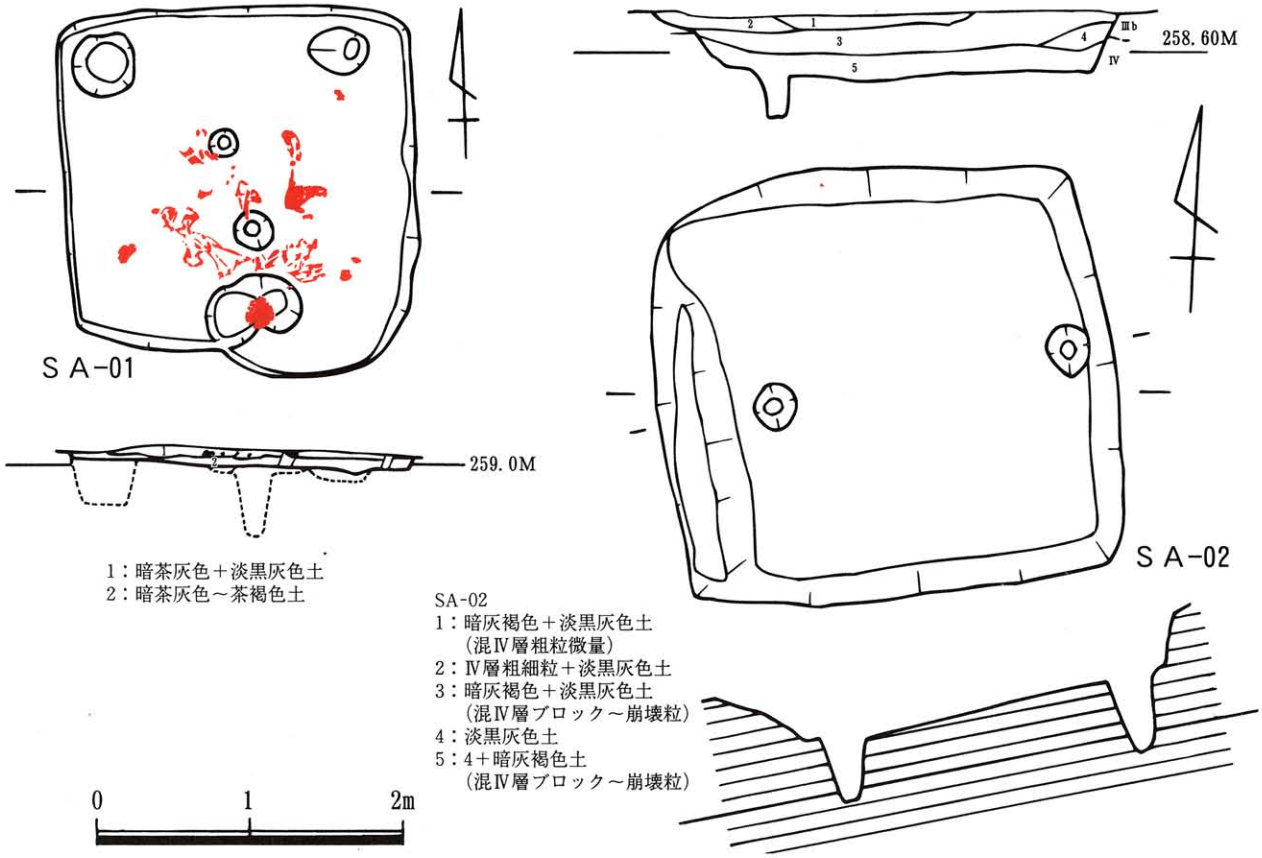
ＳＡ-01（第154図）

調査区の北東部で検出した、東西2.30m・南北2.0～2.42mの、東南隅が若干変形した方形の竪穴住居と推定される。深さは４～14cmで、基底部しか遺存していない。中央付近の小柱穴２基が主柱穴と思われるが、北側は浅い。南東部では、若干の炭化材と焼土が検出された。

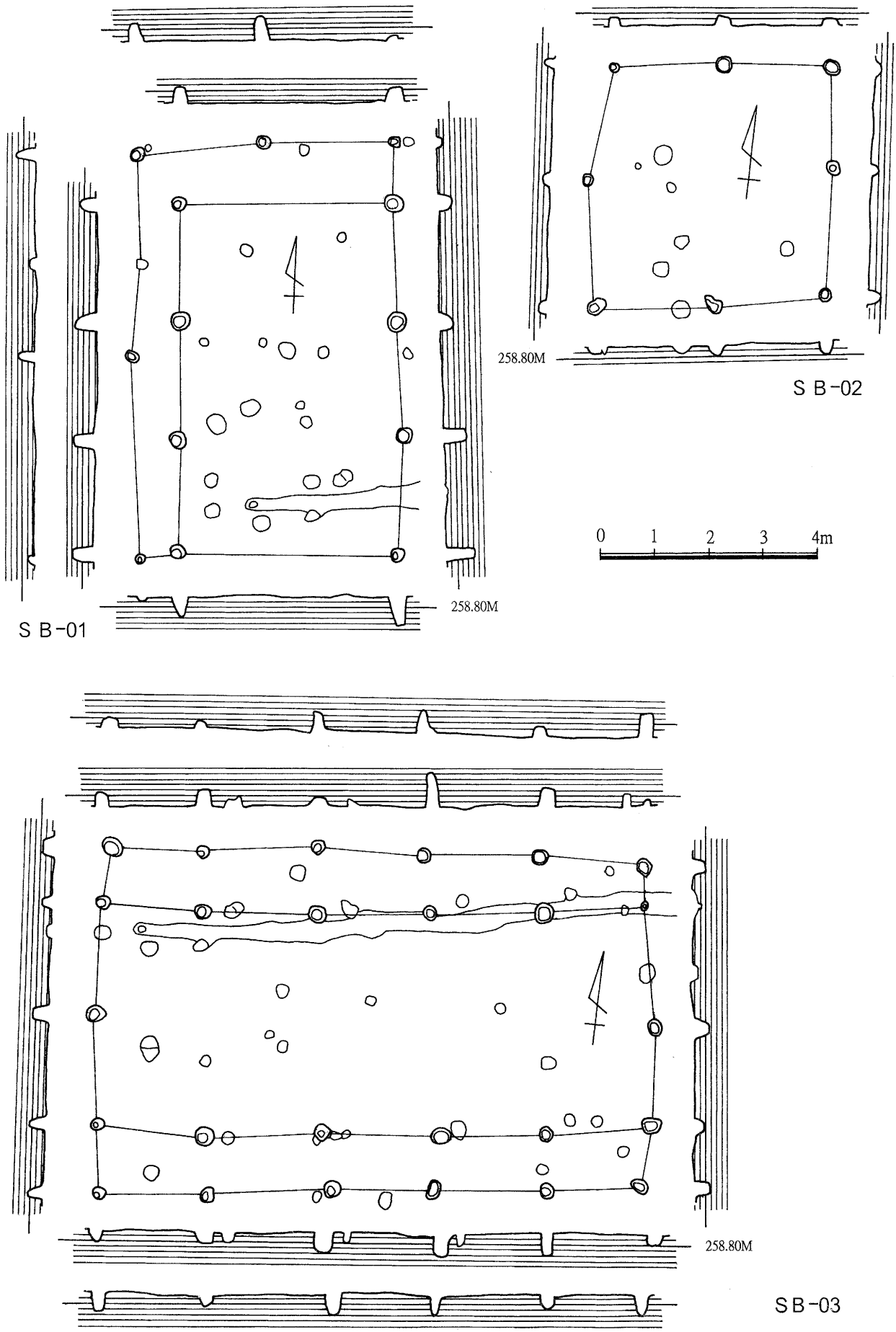
出土遺物は少なく、免田式土器片（第170図-715）と甕片（714）が出土したこと、周辺からの出土土器（717～721）から、弥生時代後期の遺構と推定され、且つ、外周は削失したと思われる。

ＳＡ-02（第154図）

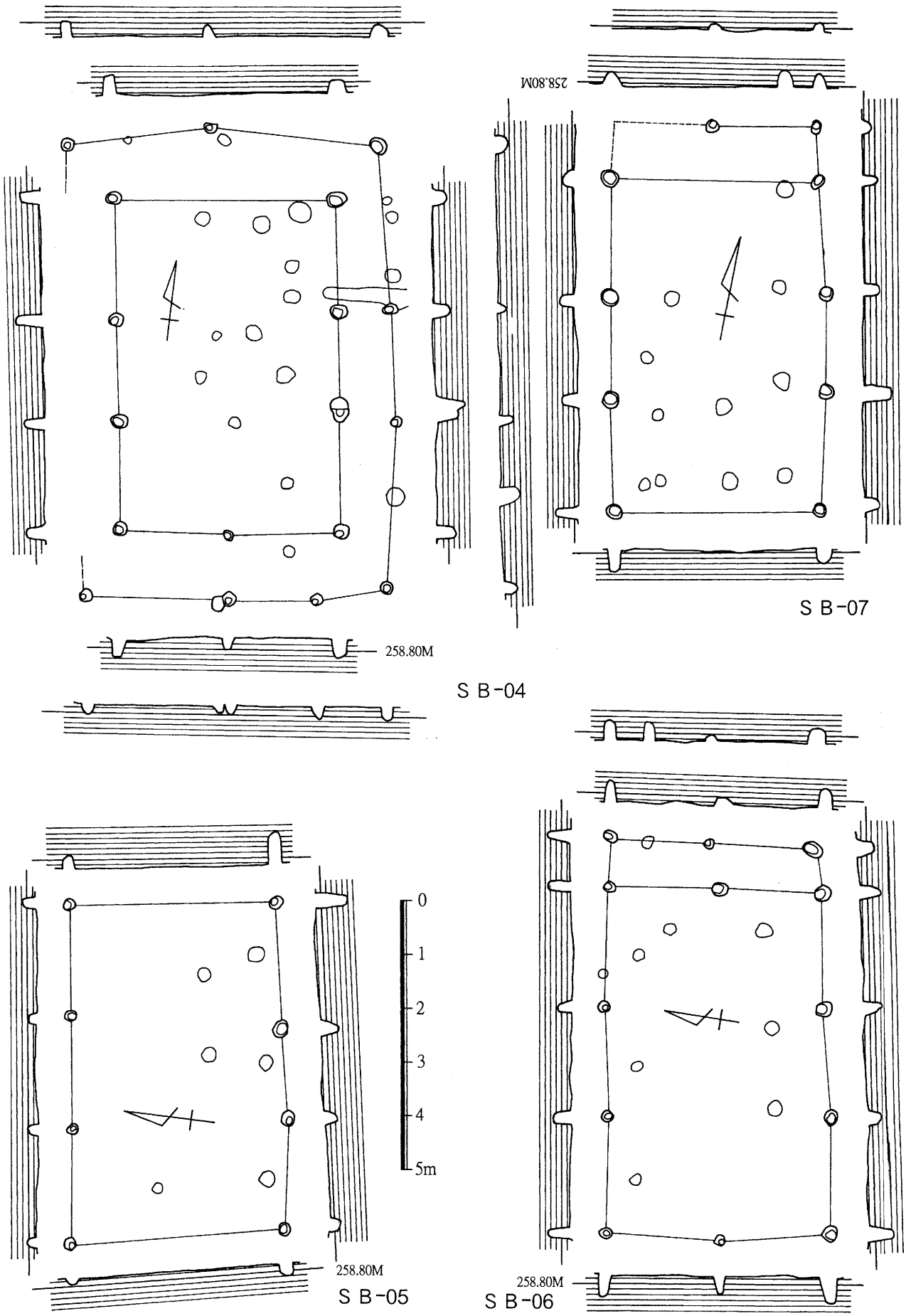
西側建物群の東南部に位置した、１辺2.8～３mの方形を呈する住居状遺構である。深さは40cm



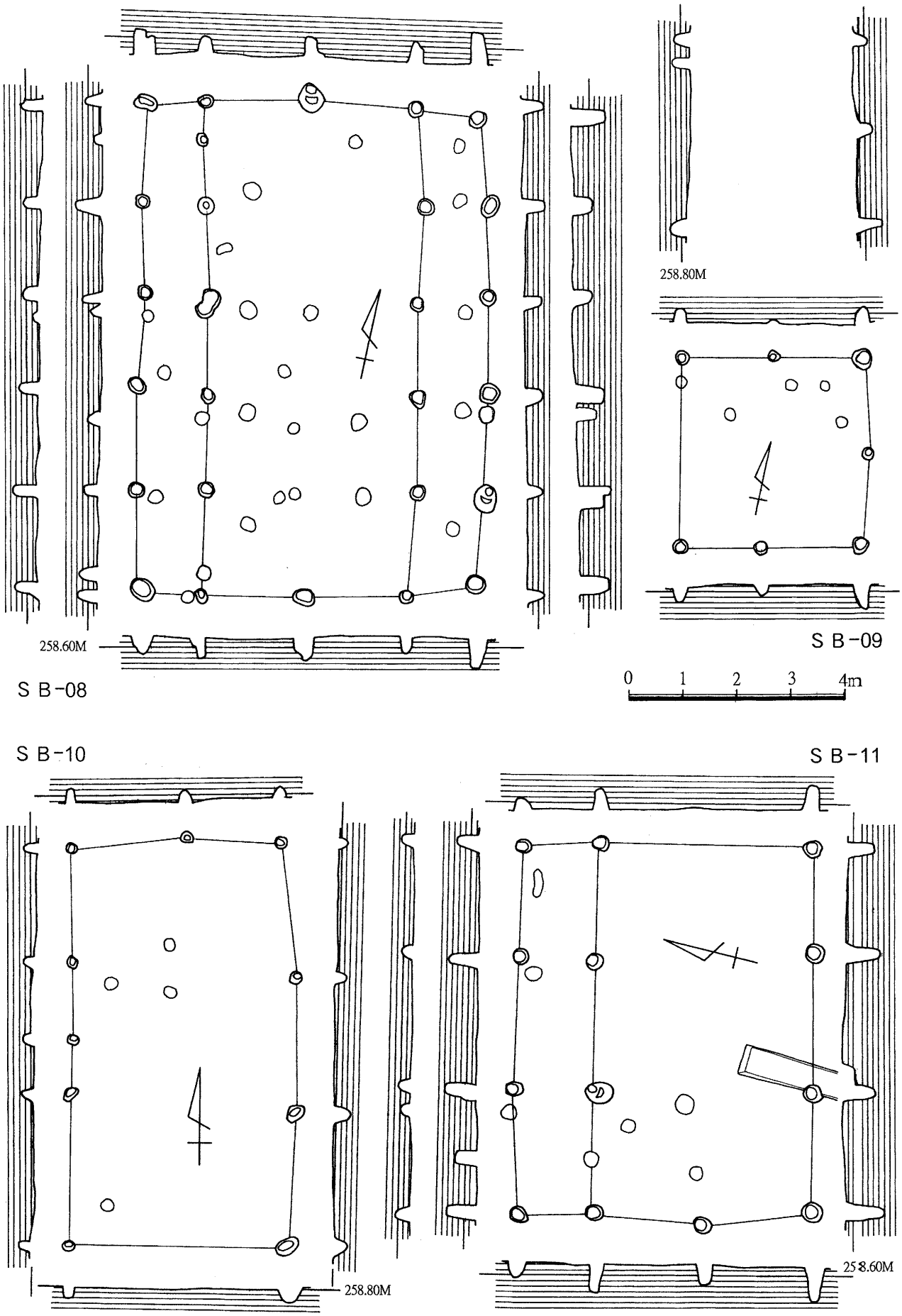
第154図　ＳＡ-01・02　遺構実測図



第155図　SB-01～03　遺構実測図



第156図　ＳＢ-04～07　遺構実測図



第157図　S B-08～11　遺構実測図

内外で、西壁に幅10～22cmのテラスがある。柱穴は２基で、直径26～33cm・深さ44～50cmを測る。

出土遺物は無いが、中世の竪穴状遺構と思われる。

建物遺構は掘立のみで、西側に19棟、東側に９棟を確認した。

ＳＢ-01（第155図）

調査区の西端中央部に位置した、梁行１間（4.02～4.05ｍ）・桁行３間（6.40～6.44ｍ）の南北方向の身舎の、北～西面に廂が付く。柱穴の規模は、直径20～36cm・深さ10～52cmを測る。主軸方位は、Ｎ２°Ｗである。北側は数10cm削失している。

ＳＢ-02（第155図）

01号建物の東桁に重複した、梁行２間（4.0～4.28ｍ）・桁行２間（4.16～4.44ｍ）の方形の建物である。柱穴の規模は、直径16～32cm・深さ10～24cmを測る。主軸方位は、Ｎ４°Ｗである。

ＳＢ-03（第155図）

01・02号建物の南側に重複した、梁行２間（4.0～4.04ｍ）・桁行５間（9.95～10.20ｍ）の東西方向の身舎の、北と南面に廂が付く。柱穴の規模は、直径13～42cm・深さ10～42cmを測る。主軸方位は、N84°Ｅである。廂を含む面積は60.5㎡で、Ⅶ区の中で最大規模である。

ＳＢ-04（第156図）

03号建物の西に重複した、梁行２間（4.05～4.12ｍ）・桁行３間（6.17～6.21ｍ）の南北方向の身舎の、４面に幅半間の廂が付く。柱穴の規模は、直径18～38cm・深さ18～50cmを測る。主軸方位は、Ｎ８°Ｗである。

ＳＢ-05（第156図）

03・04号建物の南側に位置した、梁行１間（3.80～3.91ｍ）・桁行３間（6.08～6.33ｍ）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径19～34cm・深さ15～59cmを測る。主軸方位は、N81°Ｅである。

ＳＢ-06（第156図）

05号建物と重複した、梁行２間（3.90～4.10ｍ）・桁行３間（6.34～6.45ｍ）の東西方向の身舎の、東面に幅半間弱の廂が付く。柱穴の規模は、直径19～39cm・深さ13～47cmを測る。主軸方位は、N82°Ｅである。

ＳＢ-07（第156図）

06号建物の南に位置した、梁行１間（3.78～3.84ｍ）・桁行３間（6.16～6.20ｍ）の南北方向の身舎の、北面に幅半間の廂が付く。柱穴の規模は、直径21～33cm・深さ12～50cmを測る。主軸方位は、N10°Ｗである。

ＳＢ-08（第157図）

07号建物と重複した、梁行２間（3.80～3.90ｍ）・桁行５間（9.12～9.20ｍ）の南北方向の身舎の、西・東面に廂が付く。柱穴の規模は、直径23～48cm・深さ21～61cmを測る。主軸方位は、N11°

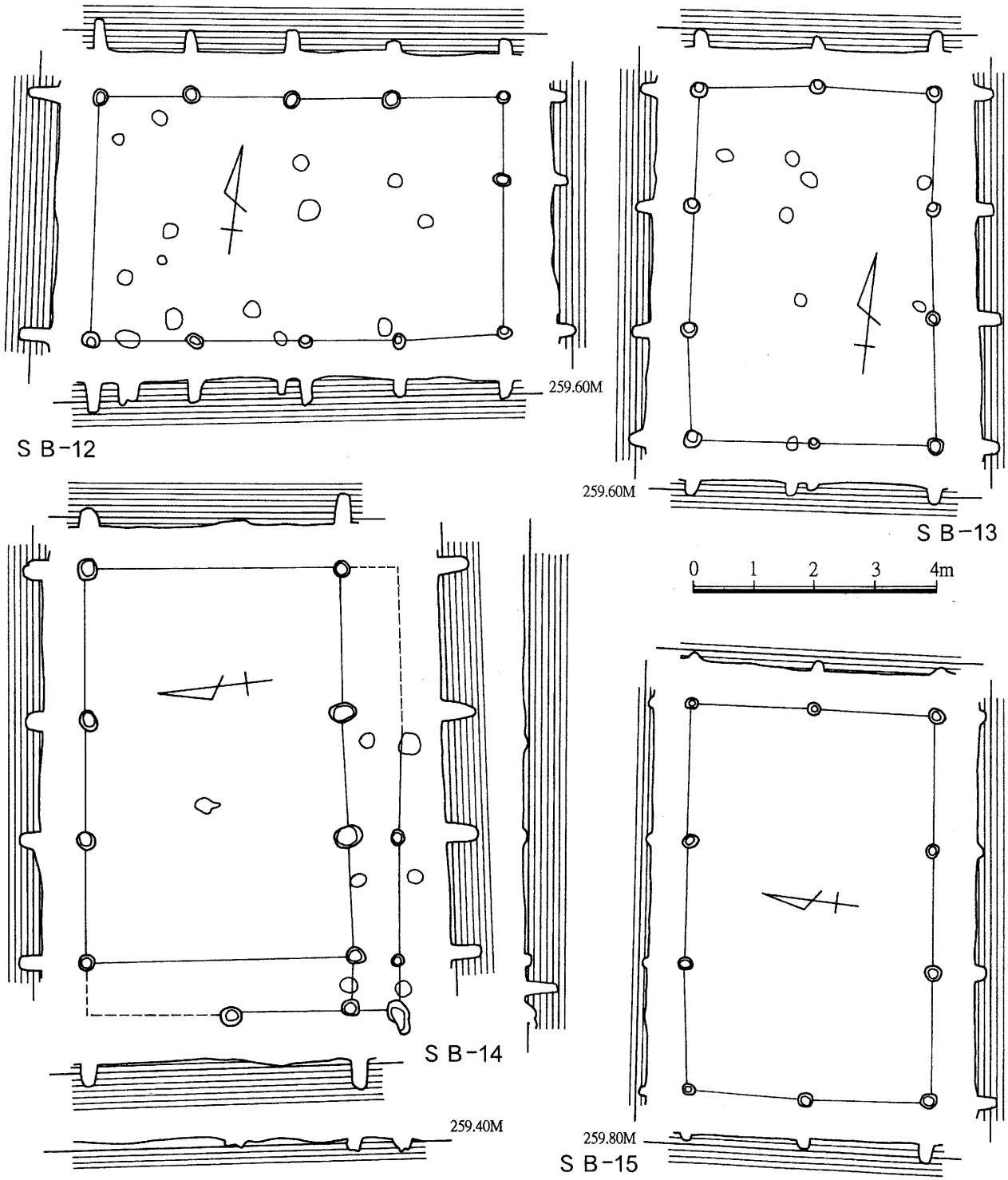
Wである。

ＳＢ-09（第157図）

06号建物と重複した、梁行２間（3.33～3.35ｍ）・桁行２間（3.48～3.55ｍ）の方形に近い建物である。柱穴の規模は、直径21～37㎝・深さ10～44㎝を測る。主軸方位は、N12°Wである。

ＳＢ-10（第157図）

西群の東端に位置した、梁行２間（3.82～4.0ｍ）・桁行３間（7.39～7.48ｍ）の南北方向の建



第158図　ＳＢ-12～15　遺構実測図

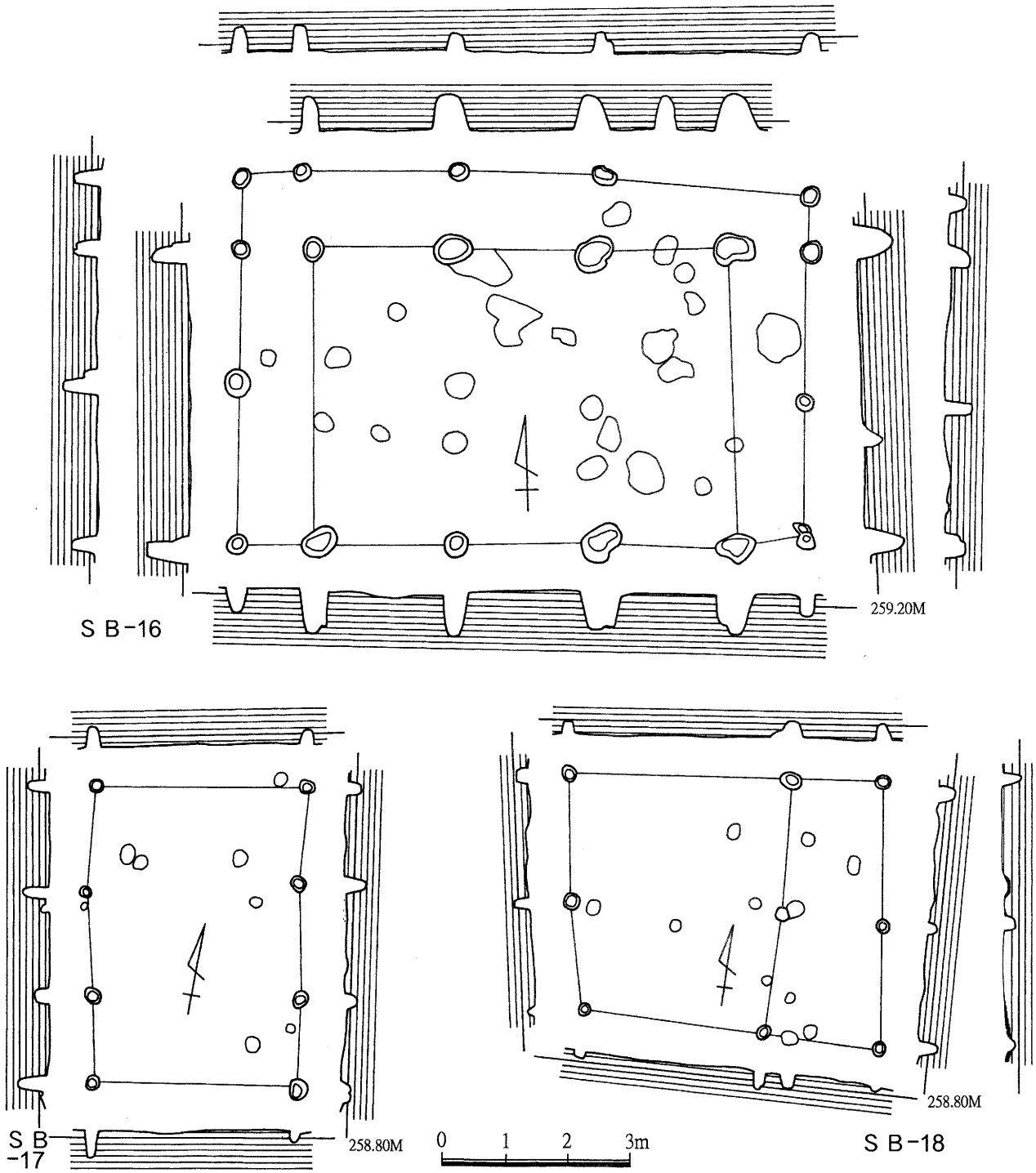
物である。柱穴の規模は、直径16～37㎝・深さ16～30㎝を測る。主軸方位は、北である。

ＳＢ-11（第157図）

西群の南端に位置した、梁行２間（3.94～4.04ｍ）・桁行３間（6.78～6.91ｍ）の東西方向の身舎の、北面に廂が付く。柱穴の規模は、直径26～38㎝・深さ20～64㎝を測る。主軸方位は、N78°Ｅである。

ＳＢ-12（第158図）

10号建物の西側に重複した、梁行１間（3.88～4.06ｍ）・桁行４間（6.55～6.73ｍ）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径20～28㎝・深さ20～50㎝を測る。主軸方位は、N83°Ｅである。



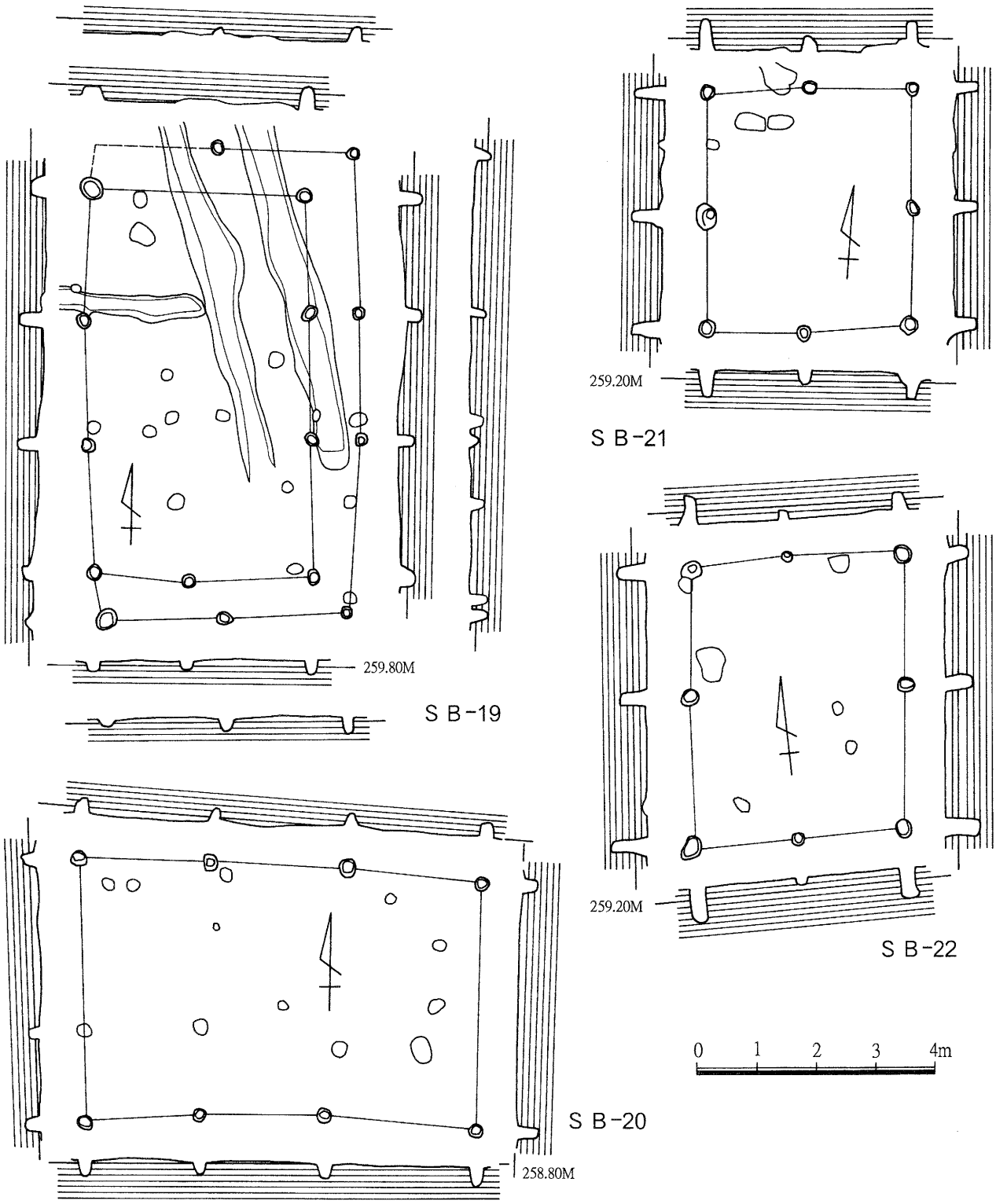
第159図　ＳＢ-16～18　遺構実測図

ＳＢ-13（第158図）

12号建物の南に位置した、梁行２間（3.85～3.97ｍ）・桁行３間（5.78～5.88ｍ）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径16～26㎝・深さ10～38㎝を測る。主軸方位は、Ｎ７°Ｗである。

ＳＢ-14（第158図）

西群の北端に位置した、梁行２間（3.97～4.0ｍ）・桁行３間（6.38～6.42ｍ）の東西方向の建

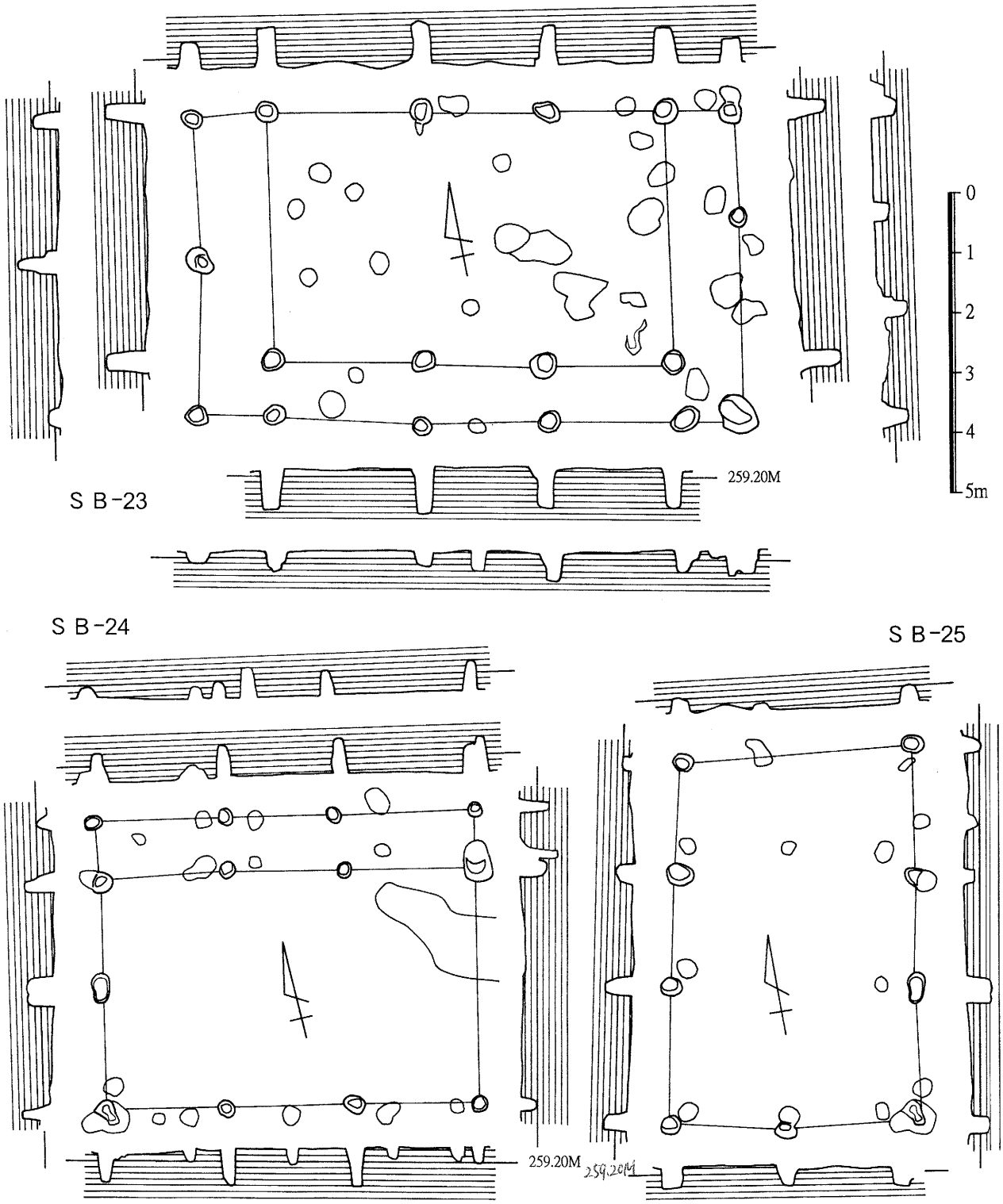


第160図　ＳＢ-19～22　遺構実測図

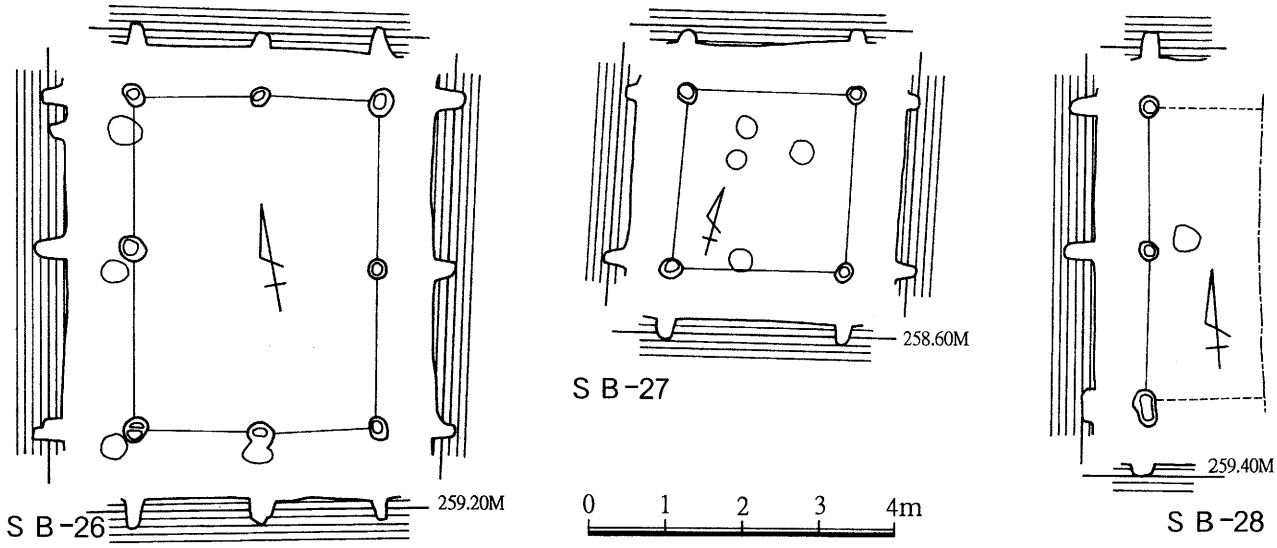
物である。柱穴の規模は、直径16～27cm・深さ８～32cmを測る。主軸方位は、N83°Eである。柱穴の上位は、数10cm削失している。

ＳＢ-15（第158図）

東群の東中央部に位置した、梁行１間（4.11～4.32ｍ）・桁行３間（6.40～6.54ｍ）の東西方向の身舎の、西～南面に廂が付く。柱穴の規模は、直径20～46cm・深さ10～56cmを測る。主軸方位は、



第161図　ＳＢ-23～25　遺構実測図



第162図　S B-26～28　遺構実測図

N85°Wである。

S B-16（第159図）

東群の南西部に位置した、梁行１間（4.76～4.84m）・桁行３間（6.75m）の東西方向の身舎の、西～北～東面に廂が付く。柱穴の規模は、直径26～52cm・深さ28～72cmを測る。主軸方位は、N87°Eである。廂を含めた面積は51.2m²で、Ⅶ区では３番目に大きい。南桁の柱穴から、青磁碗の破片（776）が出土している。

S B-17（第159図）

西群の中央寄りに位置した、梁行１間（3.24～3.34m）・桁行３間（4.80～4.84m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径17～27cm・深さ16～44cmを測る。主軸方位は、N９°Wである。南に廂が付く可能性がある。

S B-18（第159図）

17号建物の北に隣接した、梁行１間（2.90～3.60m）・桁行２間（3.82～4.10m）の南北方向の身舎の、東面に廂が付く。柱穴の規模は、直径14～30cm・深さ７～28cmを測る。主軸方位は、N２°Wである。

S B-19（第160図）

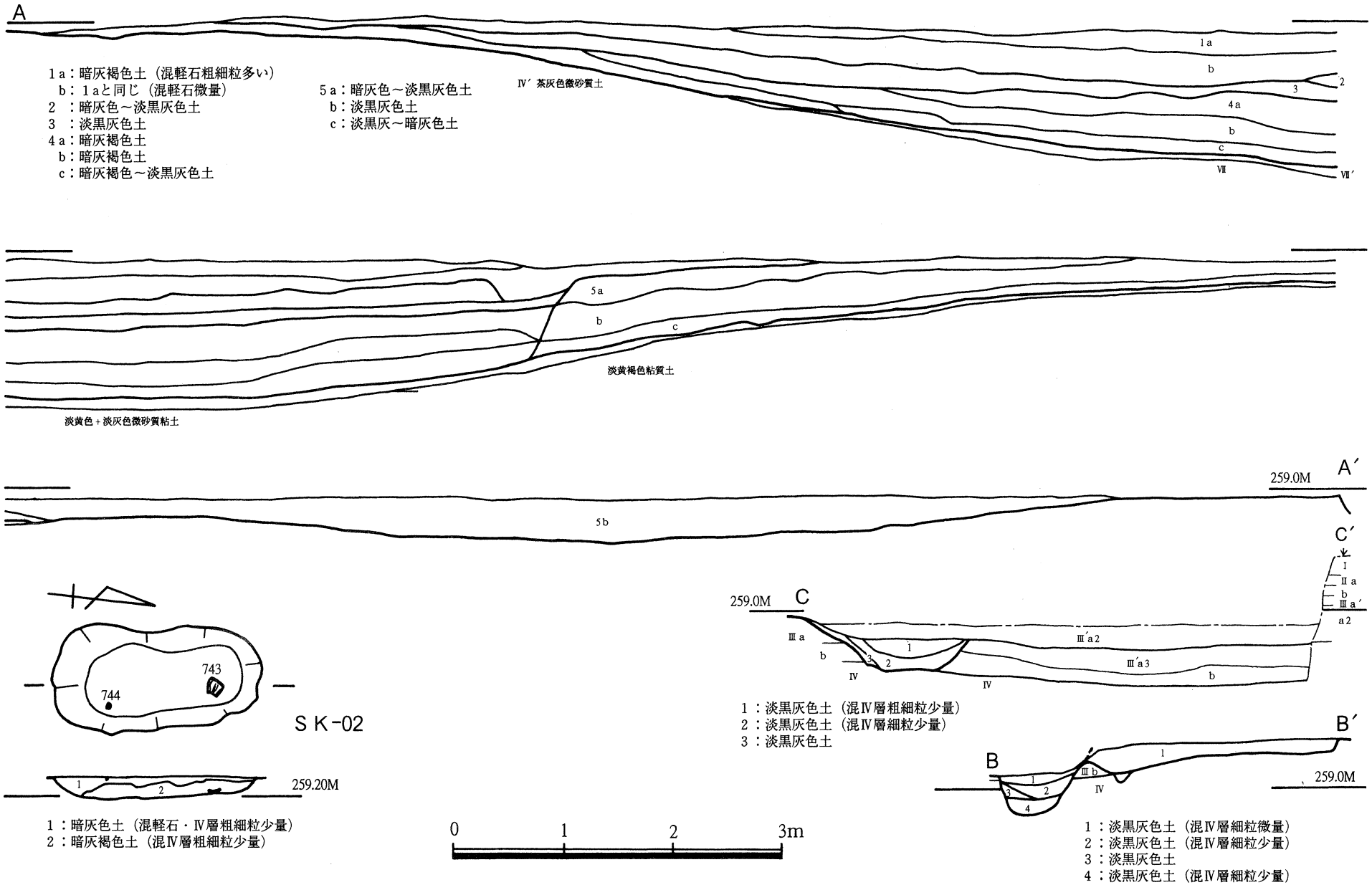
西群の北東部に位置した、梁行２間（3.50～3.60m）・桁行３間（6.40～6.44m）の南北方向の身舎の、北～東～南面に廂が付く。柱穴の規模は、直径17～39cm・深さ15～39cmを測る。主軸方位は、N２°Wである。

S B-20（第160図）

西群の中央東寄りに位置した、梁行１間（4.14～4.45m）・桁行３間（6.44～6.66m）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径20～28cm・深さ17～34cmを測る。主軸方位は、N87°Wである。

S B-21（第160図）

東群の南端に位置した、梁行２間（3.38～3.45m）・桁行２間（3.98m）の南北方向の建物である。



第163図　中央黒色帯断面層序，ＳＫ-20遺構実測図，ＳＤ-03断面層序図

柱穴の規模は、直径19～42㎝・深さ23～52㎝を測る。主軸方位は、N３°Wである。

ＳＢ-22（第160図）

21号建物の北に位置した、梁行２間（3.50ｍ）・桁行２間（4.60～4.70ｍ）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径15～36㎝・深さ12～60㎝を測る。主軸方位は、N５°Eである。

ＳＢ-23（第161図）

16号建物と重複した、梁行１間（4.16～4.22ｍ）・桁行３間（6.53ｍ）の東西方向の身舎の、西～南～東面に廂が付く。柱穴の規模は、直径30～47㎝・深さ20～77㎝を測る。主軸方位は、N77°Wである。

ＳＢ-24（第161図）

23号建物の北１ｍに位置した、梁行２間（3.80～3.93ｍ）・桁行３間（6.12～6.17ｍ）の身舎の、北面に廂が付く。柱穴の規模は、直径22～45㎝・深さ22～64㎝を測る。主軸方位は、N78°Wである。

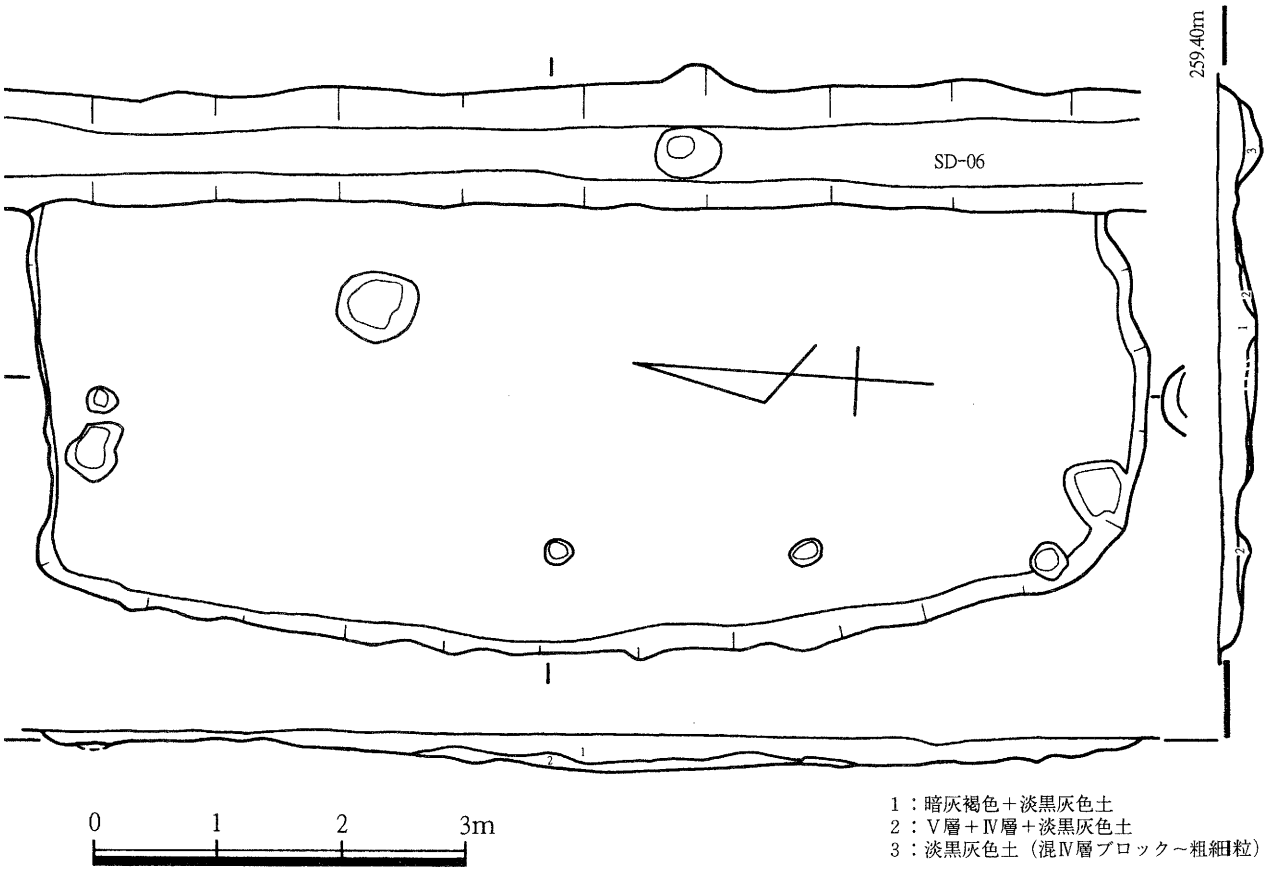
ＳＢ-25（第161図）

24号建物の西に位置した、梁行２間（3.76ｍ）・桁行３間（6.0～6.22ｍ）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径28～43㎝・深さ14～43㎝を測る。主軸方位は、N11°Eである。

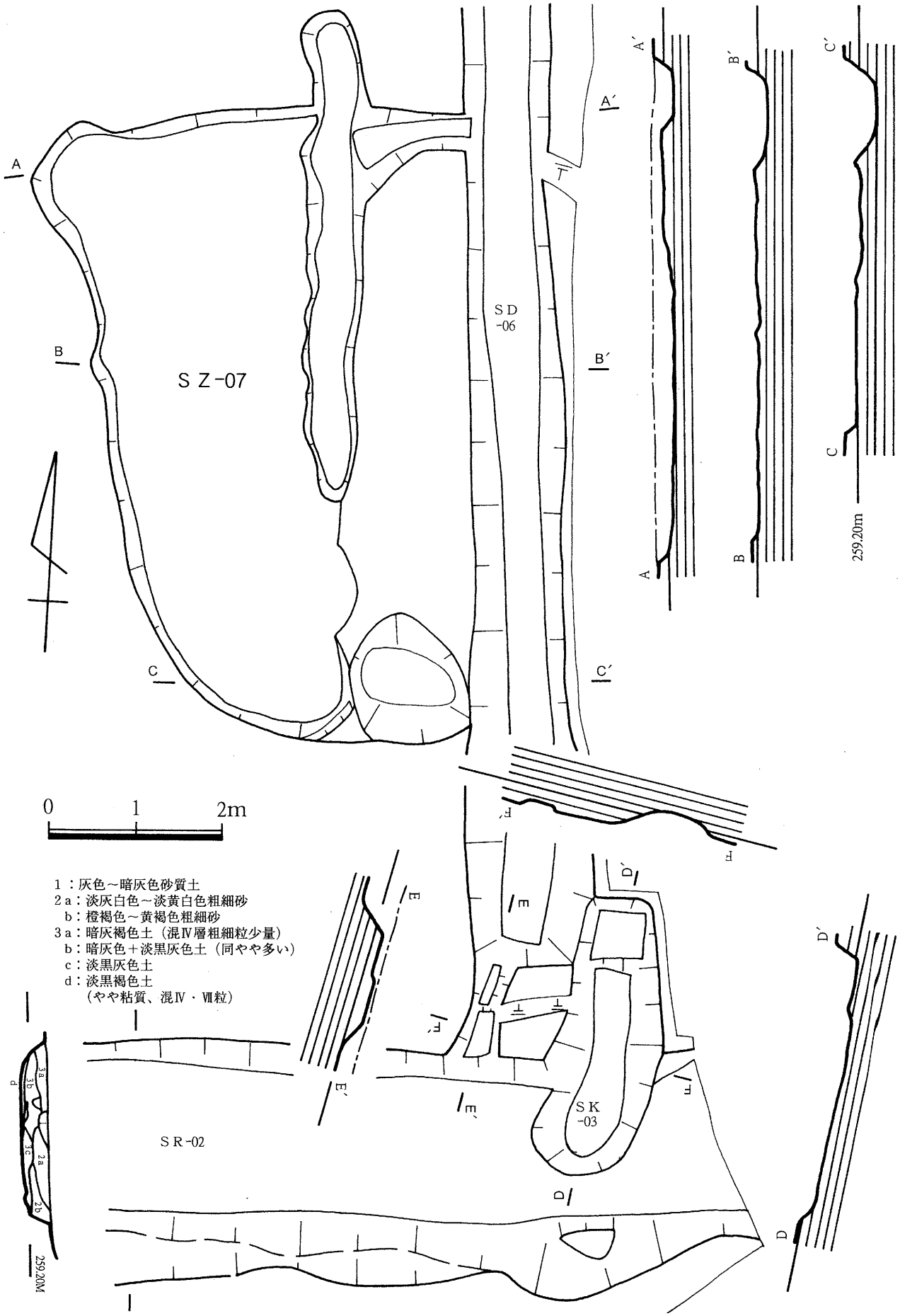
ＳＢ-26（第162図）

25号建物と重複した、梁行２間（3.18～3.22ｍ）・桁行２間（4.33～4.46ｍ）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径19～26㎝・深さ16～27㎝を測る。主軸方位は、N９°Eである。

ＳＢ-27（第162図）



第164図　ＳＺ-06　遺構実測図



第165図　Ⅶ区南東部　遺構実測図

西群の07・08号建物の西南部に重複した、梁行１間（2.22ｍ）・桁行１間（2.30～2.38ｍ）の方形に近い建物である。柱穴の規模は、直径23～28㎝・深さ18～38㎝を測る。主軸方位は、Ｎ８°Ｗである。

ＳＢ-28（第162図）

東群の北東端に位置した、梁行２間（3.90ｍ）の東西方向の建物と推定される。柱穴の規模は、直径23～28㎝・深さ18～38㎝を測る。

その他、27号建物の北側に重複する１間×１間の建物など、西・東各群に数棟存在したようであるが、明瞭ではないため、省略する。

建物にならない柱穴として、13号建物の東２ｍ程の所に、長さ３間の南北方向の並びがあり、柵状の遺構としておく（ＳＦ-01）。

土坑は、３基検出した。01号土坑は調査区の西端北寄りに位置した、長径85㎝・短径65㎝以上の楕円形を呈し、深さは31㎝を測る。

ＳＫ-02（第163図）

調査区の東南部に位置した、長径1.93ｍ・短径0.8～1.0ｍの楕円形を呈する土壙墓と推定され、深さは15～20㎝を測る。南側が広くて深いことから、頭位は南かもしれない。出土遺物としては、陶器皿の破片（744）と備前焼擂鉢の破片（743）があるが、副葬品とは言い難い。

ＳＫ-03（第165図）

調査区の南東端に位置した、長径3.3ｍ・短径0.8～1.27ｍの楕円形を呈し、深さは30～40㎝を測る。北側60㎝までの底面は、南側よりも10㎝程高い。出土遺物は無く、性格は不明である。

ＳＺ-02

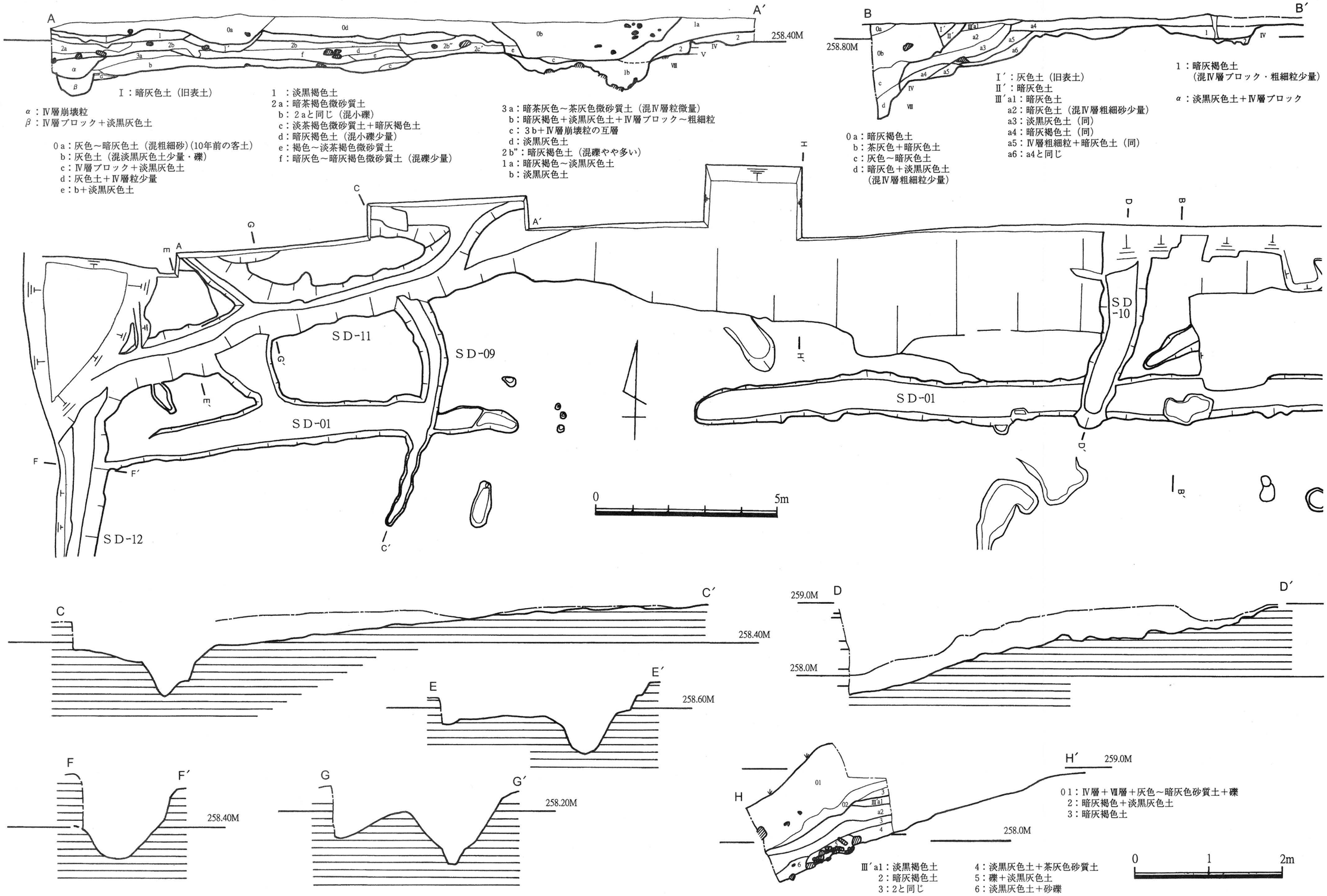
調査区の北東部に位置した、長さ7.5ｍ・幅4.5ｍの歪な形を呈し、深さ35～50㎝を測る。壁面は垂直～抉れ、流水によって覆土が充填しており、西に隣接する不定形土坑も同時に埋没している。人為的掘り込みではないが、近世初期の陶器皿１点（856）が出土している。

ＳＺ-06（第164図）

調査区の東端中央やや南寄りに位置した、長さ９ｍ・最大幅3.7ｍの大型土坑で、東側は06号溝と一体化している。深さは７～32㎝を測り、底面は鉄製工具（鍬）痕を残す荒掘りのままである。柱穴は伴わない。出土遺物としては、白磁の皿（761）や青磁の皿（788）などがある。

ＳＺ-07（第165図）

06号の南2.2ｍに位置した、長さ7.4ｍ・最大幅５ｍの逆Ｄ字型を呈する大型土坑で、東側は、06号溝と一体化する。深さは10～25㎝を測り、底面は06号と同様である。中央部には、長さ5.7ｍ・幅0.52～0.65ｍの、溝状を呈するように見える部分がある。機能は06号と同様、推定し難い。



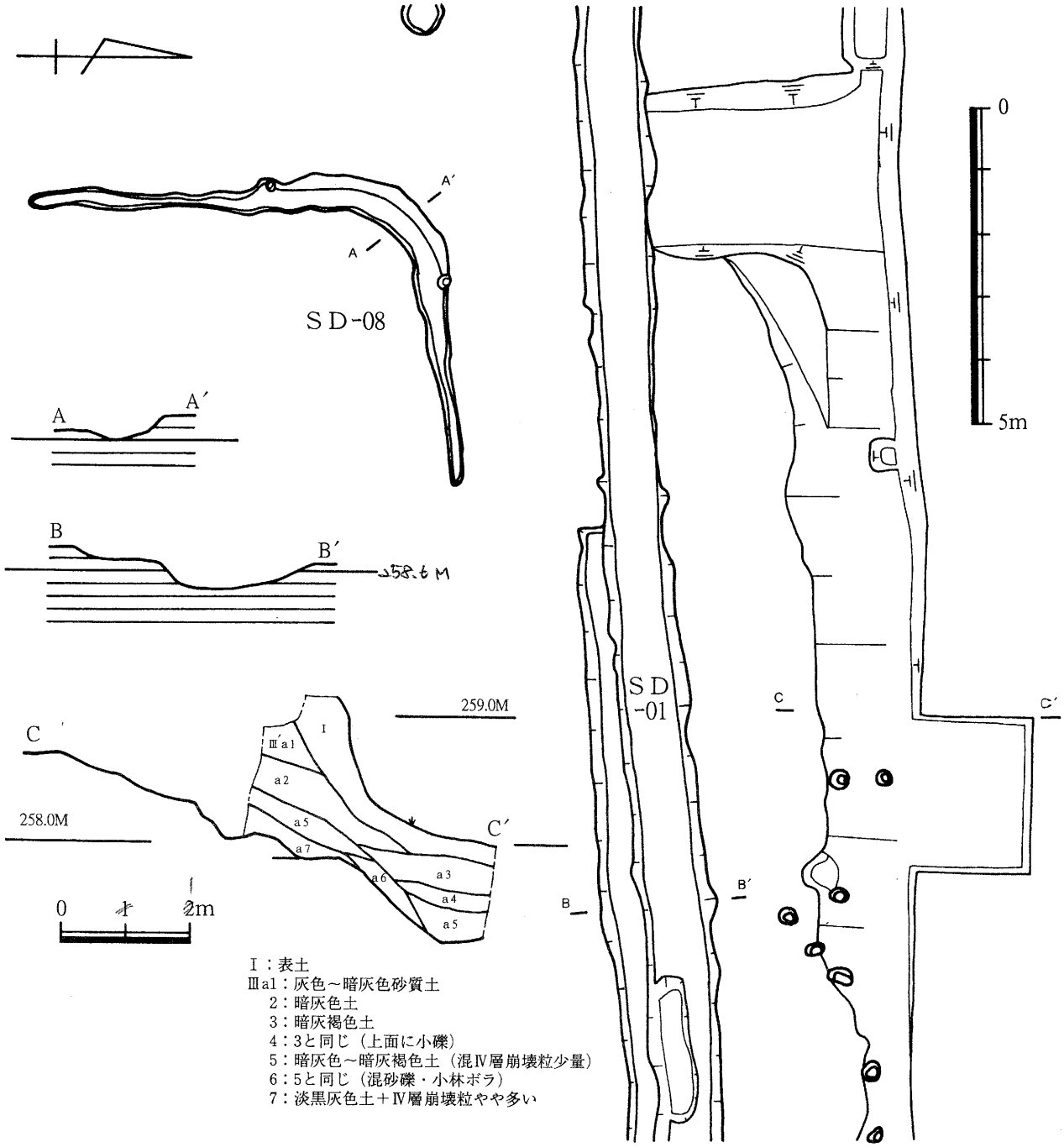
第166図　北西端～北縁　遺構実測図

溝状遺構は、Ⅵ区と同様、郭の区画溝と考えられるもの（01・03～06・08・12溝）と、北の低い郭（Ⅷ区）へ下りる階段状の掘り込み（09・10号溝）がある。07号溝は、南縁の02号道路跡埋没後の近世～近代の溝である。

ＳＤ-01（第153・166図）

調査区の北縁寄りに位置した、幅0.92～1.8ｍの東西方向の溝で、63.8ｍを検出した。途中、09号溝の東側で、長さ4.8ｍ分が途切れている。

ＳＤ-02



第167図　北縁中央付近　遺構実測図

西建物群の03号建物から18・19号建物まで重複した、長さ18m・幅25～65cm・深さ3～10cmの溝である。

ＳＤ-03

東群の建物を囲む溝で、南端から50mで東へ屈曲し、東端まで続く。東端は幅広くなっていることから、06号溝と東へ延びる分岐点の可能性もある。ただし、06号溝は主軸方位が異なる。幅は0.7～1.7mで北側が広く、深さは18～60cmを測り、東側が深い。北東部はⅧ層が露呈し、60cm前後削失している。

ＳＤ-05

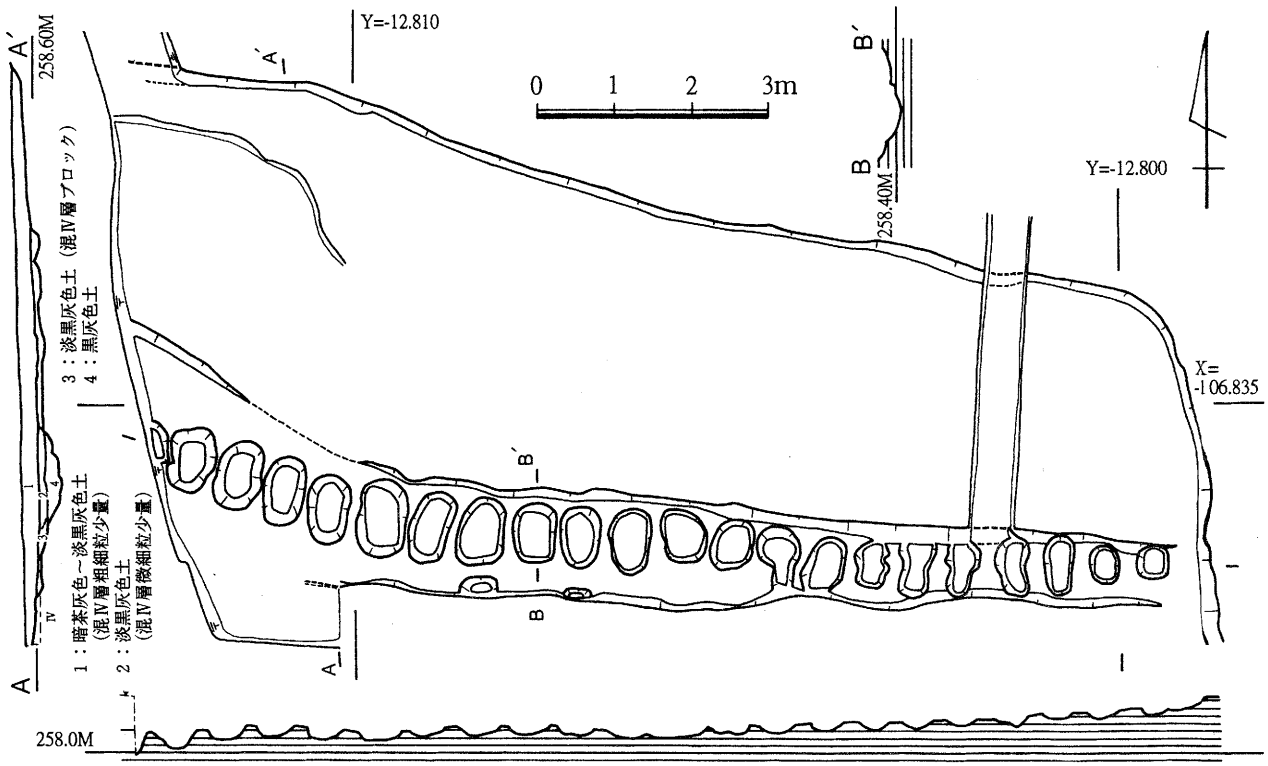
調査区の北東部、03号溝の3～3.5m南側に位置した、幅35～43cm・深さ4～10cmの溝で、東西方向は長さ12m程で南へ屈曲し、8.5m程を検出した。

ＳＤ-06

調査区の東縁に位置した、幅1.05～1.62m・深さ45～55cmの溝で、北端は03号と重複するか、東へ屈曲すると推定される。南端は収束するが、02号道路跡と幅32～65cm・深さ5～10cmの小溝で繋がっている。出土遺物は少ないが、備前焼大甕の胴部片等が出土している。

ＳＤ-07

調査区の南縁に位置する02号道路跡の東端部に重複し、東端から西へ10m程で02号道路跡の南肩部に重複し、西へ延びているが、現代の用排水路構築時に撹乱されているため、明確なプランは検出していない。出土遺物は豊富で、近世初頭～近代までの陶磁器（第174図-835～第176図-918）や



第168図　ＳＲ-01　遺構実測図

土製品（第170図-750～754）などがある。

ＳＤ-08（第167図）

調査区の中央北側で検出した、幅17～65㎝・深さ３～17㎝のＬ字型で、東の延長は05号溝に当たり、幅・深さ・覆土とも類似することから、05号溝に対応する北西隅の区画溝として位置づけられる。出土遺物は無いが、Ⅲｂ層上面から切り込んでいることから、山城初期の区画溝の可能性がある。

ＳＤ-09（第166図）

調査区の北西部、01号溝と直交し、北側へ降りる階段状掘り込みであるが、南端から北へ4.6ｍ程で大きく北西へ屈曲する。幅25～85㎝・深さ４～47㎝を測る。

ＳＤ-10（第166図）

09号溝の17ｍ東に位置した、幅0.9～1.25ｍ・深さ36～42㎝を測る階段状掘り込みである。形状は09号溝と類似し、途中で屈曲する。

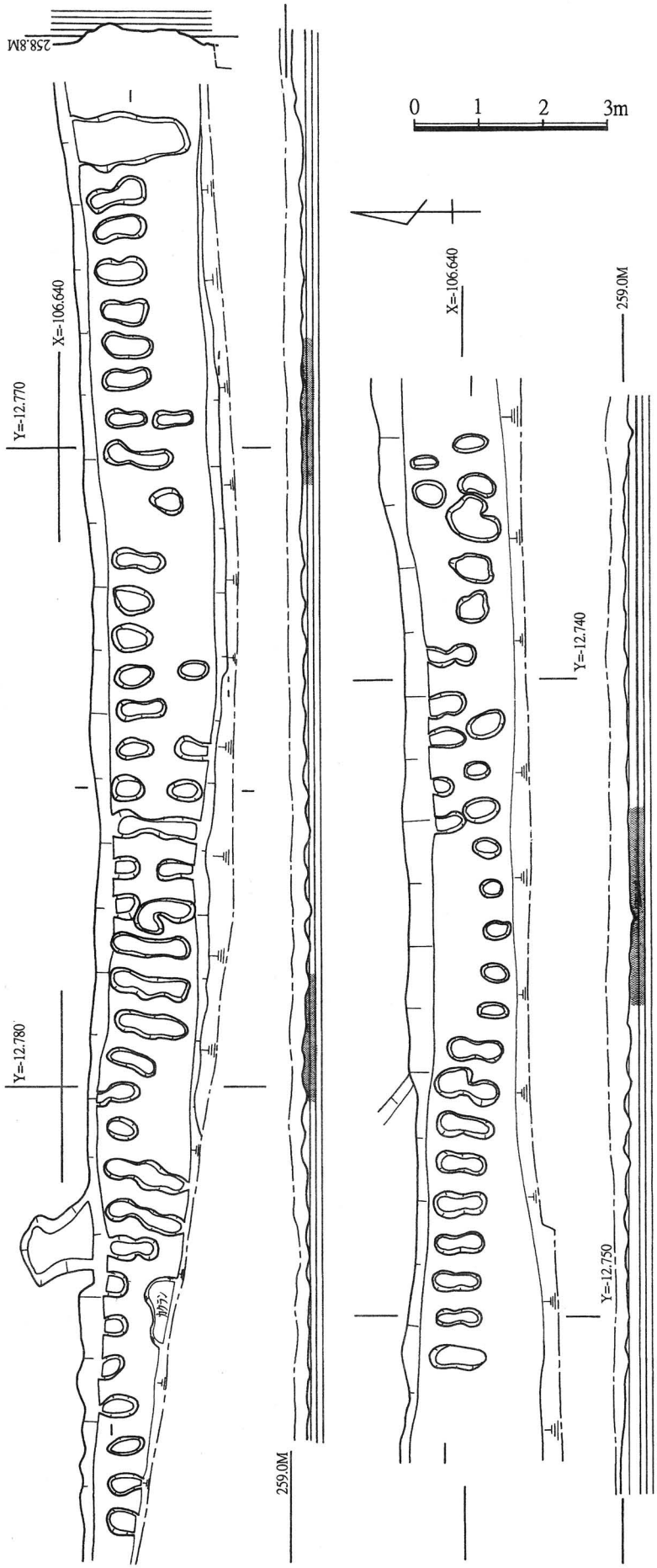
ＳＤ-11（第166図）

調査区の北西端、傾斜変換部に位置した、幅0.9～1.4ｍ・深さ0.7～１ｍの薬研掘り状を呈する。

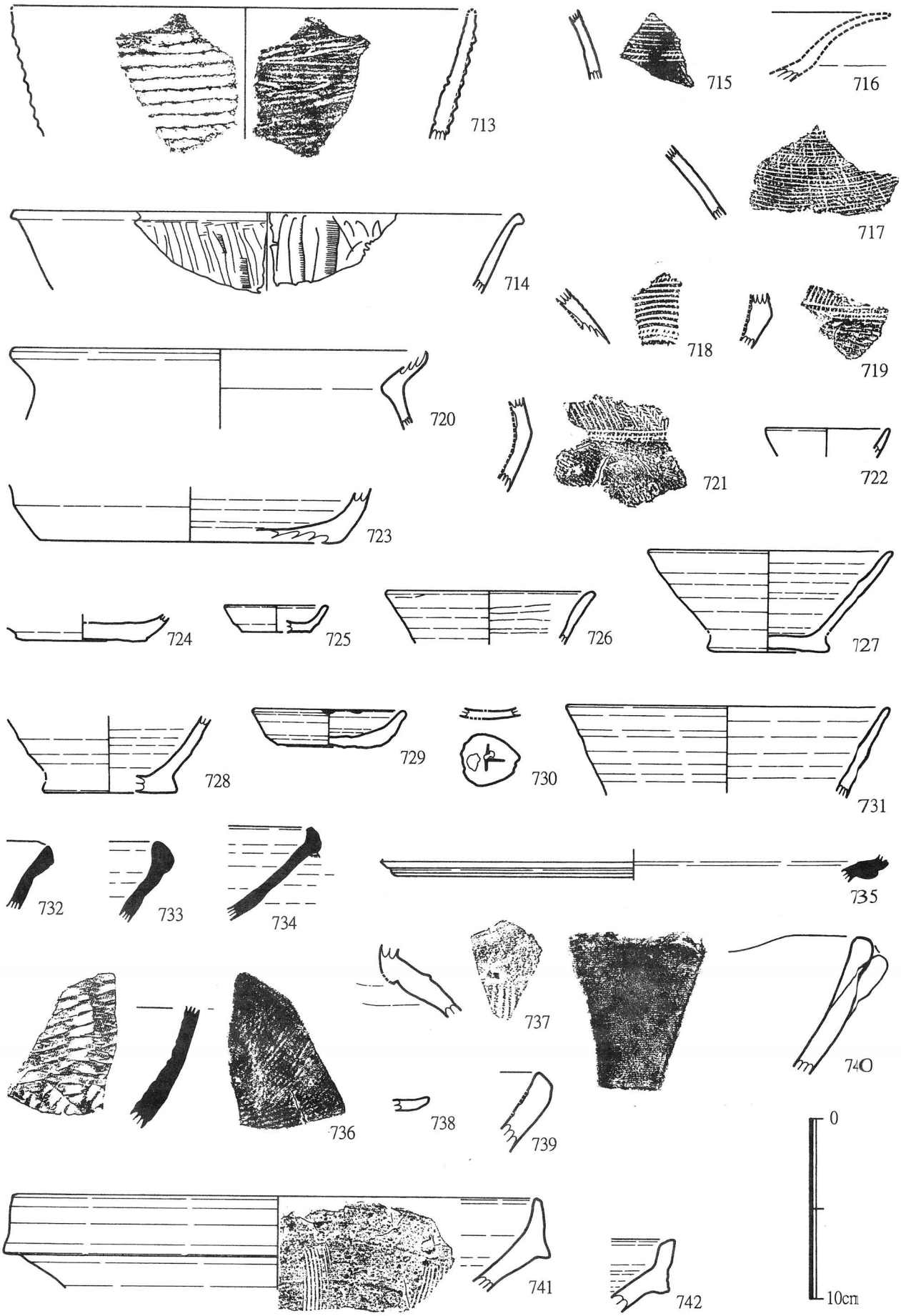
西端は、約10年前に埋められた水田の開墾時に削失している。東端の高位面の掘方は、斜面削平面の掘方と繋がっている。

ＳＤ-12（第166図）

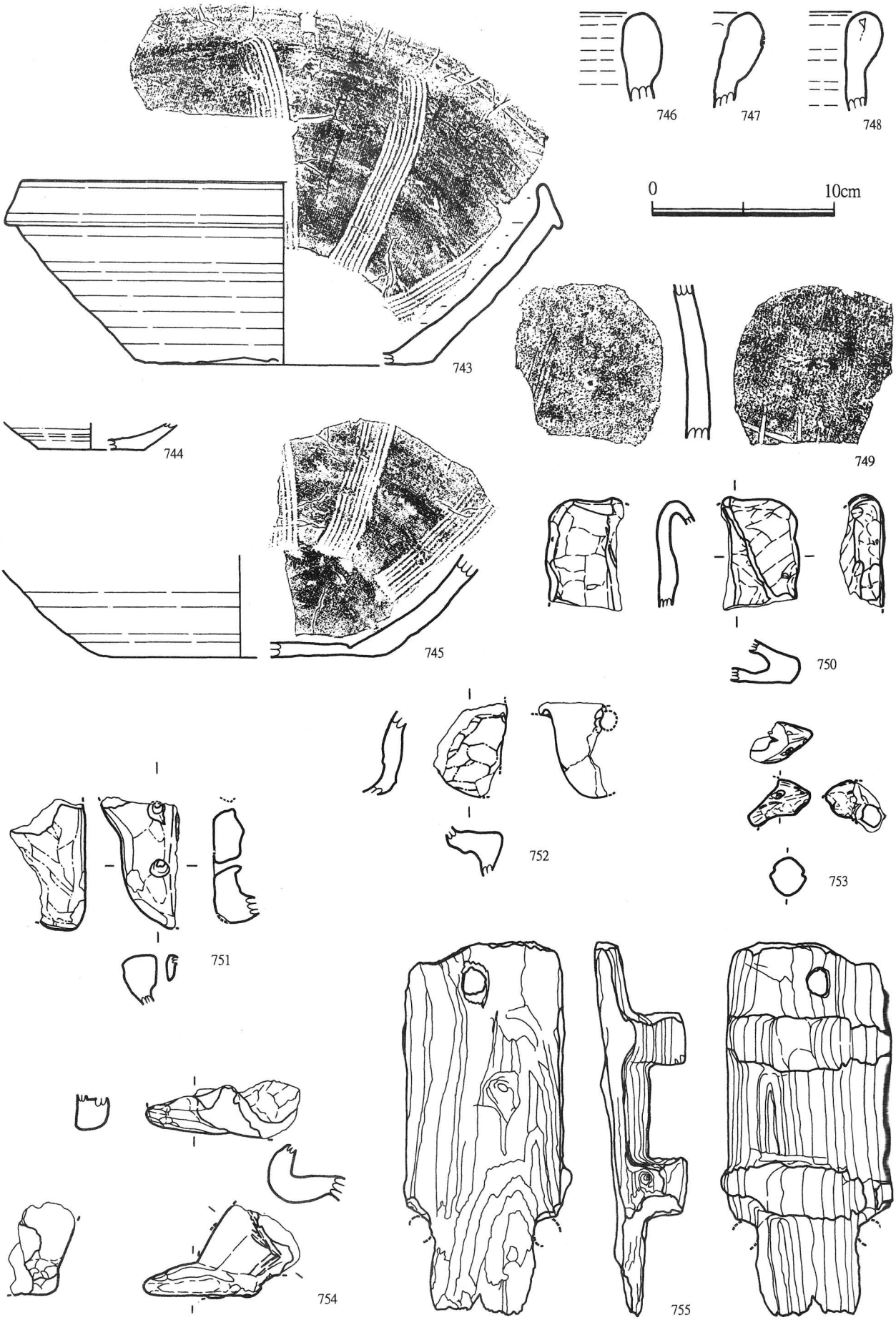
調査区の北西縁、現代の谷と並行する、幅1.3ｍ以上・深さ80～



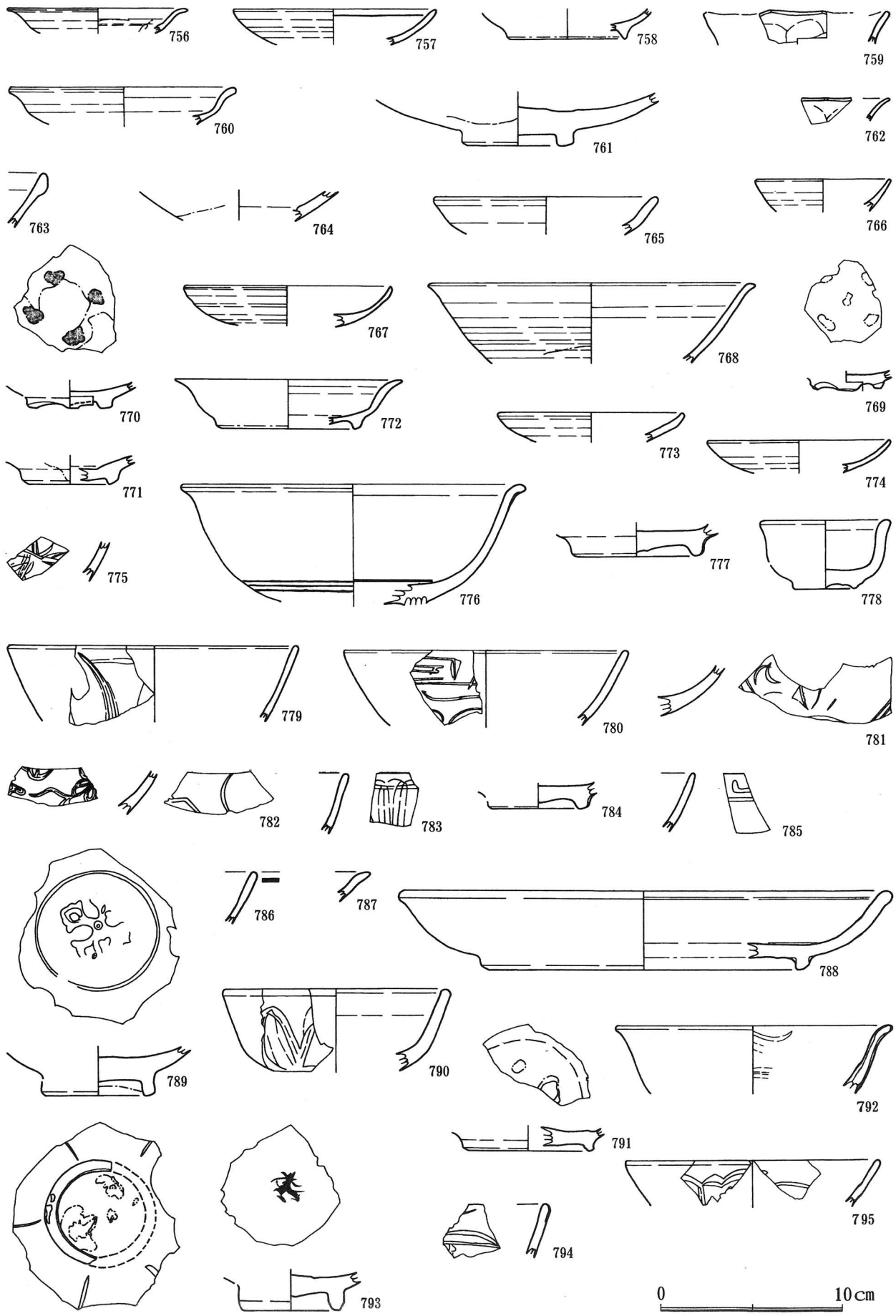
第169図　ＳＲ-02　波板状土坑　遺構実測図　アミ目は鉄分沈積硬化面



第170図　Ⅶ区出土遺物実測図（1）　714～715：SA-01、722：SK-02、723～724・730・737・739～742：SD-07、725：SZ-06、731：SR-01
713・716～718・720～721・726～727・729・732～733：Ⅲ層、719・728・735～736：Ⅲa層、734・738：北端中央攪乱



第171図　Ⅶ区出土遺物実測図（２）　**743～744**：SK-02、**745**：492、**746・749～755**：SD-07、**747**：SK-01、**748**：Ⅱ層

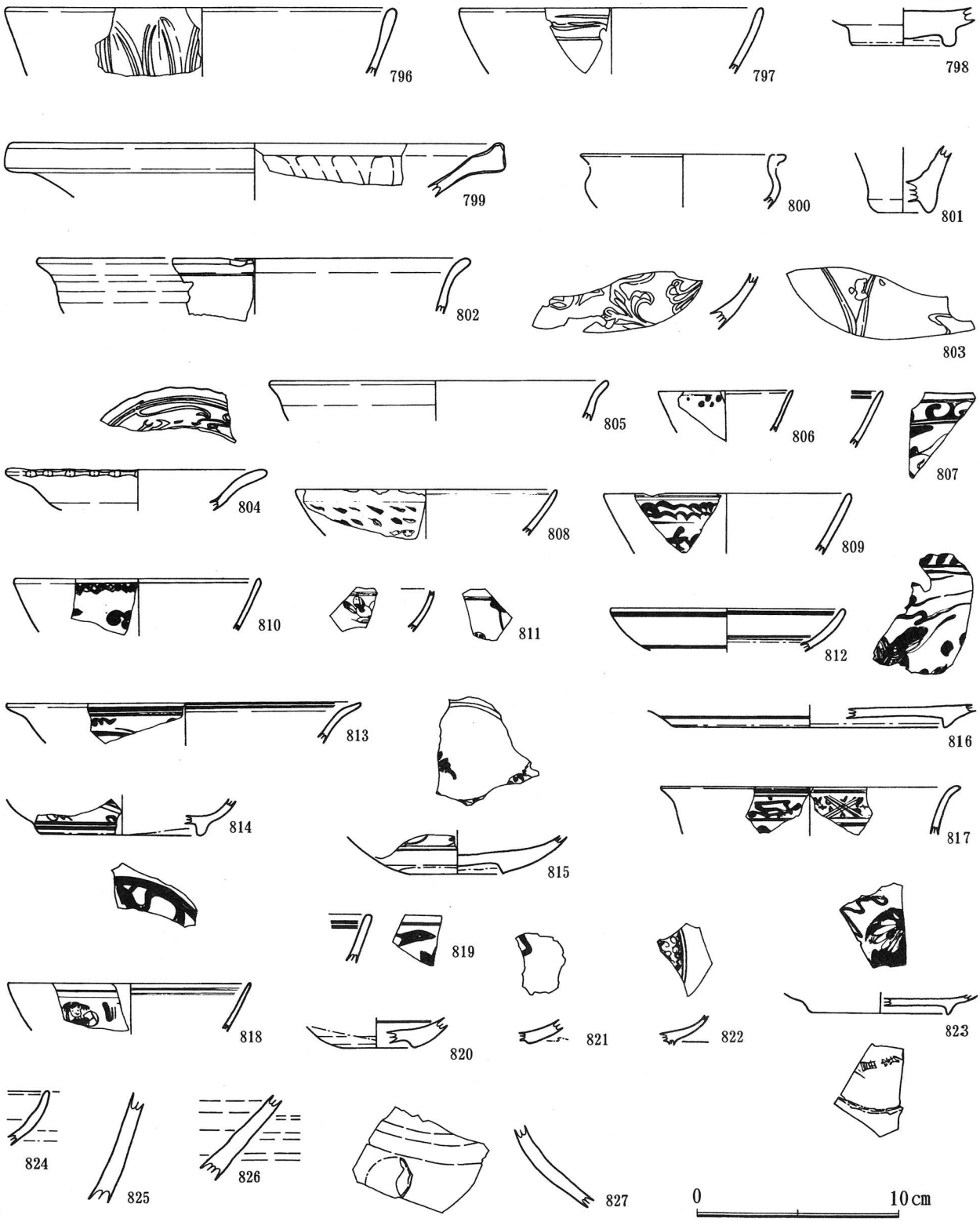


第172図　Ⅶ区出土　輸入陶磁器実測図（1）　白磁・青磁

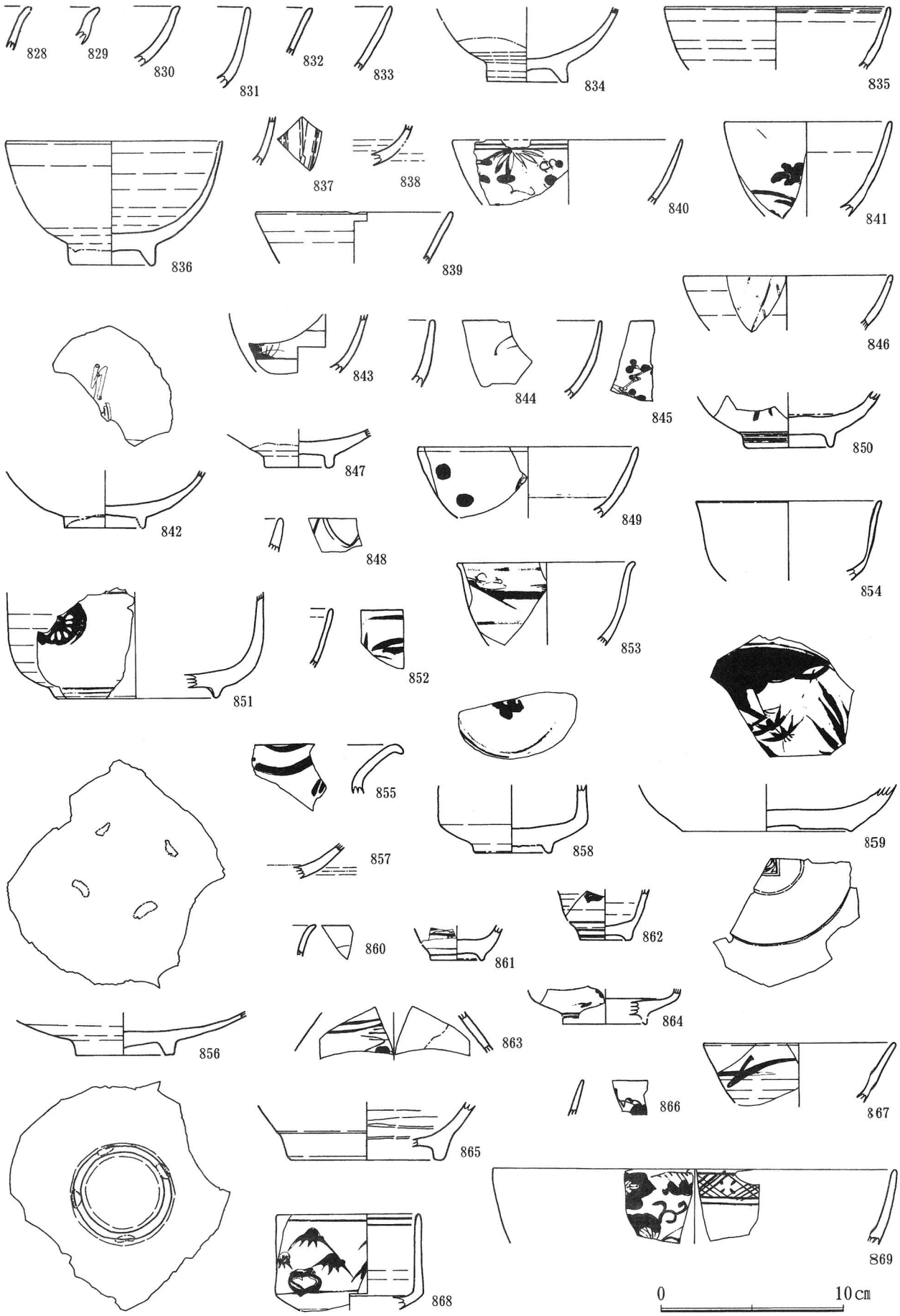
756・758・760・779～780・782～784：SD-07、**761**：SZ-06、**757**：SR-01、**759・785～790**：SZ-06、**775**：SA-02、**777**：SD-01、**781**：SD-03、**762～767・770・792・794～795**：Ⅲ層、**768・771～773・778**：Ⅲa層、**791・793**：Ⅱ層、**769・774**：北西落ち込み、**776**：東側SB郡、PP内

98cmの溝で、底面の幅は20～30cmと狭い。規模的には、11号溝とは繋がらない。

道路状遺構は２条検出し、若干の時期差があると推定される。

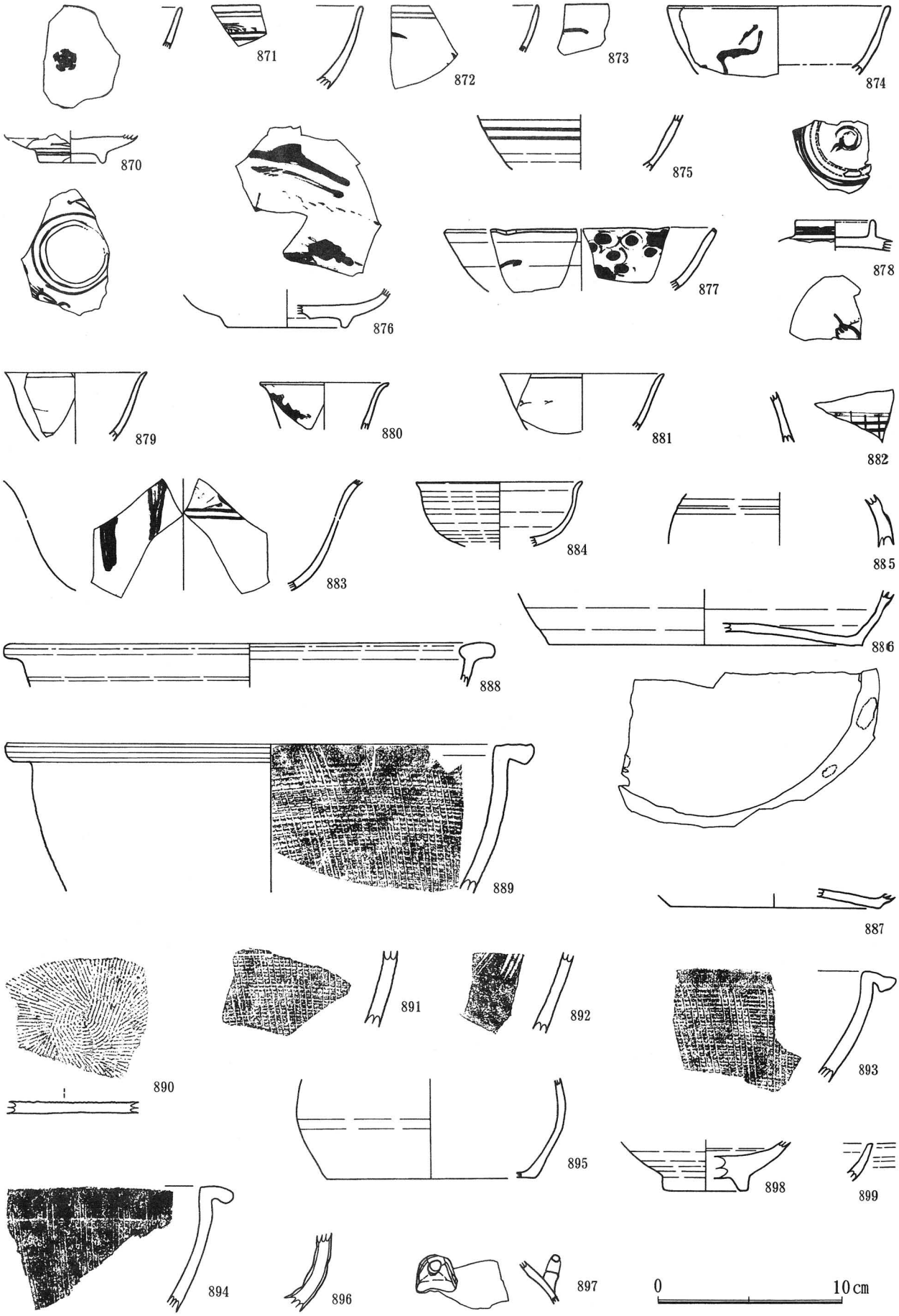


第173図　Ⅶ区出土　輸入陶磁器実測図（２）　青磁（２）・青花　806～816・826：SD-07、796～801・817・824・827：Ⅲ層、802～804・818～822・825：Ⅲa層、805：北端Ⅲ層、823：北端中央攪乱

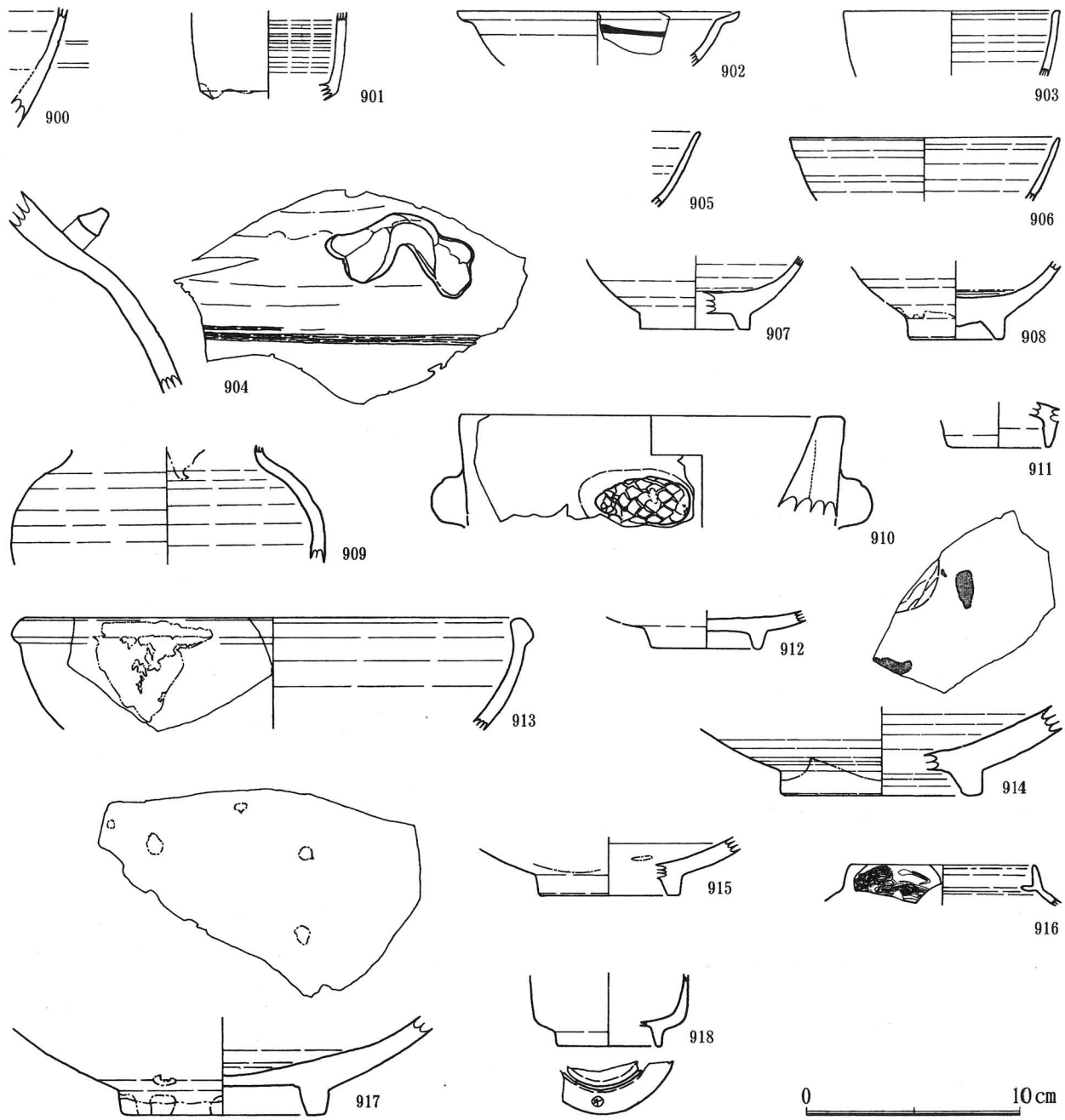


第174図　Ⅶ区出土　近世国産陶磁器実測図（1）

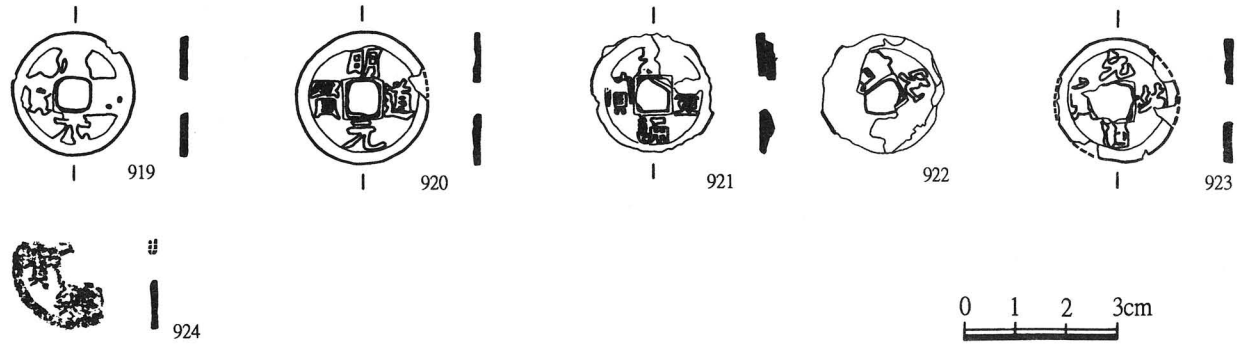
828・830～833・835～837・840・843・845～853・855・858・860～863・865・867～869：SD-07、856：SZ-02、829・838：Ⅲa層、834・841・844・857・864：Ⅱ層、854：Ⅱ～Ⅲ層、859：Ⅰ層、839・866：北端Ⅲ層、842：北端中央攪乱



第175図　Ⅶ区出土　近世国産陶磁器実測図（2）　870～872・874～882・884～887・889～899：SD-07、873・883：Ⅱ層、888：北端中央撹乱



第176図　Ⅶ区出土　近世国産陶磁器実測図（3）　900・904～910・913～914・916～918：SD-07、901～903：Ⅱ層、911：Ⅰ～Ⅲ層、912：Ⅱ・Ⅲ層、915：北端Ⅲ層



第177図　Ⅶ区出土　銭貨実測図　919：237、924：492、920：Ⅲ層、921～923：Ⅲa層

ＳＲ-01（第168図）

調査区の西南部において、東西14ｍ・南北６～7.6ｍの範囲で、深さ12～20㎝の掘り込みを検出しさらに幅0.8～1.8ｍの範囲が掘り下げられ、楕円形～双円形の波板状土坑が連続する。波板状土坑は、長さ43～103㎝・幅27～65㎝・深さ８～15㎝を測る。西端の土坑２基は深さが25～30㎝と深くなっているが、全体的には、底面は東から西へ緩やかに下降している。

底面は固く、相当年の使用を推定できる。西の延長は、推定困難である。覆土は殆ど混じりの無い淡黒灰色土で、遺物も含まないが、文明ボラを含まないことから14～15世紀前半の遺構と推定される。

ＳＲ-02（第169図）

東西77ｍ程を検出したが、延長部分の行方は推定困難である。

東端16ｍ程は南の肩が検出でき幅2.1～2.45ｍで、深さは16～42㎝を測る。

西側22ｍ分と、中央やや東寄り15ｍ分には、楕円形～双円形～三連円形の波板状土坑が連続する。

波板状土坑は、長さ35～170㎝、幅20～85㎝・深さ５～10㎝を測る。底面３ヶ所・各々２～３ｍの範囲に、鉄分が沈積して硬化した面が認められた。

覆土は01号と同様で、出土遺物も殆ど無い。

航空写真終了後、調査区中央の黒色帯を掘り下げた（第163図）。

覆土の中位まで（1a～３層）は中世の土器細片が少量出土するが下半～底面までは殆ど出土しない。下半～下層は水分が多く粘性が強くなり、Ⅳ層も純粋ではない。軟弱な地層であることから、あえて遺構を構築することがなかったと推定される。

最深部は1.35ｍを測り、覆土は緩やかな自然堆積であり、15世紀には完全に埋没している。

なお、北西隅の落ち込みは、10年程前まで存在した水田の整地跡であり、調査区北縁中央部の撹乱は、10年程前の地滑りに伴う重機による削平痕である。

出土遺物（第170～177・189・190図）

縄文時代の遺構は無いが、轟式土器片１点（713）が出土している。

弥生時代、01号住居関係以外では、打製石鏃１点（979）と石包丁片（980）が出土している。

古墳時代～９世紀後半頃の遺物は、Ⅵ区と同様、出土していない。

古代、９世紀後半以降、土師器のほか、瓦器（730）・灰釉陶器（731）・須恵器（735・736）などが出土したが、当該期の遺構は無い。ただ、中央黒色帯の上層から細片ながら比較的多く土師器片が出土しているので、削平著しい北西部に、何らかの遺構が存在していた可能性が高い。白磁の碗１点（763）は、遺物包含層出土であるがかなり磨滅しており、古代末頃と推定される。

中世の遺物は多く、土師質土器のほか、東播系須恵器（733・734）・瓦質土器（740）・備前焼擂鉢（741～743・745）・甕（746～749）等の国産品に加え、相当量の輸入陶磁器が出土している。白磁は切高台の皿と景徳鎮の皿が多く、15～16世紀が主体である。青磁は、剣先蓮弁文碗と雷文帯

碗が多い。青花は景徳鎮の碗・皿類が多い。このほか、褐釉陶器片も若干出土している。

金属製品は少ないが、銭貨6枚（919～924）や、用途不明品（968）などが出土している。

近世の遺物の殆どは02号道路跡の東端部から南縁にかけて重複する水路跡および撹乱層から出土しており、近世全般にわたる。前半の碗皿類は肥前が主体で、鉢・甕類は薩摩が主体であり、後半の主体は薩摩や南九州であることは、市内他遺跡と同様である。撹乱層からは近現代の陶磁器も相当量出土したが、図化は割愛した。

750～754は素焼きの土人形片で、他に24点の部位不明片が出土しており、2～3個体分の一部だと思われる。755は02号道路西端付近の撹乱坑から出土した下駄で、磨滅・風化が著しい。遺存する長さは21cm・幅8.7cm・厚さ4～4.6cmの杉材で、近世末～近代の所産である。石製品は少なく若干の砥石や石臼のほか、用途不明の軽石製品（973～975）が出土している。

小結

弥生時代後期、竪穴住居1棟（検出した01号住居は、住居中心の一段低い面のみ遺存していたものと推定される）のみで構成された短期間の居住が営まれる。

古墳時代から9世紀前半までは、Ⅵ区と同様、生活の痕跡が無い。

古代、何らかの居住があったと推定されるが、遺構が遺存していない。

中世に入るとⅥ区のように区画溝で郭が形成され、建物も主軸方位によって大きく4期に分けられる。遺構の大略的変遷は、第5節にまとめている。15世紀頃には、Ⅵ区との境に波板状土坑を有する道路状遺構が構築され、山城外（西側）へ延びている可能性がある。

Ⅷ区へ繋がる斜面は斜めにカットされ、下り道が階段状に構築される。斜面下半は全く未調査に終ってしまったが、Ⅷ区南縁の中程からⅦ区の高位面に上る幅1.5m程の農道が存在していたことから、元々、通路が存在していた可能性がある。

P．Ⅷ区

Ⅶ区との中間17～28m分は、土置き場としたために未調査となった。また、西端部12m分は、遺表土～Ⅲ層を重機で剥いだ後に遺構検出を実施し、顕著な遺構を検出しなかったことから、工事用道路の用地として早々と明け渡した。

遺構検出面はアカホヤの2次堆積層～Ⅶ層上面で、中央南側のみⅢb層上面で柱穴群を検出している。遺構面の標高は、Ⅵ区よりも3.2m前後低い。Ⅳ層（アカホヤ火山灰）の殆どは流失しているが、Ⅲ層以降は他地区と同様の自然堆積であり、客土や削平等の地形改変は認められず、元来、低い面であったようである。

遺構は、掘立柱建物跡17棟のほか、5～6棟分の柱穴、溝状遺構1条、土壙墓1基、円形土坑35基等を検出した。その他、自然陥没坑10基を確認した（第178図）。

ＳＢ-01（第179図）

調査区の北東部に位置した、梁行２間（3.48ｍ）・桁行３間（5.50～5.60ｍ）の建物である。柱穴の規模は、直径16～28㎝・深さ12～44㎝を測る。主軸方位は、Ｎ48°Ｅである。

ＳＢ-02（第179図）

01号建物の80㎝南に隣接した、梁行１間（3.44～3.48ｍ）・桁行３間（4.82～5.04ｍ）の身舎に、北～西面に幅半間の廂が付く。柱穴の規模は、直径16～25㎝・深さ13～30㎝を測る。主軸方位は、Ｎ43°Ｗである。

ＳＢ-03（第179図）

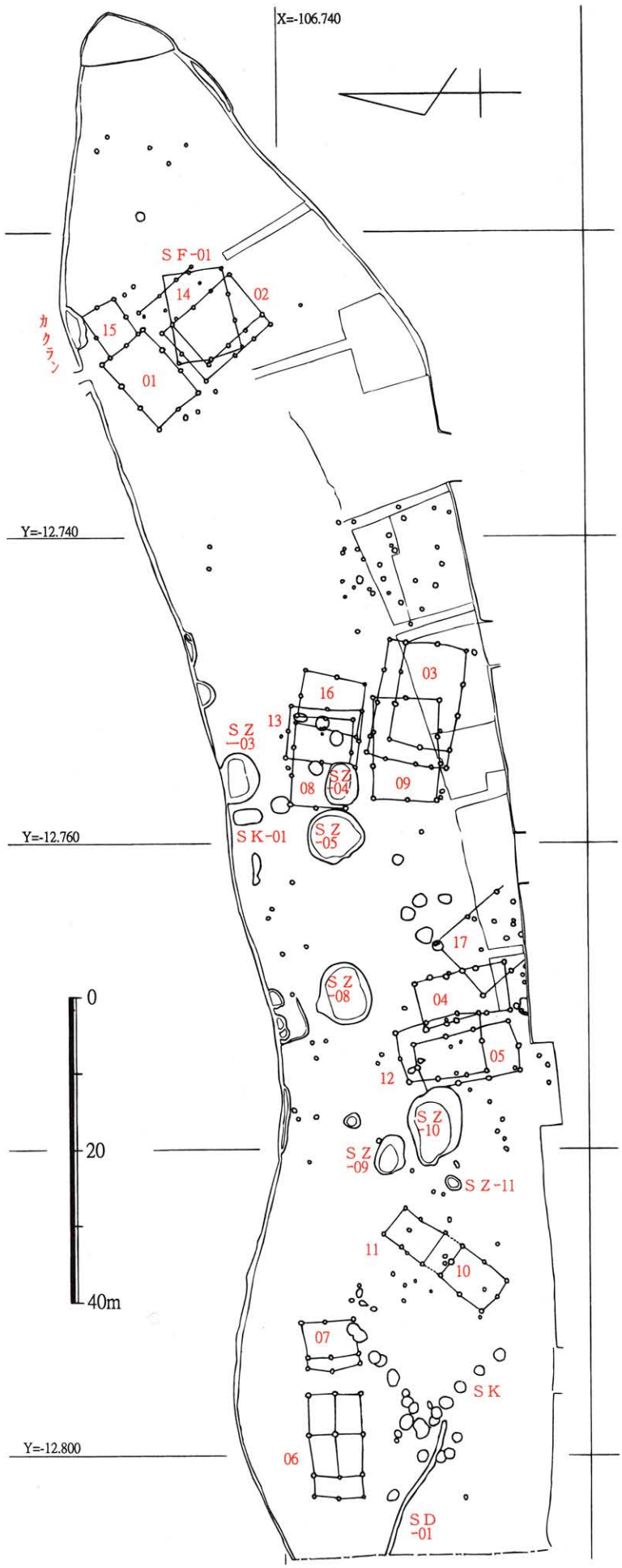
調査区の中央南寄りに位置した、梁行２間（4.0～4.03ｍ）・桁行３間（6.44～6.66ｍ）の身舎に北～西面に幅半間の廂が付く。柱穴の規模は、直径15～35㎝・深さ11～43㎝を測る。主軸方位は、Ｎ79°Ｗである。Ⅷ区では最大の建物で、廂を含む面積は28.3㎡を測る。

ＳＢ-04（第179図）

調査区の中央やや西寄りに位置した、梁行１間（3.10～3.13ｍ）・桁行３間（5.70～6.05ｍ）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径26～35㎝・深さ36～50㎝を測る。主軸方位は、Ｎ13°Ｗである。

ＳＢ-05（第180図）

04号建物の西に位置した、梁行２間（3.27～3.35ｍ）・桁行３間

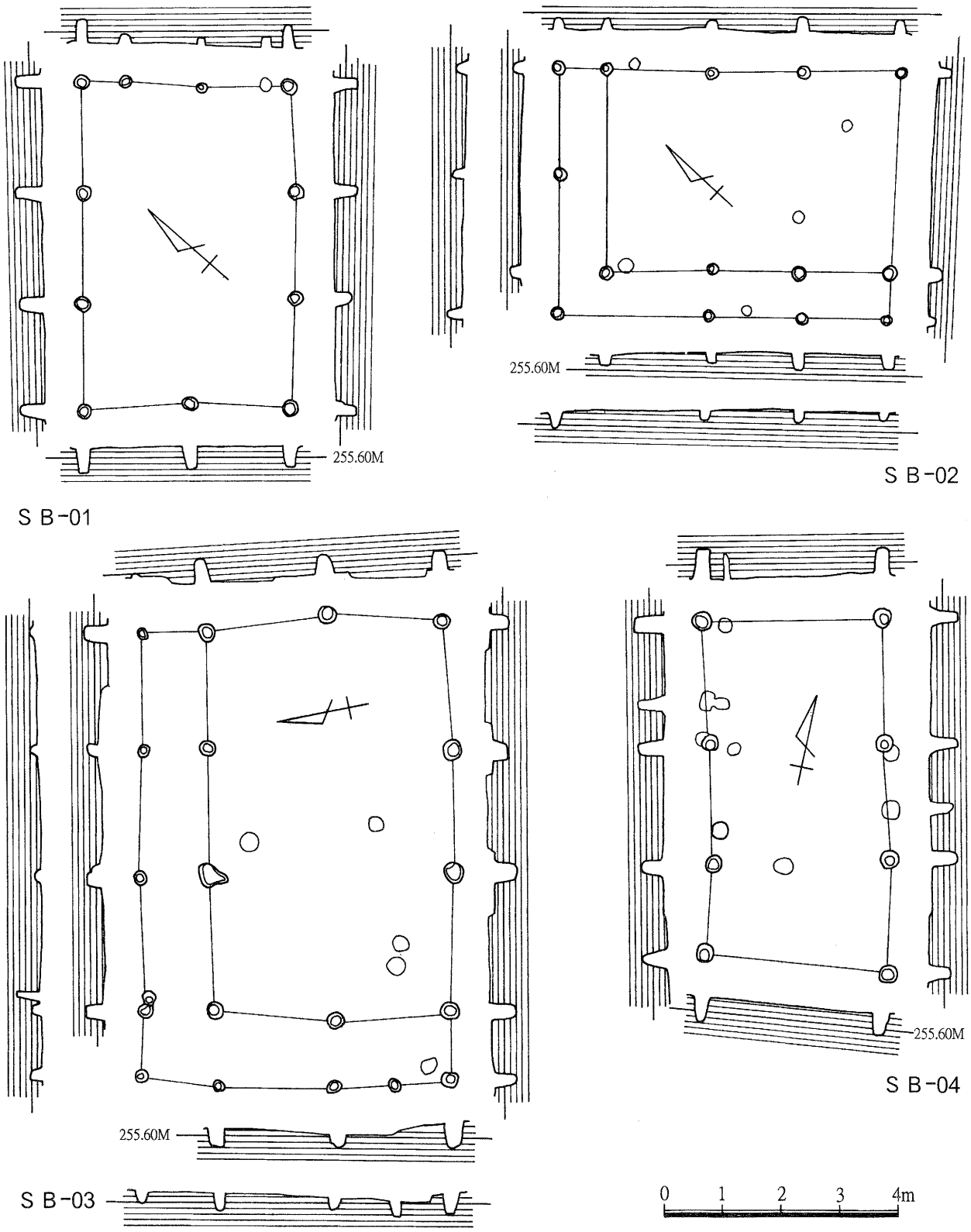


第178図　Ⅷ区　遺構分布図　２桁番号はＳＢ

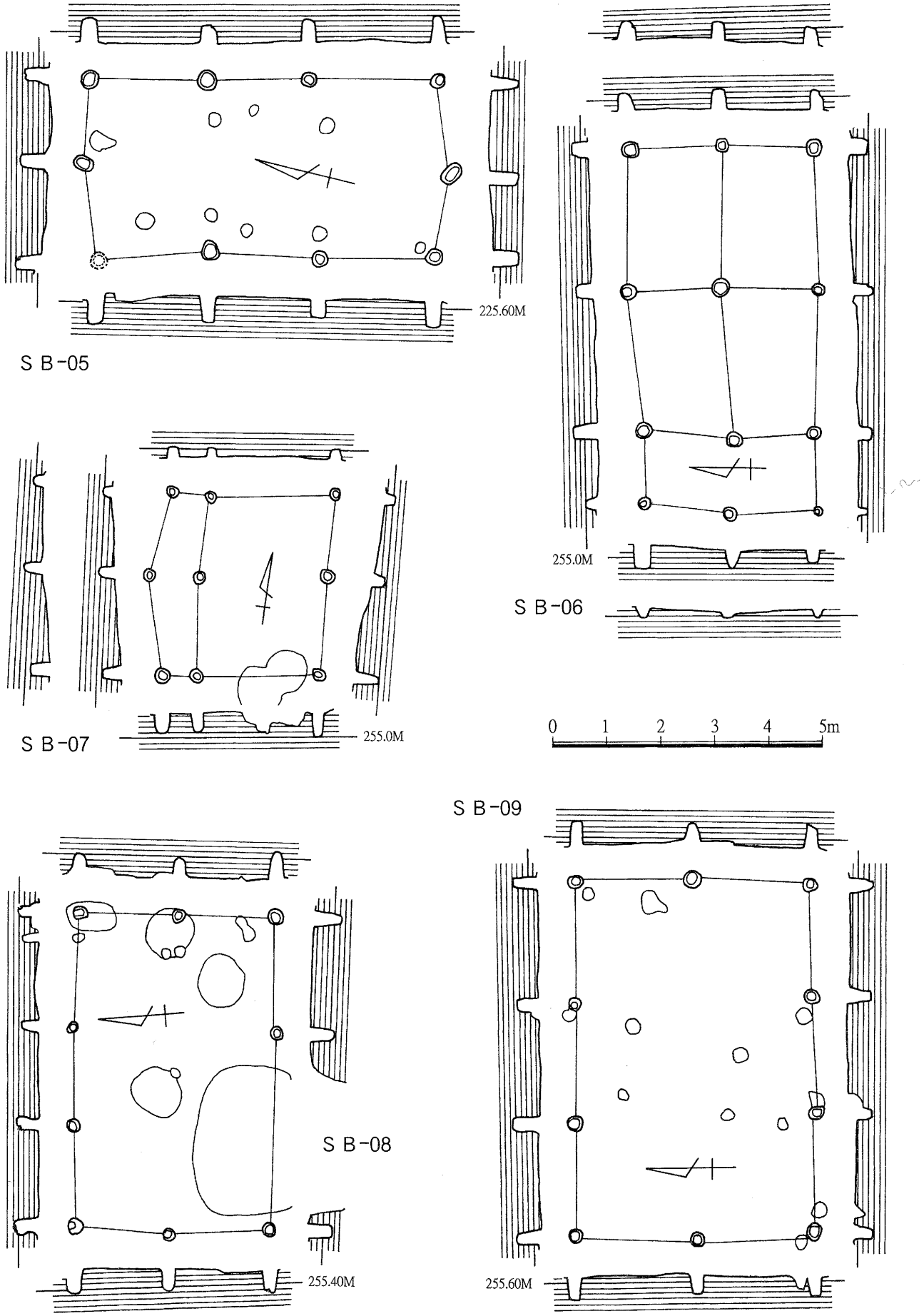
（6.20～6.42m）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径24～42cm・深さ33～52cmを測る。主軸方位は、N13°Wである。

ＳＢ-06（第180図）

調査区の北西端に位置した、梁行２間（3.13～3.38m）・桁行２間（5.20～5.30m）の総柱の身舎に、



第179図　ＳＢ-01～04　遺構実測図



第180図　S B-05～09　遺構実測図

西面に廂が付く。柱穴の規模は、直径15～34㎝・深さ10～44㎝を測る。主軸方位は、N88°Eである。

ＳＢ-07（第180図）

06号建物の1.4～1.6ｍ西に位置した、梁行１間（2.26～2.30ｍ）・桁行２間（3.33～3.35ｍ）の南北方向の身舎に、西面に廂が付く。柱穴の規模は、直径20～36㎝・深さ17～44㎝を測る。主軸方位は、Ｎ２°Wである。

ＳＢ-08（第180図）

調査区の中央やや北側に位置した、梁行２間（3.60ｍ）・桁行３間（5.80ｍ）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径16～26㎝・深さ28～50㎝を測る。主軸方位は、N85°Wである。

ＳＢ-09（第180図）

08号建物の南、03号建物に重複した、梁行２間（4.30～4.40ｍ）・桁行３間（6.40～6.58ｍ）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径22～33㎝・深さ36～50㎝を測る。主軸方位は、東西である。

ＳＢ-10（第181図）

調査区の西寄りに位置した、梁行２間（2.40～2.60ｍ）・桁行３間（3.55～3.70ｍ）の建物である。柱穴の規模は、直径20～31㎝・深さ３～50㎝を測る。主軸方位は、N38°Eである。

ＳＢ-11（第181図）

10号建物の北東1.4ｍに位置した、梁行１間（2.24～2.56ｍ）・桁行２間（3.08～3.20ｍ）の建物であるが、10号と繋がっていた可能性もある。柱穴の規模は、直径13～26㎝・深さ10～46㎝を測る。主軸方位は、N38°Eである。

ＳＢ-12（第181図）

05号建物の北東部に重複した、梁行２間（3.26～3.83ｍ）・桁行３間（5.16～5.60ｍ）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径21～36㎝・深さ30～45㎝を測る。主軸方位は、Ｎ７°Eである。

ＳＢ-13（第181図）

08号建物の東側に重複した、梁行２間（3.40～3.68ｍ）・桁行２間（4.55～4.58ｍ）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径14～23㎝・深さ16～30㎝を測る。主軸方位は、Ｎ８°Eである。

ＳＢ-14（第181図）

調査区の東端、02号建物に重複した、梁行２間（3.88～4.29ｍ）・桁行３間（5.36～5.60ｍ）の東西方向の建物である。柱穴の規模は、直径14～23㎝・深さ17～32㎝を測る。主軸方位は、N77°Eである。

ＳＢ-15（第181図）

14号建物の北、01号建物の東梁と重複した、梁行２間（2.34～2.42ｍ）・桁行２間（2.76～3.20ｍ）の建物である。柱穴の規模は、直径16～33㎝・深さ13～44㎝を測る。主軸方位は、N56°Eである。

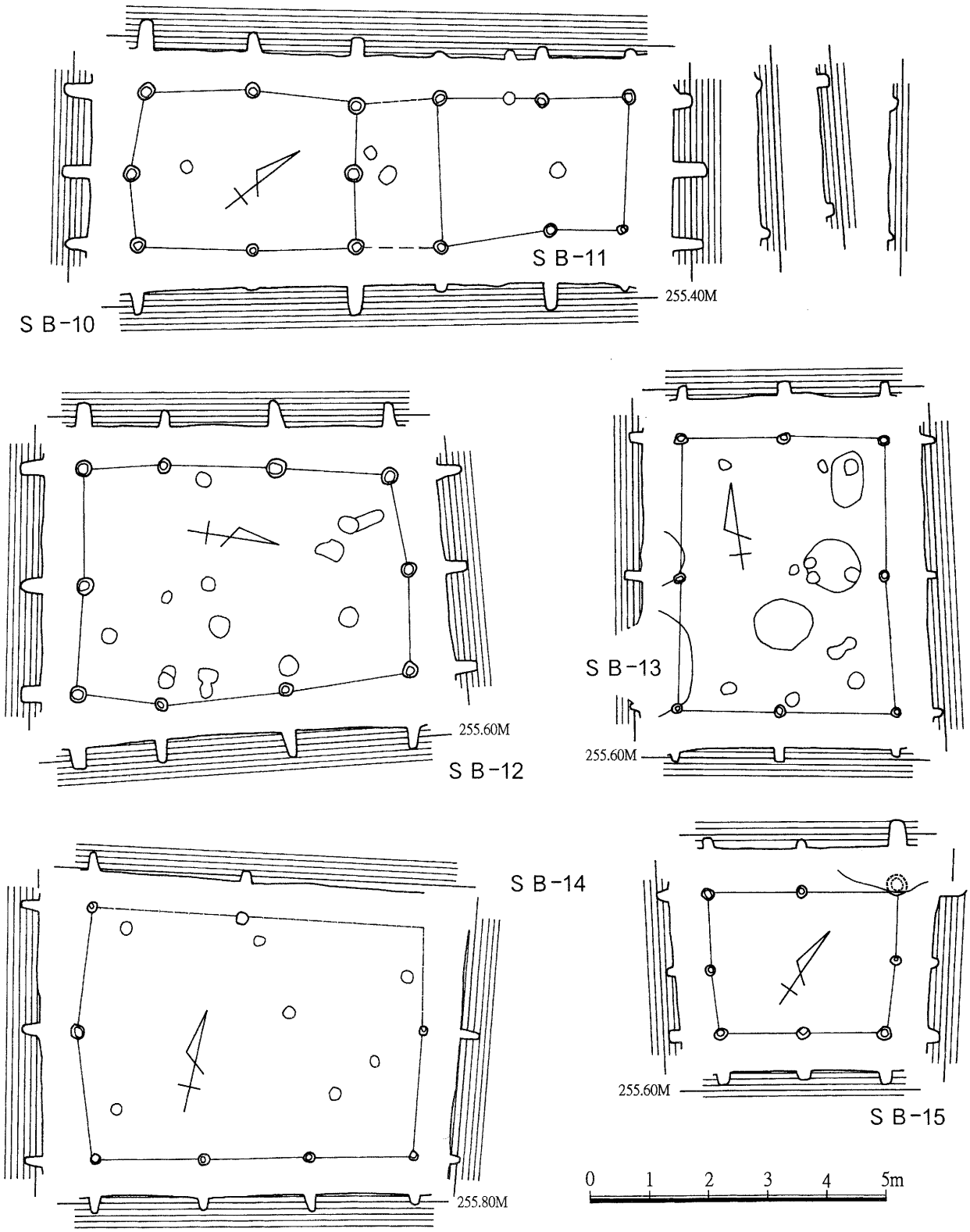
ＳＢ-16（第182図）

08・13号建物と重複した、梁行２間（3.44ｍ）・桁行２間（3.96ｍ）の南北方向の建物である。柱穴の規模は、直径15～30㎝・深さ22～38㎝を測る。主軸方位は、N13°Eである。

ＳＢ-17（第182図）

調査区の中央寄りに位置した、梁行２間（4.58ｍ）・桁行２間以上（5.1ｍ以上、推定３間）の建物である。柱穴の規模は、直径23～33㎝・深さ20～48㎝を測る。主軸方位は、N40°Wである。

ＳＦ-01



第181図　ＳＢ-10～15　遺構実測図

02号建物の北東２ｍに位置した、３間（4.62ｍ）の柵状遺構と推定される。柱穴の規模は、直径16～21㎝・深さ10～23㎝を測る。主軸方位は、N40°Wである。02号に伴う遺構もしくは、北東に２間の梁が延びた建物遺構であった可能性もある。

溝状遺構は、１条のみ検出した。

ＳＤ-01

調査区の西端中央において、長さ９ｍ分を検出した。幅は27～38㎝、深さは３～９㎝を測る。形状はやや蛇行するが、10・11号建物の時期に伴う可能性が高い。

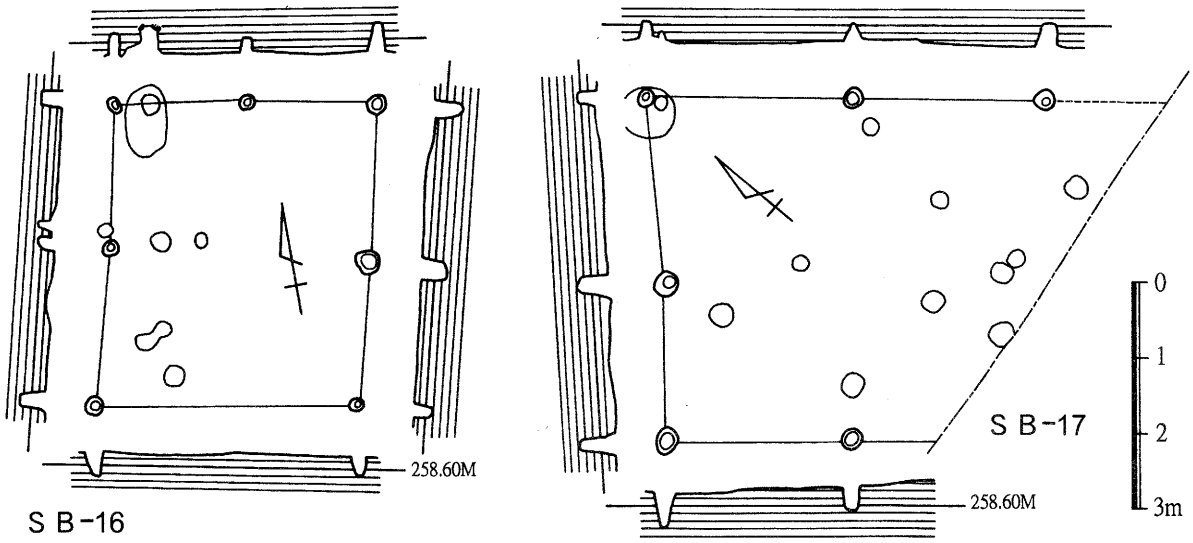
円形土坑は、直径0.6～1.2ｍ・深さ10㎝前後のもの35基を検出した。顕著な遺物は出土していないが、中世の小児～若年の土壙墓であろうと思われる。01号溝の東側においては、Ｌ字状に配置された状況で、01・02・17号建物と並行しており、計画的配置と言える。

確実な土壙墓としては、01号１基がある。

ＳＫ-01（第183図）

調査区の中央北縁に位置した、長さ1.85ｍ・幅0.87～0.97ｍの隅丸長方形を呈し、深さは39～46㎝を測る。南東寄りの土層中位から、土師質土器皿の完形品１点（929）が出土したことから成人の土壙墓と推定される。また、１～２層には拳大の礫が混入していることから、木蓋の上に錘として置かれ、皿が供献されたことが想定される。

当調査区では、明瞭な検出ができない落ち込み（ＳＺ）を10基確認した。当初は03・05・08号は竪穴住居の可能性を推定したが、すべて天井（Ⅶ層）が陥没した状況を把握し、自然陥没坑である



第182図　ＳＢ-16・17　遺構実測図

ことが判明した。これらは帯状に分布することから、水の通り道があると推定される。

ＳＺ-03（第184図）

中央北縁に位置した、長径3.3ｍ・短径2.5ｍ程の楕円形を呈し、最深部は1.45ｍを測る。土層の状況から、古代以前の陥没と推定される。覆土上層から、甕の底部片１点（927）が出土している。

ＳＺ-04（第184図）

08号建物の南西部に位置した、長径2.8ｍ・短径2.2ｍの楕円形を呈し、深さは1.2～1.9ｍを測る。東壁下部は抉れており、底面は傾斜いている。覆土上層から、坏片１点（929）が出土している。

ＳＺ-05（第184図）

04号の西に隣接した、直径3.6ｍ前後の略円形を呈し、深さは1.3～1.5ｍを測る。底面は中心付近が若干凹む程度で、凹凸も少ない。

ＳＺ-08（第184図）

調査区のやや西寄りに位置した、長径4.1ｍ・短径3.2ｍの楕円形を呈し、北西部に突出部のあるプランである。深さは1.7～2.2ｍを測る。埋没過程から、弥生～古墳時代の陥没坑と推定される。北壁上部には、新たに（現代の）陥没坑が形成されようとしている。

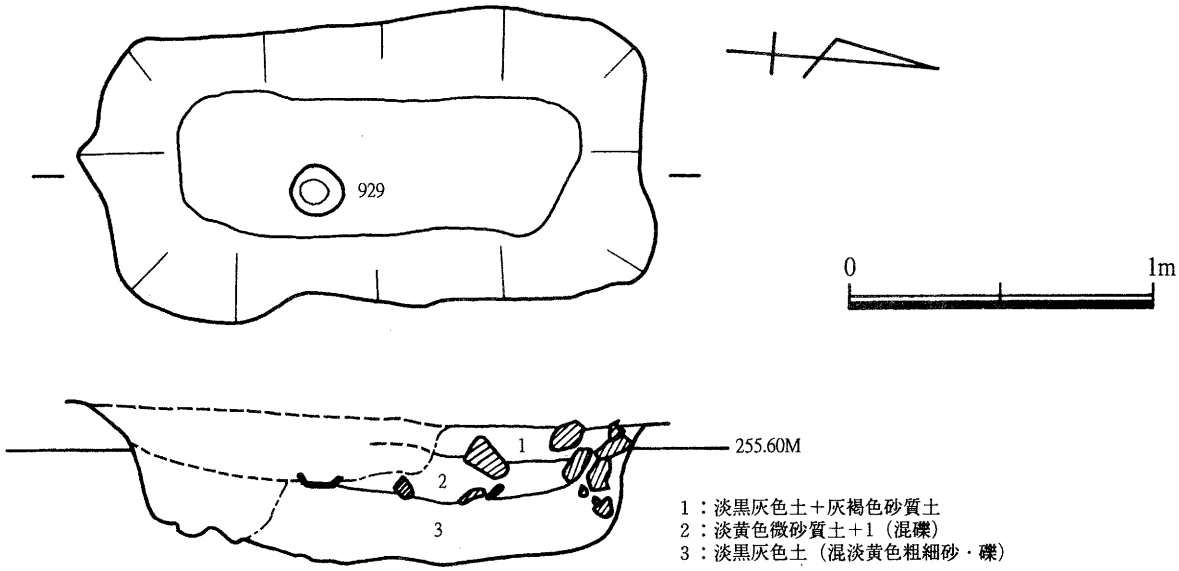
ＳＺ-09

11号建物の北東に位置した、長径2.7ｍ・短径0.9ｍの楕円形を呈し、深さは1.7ｍを測る。土層断面の実測をする前にセクションが崩壊してしまったので、詳細は省く。

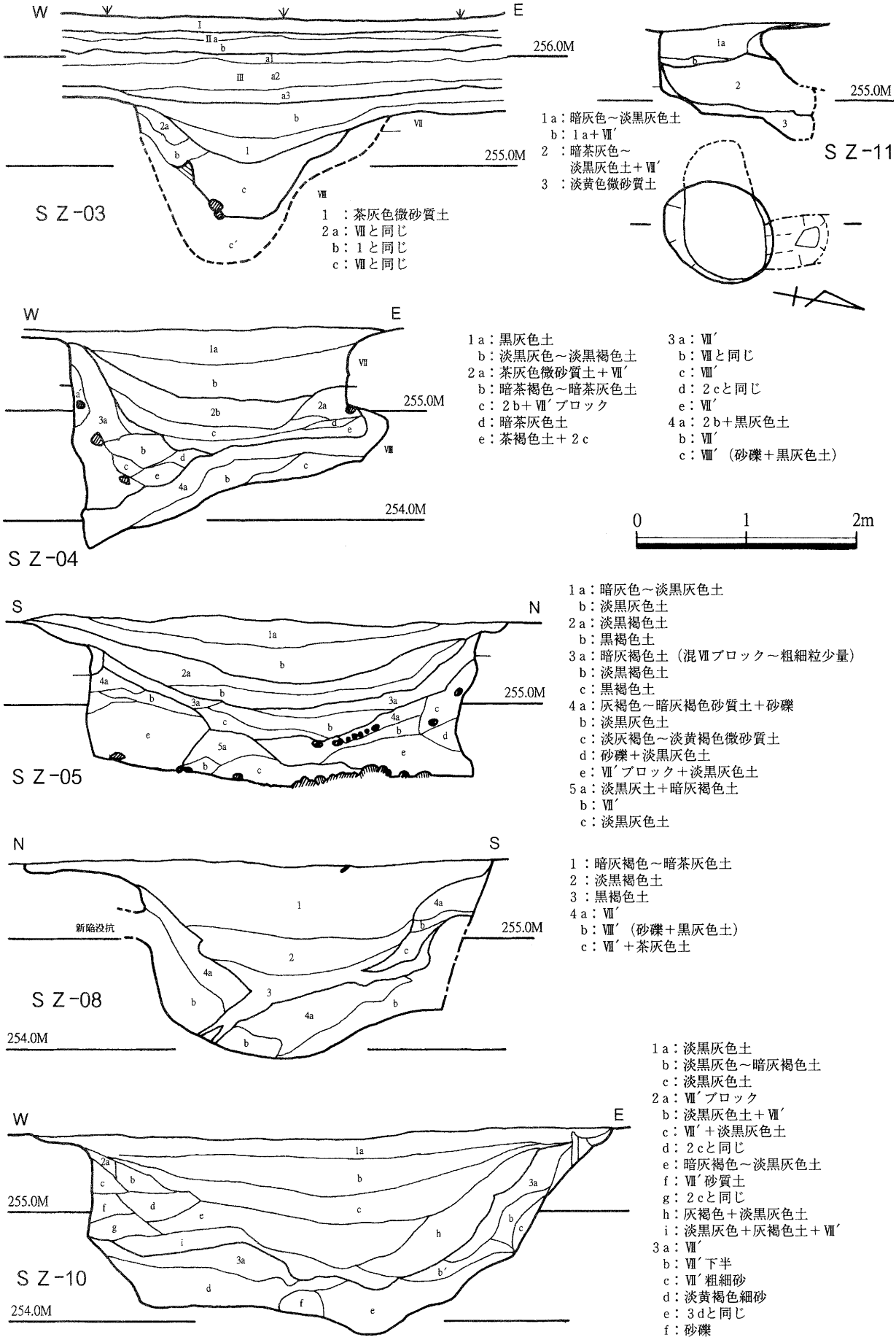
ＳＺ-10（第184図）

09号の南に位置した、長径5.4ｍ・短径3.6ｍの不整楕円形を呈し、深さは1.54～1.88ｍを測る。

ＳＺ-11（第184図）



第183図　ＳＫ-01　遺構実測図



第184図　自然陥没坑　断面層序図

10号の南西１ｍに位置し、長径1.08ｍ・短径0.86ｍの楕円形を呈し、１段目の深さは80㎝前後である。北壁は抉れ、２段目が下降して行くが、深さは未確認である。

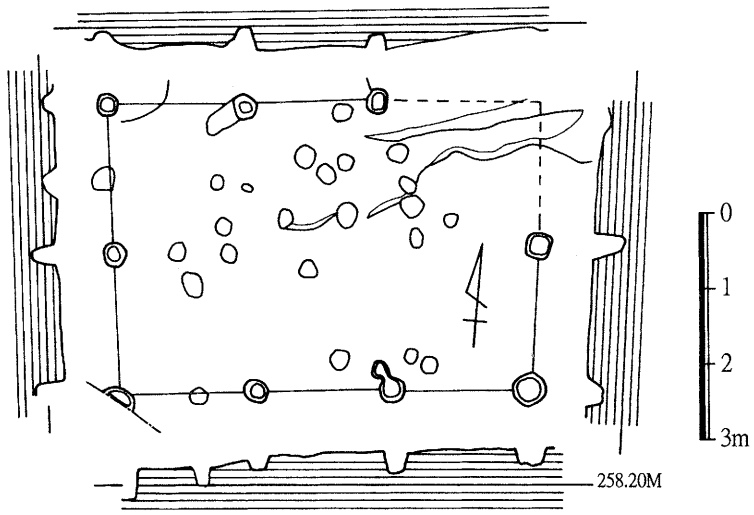
これら自然陥没坑の殆どは、弥生～古墳時代の形成と推定される。

出土遺物（第187～189・191図）

出土遺物は少ないが、弥生土器（925～927）のほか、土師器坏（928）・東播系須恵器・土師質土器・輸入陶磁器の白磁（933）・青磁（935～936）・鉄釉陶器（934）、打製石鏃（984）、磨製石鏃（985）、器面調整具（986）、滑石製石鍋片を加工した温石と推定されるもの（987）などが出土している。

小結

他の地区の様な区画溝は検出されなかったが、建物は５群に分かれ、主軸方位も大きく５期に分類できる。年代推定の根拠となる遺構・遺物の良好なセットは無いので、Ⅵ～Ⅶ区の建物と連動させて変遷を推定する（第５節）。01号土壙墓出土の土師質土器皿は12世紀後半頃と推定されるが、田之上城築城前の遺構と推定される。

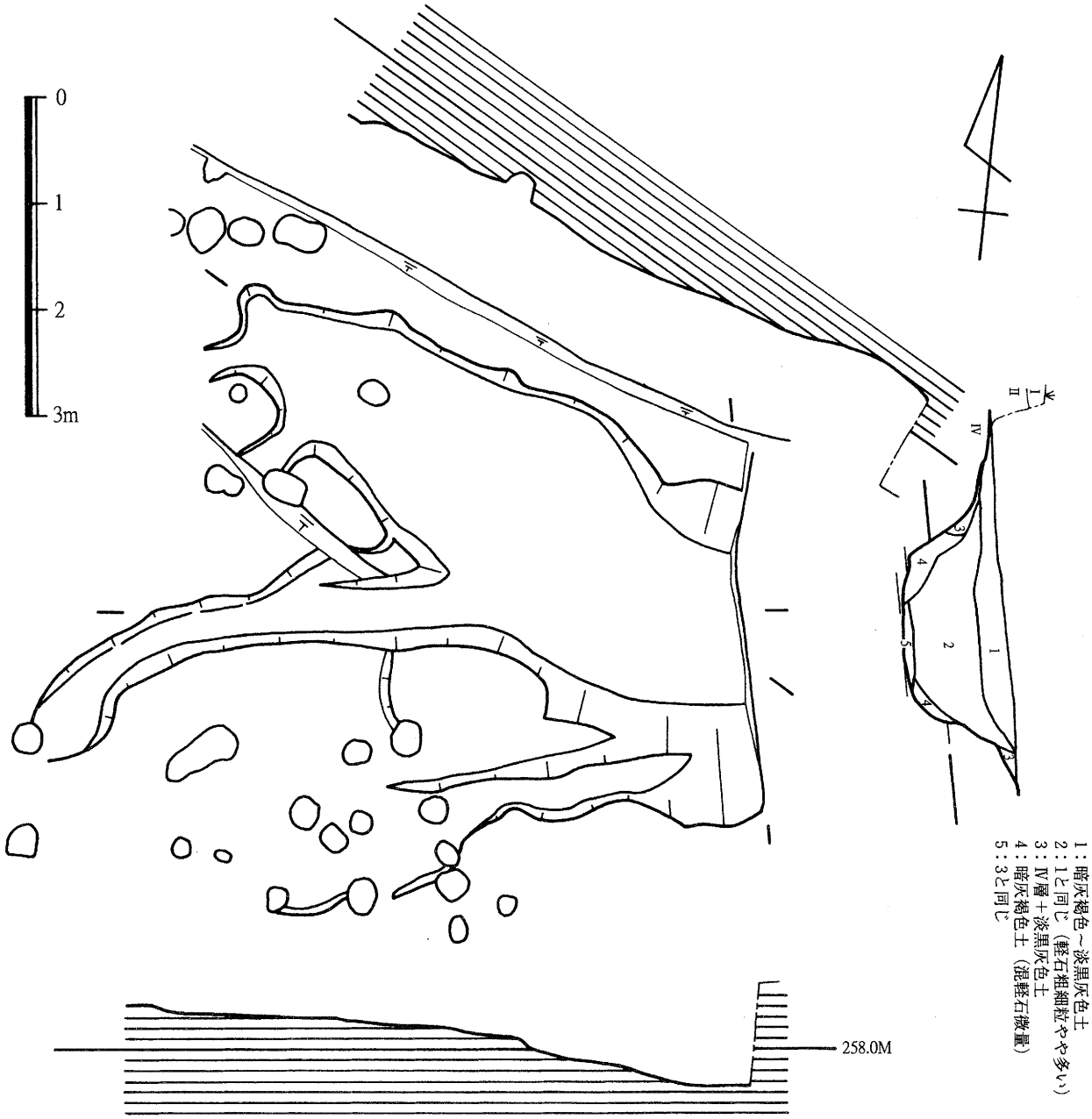


第185図　ＳＢ-01　遺構実測図

q．Ⅸ区

Ⅶ区西側の谷を挟んだ位置の、道路建設予定地内の調査である（第153図）。

調査区の大半は、天地返しと開墾によって30cm前後の削平を受けている。遺構は柱穴が多いものの建物復元に至らず、１棟のみ明瞭である。他は、枝別れ



第186図　ＳＤ-01　遺構実測図

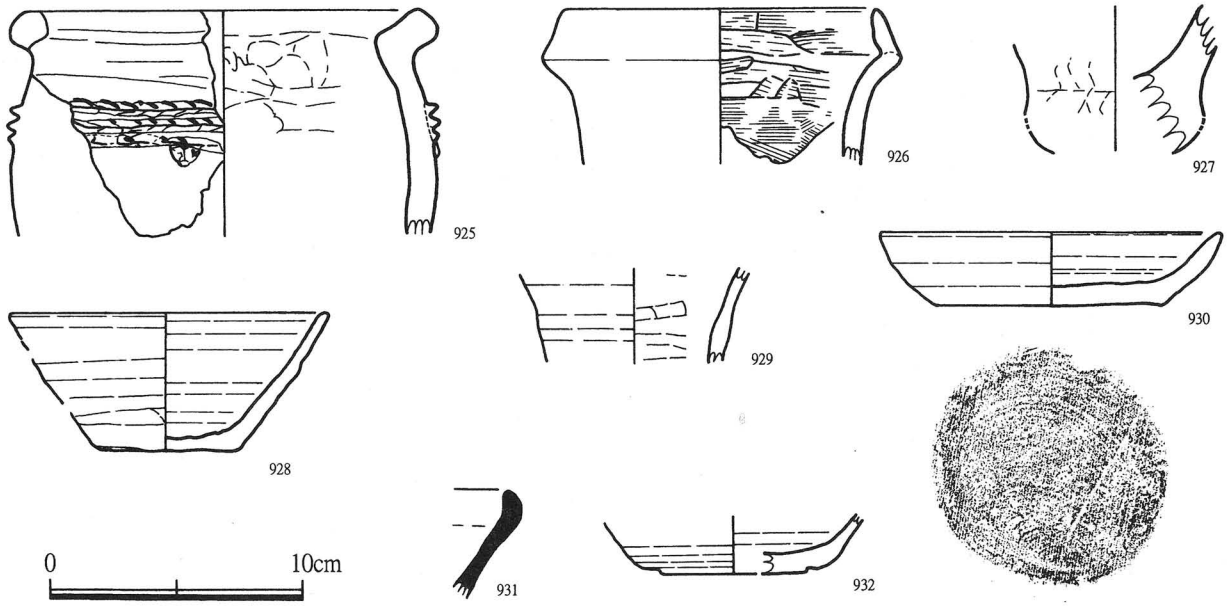
した溝状遺構１条を検出した。

ＳＢ-01（第185図）

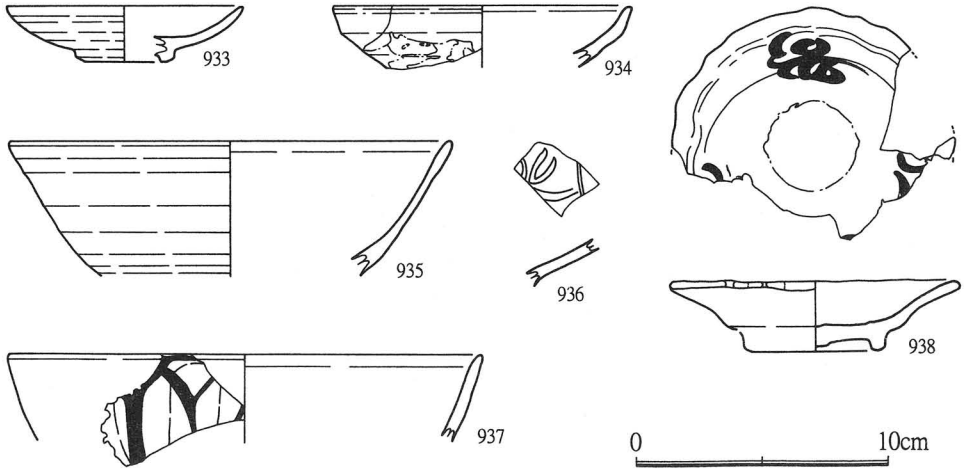
調査区の中央南東寄りに位置した、梁行２間（3.86ｍ）・桁行３間（5.4ｍ）の東西方向の建物で、北東隅の柱穴は01号溝によって削失している。柱穴の規模は、直径27～44㎝・深さ20～40㎝を測る。主軸方位は、N84°Eである。

ＳＤ-01（第186図）

調査区の北東部に位置した、最大幅3.5ｍ・深さ0.98ｍの溝状遺構で、４条の枝別れがある。形状は歪で、本体に流れ込む水流によって形成されたと推定される。本体は、東の谷（外堀）へ注いでいたと推定される。覆土上層から青磁碗（937）と稜花型皿（938）が出土しており、15世紀末頃の年代が与えられる。



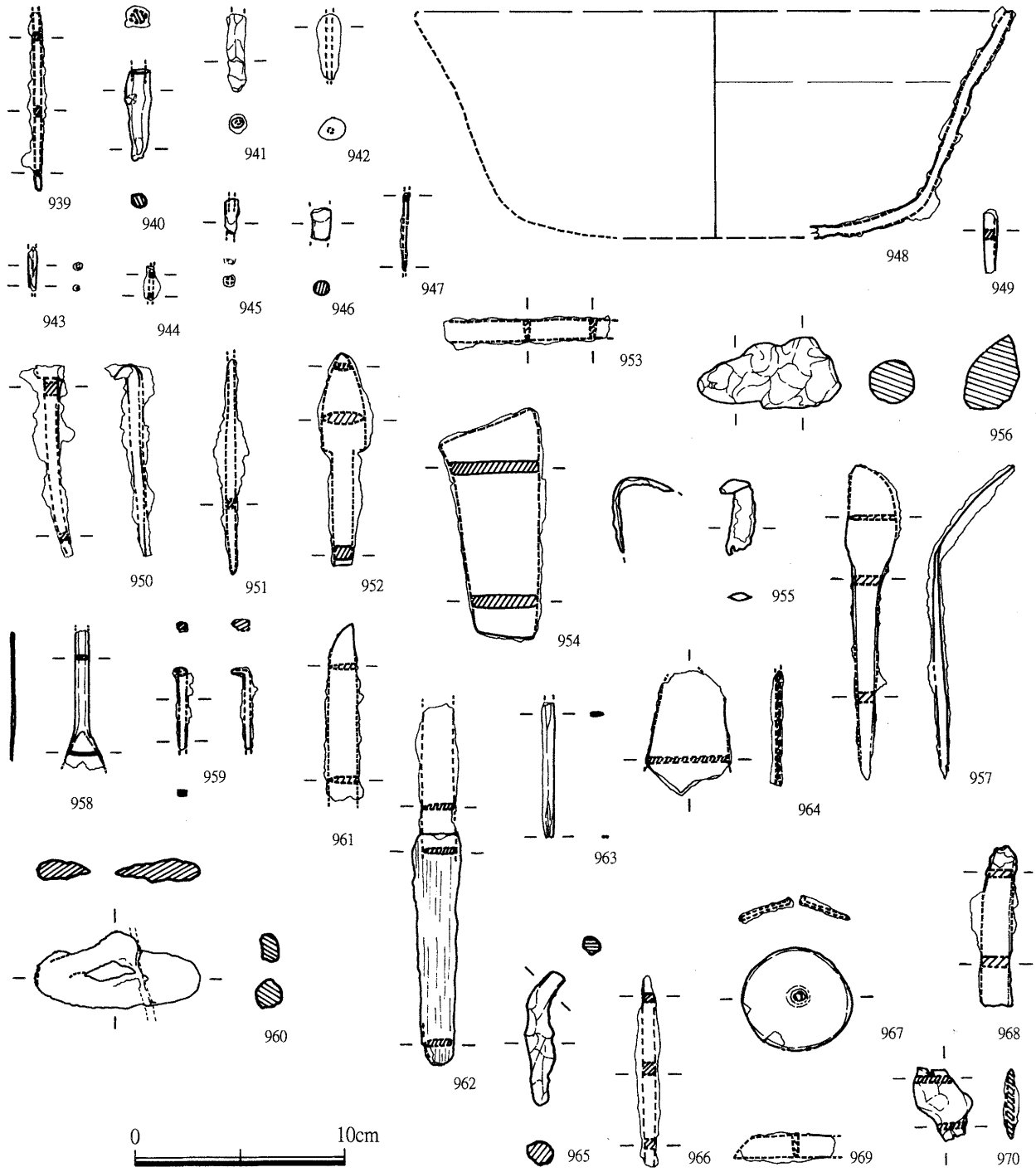
第187図　Ⅷ・Ⅸ区出土　遺物実測図（１）　〈Ⅷ区〉**926**：SZ-06、**927**：SZ-03、**929**：SZ-04、**930**：SK-01、**925・928**：Ⅲ層、**931**：Ⅲa層、〈Ⅸ区〉**932**：02



第188図　Ⅷ・Ⅸ区出土　遺物実測図（２）　輸入陶磁器　〈Ⅷ区〉**933～936**：Ⅲ層、〈Ⅸ区〉**937～938**：SD-01

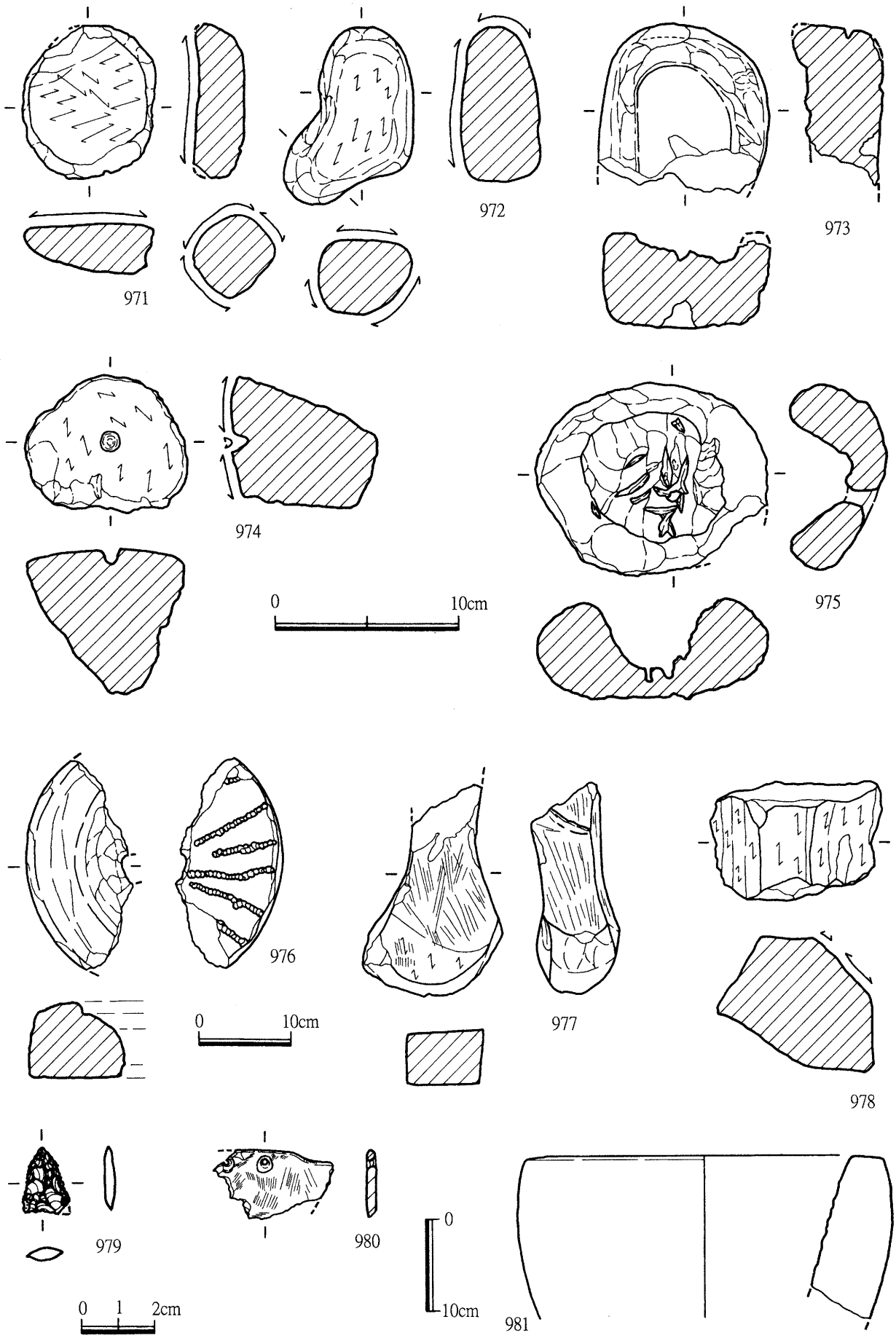
小結

柱穴は覆土の土質から14～15世紀代が多いと思われ、田之上城の外縁にも集落が営まれていたことが判明した。15世紀には外堀はほぼ埋没しており、小規模な区画溝による郭で構成されていた田之上城の西隣も郭を形成し、砦を拡大していった可能性もある。

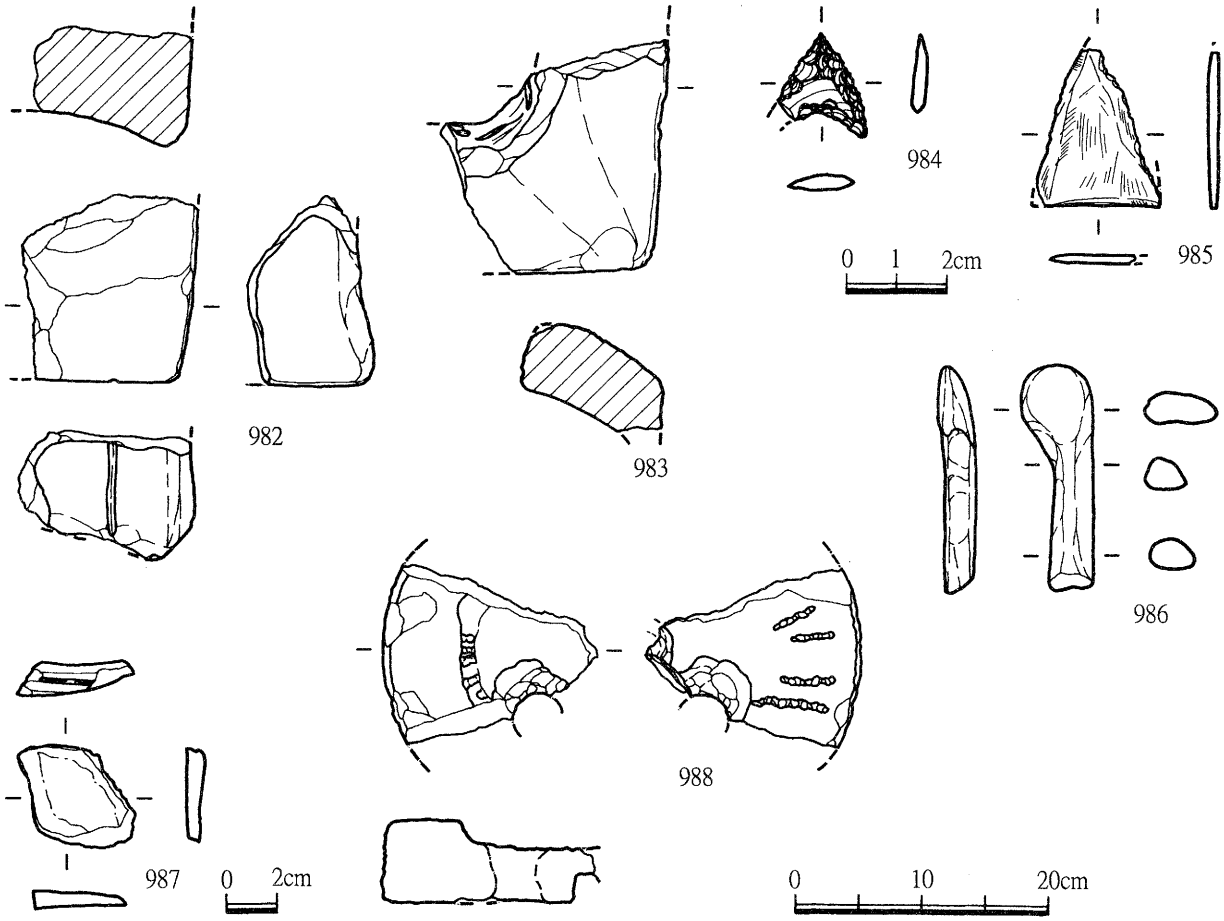


第189図　Ⅴ～Ⅷ区出土　鉄器・鉄製品実測図

〈Ⅴ区〉**939**：30、〈Ⅵ区〉**940～942**：SK-10、**943～946**：SK-11、**947～948**：SK-78、**949～950**：SK-99、**951**：SK-117、**952**：SK-118、**953**：SR-01、**954**：SD-13、**955**：SD-39、**956**：SD-48、**957**：SD-56、**958**：SZ-03、**959**：SZ-05、**960**：SZ-12、**961**：SZ-32、**962**：SZ-29、**963**：197、**964**：195、**965**：1253、**966**：1714、〈Ⅶ区〉**967**：295、**968**：Ⅲ層、**969**：Ⅲa層、〈Ⅷ区〉**970**：146



第190図　Ⅶ～Ⅸ区出土　石器・石製品実測図（1）　〈Ⅶ区〉971～976：SD-07、977：815、978：220、979：Ⅲa層、980：排土、981：Ⅲ層



第191図　Ⅶ～Ⅸ区出土　石器・石製品実測図（2）　982～983：Ⅶ区Ⅲa層、984～987：Ⅷ区Ⅲ層、988：Ⅸ区SD-01

第５節　まとめ

田之上城跡は、郭内の面積が約70,400㎡、外堀を含むと約93,250㎡の面積がある。城内の調査面積は約16,420㎡であり、約17.6％の調査をしたにすぎない。また、郭の中心部にかかったのはⅥ区の北東部のみで、標高の最も高い所や外堀の途切れる地点など、重要ポイントについては何のデータも無いが、限られた範囲内での居住形態の変遷を追ってみたい（第192～200図）。

弥生時代（先Ⅲ期）の遺構（第192図）

段丘の北縁に竪穴住居（Ⅶ区の01号住居）が営まれ、沖積地との中間部では自然陥没（Ⅷ区のＳＺ）が多発する。石包丁片も出土しており、沖積地での小規模な水田が営まれていたと想定されるが、当該期の地層は流失している。

古代Ⅰ期（先Ⅱ期）（第193図）

北田遺跡検出の04号溝と繋がる、Ⅱ区の03号溝・Ⅵ区の14号溝が掘削された時期で、９世紀後半頃である。同時期の箱掘りの溝としては、上田代遺跡の05号溝[1]と馬場田遺跡の05号溝[2]があり、いずれも墨書土器が出土している。これらは埋没途中での祭祀行為で、北田遺跡・田之上城跡例も共通する。しかし、上田代・馬場田遺跡例は用水路であるのに対し、当該溝は村境的区画溝（空堀）の様な機能しか考えられない。底面は時には20～30㎝の段を有し、礫層や砂層内に底面があることから掘削当初は用水路としては機能しない。段差や礫の凹凸の存在から馬道でも無いが、排水路的機能は充分にある。大雨の後でも殆ど水は溜まらず、全て地下へ吸収される。踏み締められた黒色土には水が溜まることから、集落内の水を排水する機能を兼ね備えている。

これだけの大土木事業をした人々の生活遺構は無いに等しく、Ⅷ区の15号建物が唯一、主軸方位が近い。

古代Ⅱ期（先Ⅰ期）（第194図）

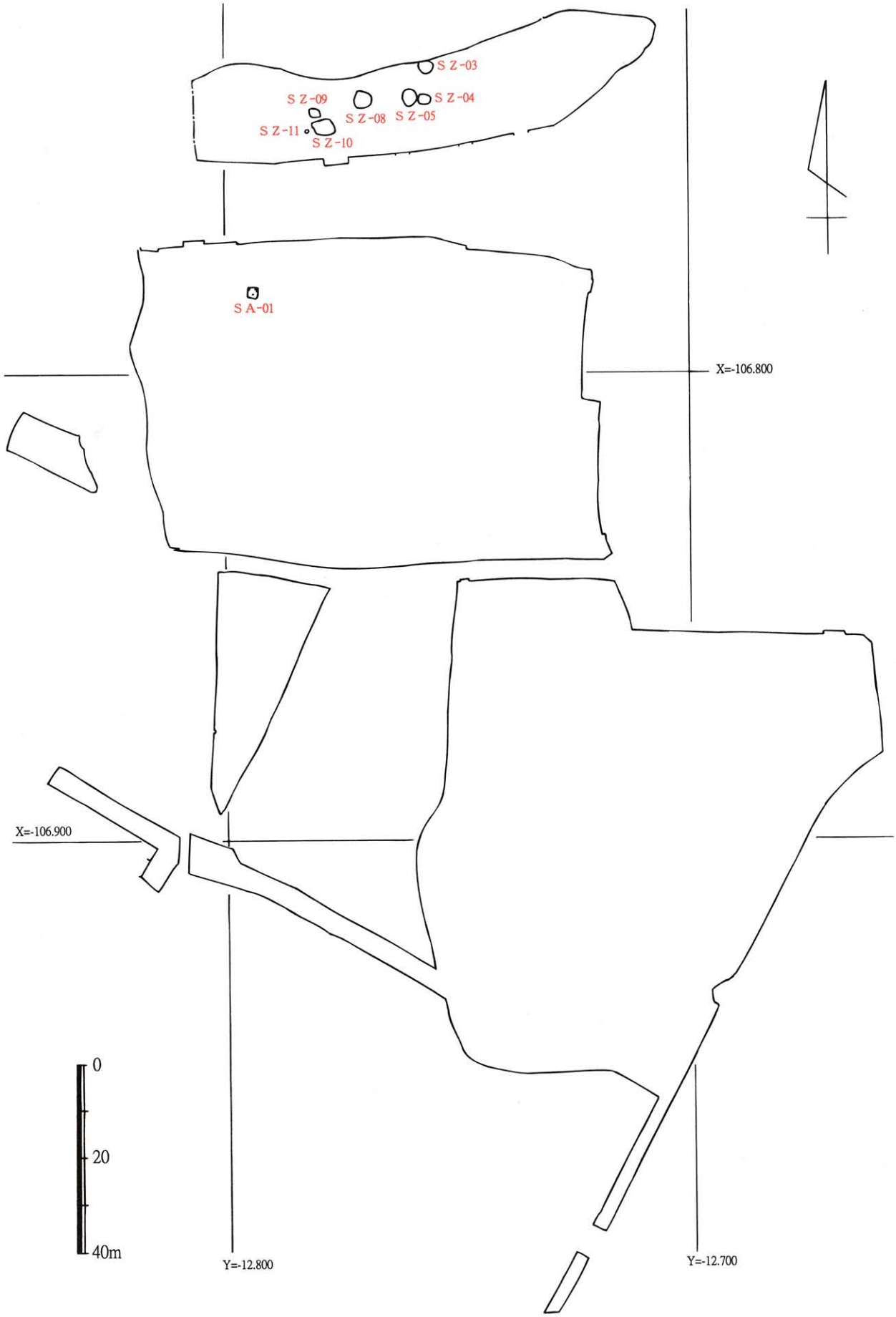
Ⅷ区の遺構に限られるが、主軸方位を北西もしくは北東にとる建物（01・02・10・11号）と円形土坑群がある。これらは15号建物廃絶後および14号溝埋没後の集落であり、近接的位置から２小期に細分されると思われる。

当該期の年代は推定困難であるが、12世紀後半頃に置きたい。

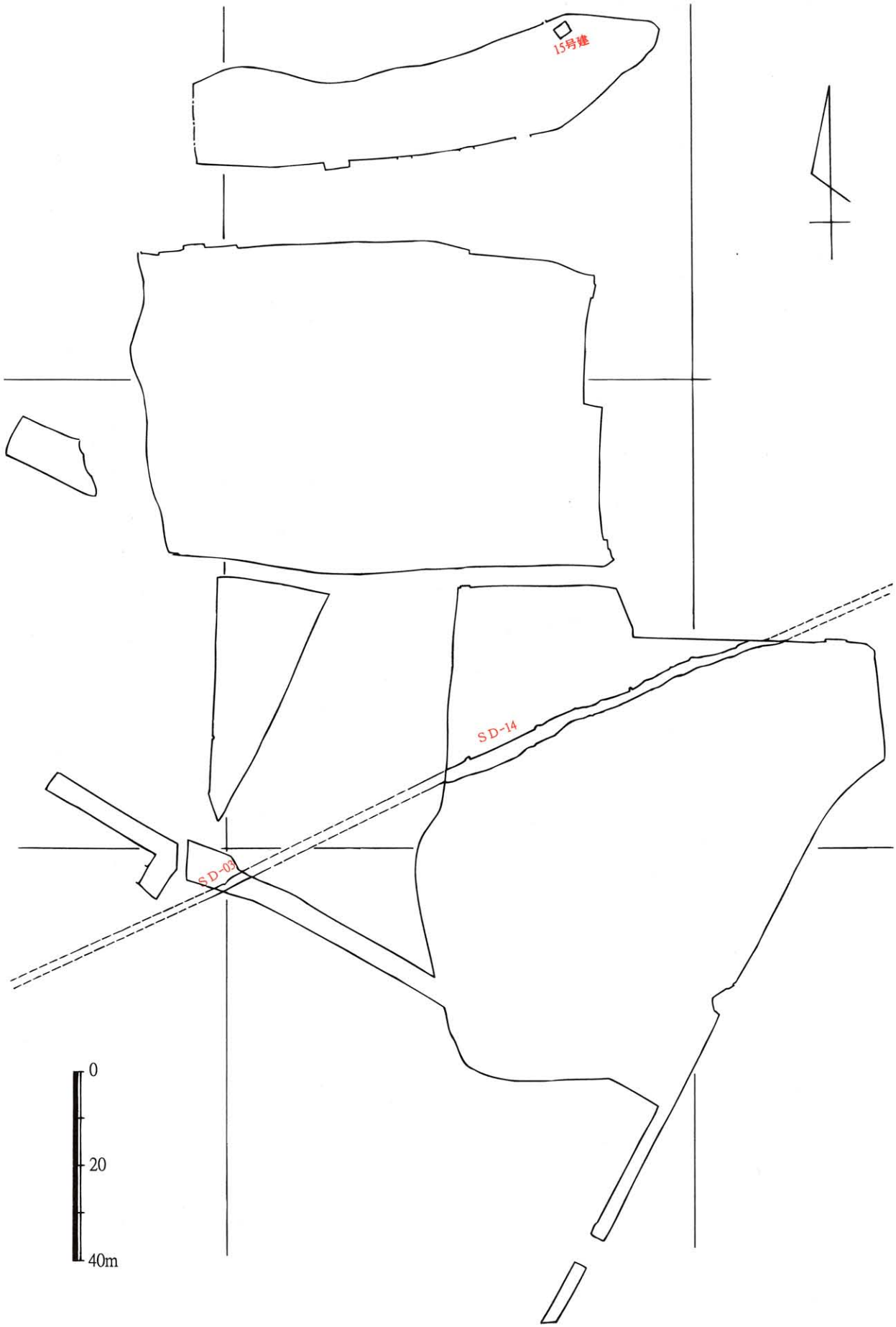
田之上城Ⅰ期（第195図）

外堀が掘削され、築城された初期の遺構であるが、区画溝の方位によって３小期（ａ・ｂ・ｃ期）に分けられ、13世紀後半～14世紀前半の時期である。

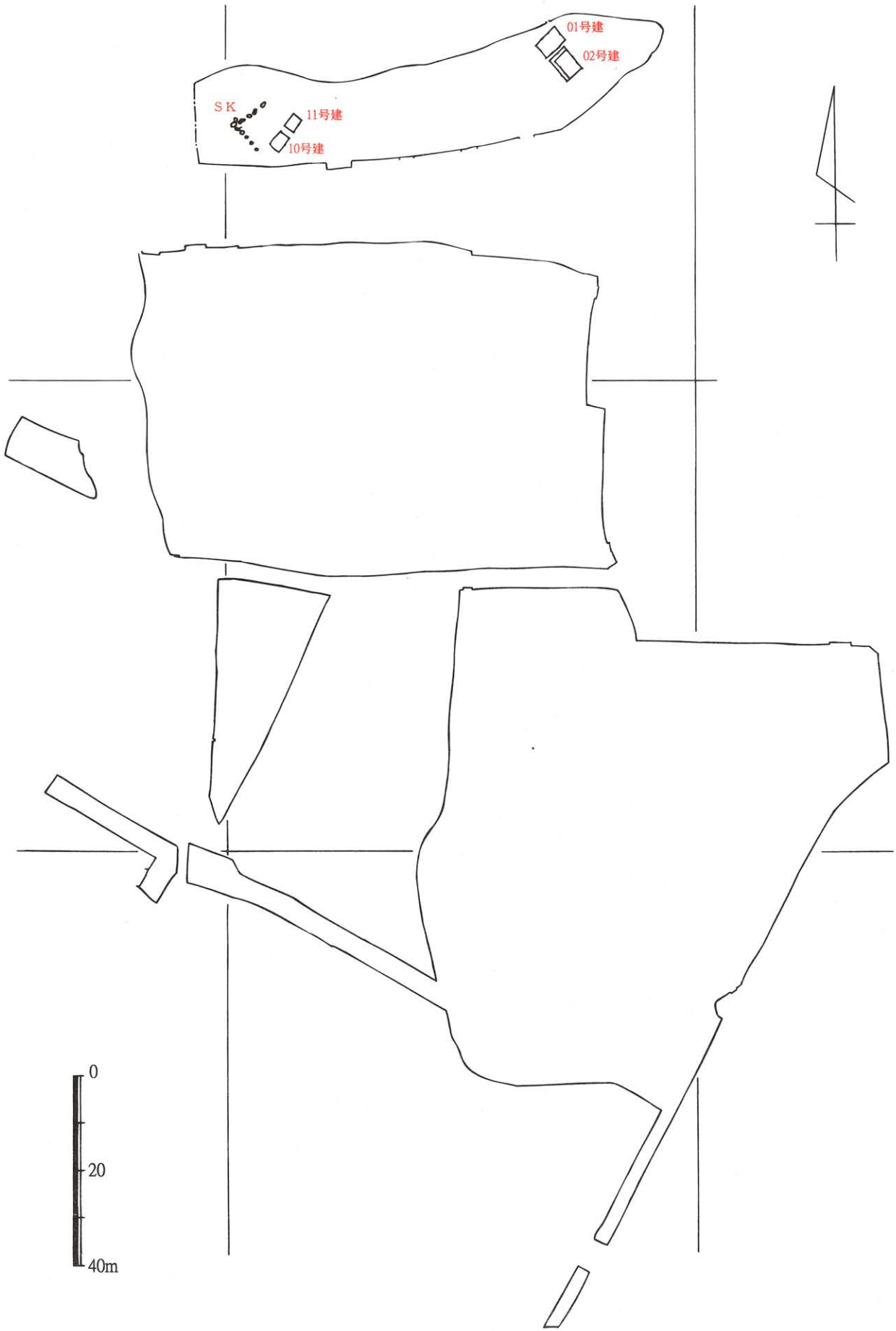
Ⅰａ期は、浅く幅の狭い区画溝のⅥ区35・53号溝で囲まれる郭内の36・53号建物および同一主軸の74・99号建物、Ⅶ区の15・23号建物およびⅧ区の03号建物がほぼ同時期と推定される。



第192図　弥生時代の遺構



第193図　古代Ⅰ期の遺構



第194図　古代Ⅱ期

Ⅰｂ期は、主軸がかなり北向きになるⅥ区の67・79・128号建物と、Ⅶ区の03号溝で囲まれる25・26号建物およびⅧ区の13号建物の時期である。

Ⅰｃ期も、浅く幅の狭い区画溝（Ⅳ区06号溝・Ⅵ区47号溝）で囲まれる郭が存在すると思われるが、主軸方位を同じくする建物は発見されない。

ａ～ｃ期の先後関係は不明であるが、建物の長軸が東西か南北かで時期差が明白である。

田之上城Ⅱ期（第196図）

Ⅰ期と同様、建物の長軸方向で、東西方向・南北方向ともに２小期（以上）に分けられる。具体的な変遷は不明確であるが、当該期に布掘り建物が出現する。08・65号は類似した構築であり、09・60号は全く異なる構築であるが区画溝で計画的に配置されたと思われる。東西方向の建物は、31・35号建物と41・42号建物の重複によって２小期に分けられると推定される。

Ⅵ区の南北方向の建物は中央北側に２棟存在するのみで、Ⅶ区西群に集中する。

Ⅵ区については、初期は57・27・49・21号溝で区画した郭内を32号溝および09号建物を囲む溝（内郭）が存在し、68・08・60号建物など主要建物が配置される。14世紀後半～15世紀前半と推定する。

田之上城Ⅲ期（第197図）

主要区画溝（Ⅴ区07号・Ⅵ区63・16・57・48号溝）と建物の主軸方位が東西・南北に移る時期で布掘り建物（06・10号）とⅦ区の12号建物以外は全て南北方向の建物である。16・63・57・48号溝で囲まれる郭内には様々なタイプの建物が立ち、建物の重複によって２小期（以上）に分けられる。

当該期は15世紀後半～16世紀前半と推定され、城主の館的建物が10号建物である。その萌芽は、Ⅱ期の09号布掘建物にある。Ⅵ区とⅦ区の間には運搬用道路も構築され、発展期を思わせる遺構である。10号建物の土間に使用された白色系粘土の混じる遺構（鉄鍋と銭貨が出土した78号土坑など）も当該期の遺構である。

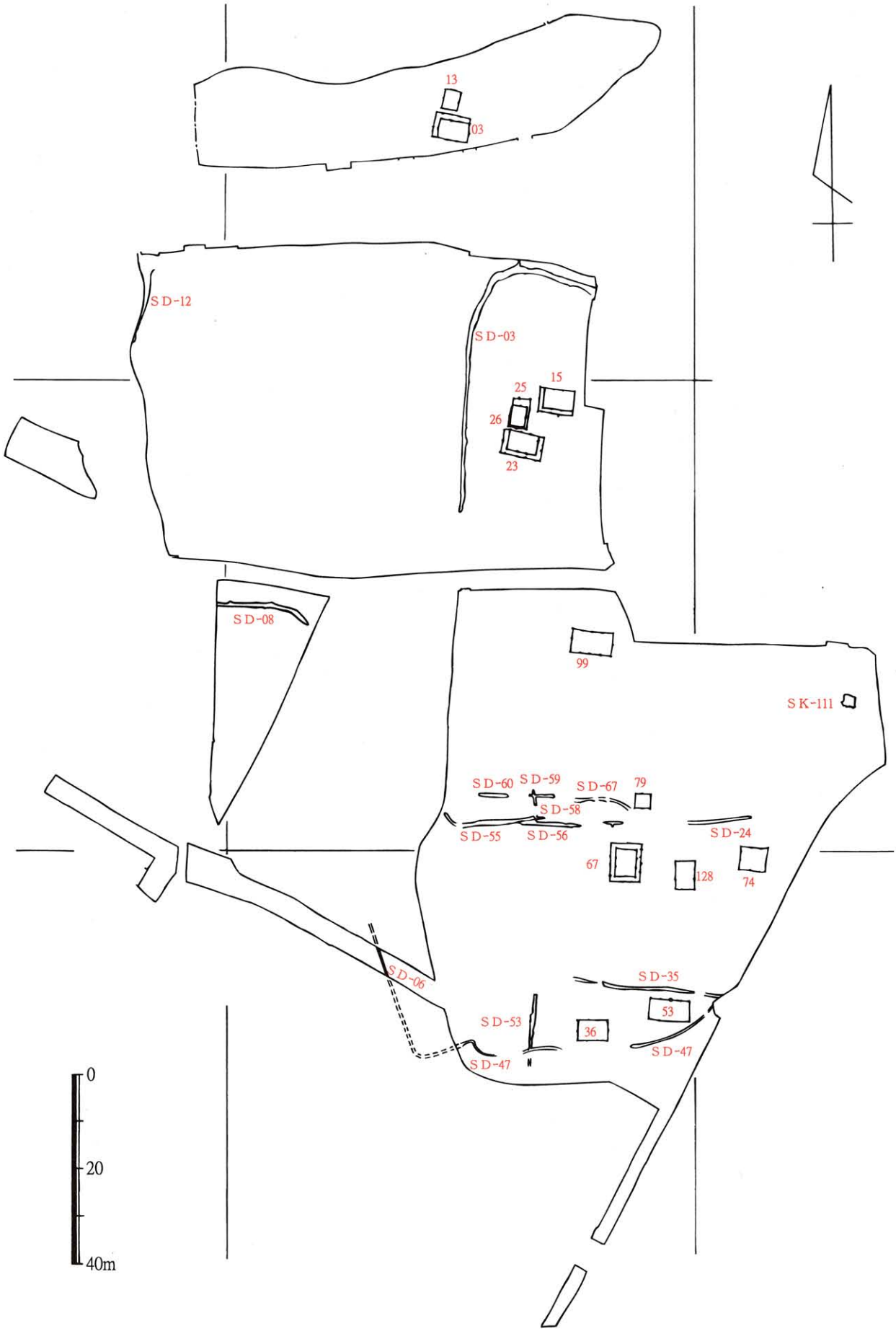
外堀は殆ど埋没しているが、Ⅴ・Ⅶ区の西限としては機能させていたと推定される。

田之上城Ⅳ期（第198図）

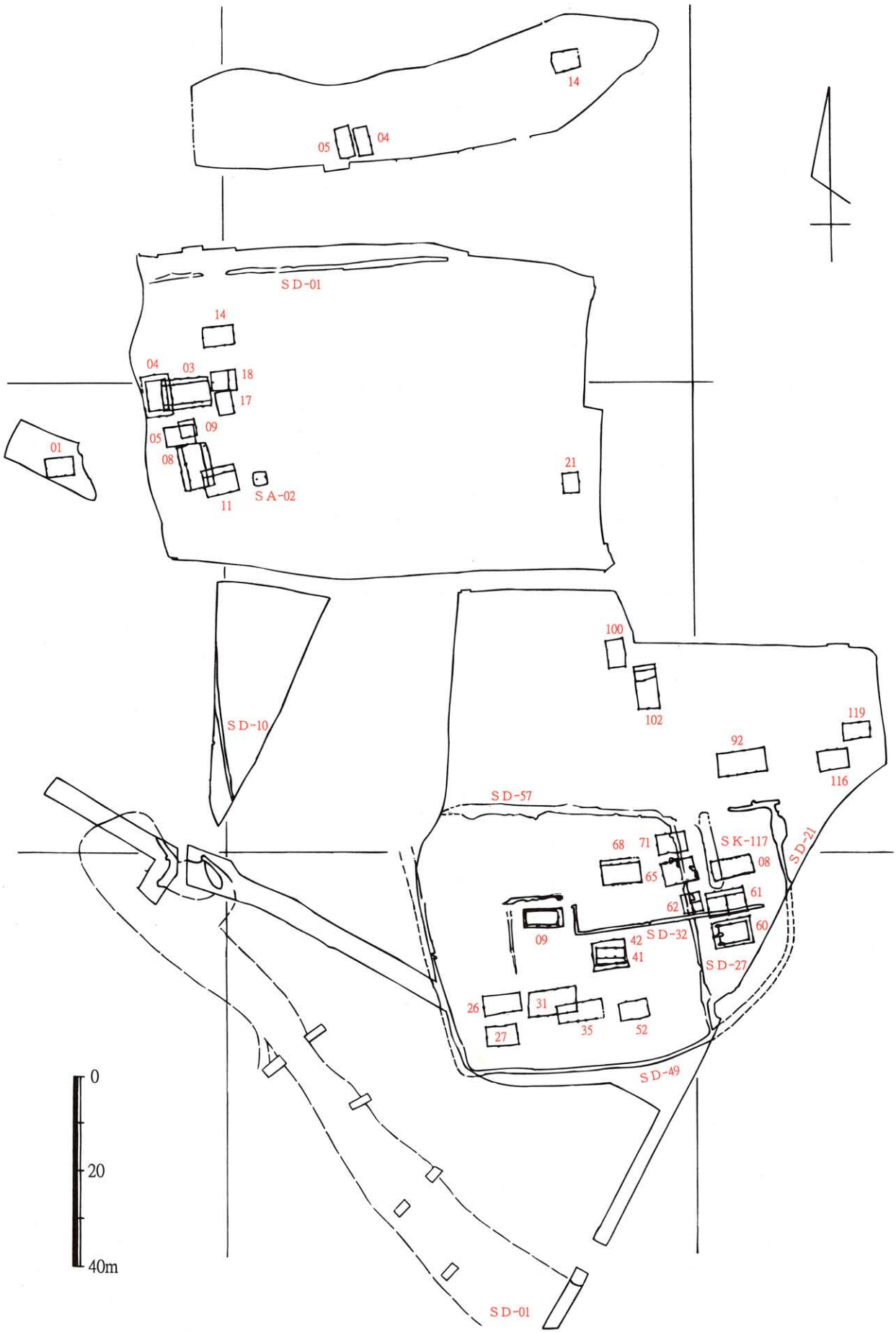
建物の主軸方位はⅢ期と殆ど変化なく東西・南北に近い。50・62号溝のように幅広く若干深めの区画溝で中枢部を囲んだり、64号溝のような空堀を掘削して防御体制を強化し、大型建物を増大させた時期である。主体は16世紀後半であるが、主軸方位が南北の時期、東西の時期２期以上があると推定される。

Ⅳ～Ⅴ期の建物は密集し、未確認の建物も多数存在しており、仮に全て網羅復元できた状況を推察すると、４～５小期に分けられるであろう。

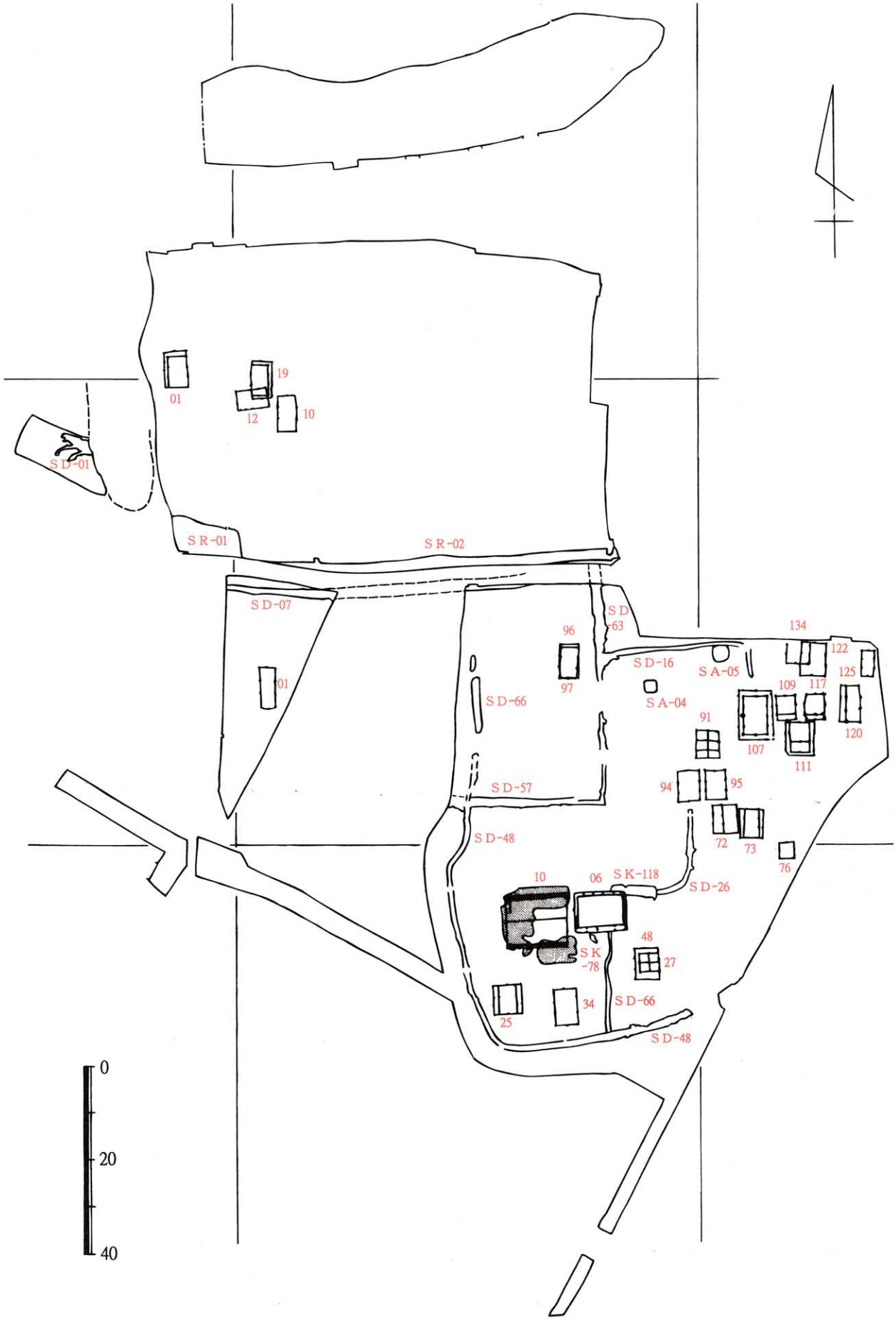
建物としては最大規模を誇った10号布掘建物も２～３回建て替えられ、小規模化する。05号建物は布掘りの工法を簡略化しているものの、掘方の大きな、直径20㎝前後の柱を使用した大型建物である。



第195図　田之上城Ⅰ期

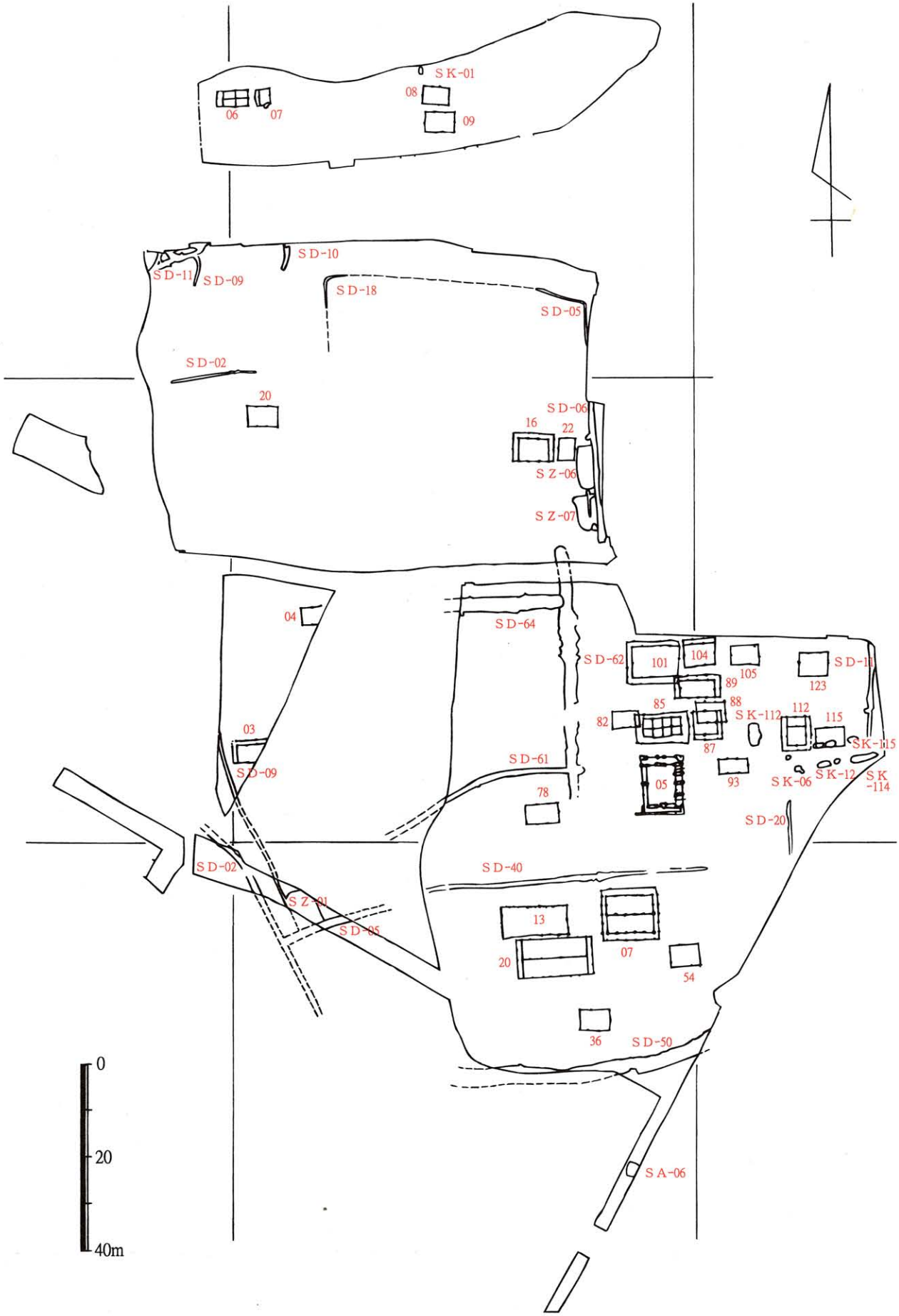


第196図　田之上城Ⅱ期

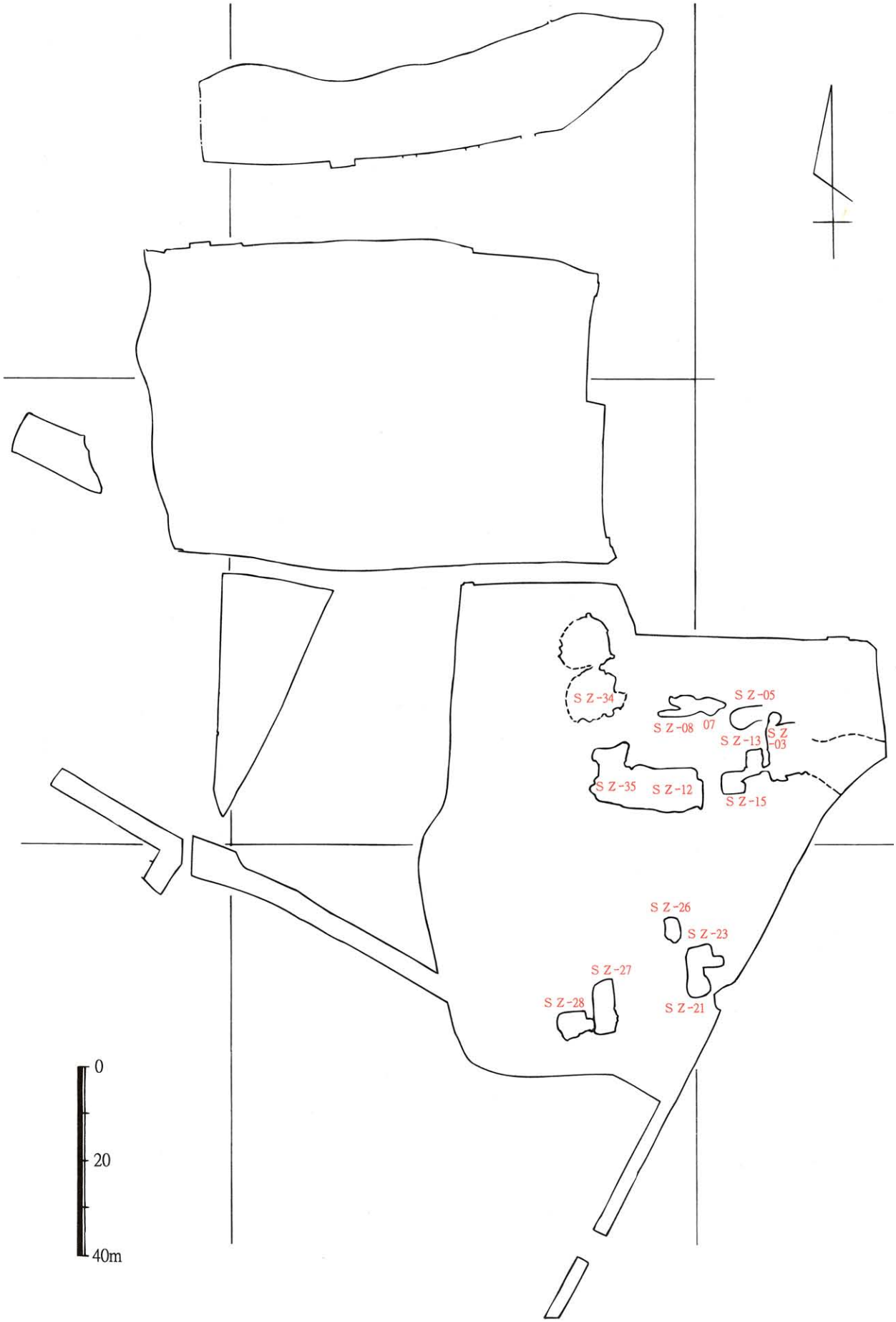


第197図　田之上城Ⅲ期

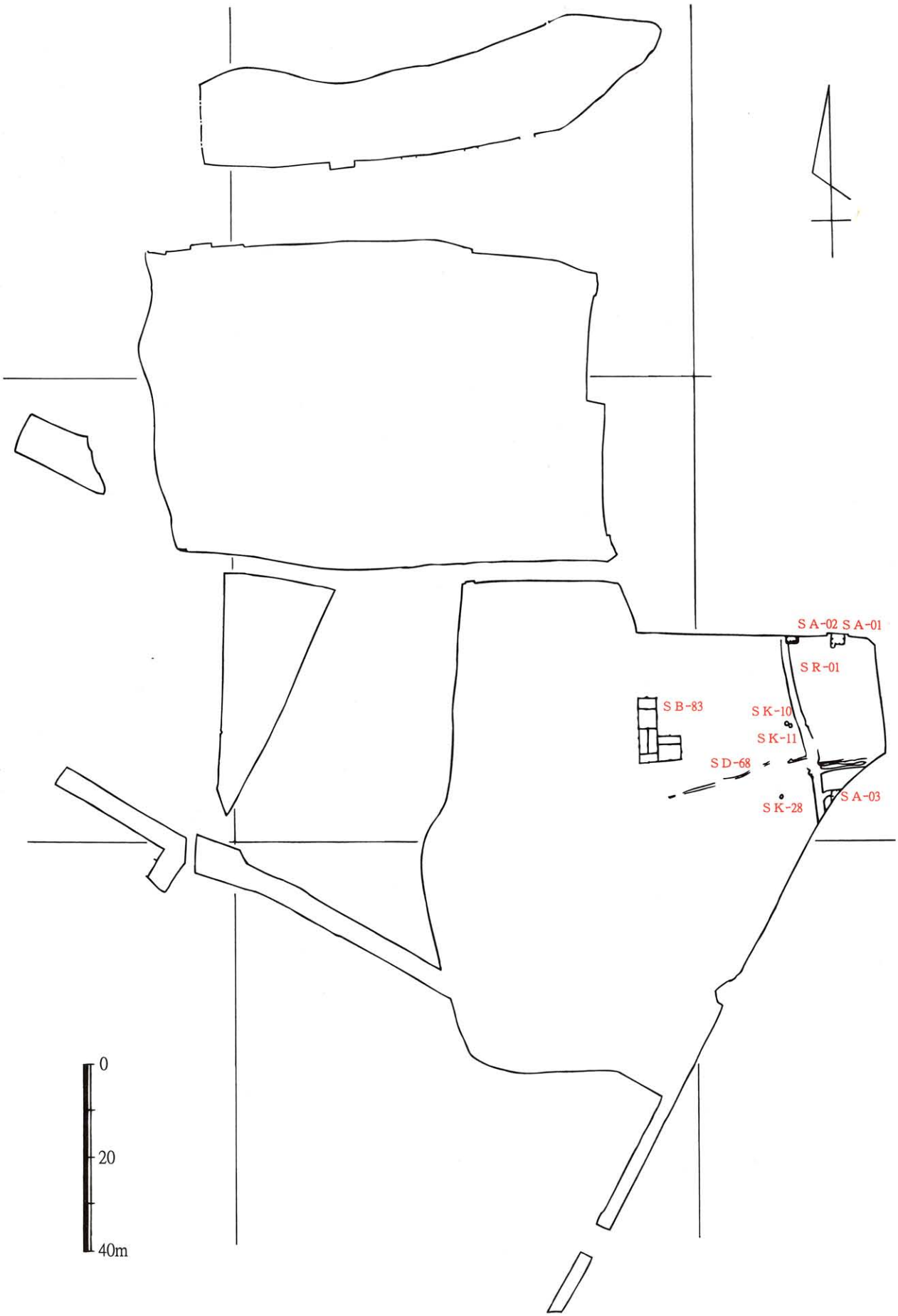
アミ目は白色粘土混じり土の範囲



第198図　田之上城Ⅳ期



第199図　田之上城跡Ⅴ期（城破り）



第200図　近世

田之上城跡Ⅴ期（第199図）

Ⅵ区の大型建物集中部や区画溝上において、長さ５～23ｍ前後の、不整形な掘り込みが10ヶ所余確認された。覆土には中世末～近世初頭の陶磁器類を含み、生活遺構とは考えられない掘り込みである。

元和元年（1615）、一国一城令が施行され、市内で機能していた山城は全て取り壊される。当該山城も例外ではなく、瞬時に廃城になったであろう。その痕跡こそが当該期の土坑群で、いわゆる”城破り”の遺構と推定される。

Ⅳ期の主要遺構であった空堀（64号溝）や50号溝、さらにはⅥ区以外の郭には大規模な撹乱が無く自然堆積で埋没している。

近世（後Ⅰ期）（第200図）

廃城後間もなくⅥ区東部に01号道路が敷かれ、側溝と直交する溝状遺構（68号溝など）も掘削される。17世紀後半には建物（83号など）も立ち始め、若干の土壙墓（10・11号墓）もみうけられる。

近世中頃～後半には竪穴状遺構（ＳＡ-01～03）が構築され、鍛冶職人の仮住居もしくは産小屋としての空間と推定される。竪穴状遺構は、市内では共通して出土遺物が殆ど無く、使用後に放火している例が多いことから、特殊な機能を推定しなければならない。

28号土坑（墓か）は19世紀代であり、幕末以降に耕地化されると推定される。

註

(1) えびの市教育委員会『田代地区遺跡群・妙見原遺跡』 1997

(2) えびの市教育委員会『長江浦地区遺跡群』 2002

表9　V区掘立柱建物跡　一覧表

SB	梁	行	桁	行	面積 (m²)	廂	廂を含む面積(m²)	主軸方位	備考
	間	長さ(m)	間	長さ(m)					
01	2	3.15～3.50	3	8.18～8.28	28.0	—	—	N1°E	布掘り
02	2	3.28～3.35	2	3.58～3.62	11.0	—	—	N88°E	
03	2	3.50	3	7.24	25.3	北～西面	32.8	N86°E	
04	1	3.64	(2)	—	—	—	—	N86°E	

表10　Ⅵ区掘立柱建物跡　一覧表（1）

SB	梁	行	桁	行	面積 (m²)	廂	廂を含む面積(m²)	主軸方位	備考
	間	長さ(m)	間	長さ(m)					
05	3	5.75～6.03	4	8.62～8.72	51.0	4面	100.5	N2°W	
06	3?	6.80～6.90	5	9.70	66.4	南面	73.1	N87°E	布掘り
07	4	7.77～7.87	5	9.90	77.4	4面	126.9	N87°E	
08	2	3.78～4.0	3	8.26～8.34	32.3	—	—	N79°E	布掘り
09	1	3.40～3.60	3	7.04～7.54	25.5	—	—	N89°E	布掘り
10	4	9.35～9.53	5	13.14	124.0	北・南面	146.5	N86°E	布掘り
11	3	5.82～5.95	4	8.26～8.53	49.1	—	—	N85°E	
12	3	5.68～6.0	6	12.80～13.0	76.8	南面	92.2	N86°E	
13	4	6.30～6.36	7	14.22～14.28	90.2	—	—	N85°E	布掘り
14	2	3.70～3.82	3	6.55～6.64	24.8	—	—	N81°E	
15	3	6.48～6.66	3	7.48～7.95	50.6	—	—	N82°E	
16	1	3.20～3.35	3	5.54～5.83	18.6	—	—	N86°E	
17	2	4.86～5.10	4	7.90～8.32	40.4	西・東面	56.3	N3°W	
18	2	3.92～3.95	3	5.90	23.2	—	—	N84°E	
19	2	4.82～4.90	4	8.60～8.74	41.8	南面	52.3	N89°E	
20	4	7.90～7.94	7	13.90～14.04	110.6	西・東面	128.4	E	
21	2	4.84～4.90	2	4.82～4.94	23.8	—	—	N3°W	
22	2	3.64～3.99	3	5.93～6.0	24.0	—	—	N86°E	
23	2	4.26～4.45	2	4.54～4.84	21.0	—	—	N	
24	1	4.38～4.55	3	6.40～6.52	28.8	—	—	N2°W	
25	2	3.96～4.05	3	5.90～6.02	23.8	西・東面	36.2	N1°W	
26	2	3.63～4.22	4	8.20	32.2	—	—	N6°W	
27	2	4.0	3	6.50	26.0	—	—	N85°E	
28	2	4.40～4.62	3	6.06～6.27	27.8	—	—	N85°E	
29	2	4.16～4.40	4	7.64～8.0	33.5	—	—	N83°E	
30	2	4.65～5.0	3	6.42～6.64	31.5	南面	38.2	N86°E	
31	2	4.94	5	10.37	51.2	—	—	N84°E	
32	1	1.42～1.63	2	3.90～4.35	6.3	—	—	N86°E	
33	2	4.38～4.69	2	4.69～4.80	21.5	—	—	N85°E	
34	2	4.86～4.90	3	7.25	35.4	—	—	N3°W	
35	1	3.64～3.90	5	9.02～9.20	34.3	—	—	N81°E	
36	2	4.08～4.36	3	6.35～6.44	27.0	—	—	N89°E	
37	2	4.67～5.42	4	8.17～8.34	43.4	—	—	N86°E	
38	2	3.30～3.60	3	5.60～6.44	20.8	—	—	N4°W	
39	2	4.40～4.66	3	7.34～7.36	33.3	—	—	N1°E	
40	2	4.47～4.61	3	6.45～6.70	30.1	—	—	N4°W	
41	1	2.10～2.14	3	5.94～6.02	12.7	南面	19.6	N89°E	
42	2	4.80	3	6.84～6.94	33.1	南面	40.0	N82°E	
43	2	5.0～5.08	4	7.82～7.90	39.6	—	—	N81°E	
44	2	3.82～4.0	2	4.45～4.47	17.4	—	—	N5°W	
45	2	4.88～4.95	2	5.90	29.0	—	—	N87°E	
46	2	4.24～4.47	2	4.32～4.52	19.2	—	—	N3°W	
47	2	4.65～4.86	2	4.68～4.96	22.9	—	—	N9°W	

表11　Ⅵ区掘立柱建物跡　一覧表（2）

SB	梁行		桁行		面積(m²)	廂	廂を含む面積(m²)	主軸方位	備考
	間	長さ(m)	間	長さ(m)					
48	2	4.98～5.17	3	6.50～6.60	33.3	—	—	N	
49	2	4.28～4.40	3	6.42～6.48	28.0	—	—	N4°W	
50	2	3.96～4.0	3	5.88～5.98	23.2	4面	51.7	N86°E	
51	2	3.80～4.0	3	6.60～6.70	25.9	東面	33.0	N5°W	
52	2	3.54～3.66	3	5.88～6.12	21.6	—	—	N79°E	
53	1	4.20～4.28	4	8.32～8.50	35.7	—	—	N86°W	
54	1	4.56～4.67	3	6.16～6.28	28.7	—	—	N86°E	
55	1	3.10～3.14	3	5.60～5.63	17.5	—	—	N9°W	
56	2	3.38～3.50	3	5.90～6.16	20.7	—	—	N77°E	
57	2	4.02	2	4.0～4.10	16.3	—	—	N80°E	
58	2	2.98～3.40	2	4.96～5.01	15.9	—	—	N80°E	
59	2	4.65～4.76	3	6.0～6.06	22.1	—	—	N13°W	
60	2	3.85～3.95	2	5.82～6.0	23.0	4面	38.2	N80°E	布掘り
61	2	3.92～3.98	4	7.90～7.98	31.4	北面	40.5	N78°E	
62	2	3.90～3.95	2	3.97～4.0	15.6	—	—	N11°W	
63	1	3.77～3.98	3	6.15～6.19	23.9	—	—	N86°E	
64	2	4.30～4.36	3	5.92～6.10	26.0	—	—	N1°W	
65	2	4.72～4.80	3	6.72～6.85	32.3	—	—	N79°E	布掘り
66	2	3.72～3.90	2	4.68～4.75	17.9	—	—	N87°W	
67	2	4.32	3	5.85～5.90	25.4	4面	46.1	N3°E	
68	2	4.32	4	8.16～8.27	35.5	北面	44.5	N84°E	
69	2	5.35	3	6.53～6.63	35.2	—	—	N88°W	
70	2	3.60～3.78	2	4.38～4.42	16.2	—	—	N88°W	
71	2	4.0	3	6.0	24.0	—	—	N83°E	
72	1	3.0～3.05	3	5.92～6.12	18.2	西面	16.9	N2°W	
73	1	2.79～3.34	3	5.96～6.02	18.3	西・東面	28.9	N	
74	2	3.82～4.02	2	4.25～4.34	16.8	北～東面	25.9	N86°W	
75	1	4.04～4.14	3	6.60～6.80	27.4	—	—	E	
76	2	3.10～3.20	2	3.26	10.3	—	—	N1°W	
77	2	3.90	3	5.32～5.38	20.9	南面	23.9	N10°W	
78	2	4.0～4.10	3	7.03～7.18	28.8	—	—	N87°E	
79	1	3.14～3.28	2	3.20～3.30	10.4	—	—	N2°E	
80	2	4.60～5.18	3	6.53～6.90	32.8	—	—	N88°E	
81	2	3.82～3.96	3	6.27～6.45	24.7	—	—	N89°E	
82	1	3.15～3.64	3	5.98～6.20	20.7	—	—	N88°E	
83	2	3.94～4.0	6	11.70～11.84	46.7	南＋2×2間	73.6	N1°W	
84	2	4.90～4.96	3	6.0	29.6	北～東面	43.7	N88°E	
85	2	3.86～4.0	4	7.84～7.90	30.9	4面	64.9	N88°E	総柱
86	2	4.75～4.82	4	7.90	37.8	西・東面	54.9	N1°W	
87	2	4.86	2	4.90	23.8	東～南面	35.2	N	
88	2	4.32～4.40	3	6.0～6.18	26.7	—	—	E	
89	2	3.44～3.90	4	7.33～7.58	27.3	西～北～東面	44.2	E	
90	2	3.82～3.85	2	4.90	18.8	西面	23.0	N89°W	
91	2	4.54～4.68	3	6.42～6.52	29.8	—	—	N89°E	総柱
92	2	4.90～4.96	5	9.80～10.12	49.1	—	—	N79°E	
93	2	3.04	3	6.10～6.17	18.6	—	—	E	
94	2	4.28～4.40	3	6.22～6.27	27.1	—	—	N3°W	
95	2	4.24～4.30	3	6.20～6.40	26.9	—	—	N3°W	
96	1	3.58～3.76	3	6.80～7.20	25.7	—	—	N1°W	
97	1	3.48	3	6.40～6.52	22.5	—	—	N1°W	
98	2	4.90	3	6.56	32.1	—	—	N	
99	2	4.65～4.90	4	8.58～8.61	41.4	—	35.2	N84°W	

表12　Ⅵ区掘立柱建物跡　一覧表（3）

SB	梁行		桁行		面積 (m²)	廂	廂を含む面積(m²)	主軸方位	備考
	間	長さ(m)	間	長さ(m)					
100	1	3.62	3	5.84～5.92	21.3	—	—	N6°W	
101	2	6.18～6.37	5	9.84～10.08	62.5	北～西～南面	96.7	E	
102	2	3.97～4.04	4	7.78～7.90	31.4	北面	35.2	N6°W	総柱か
103	2	3.94～3.98	2	4.16～4.50	17.1	—	—	N84°E	総柱
104	2	4.62	3	6.73	31.1	北面	36.4	N86°E	
105	2	4.10～4.40	3	5.50～5.94	24.3	—	—	N89°E	
106	2	3.86～3.92	3	5.78～5.92	22.8	北～西～南面	34.9	N2°W	
107	2	4.84～4.98	4	7.82～7.99	39.0	4面	70.1	N	
108	2	4.60～4.94	4	8.0	38.2	—	—	N85°E	
109	2	3.90～3.96	2	3.90	15.3	南面	20.1	N1°E	
110	2	3.92～4.25	3	5.80～6.03	24.2	北面	30.0	E	
111	2	3.90	3	6.16～6.28	24.3	西～南～東面	39.7	N	
112	2	3.90～4.02	3	5.90～5.98	23.5	西～南～東面	41.9	N	
113	2	3.54～3.88	2	3.76～3.86	14.1	—	—	N	
114	2	3.96～4.0	2	4.13～4.48	17.1	—	—	N	
115	2	3.98	3	5.98	23.8	—	—	N87°E	
116	2	4.0～4.20	3	6.10～6.20	25.2	—	—	N88°E	
117	2	3.64～3.84	2	4.0～4.14	15.2	南面	19.8	N	
118	2	3.74	2	4.08	15.2	—	—	N89°E	
119	2	3.58	3	5.72	20.5	—	—	N84°E	
120	1	2.68～3.10	3	7.46～7.65	21.4	西面	29.4	N3°E	
121	2	4.15～4.32	3	6.18～6.62	27.1	—	—	N86°W	
122	2	5.0～5.12	3	7.0～7.12	35.7	—	—	N5°E	
123	2	4.90～4.98	3	5.90～6.08	—	—	—	N80°W	
124	1	1.90～2.28	4	7.82～794	—	北面	26.7	N88°W	
125	1	2.50～2.70	3	5.50	—	—	—	N3°E	
126	2	4.05～4.16	2	4.86～5.05	—	—	—	N89°E	
127	2	3.88～3.90	2	4.20～4.24	16.4	—	—	N82°W	総柱
128	1	4.12～4.52	3	6.0～6.14	26.2	—	—	N1°W	
129	2	4.86～5.46	3	6.70～6.76	31.4	東～南面	52.8	N3°W	布掘り
130	1	3.22～3.38	3	5.34～5.68	17.9	—	—	N2°W	
131	1	4.16～4.20	3	6.06	25.3	—	—	N86°E	
132	2	3.80～3.93	2	3.80～3.98	15.0	—	—	N89°E	
133	1	4.58～4.96	4	7.64～8.02	37.3	—	—	N77°E	
134	2	4.82	2以上	4.10以上	20.2以上	—	—	N	

表13　Ⅶ区掘立柱建物跡　一覧表（1）

SB	梁行		桁行		面積 (m²)	廂	廂を含む面積(m²)	主軸方位	備考
	間	長さ(m)	間	長さ(m)					
01	1	4.02～4.05	3	6.40～6.44	25.4	北～西面	36.0	N2°W	
02	2	4.0～4.28	2	4.16～4.44	17.8	—	—	N4°W	
03	2	4.0～4.04	5	9.95～10.20	40.5	北・南面	60.5	N84°E	
04	2	4.05～4.12	3	6.17～6.21	25.3	4面	49.9	N8°W	
05	1	3.80～3.91	3	6.08～6.33	23.9	—	—	N81°E	
06	2	3.90～4.10	3	6.34～6.45	25.6	東面	29.4	N82°E	
07	1	3.78～3.84	3	6.16～6.20	23.5	北面	28.1	N10°W	
08	2	3.80～3.90	5	9.12～9.20	35.3	西・東面	54.0	N11°W	
09	2	3.33～3.35	2	3.48～3.55	11.7	—	—	N12°W	
10	2	3.82～4.0	3	7.39～7.48	30.1	—	—	N	
11	2	3.94～4.04	3	6.78～6.91	27.3	北面	36.9	N78°E	
12	1	3.88～4.06	4	6.55～6.73	26.4	—	—	N83°E	

表14　Ⅶ区掘立柱建物跡　一覧表（2）

SB	梁	行	桁	行	面積(m²)	廂	廂を含む面積(m²)	主軸方位	備考
	間	長さ(m)	間	長さ(m)					
13	2	3.85～3.97	3	5.78～5.88	22.8	—	—	N7°W	
14	2	3.97～4.0	3	6.38～6.42	25.5	—	—	N83°E	
15	1	4.11～4.32	3	6.40～6.54	27.2	西～南面	37.7	N85°W	
16	1	4.76～4.84	3	6.75	32.4	西～北～東面	51.2	N87°W	
17	1	3.24～3.34	3	4.80～4.84	15.9	—	—	N9°W	
18	1	2.90～3.60	2	3.82～4.10	12.7	東面	19.6	N2°W	
19	2	3.50～3.60	3	6.40～6.44	22.8	北～東～南面	33.7	N2°W	
20	1	4.14～4.45	3	6.44～6.66	28.2	—	—	N87°W	
21	2	3.38～3.45	2	3.98	13.6	—	—	N3°W	
22	2	3.50	2	4.60～4.70	16.3	—	—	N5°E	
23	1	4.16～4.22	3	6.53	27.4	西～南～東面	45.5	N77°W	
24	2	3.80～3.93	3	6.12～6.17	23.7	北面	29.0	N78°W	
25	2	3.76	3	6.0～6.22	23.0	—	—	N11°E	
26	2	3.18～3.22	2	4.33～4.46	14.0	—	—	N9°E	
27	1	2.22	1	2.30～2.38	5.2	—	—	N8°W	
28	2	3.90	—	—	—	—	—	—	

表15　Ⅷ区掘立柱建物跡　一覧表

SB	梁	行	桁	行	面積(m²)	廂	廂を含む面積(m²)	主軸方位	備考
	間	長さ(m)	間	長さ(m)					
01	2	3.48	3	5.50～5.60	19.3	—	—	N48°E	
02	1	3.44～3.48	3	4.82～5.04	17.1	北～西面	23.9	N43°W	
03	2	4.0～4.03	3	6.44～6.66	28.3	北～西面	39.7	N79°W	
04	1	3.10～3.13	3	5.70～6.05	18.2	—	—	N13°W	
05	2	3.27～3.35	3	6.20～6.42	20.9	—	—	N13°W	
06	2	3.13～3.38	2	5.20～5.30	17.1	西面	22.3	N88°E	総柱
07	1	2.26～2.30	2	3.33～3.35	7.6	西面	10.3	N2°W	
08	2	3.60	3	5.80	20.9	—	—	N85°W	
09	2	4.30～4.40	3	6.40～6.58	28.2	—	—	E	
10	2	2.40～2.60	2	3.55～3.70	9.1	—	—	N38°E	
11	1	2.24～2.56	2	3.08～3.20	7.5	—	—	N38°E	
12	2	3.26～3.83	3	5.16～5.60	19.1	—	—	N7°E	
13	2	3.40～3.68	2	4.55～4.58	16.2	—	—	N8°E	
14	2	3.88～4.29	3	5.36～5.6	22.4	—	—	N77°E	
15	2	2.34～2.42	2	2.76～3.20	7.1	—	—	N56°E	
16	2	3.44	2	3.96	13.6	—	—	N13°E	
17	2	4.58	3か	—	—	—	—	N40°W	

表16　Ⅸ区掘立柱建物跡　一覧表

SB	梁	行	桁	行	面積(m²)	廂	廂を含む面積(m²)	主軸方位	備考
	間	長さ(m)	間	長さ(m)					
01	2	3.86	3	5.40	20.8	—	—	N84°E	

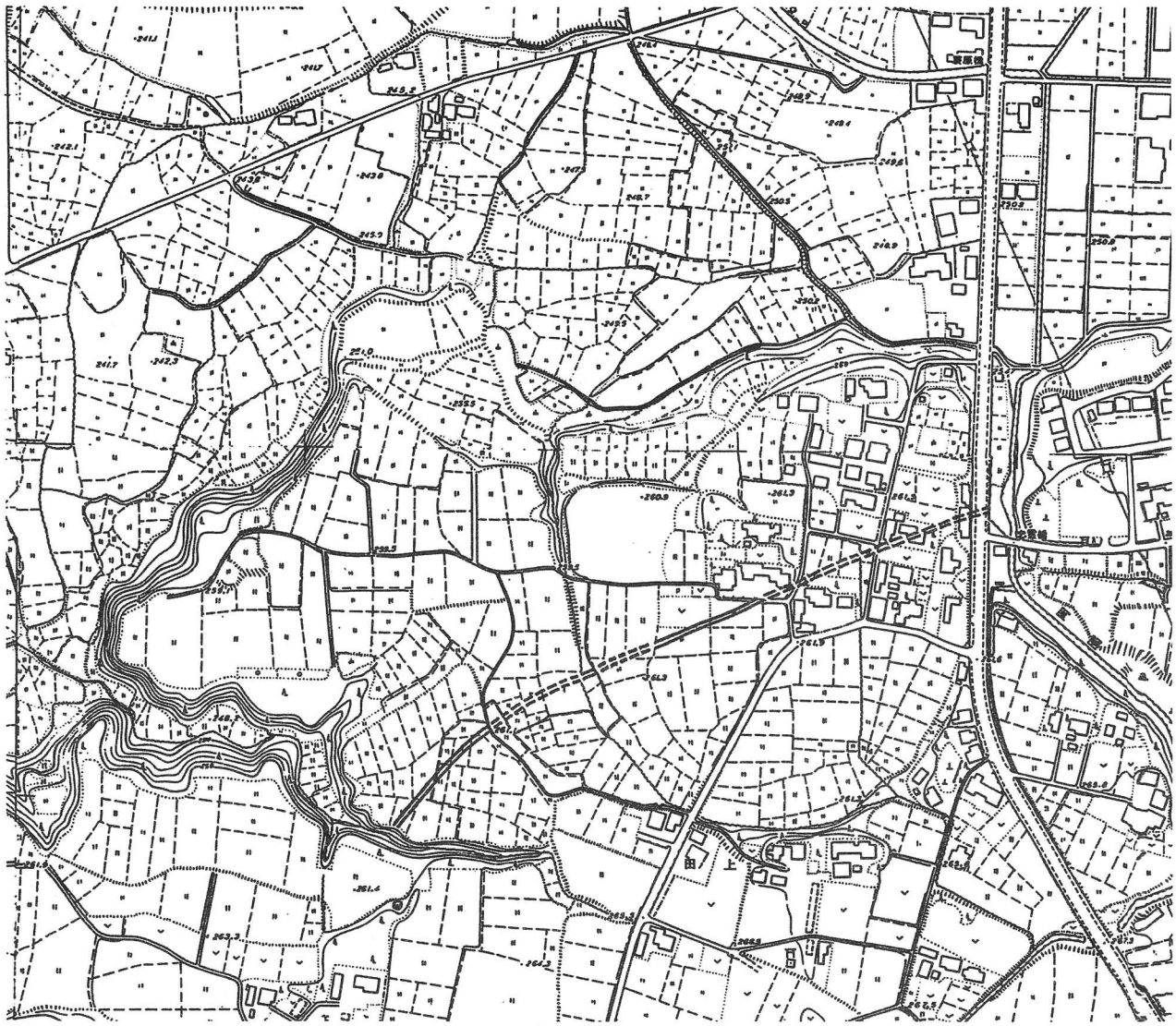
第５章　総括

小岡丸地区遺跡群の出土遺物は縄文時代前期の轟式土器１点に始まり、間断はあるものの、中世に繁栄し、現代まで連綿と続いていることがわかる。

弥生時代中期、極短期間、集落が営まれたが、その後、９世紀に至るまで不毛の地であった。

９世紀中頃、幅２～３ｍの道路状遺構が掘削され（第201図）、総延長は500ｍ以上と推定される。両端には谷があり、橋を架ければ延長できるが、続きは定かでない。谷で挟まれた10町余の段丘縁を区画したものか、東方の段丘縁辺から延びて、北田遺跡の南西部から南へ800ｍ程で官道に合流する道であったのかは、将来の調査に委ねる。

13世紀後半頃、田之上城として郭が形成され始め（Ⅰ期）、直径300ｍ前後の外堀も掘削されたようである（第202図）。氾濫原の外堀は幅25ｍ前後の広いものであるが、段丘上は幅10ｍも無い位であり、南側は１段（２～３ｍ）高くなっているために攻撃を受けやすい立地になっている。陸橋も幅が広く、防御面が劣る山城である。北西部と北東部の構造は不明瞭で、今後の課題である。

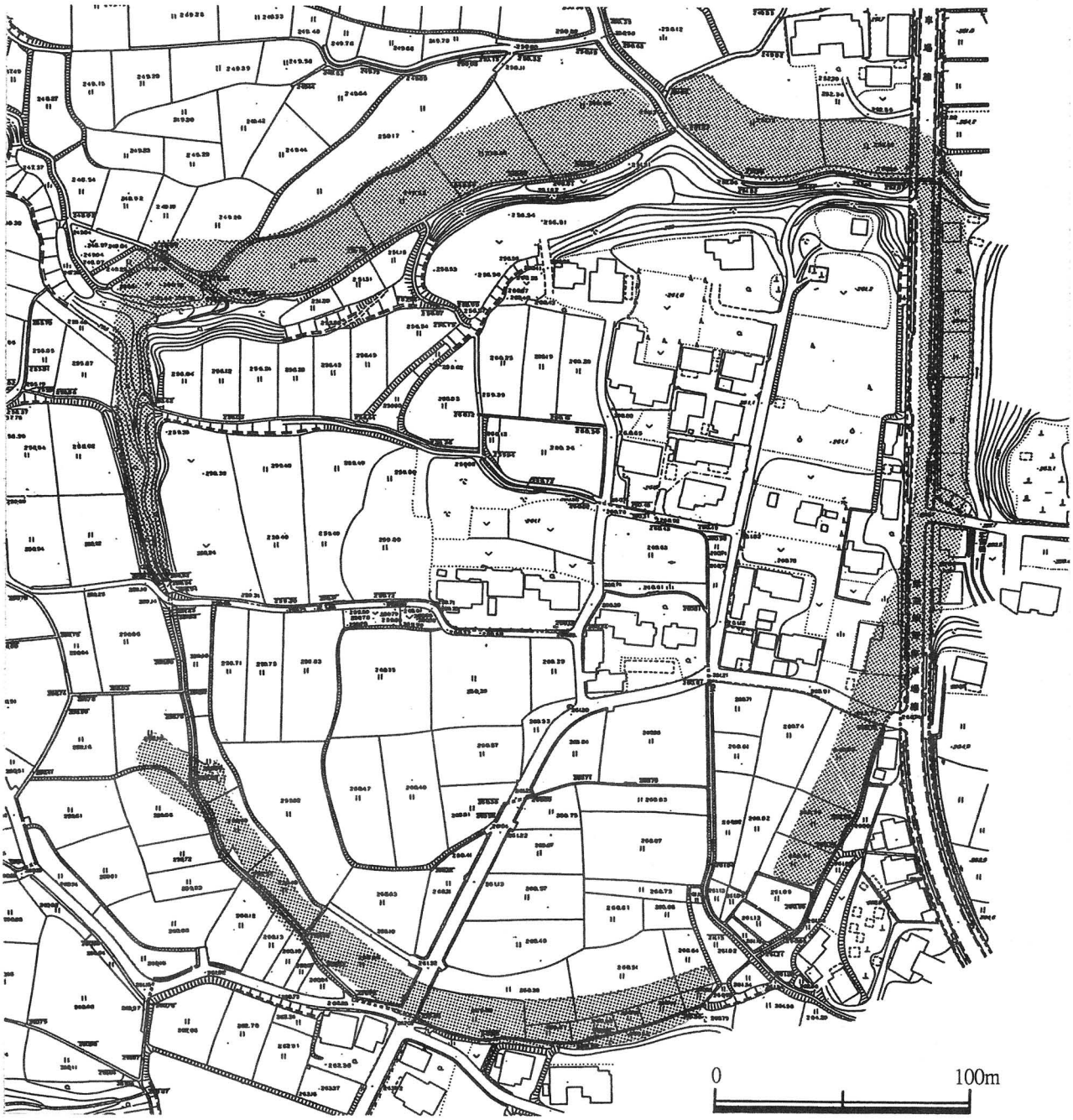


第201図　古代Ⅰ期の溝状遺構と周辺の地形

14世紀中葉、相良氏に攻略された時点では、外堀と郭・建物が若干存在した頃（Ⅱ期）であろうと推測される。また、同時期、日下部氏が滅亡し、北原氏が飯野城に入る。本市の盆地東部の重要拠点である飯野城の1.5km対岸に位置する当地が山城として再整備される。

15～16世紀代は建物が林立し、山城として最も機能した時期（Ⅲ・Ⅳ期）である。永禄７年（1564）、島津義弘が真幸院領主となり、飯野城に入った。恐らく継続して重要拠点として機能させていたと推定される。義弘は天正15年（1587）に羽柴秀長に降伏し、天正18年には飯野城から鹿児島県栗野町の松尾城へ移っている。この頃から田之上城も衰退し始め、一国一城制の時点で消滅（Ⅴ期）したと推定される。

中世の建物構築には相当の規制がみられ、田之上城内に限らず、周辺の村（北田遺跡など）にま



第202図　田之上城跡　外堀推定図

で連動している。柱穴底面は礫層に達するものも多く、根石を必要としない。反面、火山灰土は有機物を早く腐植させ、20～30年おきに建物の建て替えを余儀なくされる。Ⅵ区の10号建物に代表されるような、間柱を有する（土壁の）堅牢な布掘り建物でさえ同様である。では、なぜ礎石建物にしなかったのか、建築時の安定性を優先したのか、南九州山間部特有なのか、定かでない。08・65号建物（布掘り）に類似する例として、鹿児島県新平田遺跡検出の１～３号建物があり、鎬蓮弁文碗を伴う13世紀代に比定されている[1]。

大型土坑の機能は推定困難であるが、Ⅵ区中央北西部に集中する109・110号土坑や91号土坑等はトイレ遺構ではないかと推定している。壁面下部～底面は砂～礫層であることから水分はどんどん吸収され、土砂で埋没するまでは使用可能である。ただ、出土遺物が殆ど無く、有機物的土壌も確認されていないので、確証は無い。

117・118号土坑は長大な土坑であり、段差以外は整形された底面であることから、屋外（屋根が無い）作業を想定するならば、馬の洗い場もしくは穀類の半地下式保存土坑など限られた用途の遺構と推定される。

近世初頭、一国一城令に伴う城破りが実施され、田之上城は廃城となる。ほどなく、道路（ＳＲ-01）が構築され、村落の再形成・再開発が徐々に行われる。

以上、根拠が希薄なまま大略的変遷を追ってみたが、大きな変更を生じることは無いと思われる。ただ、外堀の掘削年代や落城時の状態などは確定的でなく、また、Ⅵ区の建物はさらに数10棟存在することから、これらを再度、最大限復元し、時期別に変遷しないと、真の遺構変遷はできない。

註

(1) 大口市教育委員会『新平田遺跡・辻町Ｂ遺跡』　大口市埋蔵文化財調査報告書（20）1997

表17　出土遺物観察表（1）　弥生土器・土師器・土師質土器・黒色土器・須恵器・中世国産陶器

No	出土地	種類	器種	法量（mm）			調整		胎土	焼成	色調		備考
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第48図 1	B区 SD-01	土師器	坏	123	—	—	—	—	細砂微量	あまい	淡桃褐～褐	淡褐	内外面：マメツ
2	B区 SD-01	土師質土器	皿	—	73	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡黄褐	淡黄褐	糸切り
3	3 Tre SD-01	土師器	壷	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量 角閃石微量	ややあまい	淡橙褐	淡黄～淡褐	
4	4 Tre Ⅲ層	土師器	坏	143	74	44	ケズリ状	ナデ	良	ややあまい	淡黄～淡橙	淡黄褐	ヘラ切り
5	Ⅰ区 SD-01	弥生土器	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	細砂やや多い	良	茶褐～灰褐	淡褐	
6	Ⅰ区 SD-01	土師器	椀	—	—	—	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡橙黄	淡黄褐	
7	Ⅰ区 SD-01	土師質土器	坏	—	65	—	ナデ	ナデ	精良	良	茶灰～淡橙	淡灰褐	糸切り
8	Ⅰ区 SD-01	土師質土器	坏	—	63	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡茶灰～淡褐	淡茶褐	糸切り
9	Ⅰ区 SD-01	土師質土器	皿	74	68	12	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡黄褐	淡橙灰	糸切り
10	Ⅰ区 SD-01	土師質土器	皿	—	72	—	ナデ	ナデ～工具ナデ	精良	ややあまい	淡橙褐～淡黄白	淡茶褐	糸切り
11	Ⅰ区 SD-01	土師質土器	皿	—	55	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡褐～淡灰褐	淡黄褐	糸切り
12	Ⅰ区 SD-01	黒色土器	椀	—	—	—	ナデ	ミガキ	良	良	淡黄	黒褐	
13	Ⅱ区 SD-02	土師器	椀	—	—	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡橙褐～淡黄白	淡橙褐～淡黄白	
14	Ⅱ区 SD-02	土師器	坏	—	—	—	ナデ	ナデ	精良	あまい	淡黄白	淡桃	
15	Ⅱ区 SD-02	土師質土器	皿	—	65	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡黄橙	淡黄	糸切り
16	Ⅱ区 SD-03	土師質土器	皿	93	65	16	ナデ	ナデ	良	ややあまい	橙褐～暗茶灰	淡茶灰～暗褐灰	糸切り
17	Ⅱ区 Ⅱ層	土師質土器	坏	—	84	—	ナデ	ナデ	良	ややあまい	茶灰～灰褐	淡灰～淡灰褐	糸切り
18	Ⅱ区 Ⅱ～Ⅲ′層	土師質土器	坏	110	74	40	ナデ	ナデ	茶褐色粒微量	良	淡褐～暗褐灰	淡褐	糸切り
19	Ⅲ区 SD-01	土師器	甕	—	—	—	ハケ	—	粗細砂・茶褐色粒やや多い	ややあまい	桃橙～黄褐	淡橙黄	内面：マメツ
20	Ⅲ区 SD-03	土師質土器	皿	—	—	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡灰褐～淡褐	灰褐～暗灰褐	糸切り
21	Ⅳ区〈37〉	土師質土器	坏	—	74	—	ナデ	ナデ	茶褐色粒微量	良	淡黄～淡橙	淡橙～桃橙	糸切り
22	Ⅴ区 SK-02	土師質土器	皿	106	70	29	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡褐～淡茶灰	淡橙褐～灰褐	糸切り
23	Ⅴ区 SK-03	土師質土器	皿	113	73	32	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡茶灰～淡橙黄	淡黄褐～桃橙	糸切り
24	4 Tre Ⅱ層	中世国産陶器	甕	—	—	—	工具ナデ	ナデ	微細砂やや多い	良好	茶褐～茶灰	灰～暗灰褐	
25	Ⅰ区 SD-01	中世国産陶器	甕	—	—	—	ハケ	ナデ	微細砂少量	堅緻	紫褐	暗褐	
26	Ⅰ区 SD-01	備前焼	擂鉢	—	—	—	ナデ	ハケ	粗細砂やや多い	堅緻	暗灰褐	暗灰褐～暗褐	
27	Ⅱ区 Ⅱ層	中世国産陶器	壷類	—	70	—	ケズリ	ナデ	微砂少量	堅緻	暗茶褐～黒褐	暗青灰	
28	Ⅲ区 SD-01	備前焼	擂鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	微細砂多量	良好	茶褐	茶褐	
29	Ⅲ区〈01〉	東播系須恵器	鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	粗細砂微量	良	淡青灰 口唇：淡灰～灰	青灰	
30	Ⅲ区 Ⅲ層	東播系須恵器	鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	微細砂多量	良	淡灰 口唇：暗青黒	淡灰	
31	Ⅲ区 Ⅲ層	東播系須恵器	鉢	—	—	—	ナデ	—	微細砂多量	良	灰	灰	内面：マメツ
32	Ⅲ区 SD-01	東播系須恵器	鉢	—	107	—	ナデ	ナデ	微細砂やや多い	良	淡灰～灰	淡灰～淡灰褐	糸切り
33	Ⅲ区〈09〉	瓦質土器	鉢	272	—	—	タタキ→粗ナデ	ハケ	良	良	灰褐～淡黄白	暗灰褐～淡黄白	
第55図 76	Ⅵ区 SD-14	土師器	椀	121	—	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡黄褐	淡黄褐～淡黄白	
77	Ⅵ区 SD-14	土師器	椀	136	72	62	ナデ	ナデ	茶褐色粒少量	ややあまい	淡橙黄～淡黄	淡橙黄	
78	Ⅵ区 SD-14	墨書土器	坏	143	56	48	ナデ～ケズリ	ナデ	粗細砂微量	良	暗茶褐～淡橙黄	淡褐～淡橙	上半：被熱
79	Ⅵ区 SD-14	土師器	坏	135	60	51	ナデ	ハケ～ミガキ状	粗砂微量	良	淡黄白～淡橙褐	淡黄褐～淡橙褐	外面：若干マメツヘラ切り
80	Ⅵ区 SD-14	土師器	甕	264	—	222	ハケ	ハケ～ナデ～ケズリ	粗細砂・小礫少量	良	淡橙～淡茶灰	淡橙黄～淡褐	
81	Ⅵ区 SD-14	土師器	甕	268	—	242	ナデ～ハケ	ハケ～粗工具ナデ（半ケズリ）	粗砂・小礫少量 細砂やや多い	ややあまい	淡黄～橙桃～灰褐	橙褐～淡黄褐	
82	Ⅵ区 SD-14	黒色土器	椀	119	70	66	ナデ	丁寧ミガキ	白色粒土多量	良	淡黄褐	黒～黒褐	
83	Ⅵ区 SD-14	黒色土器	椀	136	—	—	ナデ	上半：ヘラミガキ 下半：石？ミガキ	精良	ややあまい	淡橙白～淡褐	黒～黒褐	外面：籾殻痕
84	Ⅵ区 SD-14	黒色土器	鉢	118	67	55	ナデ～工具ナデ	ミガキ	良	良	淡黄白～淡黄褐	黒	
第127図 85	Ⅵ区 Ⅲ層	弥生土器	甕	186	—	—	ナデ	ナデ？	細砂少量	良	橙褐～黄褐	淡黄褐～淡灰褐	内面：マメツ
86	Ⅵ区 SD-64	弥生土器	甕	177	—	—	ナデ	ナデ	微細砂やや多い	良	淡橙褐～淡黄褐	淡黄褐	
87	Ⅵ区 Ⅲ層	弥生土器	甕	—	—	—	ハケ～ナデ	ナデ	微砂少量	ややあまい	暗灰褐	暗灰～暗灰褐	
88	Ⅵ区 Ⅲ層	弥生土器	甕	—	—	—	ナデ	ナデ～工具ナデ	粗細砂多量	良	淡橙褐	橙	
89	Ⅵ区 Ⅲ層	弥生土器	壷	—	—	—	ナデ	ハケ	粗細砂やや多い	良	茶褐～茶灰	暗茶褐	
90	Ⅵ区 排土	弥生土器	高坏	—	109	—	—	—	粗細砂多量	ややあまい	淡橙褐～灰褐	淡茶灰～灰褐	内外面：マメツ
91	Ⅵ区 SA-05	土師器	椀	132	—	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡橙褐～淡黄灰	淡黄灰～淡橙	
92	Ⅵ区 SB-07	土師質土器	皿	72	—	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡褐	淡橙褐	糸切り
93	Ⅵ区 SB-07	土師器	椀	—	72	—	ナデ	ナデ	粗砂微量	良	淡橙褐	淡褐	
94	Ⅵ区 SK-06	土師質土器	小皿	—	38	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡桃～淡黄褐	淡桃～淡黄褐	糸切り

表18　出土遺物観察表（2）　土師器・土師質土器

No	出土地	種類	器種	法量（mm）			調整		胎土	焼成	色調		備考
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第127図 95	Ⅵ区 SK-57	土師質土器	坏	—	80	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡橙～灰褐	淡黄褐～桃灰	糸切り
96	Ⅵ区 SK-69	土師質土器	坏	—	73	—	ナデ	ナデ	茶褐色粒微量	良	淡茶褐～淡褐	淡灰褐～褐	糸切り
97	Ⅵ区 SK-70	土師器	小坏	52	—	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡茶褐～淡褐	淡茶褐～淡橙桃	
98	Ⅵ区 SK-70	土師質土器	坏	—	61	—	ナデ	ナデ	茶褐色粒微量	良	淡黄白～暗茶灰	淡黄白	糸切り
99	Ⅵ区 SK-71	土師器	椀	137	70	50	ナデ	ナデ	赤褐色粒やや多い	良	淡茶橙～淡黄褐	淡橙褐～淡褐	
100	Ⅵ区 SK-76	土師質土器	小坏	61	32	20	ナデ	ナデ	精良	良	淡褐	淡褐	糸切り
101	Ⅵ区 SK-76	土師質土器	坏	121	66	36	ナデ	ナデ	精良	良	淡褐～淡橙褐	淡褐～淡橙褐	糸切り
102	Ⅵ区 SK-78	土師器	坏	137	—	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	暗茶褐～淡茶褐	暗茶褐～淡褐	
103	Ⅵ区 SK-79	土師質土器	小皿	61	49	22	ナデ	ナデ	茶褐色粒微量	良	淡黄褐	淡黄褐～茶橙	糸切り
104	Ⅵ区 SK-80	土師質土器	小皿	62	43	14	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡灰黄～淡橙	淡橙	糸切り
105	Ⅵ区 SK-92	土師器	坏	137	73	65	ナデ	ナデ	淡黄白粘土粒やや多い	良	茶橙～桃褐	淡橙褐	
106	Ⅵ区 SK-111	土師器	坏	—	65	—	ナデ	ナデ	微細砂・粗砂微量	ややあまい	淡橙～淡黄	淡橙～淡黄褐	
107	Ⅵ区 SK-111	土師質土器	坏	105	60	28	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡黄褐	淡黄褐	糸切り
108	Ⅵ区 SK-111	土師質土器	皿	109	63	30	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡褐～淡黄褐	淡橙褐	糸切り
109	Ⅵ区 SK-111	土師質土器	皿	107	—	—	ナデ	ナデ	良	ややあまい	橙褐～茶褐	橙褐～淡茶褐	糸切り
110	Ⅵ区 SK-111	土師質土器	皿	113	60	25	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡黄褐	淡黄褐	糸切り
111	Ⅵ区 SD-11	土師質土器	皿	—	68	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	暗灰褐～淡灰	淡灰褐	糸切り
112	Ⅵ区 SR-01	土師質土器	皿	72	48	17	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡茶褐～褐	淡橙褐	糸切り
113	Ⅵ区 SR-01上層	土師質土器	皿	127	—	—	ナデ～工具ナデ	ハケ	精良	良	淡橙褐	淡黄～淡黄褐	
114	Ⅵ区 SR-01 中～下層	土師質土器	小坏	—	—	—	—	ナデ	良	ややあまい	淡褐	淡褐～淡灰褐	外面：マメツ
115	Ⅵ区 SR-01 SZ-13上層	土師質土器	皿	78	59	15	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡褐～淡黄褐	淡褐～淡黄褐	糸切り
116	Ⅵ区 SR-01	土師質土器	小皿	—	41	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡橙褐	淡褐	糸切り
117	Ⅵ区 SD-13	土師器	甕？	—	100	—	ナデ	ナデ	赤褐色粒少量	ややあまい	淡橙～淡黄褐	淡茶灰	
118	Ⅵ区 SD-13	土師器	甕	—	140	—	工具ナデ～粗ナデ	ナデ	茶褐色粒微量	ややあまい	淡灰～橙	淡灰褐～灰	
119	Ⅵ区 SD-13	土師質土器	坏	116	53	21	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡黄～橙褐	淡黄～淡褐	糸切り
120	Ⅵ区 SD-13下層	土師器	皿	138	—	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡黄褐	淡黄褐	
121	Ⅵ区 SD-15	土師質土器	皿	—	85	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡黄褐～淡橙褐	淡黄褐～淡橙褐	糸切り
122	Ⅵ区 SD-13	土師質土器	皿	—	43	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡桃～淡黄	淡黄褐～淡灰褐	糸切り
123	Ⅵ区 SD-17	土師質土器	小皿	50	29	16	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡黄白～淡褐白	淡黄白～淡褐白	糸切り
124	Ⅵ区 SD-23	土師質土器	坏	—	60	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	橙～淡橙褐	桃褐～淡橙褐	糸切り
125	Ⅵ区 SD-32	土師器	坏	136	—	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	桃褐～淡黄褐	淡黄褐	
第128図 126	Ⅵ区 SD-32	土師器	坏	124	—	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡橙～淡褐	淡橙褐	
127	Ⅵ区 SD-32	土師質土器	坏	130	—	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡橙褐	淡橙褐	
128	Ⅵ区 SD-31	土師質土器	皿	—	97	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡茶褐～淡灰褐	淡褐	糸切り
129	Ⅵ区 SD-48	土師器	椀	109	—	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡褐～淡灰褐	黄褐～淡黄褐	
130	Ⅵ区 SD-49	土師質土器	坏	—	64	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡黒褐～淡褐	淡褐	糸切り
131	Ⅵ区 SD-61,57	土師器	坏	114	70	33	ナデ	ナデ	精良	良	淡褐～淡橙	淡褐～淡灰	糸切り？
132	Ⅵ区 SD-57	土師器	坏	123	—	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡褐～淡灰褐	淡褐	
133	Ⅵ区 SD-62	土師器	坏	—	60	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡橙褐	淡橙褐	糸切り
134	Ⅵ区 SD-62	土師質土器	小皿	—	36	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡橙	淡橙	糸切り
135	Ⅵ区 SD-63	土師質土器	皿	148	100	34	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	暗茶褐～淡灰褐	淡灰褐～淡黒褐	糸切り
136	Ⅵ区 SD-63	土師器	坏	140	75	39	ナデ～ケズリ	ナデ	精良	良	淡黒褐～淡黄褐	淡黒褐～淡褐	糸切り
137	Ⅵ区 SD-64	土師質土器	小皿	56	39	15	工具ナデ	ナデ	精良	良	淡黄褐	淡褐	糸切り
138	Ⅵ区 SK-112	土師器	坏	127	—	—	ナデ	ナデ	良	良	淡黄～橙褐	淡橙～淡黄	
139	Ⅵ区 SZ-08下PP	土師質土器	皿	117	67	27	ナデ	ナデ	精良	良	淡橙～淡黄褐	淡橙～淡黄褐	
140	Ⅵ区 SZ-10	土師質土器	坏	—	68	—	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡黄～橙桃	桃褐	糸切り
141	Ⅵ区 SZ-12	土師質土器	小皿	—	32	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡橙黄	淡橙黄	糸切り
142	Ⅵ区 SZ-15	土師器	椀	130	—	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡橙褐～淡褐	淡橙褐～淡灰褐	
143	Ⅵ区 SK-118	土師器	坏	123	—	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡褐～淡黄褐	淡褐	
144	Ⅵ区 SK-118	土師質土器	皿	—	56	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡茶褐～淡黄褐	茶褐～暗灰（墨状付着物）	糸切り
145	Ⅵ区 SZ-26	土師質土器	坏	115	75	38	ナデ	ナデ	精良	良	淡橙褐～暗灰	淡褐	糸切り
146	Ⅵ区 SZ-29	土師質土器	坏	—	60	—	ナデ	ナデ	良	良	淡茶灰～暗桃褐	淡黄褐～暗茶灰	糸切り

表19　出土遺物観察表（3）　土師器・土師質土器・黒色土器・須恵器・中世国産陶器

No	出土地	種　類	器種	法量（mm）			調整		胎　土	焼　成	色調		備　考
				口径	底径	器高	外　面	内　面			外　面	内　面	
第128図 147	Ⅵ区 SZ-30	土師質土器	坏	—	73	—	ナデ	ナデ～工具ナデ	良	ややあまい	淡褐～暗灰褐	淡茶褐～褐	糸切り
148	Ⅵ区 SZ-31	土師器	坏	108	—	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡黄褐	淡黄～淡橙	
149	Ⅵ区 SB-10貼床	土師器	皿	—	96	—	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡茶灰～暗灰	淡褐～淡灰褐	ヘラ切り
150	Ⅵ区 SZ-35	土師質土器	皿	115	70	31	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡黄褐～淡桃黄	淡黄褐～淡桃褐	糸切り
151	Ⅵ区〈205〉	土師質土器	焙烙	—	—	—	ナデ	ナデ	微細砂少量	良	淡黄褐	淡茶黄～灰褐	
152	Ⅵ区〈2552〉	土師質土器	坏	111	64	40	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡褐～淡灰褐	淡褐	糸切り
153	Ⅵ区〈950〉	土師質土器	皿	105	70	27	ナデ~工具ナデ	ナデ	良	良	淡橙黄	淡橙黄	糸切り
154	Ⅵ区〈322〉	土師質土器	皿	107	80	22	ナデ	ナデ	良	ややあまい	暗桃褐～淡橙褐	桃橙～淡橙黄	糸切り
155	Ⅵ区〈2744〉	土師質土器	皿	109	70	22	ナデ	ナデ	精良	良	淡桃黄～暗灰褐	淡灰褐～淡黄褐	糸切り
156	Ⅵ区〈808〉	土師質土器	皿	120	68	26	ナデ	ナデ	精良	良	淡黄褐～淡灰褐	淡茶褐～淡褐	糸切り
157	Ⅵ区〈2879〉	土師質土器	皿	116	72	33	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	暗黄褐～暗灰	桃黄～茶橙	糸切り ややマメツ
158	Ⅵ区〈210〉	土師質土器	皿	112	74	23	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡黄褐～淡橙	淡黄褐～桃褐	糸切り
159	Ⅵ区〈992〉	土師質土器	皿	105	58	25	一部：工具ナデ	—	精良	ややあまい	淡灰～淡橙桃	淡黄～淡桃	糸切り マメツ
160	Ⅵ区〈1639〉	土師質土器	坏	—	70	—	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡橙褐	淡橙褐～淡黄	糸切り
161	Ⅵ区〈2744〉	土師質土器	坏	—	67	—	ナデ	ナデ	精良	良	黒褐	茶褐～暗茶褐	糸切り 外面：被熱
162	Ⅵ区〈2348〉	土師質土器	小皿	68	40	17	ナデ~工具ナデ	ナデ	良	あまい	紫褐～黄褐	淡黄褐	糸切り
163	Ⅵ区〈781〉	土師質土器	小皿	67	40	19	ナデ~工具ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡橙	淡橙	糸切り
164	Ⅵ区〈992〉	土師質土器	小皿	64	30	19	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡褐	淡褐	糸切り
165	Ⅵ区〈2224〉	土師質土器	小皿	70	43	22	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡黄褐	淡黄褐	糸切り
166	Ⅵ区〈708〉	土師質土器	小皿	—	33	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡褐～淡黄褐	淡褐～淡黄褐	糸切り
167	Ⅵ区〈917〉	土師質土器	灯明皿	60	33	17	ナデ	ナデ	精良	良	淡橙褐～淡褐	淡橙褐	糸切り
168	Ⅵ区〈759〉	土師質土器	灯明皿	70	47	19	ナデ	—	精良	あまい	淡橙～橙	淡橙～暗茶灰	糸切り 内面：マメツ
169	Ⅵ区〈762〉	土師質土器	灯明皿	55	39	14	ナデ	ナデ	精良	良好	淡橙～淡橙褐	淡橙褐	糸切り
第129図 170	Ⅵ区〈1729〉	黒色土器	椀	144	—	—	ナデ	ミガキ	良	ややあまい	淡黄褐	淡黒褐	マメツ
171	Ⅵ区 Ⅲ層	黒色土器	椀	—	78	—	ナデ	ミガキ	良	良	淡黄褐	黒褐	
172	Ⅵ区 SK-70	黒色土器	椀	—	70	—	ナデ	ミガキ	茶褐色粒少量	良	淡橙黄～淡黄	黒	内面：マメツ
173	Ⅵ区〈1062〉	黒色土器B類	坏	—	90	—	ミガキ	ミガキ	精良	良	淡黒灰	淡黒灰	糸切り
174	Ⅵ区〈1927〉	須恵器	蓋	—	—	—	ナデ	ナデ	良	良	淡灰	淡灰	
175	Ⅵ区 SD-17	須恵器	壷	—	160	—	ナデ	ナデ	微細砂微量	良好	灰青	淡灰青	
176	Ⅵ区 SK-114	須恵器	壷甕類	—	—	—	格子目タタキ	タタキ	粗細砂微量	良好	灰～暗灰	淡灰	
177	Ⅵ区 SK-114	須恵器	壷甕類	—	—	—	格子目タタキ	平行タタキ ～工具ナデ	小礫微量	良好	淡灰～暗灰	淡灰～灰	
178	Ⅵ区 Ⅲ層	須恵器	甕	207	—	—	ナデ～ 平行タタキ	同心円タタキ	微細砂微量 黒色粒やや多い	良好	淡橙褐～淡灰褐	淡灰～淡橙灰	
179	Ⅵ区 SD-26	東播系須恵器	鉢	—	—	—	ナデ	ナデ～工具ナデ	微砂多量 小礫少量	良	灰～青灰	青灰	
180	Ⅵ区 SK-82	東播系須恵器	鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	微細砂少量	ややあまい	暗灰～淡灰白	淡灰白～淡褐白	
181	Ⅵ区 SK-06	大和系瓦質土器	風炉	275	—	—	ナデ～ハケ	ナデ	精良	良	淡灰～暗灰	淡橙黄～淡灰	
182	Ⅵ区 SK-38	中世国産陶器	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂多量	堅緻	暗灰～茶灰	紫灰～暗灰	
183	Ⅵ区 SZ-03 下北側SK	瓦質土器	鉢類	—	—	—	ミガキ	ナデ	茹微量	良	淡黒灰	淡黒灰	
184	Ⅵ区 SB-10貼床	肥前焼	大甕？	—	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂少量	堅緻	暗茶褐～黒褐	暗茶褐～暗灰	上半部：自然釉
185	Ⅵ区 SD-05	中世国産陶器	甕	—	—	—	ナデ	ナデ～タタキ	黒色粒少量	良好	暗褐～暗紅茶	暗褐～茶褐	
186	Ⅵ区 SR-01	瓦質土器	三足付鉢	96	75	42	ナデ	ナデ	良	ややあまい	暗灰～淡黄白	淡灰白	灯明具
187	Ⅵ区 SR-01 南半下層	備前焼	擂鉢	—	—	—	ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	堅緻	淡茶褐～茶灰 口唇：暗茶灰	灰褐～暗灰	
188	Ⅵ区 SR-01	備前焼	擂鉢	—	—	—	粗工具ナデ	ナデ	微細砂やや多い	良好	灰褐～褐	灰～暗灰	
189	Ⅵ区 SD-13上層	大和系瓦質土器	深鉢	329	—	—	ミガキ	ミガキ～半ミガキ	良	ややあまい	暗灰～淡黒灰	灰～淡黒灰	土師質
190	Ⅵ区 SD-13上層	備前焼	擂鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	良	良好	橙褐 口縁：紫褐	橙褐	被熱
191	Ⅵ区 SD-13	中世国産陶器	壷甕類	—	—	—	ハケ状工具ナデ	ナデ	微細砂少量	堅緻	暗茶橙～黄橙	暗茶褐	
192	Ⅵ区 SD-13	中世国産陶器	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂少量	堅緻	紫褐	褐	
第130図 193	Ⅵ区 SD-14	大和系瓦質土器	風炉	—	—	—	ナデ	ナデ	良	良	黒灰	暗灰褐	
194	Ⅵ区 SD-15	土師質土器	火鉢？	120	—	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡黄～淡桃褐	淡黄褐	内面：指紋
195	Ⅵ区 SK-114	備前焼	甕	277	—	—	ナデ	ナデ	粗細砂・ 小礫多量	堅緻	茶	暗紫	
196	Ⅵ区 SK-114	瓦質土器	擂鉢	300	—	—	粗ナデ	ナデ	細砂微量	良	黒灰	淡黒灰	
197	Ⅵ区 SK-114	中世国産陶器	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	細砂やや多い	堅緻	紫褐	茶褐～暗褐	
198	Ⅵ区 SD-18	大和系瓦質土器	風炉？	—	—	—	半ミガキ	ハケ	良	良	淡黒灰～灰	暗灰～淡灰褐	土師質

表20　出土遺物観察表（4）　中世国産陶器

No	出土地	種　類	器種	法量（mm）			調整		胎　土	焼　成	色調		備　考
				口径	底径	器高	外　面	内　面			外　面	内　面	
第130図 199	Ⅵ区 SD-21	備前焼	擂鉢	—	—	—	粗ナデ～工具ナデ	ナデ	小礫少量	堅緻	茶褐～茶灰	灰～灰褐	
200	Ⅵ区 SD-37	備前焼	擂鉢	—	114	—	粗工具ナデ	ナデ	粗細砂やや多い	良好	暗灰～暗茶	暗灰～淡灰	
201	Ⅵ区 SD-39	備前焼	甕	—	361	—	ハケ	ハケ	粗細砂やや多い	堅緻	茶褐～褐	暗茶褐	
202	Ⅵ区 SD-48東端	備前焼	擂鉢	285	131	116	ナデ	ナデ	粗細砂多量	良好	暗紫褐～橙褐	橙褐	
203	Ⅵ区 SD-48	備前焼	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂やや多い	堅緻	淡紫褐～茶褐	暗茶褐	
第131図 204	Ⅵ区 SD-49	備前焼	擂鉢	329	—	—	粗ナデ	ハケ	粗細砂・小礫少量	良好	橙褐～淡橙	橙褐～暗橙褐	
205	Ⅵ区 SD-49	備前焼	甕	423	—	—	ハケ	ナデ～ハケ	粗細砂やや多い	堅緻	暗茶	褐茶	
206	Ⅵ区 SD-63	備前焼	甕	378	—	—	ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	堅緻	暗茶褐～暗茶	暗茶褐～暗桃橙	内面に布片
207	Ⅵ区 SD-62	大和系瓦質土器	風炉	—	—	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡黒褐	淡灰	
208	Ⅵ区 SD-62	備前焼	大甕	—	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂多量小礫少量	堅緻	暗褐	暗褐～茶褐	
209	Ⅵ区 SD-63	大和系瓦質土器	三足付鉢	—	51	—	ケズリ	ナデ	粗細砂微量	良	淡黄褐	淡褐	土師質
210	Ⅵ区 SD-64	備前焼	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂・小礫やや多い	堅緻	暗茶～暗茶褐	褐茶	
211	Ⅵ区 SD-64	備前焼	大甕	—	—	—	ハケ	ナデ～ハケ	粗細砂やや多い	堅緻	淡紫褐	暗茶褐	
212	Ⅵ区 SD-64	東播系須恵器	鉢	—	—	—	ナデ	工具ナデ	良	ややあまい	淡橙褐～淡黄	淡橙黄～淡黄白	土師質
213	Ⅵ区 SD-64	備前焼	大甕	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ～ハケ	粗細砂やや多い小礫少量	堅緻	暗褐～淡橙褐	暗茶褐～暗灰	灰被
214	Ⅵ区 SD-64	備前焼	擂鉢	—	—	—	粗工具ナデ	ナデ	微細砂微量	良好	淡灰褐～淡青灰	淡灰～淡灰褐	
215	Ⅵ区 SD-64	備前焼	大甕	—	—	—	ハケ	ハケ～ナデ	粗細砂やや多い	堅緻	暗褐～橙褐	暗茶褐	
216	Ⅵ区 SD-32	備前焼	大甕	—	—	—	ハケ	ナデ～ハケ	粗細砂・小礫やや多い	堅緻	暗茶褐	暗茶褐	外面：灰被
217	Ⅵ区 SR-01	備前焼？	小皿	59	44	16	ナデ	ナデ	良好	堅緻	淡灰褐	紫紅～暗茶褐	糸切り，釉：黒褐 内面：発砲（坩堝？）
218	Ⅵ区 SZ-01	中世国産陶器	甕	—	—	—	ナデ	ナデ	粗細砂少量	良好	暗茶灰～淡褐	暗灰～暗灰褐	須恵質
219	Ⅵ区 SZ-03	中世国産陶器	甕	—	—	—	平行タタキ	平行タタキ	良	良	灰褐	淡灰褐	須恵質
220	Ⅵ区 SZ-03	備前焼？	皿	115	78	23	ナデ	ナデ	精良	堅緻	灰褐～淡灰白 紅褐色自然釉	暗灰褐～淡灰白 暗緑灰色 発砲自然釉	糸切り（坩堝？）
221	Ⅵ区 SZ-08	備前焼？	皿	—	—	—	ナデ	ナデ	微砂微量	堅緻	暗灰褐～紅褐	暗灰褐	
第132図 222	Ⅵ区 SZ-08	中世国産陶器	甕	—	—	—	ハケ	ナデ	粗細砂やや多い	堅緻	淡橙茶	暗茶褐	
223	Ⅵ区 SZ-10	備前焼	擂鉢	268	—	—	ナデ	ナデ	粗細砂微量	堅緻	茶灰～灰褐	青灰～灰	
224	Ⅵ区 SZ-12	大和系瓦質土器	浅鉢	—	—	—	ナデ	工具ナデ	良	良	暗灰褐	淡黒褐	
225	Ⅵ区 SZ-12	大和系瓦質土器	風炉	255	—	—	ハケ	ナデ	精良	ややあまい	灰～淡褐	淡橙～灰	土師質
226	Ⅵ区 SZ-12	備前焼	甕	—	—	—	ハケ	粗工具ナデ	粗細砂多量	良好	淡茶橙	暗茶褐	
227	Ⅵ区 SZ-12	備前焼	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂やや多い小礫少量	堅緻	茶褐～暗褐	暗褐～淡紫褐	外面上半：自然釉
228	Ⅵ区 SZ-12	備前焼	擂鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	粗細砂・小礫少量	堅緻	紫褐～橙褐	紫褐	
229	Ⅵ区 SZ-12	大和系瓦質土器	風炉	—	—	—	半ミガキ	ナデ	良	良	暗灰～淡黒灰	淡黒褐～淡灰	土師質
230	Ⅵ区 SZ-13	備前焼	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂やや多い	堅緻	茶～茶褐	淡紫褐	
231	Ⅵ区 SZ-13	備前焼	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂・小礫やや多い	堅緻	暗褐	暗茶褐	
232	Ⅵ区 SZ-16	備前焼	甕	—	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂やや多い	良好	暗灰	灰青～暗灰青	
233	Ⅵ区 SZ-28	備前焼	擂鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	粗細砂やや多い	良	淡灰褐～灰	灰～暗灰	
234	Ⅵ区 SZ-31	瀬戸	香炉	109	—	—	水挽	水挽	淡灰	良好	淡灰～灰	淡灰～灰	釉：オリーブ灰 14～15ｃ？
235	Ⅵ区 SZ-35	中世国産陶器	擂鉢	—	—	—	ナデ	ハケ～ナデ	粗細砂やや多い	堅緻	暗紫褐～茶橙	暗紫褐	
236	Ⅵ区 SZ-35	備前焼	擂鉢	308	—	—	ナデ	ナデ	微細砂・小礫少量	良好	暗紫褐～褐～暗褐	淡灰褐～淡桃褐	
237	Ⅵ区 SZ-35	備前焼	擂鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	微細砂少量	良好	橙褐	暗橙褐	
238	Ⅵ区 SZ-35	備前焼	甕	—	417	—	粗工具ナデ～ハケ	ハケ～ナデ	粗細砂やや多い	堅緻	桃灰～橙	暗茶褐	
239	Ⅵ区 SD-13 内ＰＰ	大和系瓦質土器	鉢	267	—	—	ナデ	ナデ	微砂微量	良好	淡黒褐	暗茶褐	土師質
240	Ⅵ区〈1863〉の南PP	備前焼	擂鉢	—	—	—	ハケ	ハケ	微細砂少量	堅緻	淡青灰～淡灰	淡紫褐～茶褐	
241	Ⅵ区 北端Ⅲ層	備前焼？	皿？	—	—	—	ナデ	ナデ	微砂微量	良好	淡青灰～淡灰褐	暗茶灰～灰褐	
242	Ⅵ区 Ⅲ層	備前焼	擂鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	微細砂少量	良好	淡茶橙～暗褐	橙褐	
第133図 243	Ⅵ区 Ⅰ～Ⅲ層	備前焼	擂鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	粗細砂・小礫少量	良	暗紫褐～茶橙	茶橙	253と同一個体
244	Ⅵ区〈1038〉	備前焼	擂鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	粗細砂・小礫やや多い	良好	紫褐～淡橙褐	淡茶橙	
245	Ⅵ区 SZ-08 下PP	備前焼	擂鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	微細砂少量	良好	淡灰～淡青灰	淡灰～淡灰褐	
246	Ⅵ区 Ⅰ～Ⅲ層	大和系瓦質土器	鉢	—	—	—	ナデ	ハケ	精良	良	淡黄褐	淡黄褐	
247	Ⅵ区〈330〉	大和系瓦質土器	鉢	—	—	—	ミガキ～ナデ	ナデ	精良	良	淡橙褐	淡橙褐～淡黄褐	土師質
248	Ⅵ区 Ⅲ層	中世国産陶器	甕	—	—	—	格子目タタキ	平行タタキ	微砂少量	堅緻	灰青～淡橙茶	褐～茶褐	須恵質
249	Ⅵ区 SD-48東端	備前焼	擂鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	粗細砂やや多い	良好	暗紫灰～暗茶灰	暗紫灰～茶褐	
250	Ⅵ区 Ⅰ～Ⅲ層	大和系瓦質土器	鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	精良	良	茶褐～淡黄	淡黄	土師質

表21　出土遺物観察表（5）　縄文土器・弥生土器・土師器・土師質土器・中世国産陶器

No	出土地	種類	器種	法量（mm）			調整		胎土	焼成	色調		備考
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第133図 251	Ⅵ区〈2840〉	中世国産陶器	小壷	—	31	—	粗工具ナデ	ナデ	微砂少量	ややあまい	淡橙褐～淡茶灰	淡橙桃	器面はかなり剥落
252	Ⅵ区 Ⅱ～Ⅲ層	備前焼	擂鉢	—	168	—	工具ナデ	—	粗細砂少量	良好	暗橙褐～暗茶褐	茶橙	内面：かなり摩耗
253	Ⅵ区 Ⅱ～Ⅲ層	備前焼	擂鉢	—	167	—	工具ナデ	—	粗細砂少量	良好	暗橙褐～暗紫褐	茶橙	内面：かなり摩耗 243と同一個体
254	Ⅵ区〈2191〉	備前焼	甕	—	—	—	ハケ	工具ナデ～ナデ	粗細砂・小礫少量	堅緻	茶褐～暗茶褐	暗灰褐～暗褐	
255	Ⅵ区〈832〉	軟質陶器	三足付鉢	—	—	—	ケズリ	ナデ	精良	良	淡黄褐	淡橙～淡桃橙	
第170図 713	Ⅶ区 北西部Ⅲ層	縄文土器	深鉢	252	—	—	工具押圧	条痕	微細砂少量	良	淡黄灰～淡褐	淡黄灰～淡橙褐	微隆起線紋
714	Ⅶ区 SA-01	弥生土器	甕	280	—	—	ハケ→粗ミガキ	ハケ→粗ミガキ	粗細砂少量	良	淡灰褐～暗灰	淡黄褐～淡橙褐	
715	Ⅶ区 SA-01	弥生土器	壷	—	—	—	ミガキ	工具ナデ	粗細砂少量	良	暗茶灰～淡橙褐	淡褐	
716	Ⅶ区 北西部Ⅲ層	弥生土器	高坏	—	—	—	—	—	細砂多量	ややあまい	淡黄～淡橙褐	淡黄褐～橙褐	
717	Ⅶ区 北西部Ⅲ層	弥生土器	壷	—	—	—	重弧文	粗ナデ	粗細砂少量 角閃石少量	ややあまい	淡橙茶～暗茶灰	淡黄～淡灰褐	被熱
718	Ⅶ区 北西部Ⅲ層	弥生土器	壷	—	—	—	重弧文	工具ナデ	粗細砂少量 角閃石少量	良	淡橙褐	淡黄褐	
719	Ⅶ区 北西部Ⅲa層	弥生土器	壷	—	—	—	ミガキ	—	粗細砂少量	良	茶・黒斑	暗茶褐	
720	Ⅶ区 Ⅲ層	弥生土器	甕	228	—	—	—	ナデ	粗細砂少量	ややあまい	暗茶褐～暗橙褐	暗茶褐～暗橙褐	内面：少しマメツ 外面：マメツ
721	Ⅶ区 北西部Ⅲ層	弥生土器	壷	—	—	—	ハケ	—	粗細砂少量 角閃石少量	ややあまい	淡橙灰～暗灰褐	淡黄灰	
722	Ⅶ区 SK-02	土師質土器	小皿	67	—	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡黄褐	淡黄褐	
723	Ⅶ区 SD-07	土師器	焙烙	—	160	—	丁寧ナデ～工具ナデ	ナデ	良	良	淡灰黄～淡黄褐	淡橙褐	被熱
724	Ⅶ区 SK-112	土師質土器	坏	—	71	—	ナデ	ナデ	良	良	淡黄～淡桃橙	淡黄～淡桃橙	糸切り
725	Ⅶ区 SZ-06	土師質土器	小皿	57	38	15	ナデ	ナデ	精良	良	淡橙褐	淡黄～淡橙	糸切り
726	Ⅶ区 東南部Ⅲ層	土師器	坏	114	—	—	ナデ	ナデ	精良	ややあまい	淡橙～淡黄褐	淡黄～淡橙	
727	Ⅶ区 Ⅲ層	土師器	坏	134	67	55	ナデ	ナデ	良	良	淡橙褐	淡橙褐	ヘラ切り
728	Ⅶ区 Ⅲa層	土師器	坏	—	73	—	ナデ	ナデ	微細砂やや多い	良	橙褐～淡灰褐	淡黄褐～橙褐	ヘラ切り 被熱
729	Ⅶ区 Ⅲ層	土師質土器	灯明皿	84	49	21	ナデ	ナデ	精良	良	淡茶橙～褐	淡橙褐	糸切り，口唇部に黒褐少々
730	Ⅶ区 SD-07	瓦器	椀	—	—	—	工具ナデ	ミガキ	精良	良	淡灰～灰	暗灰	
731	Ⅶ区 SR-01	灰釉陶器	椀	177	—	—	ナデ	ナデ	良	堅緻	淡緑灰～淡緑黄	淡緑灰～淡緑黄	
732	Ⅶ区 北端Ⅲ層	東播系須恵器	片口鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	微細砂少量	良	淡灰～灰	淡灰～灰	口唇部：自然釉
733	Ⅶ区 北縁Ⅲ層	東播系須恵器	鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	微砂少量	良	灰～淡灰	淡灰	口：黒褐色ガラス質発砲
734	Ⅶ区 北端中央攪乱	東播系須恵器	鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	粗細砂少量	良	淡青灰～淡灰	淡灰	口：灰被
735	Ⅶ区 Ⅲa層	須恵器	壷？	—	—	—	ナデ	ナデ	粗細砂少量	良好	淡青灰～暗茶褐	暗茶褐(釉的)	外面：灰被
736	Ⅶ区 Ⅲa層	須恵器	甕	—	—	—	平行タタキ	平行タタキ	良	良	淡茶褐～褐	淡茶褐～暗灰	
737	Ⅶ区 SD-07	中世国産陶器	壷	—	—	—	粗ナデ～タタキ	ナデ	微細砂少量	良好	茶～淡灰白	淡茶褐	灰被
738	Ⅶ区 北端中央攪乱	備前焼？	皿？	—	—	—	—	ナデ	良	良好	暗灰～淡灰白	淡黒灰～淡灰白	外面：発砲
739	Ⅶ区 SD-07	土師質土器	鉢	—	—	—	ハケ・ナデ	ナデ	精良	あまい	淡黄褐	淡黄白	
740	Ⅶ区 SD-07	瓦質土器	擂鉢	—	—	—	ハケ	ナデ	良	ややあまい	淡黄褐～淡橙黄	淡橙茶～淡黄褐	
741	Ⅶ区 SD-07	備前焼	擂鉢	285	—	—	ナデ	ハケ	粗細砂多量 小礫少量	良好	淡灰褐～淡青灰	灰～灰褐	若干使用
742	Ⅶ区 SD-07	備前焼	擂鉢	—	—	—	工具ナデ～ナデ	工具ナデ	微細砂微量	良好	淡青灰～暗茶褐	暗灰～茶褐	灰被
第171図 743	Ⅶ区 SK-02	備前焼	擂鉢	284	164	102	ナデ	ナデ	粗細砂・小礫やや多い	堅緻	暗褐茶～橙褐	暗褐茶～橙褐	灰被
744	Ⅶ区 SK-02	中世国産陶器	皿	—	59	—	ナデ	ナデ	精良	口縁部不良	淡灰	淡黄白～桃灰	内面：発砲物付着、ヘラ切り
745	Ⅶ区〈492〉	備前焼	擂鉢	—	155	—	粗工具ナデ	—	粗細砂やや多い	堅緻	橙褐 底：暗褐灰	暗紫褐～橙褐	内面：摩耗
746	Ⅶ区 SD-07	備前焼	大甕	—	—	—	ハケ	ナデ	粗細砂少量	良好	暗茶褐	暗紫褐	灰被 747と同一個体
747	Ⅶ区 SK-01	備前焼	大甕	—	—	—	ハケ	ハケ	粗細砂やや多い	堅緻	茶褐	暗茶褐	口：自然釉少量 746と同一個体
748	Ⅶ区 Ⅱ層	備前焼	甕	—	—	—	ナデ	ナデ	粗細砂多量	堅緻	暗茶褐	暗茶灰	
749	Ⅶ区 SD-07 東端から3～4m	備前焼	甕	—	—	—	工具ナデ	ハケ	粗細砂やや多い 小礫少量	堅緻	暗褐～茶褐	暗褐～茶褐	
第187図 925	Ⅷ区 Ⅲ層	弥生土器	甕	168	—	—	工具ナデ・工具押圧	工具ナデ	細砂多量 角閃石多量	良	暗茶褐～淡橙褐	橙褐	
926	Ⅷ区 SZ-06	弥生土器	壷	124	—	—	ナデ～工具ナデ	ハケ	細砂やや多い	良	淡橙褐～灰褐	暗灰～淡黄灰	
927	Ⅷ区 SZ-03	弥生土器	甕	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ？	粗細砂やや多い	良	淡黄橙	暗茶灰～暗褐	
928	Ⅷ区 Ⅲ層	土師器	坏	126	58	55	ナデ～ケズリ～工具ナデ	ナデ	粗細砂やや多い	良	淡褐～橙褐	橙褐	
929	Ⅷ区 SZ-04	土師器	坏？	—	—	—	ナデ	ハケ	粗細砂少量	良	淡茶褐～暗茶灰・黒斑	淡茶橙	
930	Ⅷ区 SK-01	土師質土器	皿	135	88	29	ナデ	ナデ	良	良	淡黄褐～淡灰褐	淡灰褐～淡黄褐	糸切り
931	Ⅷ区 Ⅲa層	東播系須恵器	鉢	—	—	—	ハケ	ナデ	粗細砂少量	良	淡灰 口縁：灰～紫灰	淡灰	
932	Ⅸ区〈02〉	土師質土器	皿	—	58	—	ナデ	ナデ	精良	良	淡黄褐～淡黄橙	淡灰黄～淡黄橙	糸切り

表22　出土遺物観察表（6）　土製品

No	出土地	種類	器種	法量（mm）	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面	備考
第48図 34	3 Tre Ⅱ～Ⅲd層	土製品	紡錘車	外径：59、内径：7	ナデ	ナデ	微細砂少量	良	橙～淡橙	淡橙黄	土師器底部転用
第133図 256	Ⅵ区 Ⅲa層	土製品	坩堝	—	ナデ	ナデ	発砲ガラス質	良好	暗紫褐 口：黄褐	暗紫褐	
257	Ⅵ区 SK-70	土製品	土錘	長：(39)、幅：19、孔径：(8)	ナデ	ナデ	精良	良	淡黄白	淡褐～暗褐	
258	Ⅵ区 Ⅲa層	土製品	土錘	長：(49)、幅：18、孔径：(6)	半ミガキ	半ミガキ	精良	良	淡橙黄	淡橙黄	
259	Ⅵ区 SK-23	土製品	鞴の羽口	—	ナデ	ナデ	良	良	淡灰～暗灰	暗灰褐～灰褐	方形？
第171図 750	Ⅶ区 SD-07	土製品	土人形	長：62、幅：41、厚：8	工具ナデ	工具ナデ	精良	良好	淡黄白～淡橙	灰～淡黒灰	
751	Ⅶ区 SD-07	土製品	土人形	長：72、幅：41、厚：17	工具ナデ	工具ナデ	精良	良好	淡黄白～淡橙	灰～淡黒灰	
752	Ⅶ区 SD-07	土製品	土人形	長：(51)、幅：(36)、厚：13	ナデ	ナデ	微砂少量	良	淡黄白～淡褐	暗灰褐～黒灰	脚部？花弁型穿孔か
753	Ⅶ区 SD-07	土製品	土人形	長：(36)、幅：(20)	ナデ	ナデ	石英粗粒少量	良	淡桃褐	淡桃褐	動物の頭部
754	Ⅶ区 SD-07	土製品	土人形	足の幅：62、厚：14～18	工具ナデ	工具ナデ	精良	良好	淡黄白～淡橙	黒灰	帖佐あたりの土人形か江戸時代か

表23　出土遺物観察表（7）　輸入陶磁器（1）

No	出土地	種類	器種	法量（mm） 口径	法量（mm） 底径	法量（mm） 器高	調整・紋様	露胎	胎土色	釉調 外面	釉調 内面	産地	年代・備考
第49図 35	Ⅰ区 SD-01	青花	皿	—	—	—	—	—	乳白	乳白、紺～淡紺	乳白、紺～淡紺	景徳鎮	16c代
36	Ⅰ区 SD-02	青磁	碗	—	55	—	見込印花文	畳付き～高台内面	灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14～15c
37	Ⅱ区 SD-02	青花	碗	—	51	—	—	畳付き	淡灰白～淡褐	乳白	乳白	景徳鎮	16c
38	Ⅰ区 Ⅱ～Ⅲ′層	青花	皿	—	—	—	—	—	白	乳白・淡紺	乳白・淡紺	景徳鎮	16c
39	2 Tre Ⅱ～Ⅲa層	青磁	碗	—	—	—	劃花文	—	淡灰	淡灰オリーブ	淡灰オリーブ	龍泉窯	12～13c
40	Ⅱ区 Ⅱ層	青磁	碗	—	—	—	劃花文	—	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14～15c
41	Ⅱ区 Ⅱ～Ⅲ′層	青花	皿	—	—	—	—	—	白	乳白	乳白	中国か滝州	17c前
42	Ⅱ区 SD-01	褐釉陶器	甕？	—	—	—	—	—	淡橙褐	暗茶灰	暗青褐	中国	14～16c代
43	Ⅲ区 SD-01	青磁	碗	—	—	—	—	—	淡赤褐	褐	褐	龍泉窯	12～13c
44	Ⅳ区 SZ-01	青花	碗	—	55	—	—	畳付き	褐～淡赤褐	淡黄白～紺	淡黄白～紺	景徳鎮	16c
45	Ⅳ区 SZ-01	白磁	皿	—	—	—	—	—	白	乳白	乳白	景徳鎮	16c
46	Ⅳ区 SD-05	青磁	碗	—	—	—	剣先蓮弁文	—	灰～暗灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14～15c
47	Ⅳ区 SZ-01	青花	皿	—	38	—	—	畳付き	淡灰白	淡青白、紺	淡青白、紺	景徳鎮	16c
48	Ⅲ区 Ⅲ層	白磁	皿	—	—	—	—	—	白	透明	透明	中国	12～13c
49	Ⅲ区 SD-01	青磁	碗	—	42	—	—	—	淡灰～灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14～15c
50	Ⅲ区 SD-01	青花	皿？	—	—	—	—	—	濁白＋褐	乳白	乳白	景徳鎮	16c
51	Ⅴ区 Ⅲ層	白磁	碗	—	42	—	—	高台	淡黄白	淡緑黄	淡緑黄	景徳鎮	16c
52	Ⅳ区 SZ-01	白磁	皿	106	47	26	—	高台	粗、淡黄白	淡黄白	淡黄白	景徳鎮	15c
53	Ⅴ区 SD-10	青磁	碗	—	64	—	—	畳付き～高台内面	濁白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	15c
第134図 260	Ⅵ区 SK-111	白磁	皿	—	104	—	砂目積（畳付き）	—	乳白～淡灰白	淡オリーブ灰	淡オリーブ灰	龍泉窯	14～15c
261	Ⅵ区 SR-01	白磁	皿	—	—	—	—	—	淡灰白	淡緑白	淡緑白	中国	14～15c
262	Ⅵ区 SR-01 SZ-03上層	白磁	皿	126	—	—	—	—	淡黄白	淡緑白	淡緑白	中国	15～16c
263	Ⅵ区 SR-01 SZ-03上層	白磁	皿	118	—	—	—	—	白	透明	透明	中国	14c後～15c
264	Ⅵ区 SR-01	白磁	皿	156	97	30	—	—	白	乳白	乳白	景徳鎮	16c
265	Ⅵ区 SD-13	白磁	碗	—	63	—	—	—	淡灰白	乳白	乳白	中国	12～14c
266	Ⅵ区 SD-13	白磁	碗	140	—	—	—	—	淡灰白	乳白	乳白	中国	15c
267	Ⅵ区 SD-13	白磁	皿	100	—	—	—	—	淡黄白	淡黄白	淡黄白	景徳鎮	14c後～15c
268	Ⅵ区 SD-14上層	白磁？	小杯	53	32	30	—	—	白	白 底：淡青白	白	景徳鎮	16c
269	Ⅵ区 SD-16	白磁	皿	—	51	—	—	ほぼ全面	乳白	乳白	乳白	中国	14～15c
270	Ⅵ区 SD-21	白磁	碗	—	58	—	—	高台	乳白	淡灰白	淡灰白	景徳鎮	16c
271	Ⅵ区 SD-26	白磁	皿	—	—	—	—	—	淡黄白	淡黄白	淡黄白	景徳鎮	16c
272	Ⅵ区 SD-31	白磁	皿	—	—	—	—	—	淡灰	淡灰	淡灰	景徳鎮	16c
273	Ⅵ区 SD-42	白磁	皿	102	—	—	—	—	白	淡黄白	淡黄白	景徳鎮	14c後～15c
274	Ⅵ区 SD-50	白磁	皿	113	—	—	—	—	白	乳白	乳白	景徳鎮	14c後～15c
275	Ⅵ区 SD-58	白磁	碗	—	—	—	—	内面 外底	淡灰白	乳白	乳白	中国	12～14c
276	Ⅵ区 SD-62	白磁	皿	—	43	—	—	—	白	乳白～淡黄白	乳白～淡黄白	景徳鎮	14c後～15c
277	Ⅵ区 Ⅲa層	白磁	碗	—	80	—	—	—	白	乳白	乳白	景徳鎮	16c
278	Ⅵ区 Ⅲa層	白磁	皿	108	—	—	—	—	白	白	白	景徳鎮	14c後～15c
279	Ⅵ区 SK-12	白磁	皿	95	—	—	—	外面下半	淡黄白	乳白	乳白	中国	14c後～15c
280	Ⅵ区 SK-34	白磁	小杯	80	—	—	—	—	乳白	乳白	乳白	景徳鎮	15c後～16c

表24　出土遺物観察表（8）　輸入陶磁器（2）

No	出土地	種類	器種	法量（mm）			調整・紋様	露胎	胎土色	釉調		産地	年代・備考
				口径	底径	器高				外面	内面		
第134図 281	Ⅵ区 SK-47	白磁	碗	—	—	—	—	—	白	白	白	中国	14～15c
282	Ⅵ区 SK-69	白磁	八角小杯	—	32	—	—	高台	白	乳白	乳白	景徳鎮	15c後～16c
283	Ⅵ区 SK-70	白磁	皿	98	46	24	切高台	—	淡黄白	淡黄白	淡黄白	中国	被熱 14c後～15c
284	Ⅵ区 SK-79	白磁	皿	87	—	—	—	外面下半	白	白	白	景徳鎮	16c
285	Ⅵ区 SZ-03上層	白磁	八角小杯	—	—	—	—	—	淡黄白	淡黄白	淡黄白	景徳鎮	15～16c
286	Ⅵ区 SZ-03	白磁	碗	133	—	—	—	—	白	乳白	乳白	景徳鎮	16c
287	Ⅵ区 SZ-03	白磁	碗	146	—	—	—	—	白	乳白	乳白	景徳鎮	16c
288	Ⅵ区 SZ-05	白磁	八角小杯	86	—	—	—	外面下半	淡黄白	淡黄白	淡黄白	景徳鎮	15～16c
289	Ⅵ区 SK-112	白磁	皿	120	58	30	内面：釉剥ぎ	外面下半～高台	乳白	淡灰乳～淡緑灰	淡灰乳～淡緑灰	景徳鎮	16c
290	Ⅵ区 SZ-07下PP	白磁	皿	—	50	—	内面：蛇ノ目釉剥ぎ	高台	淡灰白	—	淡灰白	中国	14c後～15c
291	Ⅵ区 SZ-08	白磁	皿	78	—	—	—	—	乳白	乳白	乳白	中国	14c後～15c
292	Ⅵ区 SZ-12	白磁	皿	—	38	—	—	—	淡黄白	淡黄白	淡黄白	中国	14c後～15c
293	Ⅵ区 SZ-16内SD	白磁	皿	—	32	—	—	高台	白	白	白	中国	13～14c前
294	Ⅵ区 SZ-16	白磁	皿	109	45	30	切高台	外面下半～高台	白	淡黄白	淡黄白	中国	焼成不良 14c後～15c
295	Ⅵ区 SZ-16	白磁	皿	126	61	29	内面：釉剥ぎ	外面下半～外底	淡灰白～淡黄褐	淡灰オリーブ	淡灰オリーブ	中国	明代
296	Ⅵ区 SK-118	白磁	加工円盤片？	—	—	—	側面研磨	外面下半	白	白	白	中国	12～13c
297	Ⅵ区 SZ-23	白磁	皿	—	35	—	切高台	高台	乳白	白	白	中国	14c後～15c
298	Ⅵ区 SZ-27	白磁	皿	93	—	—	—	—	乳白	淡黄白	淡黄白	中国	14c後～15c
299	Ⅵ区 SZ-27	白磁	皿	—	—	—	—	—	白	乳白	乳白	中国	14c後～15c
300	Ⅵ区 SZ-28	白磁	皿	119	—	—	—	—	乳白	乳白	乳白	中国	14c後～15c
301	Ⅵ区 SZ-28	白磁	皿	—	48	—	切高台 内面：胎土目積	高台	乳白	乳白	乳白	中国	14c後～15c
302	Ⅵ区 SZ-29	白磁	皿	135	—	—	—	—	乳白	乳白	乳白	景徳鎮	16c
303	Ⅵ区 SZ-29	白磁	皿	95	—	—	—	—	白	白	白	中国	14c後～15c
304	Ⅵ区 SZ-35	白磁	皿	—	—	—	—	—	白	乳白	乳白	景徳鎮	16c
305	Ⅵ区 SZ-35	白磁	碗	146	—	—	—	—	淡灰白	乳白～淡緑白	乳白～淡緑白	中国	被熱 12～13c
306	Ⅵ区 SZ-35	白磁	皿	—	38	—	切高台 内面：胎土目積	高台	乳白	乳白	乳白	中国	14c後～15c
307	Ⅵ区 Ⅲ層	白磁	皿	—	—	—	切高台　内面：釉掻き取り	高台	白～淡黄白	白	白	中国	14c後～15c
308	Ⅵ区 Ⅰ～Ⅲ層	白磁	皿	—	66	—	砂目積	—	白～淡灰白	乳白	乳白	景徳鎮	16c
309	Ⅵ区 Ⅲ層	白磁	皿	108	—	—	—	—	白	乳白	乳白	景徳鎮	16c
310	Ⅵ区〈202〉	白磁	皿	123	—	—	—	—	白	白	白	景徳鎮	16c
311	Ⅵ区〈214〉	白磁	皿	94	—	—	—	—	白	白	白	中国	14c後～15c
312	Ⅵ区〈394〉	白磁	皿	—	—	—	—	—	白	乳白	乳白	中国	14c後～15c
313	Ⅵ区〈767〉	白磁	皿	103	—	—	—	外面下半	淡黄白	乳白	乳白	中国	14c後～15c
314	Ⅵ区〈794〉	白磁	皿	105	—	—	—	外面下半	淡黄白	乳白	乳白	中国	被熱 14c後～15c
315	Ⅵ区〈897〉	白磁	碗	147	—	—	—	—	淡灰～灰	淡灰	淡灰	中国	14c後～15c
316	Ⅵ区〈1035〉	白磁	皿	—	—	—	—	外面下半	淡灰白	乳白	乳白	中国	12～14c前
317	Ⅵ区〈1635〉	白磁	皿	100	50	24	切高台	畳付き	白	淡黄白	淡黄白	中国	14c後～15c
318	Ⅵ区〈1862〉	白磁	八角小杯	—	—	—	—	外面下半	淡黄白	淡黄白	淡黄白	景徳鎮	15～16c
319	Ⅵ区〈2013〉	白磁	八角小杯	73	36	30	切高台	高台	乳白	乳白	乳白	景徳鎮	15～16c
320	Ⅵ区〈2193〉	白磁	皿	117	—	—	—	—	乳白	乳白	乳白	中国	14c後～15c
第135図 321	Ⅵ区〈2327〉	白磁	皿	75	34	30	—	高台	白	乳白	乳白	中国	外底に朱 14c後～15c
322	Ⅵ区〈2866〉	白磁	皿	113	—	—	—	外面下半	白	淡黄白	淡黄白	中国	14c後～15c
323	Ⅵ区〈2920〉	白磁	皿	103	—	—	—	外面下半	乳白	白	白	中国	14c後～15c
324	Ⅵ区 SK-111	白磁	皿	126	—	—	—	—	白～淡灰白	淡オリーブ灰	淡オリーブ灰	中国	15～16c前
325	Ⅵ区 SA-02	青磁	碗	—	—	—	剣先蓮弁文	—	淡灰～灰	淡オリーブ灰	淡オリーブ灰	龍泉窯	15c中～16c初
326	Ⅵ区 SK-111	青磁	碗	—	70	—	見込印花文	高台内面	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c
327	Ⅵ区 SA-05	青磁	稜花型皿	—	—	—	—	—	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	15c後～16c前
328	Ⅵ区 SA-07	青磁	碗	146	—	—	蓮弁文	—	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	15c中～16c初
329	Ⅵ区 SR-01	青磁	碗	—	—	—	剣先蓮弁文	—	淡灰白	淡オリーブ灰	淡オリーブ灰	龍泉窯	15c中～16c初
330	Ⅵ区 SR-01	青磁	碗	—	65	—	—	高台内面	淡灰	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c後～15c前
331	Ⅵ区 SR-01	青磁	碗	149	—	—	雷文帯	—	濁乳白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c中
332	Ⅵ区 PP	青磁	碗	118	—	—	鎬蓮弁文	—	淡灰白	淡灰オリーブ	淡灰オリーブ	龍泉窯	13c後～14c
333	Ⅵ区 SR-01	青磁	皿	—	—	—	雷文帯	—	淡黄	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c末～15c中
334	Ⅵ区 SR-01	青磁	盤	—	163	—	—	—	淡灰～淡橙褐	淡灰オリーブ	淡灰オリーブ	龍泉窯	被熱 14c後～15c中
335	Ⅵ区 SD-14	青磁	碗	—	—	—	剣先蓮弁文	—	淡灰	淡灰オリーブ	淡灰オリーブ	龍泉窯	15c中～16c初

表25　出土遺物観察表（9）　輸入陶磁器（3）

No	出土地	種類	器種	法量（mm）			調整・紋様	露胎	胎土色	釉調		産地	年代・備考
				口径	底径	器高				外面	内面		
第135図 336	Ⅵ区 SD-15 北張出部	青磁	碗	149	—	—	剣先蓮弁文	—	淡灰褐	オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	15c中～16c初
337	Ⅵ区 SK-114	青磁	碗	147	—	—	剣先蓮弁文	—	淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	15c中～16c初
338	Ⅵ区 SD-16	青磁	碗	153	—	—	—	—	淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c後～15c中
339	Ⅵ区 SD-17	青磁	碗	—	—	—	—	—	淡橙褐	オリーブ褐	オリーブ褐	龍泉窯	13～14c
340	Ⅵ区 SD-21	青磁	碗	—	—	—	—	—	暗赤褐	淡灰褐	淡灰褐	龍泉窯	13～14c
341	Ⅵ区 SD-24	青磁	碗	175	—	—	雷文帯	—	淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c中
342	Ⅵ区 SD-21	青磁	碗	—	60	—	—	畳付き～高台内面	暗灰褐～暗橙～淡黄	淡灰オリーブ	淡灰オリーブ	龍泉窯	13～14c
343	Ⅵ区 SK-117	青磁	碗	155	—	—	—	—	橙黄～淡緑灰	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	14c末～15c中
344	Ⅵ区 SD-21	青磁	碗	—	63	—	鎬蓮弁文	外底：淡橙茶	淡灰白～淡黄白	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	13～14c前
345	Ⅵ区 SK-117	青磁	碗	198	—	—	—	—	淡褐	暗緑褐	暗緑褐	龍泉窯	14c末～15c中
346	Ⅵ区 SD-26	青磁	碗	—	—	—	—	—	淡灰白	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	13～14c
347	Ⅵ区 SD-26	青磁	碗	—	—	—	—	—	淡灰	淡灰オリーブ	淡灰オリーブ	龍泉窯	13～14c
348	Ⅵ区 SD-27	青磁	碗	143	—	—	—	—	淡灰白	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c末～15c中
349	Ⅵ区 SD-27	青磁	碗	177	—	—	劃花文？	—	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c中～15c初
350	Ⅵ区 SD-29	青磁	碗	—	58	—	見込印花文	畳付き～外底	淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c
351	Ⅵ区 SD-32	青磁	碗	—	63	—	—	—	灰～淡青灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	13～14c
352	Ⅵ区 SD-37	青磁	盤	—	102	—	—	畳付き～高台内面	淡灰白	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c後～15c中
353	Ⅵ区 SD-39	青磁	碗	—	54	—	見込印花文	高台内面	淡灰白	淡灰オリーブ	淡灰オリーブ	龍泉窯	14c末～15c中
354	Ⅵ区 SD-39	青磁	碗	—	72	—	—	畳付き～外底	灰～淡灰褐	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	15～16c
355	Ⅵ区 SD-39	青磁	皿	102	—	—	蓮弁文	—	淡灰白	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c
356	Ⅵ区 SD-39	青磁？	碗	157	—	—	—	—	淡灰白	淡緑灰～淡灰	淡緑灰～淡灰	龍泉窯	13～14c
357	Ⅵ区 SD-39	青磁	皿	123	63	35	—	内底、畳付き～高台内面	淡灰～灰	淡灰オリーブ	淡灰オリーブ	龍泉窯	被熱 14c
第136図 358	Ⅵ区 SD-48	青磁	碗	—	—	—	鎬蓮弁文	—	淡灰白	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c
359	Ⅵ区 SD-49	青磁	碗	152	—	—	蓮弁文	—	淡灰白	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c中～15c初
360	Ⅵ区 SD-49	青磁	碗	177	—	—	—	—	淡灰褐	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	13～14c
361	Ⅵ区 SD-50	青磁	碗	145	—	—	雷文帯	—	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c中
362	Ⅵ区 SD-50	青磁	碗	—	—	—	櫛描文	—	淡灰	淡オリーブ	淡オリーブ	同安窯	12～13c
363	Ⅵ区 SD-50	青磁	皿	—	—	—	—	—	乳白	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c後～15c前
364	Ⅵ区 SD-57	青磁	碗	118	—	—	—	—	淡灰～淡褐	淡褐～淡黄褐	淡褐～淡黄褐	龍泉窯	14c後～15c前
365	Ⅵ区 SD-63	青磁	皿	127	—	—	—	—	淡灰白～淡黄褐	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14～15c
366	Ⅵ区 SD-64	青磁	碗	174	—	—	印花文	—	淡褐～淡黄白	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c中～15c初
367	Ⅵ区 SK-13	青磁	碗	—	51	—	—	畳付き	淡灰褐	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	13～14c
368	Ⅵ区 SK-37PP	青磁	碗	160	—	—	—	—	淡灰～淡灰褐	淡灰オリーブ	淡灰オリーブ	龍泉窯	被熱 13～14c
369	Ⅵ区 SK-38	青磁	碗	—	—	—	剣先蓮弁文 漆継痕	—	淡灰白	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	15c後～16c初
370	Ⅵ区 SK-70	青磁	碗	147	—	—	剣先蓮弁文	—	淡灰～灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	15c中～16c前
371	Ⅵ区 SK-76	青磁	碗	—	61	—	蓮弁文	外底	乳白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	砂目痕 14c
372	Ⅵ区 SZ-03	青磁	碗	142	—	—	—	—	灰～茶褐	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c
373	Ⅵ区 SZ-05東端	青磁	碗	165	—	—	雷文帯	—	灰～淡紫灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c中
374	Ⅵ区 SZ-03	青磁	盤	261	—	—	—	—	淡灰白～淡黄白	淡オリーブ褐	淡オリーブ褐	龍泉窯	14c後～15c中
375	Ⅵ区 SZ-04	青磁	碗	—	—	—	—	—	暗茶褐	透明(暗茶褐)	透明(暗茶褐)	龍泉窯	14c後～15c
376	Ⅵ区 SZ-05	青磁	盤	255	—	—	—	—	淡灰	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c後～15c
377	Ⅵ区 SZ-08下PP	青磁	碗	137	—	—	雷文帯	—	淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c中
378	Ⅵ区 SZ-08	青磁	碗	—	47	—	見込印花文	畳付き～外底	淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c
379	Ⅵ区 SZ-08下PP	青磁	碗	—	55	—	見込印花文	—	淡灰	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c末～15c
380	Ⅵ区 SZ-13	青磁	碗	—	—	—	—	—	淡灰～淡灰褐	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c末～15c
381	Ⅵ区 SZ-12	青磁	碗	146	50	53	剣先蓮弁文	—	灰～灰褐	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	15c後～16c前
382	Ⅵ区 SZ-16	青磁	碗	148	—	—	—	—	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	15c後～16c前
383	Ⅵ区 SZ-16	青磁	碗	129	—	—	雷文帯	—	淡灰白	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c末～15c中
384	Ⅵ区 SZ-17 南西隅PP	青磁	碗	143	—	—	蓮弁文	—	淡灰白	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c中～15c初
385	Ⅵ区 SK-118	青磁	碗	—	—	—	—	—	灰～灰褐	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c末～15c
386	Ⅵ区 SK-118	青磁	皿	—	54	—	—	高台	淡灰白	緑白～青白	緑白～青白	龍泉窯	14c末～15c中
387	Ⅵ区 SK-118	青磁	皿	—	—	—	—	—	淡灰～淡橙	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	15～16c前
第137図 388	Ⅵ区 SZ-21	青磁	碗	158	—	—	雷文帯	—	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c中
389	Ⅵ区 SZ-23	青磁	碗	154	—	—	劃花文	—	淡灰～灰	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	12～13c
390	Ⅵ区 SZ-26	青磁	碗	146	—	—	—	外面	灰～暗褐	淡オリーブ灰	淡オリーブ灰	龍泉窯	14c末～15c前

表26　出土遺物観察表（10）　輸入陶磁器（4）

No	出土地	種類	器種	法量（mm）			調整・紋様	露胎	胎土色	釉調		産地	年代・備考
				口径	底径	器高				外面	内面		
第137図 391	Ⅵ区 SZ-27	青磁	碗	170	—	—	—	—	淡灰	緑灰～暗緑褐	緑灰～暗緑褐	龍泉窯	14c後～15c前
392	Ⅵ区 SZ-27	青磁	碗	140	—	—	雷文帯	—	淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c中
393	Ⅵ区 SZ-28	青磁	碗	145	—	—	蓮弁文	—	淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c中
394	Ⅵ区 SZ-29	青磁	碗	—	—	—	雷文帯	—	淡黄～淡黄白	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c末～15c中
395	Ⅵ区 SZ-29	青磁	碗	—	62	—	—	高台内面～外底	淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c前
396	Ⅵ区 SZ-29	青磁	皿	120	58	33	—	外面下半～外底	乳白	淡青白～淡オリーブ	淡青白～淡オリーブ	龍泉窯	15～16c
397	Ⅵ区 SZ-30	青磁	碗	179	—	—	—	—	淡灰白～淡黄	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c
398	Ⅵ区〈2336〉	青磁	碗	—	60	—	見込印花文	高台内面	淡灰	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c末～15c
399	Ⅵ区 SZ-35	青磁	碗	131	—	—	—	—	淡灰白	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c末～15c中
400	Ⅵ区 SZ-35	青磁	碗	180	—	—	雷文帯	—	淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c中
401	Ⅵ区 SZ-35	青磁	碗	142	—	—	—	—	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c前
402	Ⅵ区 SZ-35	青磁	碗	138	—	—	剣先蓮弁文	—	淡灰褐	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c後～15c中
403	Ⅵ区 SZ-35	青磁	碗	—	57	—	見込印花文	高台内面	淡橙	淡黄緑	淡黄緑	龍泉窯	14c末～15c
404	Ⅵ区 Ⅰ～Ⅲ層	青磁	碗	—	—	—	—	—	淡灰白	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	13～14c
405	Ⅵ区 Ⅰ～Ⅲ層	青磁	碗	153	—	—	剣先蓮弁文	—	灰～暗灰	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	15c中～16c初
406	Ⅵ区 Ⅱ～Ⅲ層	青磁	碗	—	58	—	—	—	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c前
407	Ⅵ区 Ⅰ～Ⅲ層	青磁	盤	—	77	—	—	—	淡褐～淡橙	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	14c後～15c中
408	Ⅵ区 Ⅱ層	青磁	碗	—	—	—	剣先蓮弁文	—	白	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14～15c
409	Ⅵ区 Ⅲ層	青磁	碗	—	—	—	雷文帯	—	淡灰白	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	14c末～15c中
410	Ⅵ区 Ⅲ層	青磁	皿	124	—	—	—	—	灰～淡灰	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	15～16c前
411	Ⅵ区〈189〉	青磁	碗	137	—	—	剣先蓮弁文	—	淡灰～淡灰褐	淡灰オリーブ	淡灰オリーブ	龍泉窯	15c中～16c初
412	Ⅵ区〈205〉	青磁	碗	—	81	—	—	高台内面～外底	淡灰白	淡灰オリーブ	淡灰オリーブ	龍泉窯	14c末～15c
413	Ⅵ区〈421〉	青磁	碗	—	56	—	剣先蓮弁文	—	淡灰白	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	15c中～16c初
414	Ⅵ区〈587〉	青磁	碗	—	—	—	剣先蓮弁文	—	淡灰白	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	15c中～16c初
415	Ⅵ区〈612〉	青磁	碗	160	—	—	雷文帯	—	濁乳白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c中
416	Ⅵ区〈818〉東端PP	青磁	稜花型皿	—	—	—	—	内面一部	淡褐	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	15c中～末
417	Ⅵ区〈857〉	青磁	盤	—	93	—	見込印花文	外底	淡灰白～淡黄褐	暗オリーブ	暗オリーブ	龍泉窯	14c末～15c前
418	Ⅵ区〈1253〉	青磁	碗	144	—	—	剣先蓮弁文	—	淡黄白～乳白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	15c中～16c初
第138図 419	Ⅵ区〈1262〉	青磁	碗	—	68	—	見込印花文 外底：釉剥ぎ	—	淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c
420	Ⅵ区〈1673〉	青磁	皿	124	—	—	—	—	淡灰白	淡灰オリーブ	淡灰オリーブ	龍泉窯	15～16c前
421	Ⅵ区〈1673〉	青磁	碗	147	—	—	—	—	淡灰褐～淡褐	淡オリーブ褐	淡オリーブ褐	龍泉窯	14～15c
422	Ⅵ区〈1693〉	青磁	碗	—	51	—	剣先蓮弁文	畳付き～高台内面	灰～淡青灰	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	15c中～16c初
423	Ⅵ区〈1802〉	青磁	碗	—	59	—	—	—	灰～暗褐	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c
424	Ⅵ区〈1937〉	青磁	碗	118	—	—	雷文帯	—	乳白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c中
425	Ⅵ区〈1990〉	青磁	碗	—	—	—	—	—	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	15c中～末
426	Ⅵ区〈2266〉	青磁	盤	—	100	—	畳付き：胎土目積	外底	灰～淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c後～15c中
427	Ⅵ区〈2867〉	青磁	碗	—	50	—	見込印花文	高台内面	淡灰～灰	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	14c末～15c
428	Ⅵ区〈2945〉	青磁	碗	118	—	—	—	—	淡灰白	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	13～14c
429	Ⅵ区〈9507〉	青磁	碗	—	48	—	—	高台内底	淡灰	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	14c末～15c前
430	Ⅵ区 排土	青磁	碗	—	59	—	見込印花文	外底	灰	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	14c末～15c
431	Ⅵ区 SZ-29	陶器	天目茶碗	114	—	—	—	—	淡灰白～淡黄白	暗黄茶～淡黒褐	暗黄茶～淡黒褐	中国	15c
432	Ⅵ区 SA－02	青花	皿	97	—	—	—	—	淡黄白	淡黄白・淡紺	淡黄白・淡紺	福建・広東系	16c前～中
433	Ⅵ区 SD-11	青花	皿	—	52	—	—	—	淡灰白	乳白・紺	乳白・紺	福建・広東系	15c末～16c
434	Ⅵ区 SD-11	青花	皿	99	50	30	—	高台内面～外底	淡黄白	淡緑黄・淡紺	淡緑黄・淡紺	福建・広東系	15c末～16c 496と同一個体
435	Ⅵ区 SR-01	青花	碗	—	—	—	—	—	白	白	白	景徳鎮	16c前～中
436	Ⅵ区 SR-01	青花	碗	—	—	—	—	—	淡灰白～淡灰	淡緑灰・紺	淡緑灰・紺	景徳鎮	16c前～中
437	Ⅵ区 SR-01	青花	碗	—	—	—	—	—	淡灰～淡灰白	淡灰乳	淡灰乳	景徳鎮	16c前～中
438	Ⅵ区 SZ-03	青花	碗	152	—	—	—	—	淡灰～淡灰白	淡灰乳	淡灰乳	景徳鎮	16c前～中
439	Ⅵ区 SR-01	青花	皿	—	45	—	—	畳付き～外底	淡黄	淡黄～淡青黄・紺	淡黄～淡青黄・紺	福建・広東系	16c前～中 外底に朱墨
440	Ⅵ区 SR-01	青花	皿	—	79	—	—	畳付き	白	乳白・淡紺	乳白・淡紺	景徳鎮	16c前～中
441	Ⅵ区 SR-01	青花	皿	—	—	—	—	—	白	乳白・淡紺	乳白・淡紺	福建・広東系	16c前
442	Ⅵ区 SR-01	青花	皿	—	58	—	砂目積	—	白	乳白・紺	乳白・紺	景徳鎮	16c
443	Ⅵ区 SD-13	青花	碗	—	—	—	—	—	白	乳白・紺	乳白・紺	景徳鎮	16c前～中
444	Ⅵ区 SD-13	青花	碗	135	—	—	—	—	白	乳白	乳白	景徳鎮	16c後～17c初
445	Ⅵ区 SR-01	青花	皿	—	—	—	—	高台	淡灰白	乳白・紺	乳白・紺	景徳鎮	16c

表27　出土遺物観察表（11）　輸入陶磁器（5）

No	出土地	種類	器種	法量（mm）			調整・紋様	露胎	胎土色	釉調		産地	年代・備考
				口径	底径	器高				外面	内面		
第138図 446	Ⅵ区 SD-57	青花	合子	78	—	—	—	口唇	白	紺	紺	景徳鎮	16c末～17c初
447	Ⅵ区 SD-13 上層	青花	合子	78	—	—	—	口唇	乳白	淡緑白・紺	透明	景徳鎮	16c末～17c初
448	Ⅵ区 SD-13	青花	皿	—	117	—	—	畳付き～高台内面	乳白	淡青白～紺	淡青白～紺	景徳鎮	16c前～中
449	Ⅵ区 SD-14	青花	皿	100	—	—	—	—	白	淡青白・紺	淡青白・紺	景徳鎮	16c中～末
450	Ⅵ区 SD-14	青花	皿	118	—	—	—	—	淡黄白	乳白・紺	乳白・紺	景徳鎮	16c前～中
451	Ⅵ区 SK-114	青花	皿	107	53	30	碁笥底	外面下半～外底	淡黄～淡褐	淡黄・淡紺	淡黄・淡紺	福建・広東系	16c前～中
452	Ⅵ区 SD-18	青花	皿	122	—	—	—	—	淡黄褐	淡黄褐	淡黄褐	福建・広東系	16c
453	Ⅵ区 SR-01	青花	皿	112	—	—	—	外面下部	淡黄白	淡緑黄・暗緑	淡緑黄・暗緑	福建系	16c後
454	Ⅵ区 SK-15	青花	碗	—	—	—	—	—	淡灰黄	乳白・紺	乳白・紺	景徳鎮	15c末～16c中
455	Ⅵ区 SK-43	青花	皿	—	—	—	—	—	淡黄	乳白・紺	乳白・紺	福建系	16c後
456	Ⅵ区 SK-69	青花	皿	142	—	—	—	—	白	紺	紺	景徳鎮	16c後
第139図 457	Ⅵ区 SK-74	青花	碗	—	—	—	暗花文	—	白	紺・白	紺・白	景徳鎮	16c後～17c初
458	Ⅵ区 SK-111	青花	碗	—	—	—	—	—	乳白	乳白・紺	乳白・紺	福建系	16c後
459	Ⅵ区 SK-111	青花	碗	—	—	—	—	—	白	淡青白・紺	淡青白・紺	景徳鎮	16c
460	Ⅵ区 SK-111	青花	皿	123	—	—	—	—	淡黄～淡橙桃	淡黄	淡黄	福建・広東系	16c後～17c初
461	Ⅵ区 SK-117	青花	碗	—	—	—	—	—	濁乳白	紺	紺	景徳鎮	16c前
462	Ⅵ区 SZ-03	青花	碗	114	—	—	—	—	淡黄白	淡黄灰	淡黄灰	福建・広東系	16c
463	Ⅵ区 SZ-03	青花	碗	131	—	—	暗花文	—	白	乳白・淡紺	乳白・淡紺	景徳鎮	16c後
464	Ⅵ区 SZ-03 北端下PP	青花	碗	—	49	—	—	—	乳白	淡青白・紺	淡青白・紺	景徳鎮	16c
465	Ⅵ区 SZ-03	青花	皿	—	30	—	碁笥底 漆継痕	高台～外底	白	淡青白・紺	淡青白・紺	景徳鎮	16c前～中
466	Ⅵ区 SZ-04	青花	碗	—	—	—	—	—	白	白・紺	白・紺	景徳鎮	16c前～中
467	Ⅵ区 SZ-04	青花	皿	—	67	—	—	—	白	乳白・紺	乳白・紺	景徳鎮	16c前～中
468	Ⅵ区 SZ-08	青花	碗	125	—	—	—	—	白	乳白・紺	乳白・紺	景徳鎮	16～17c初
469	Ⅵ区 SZ-08	青花	皿	45	—	—	碁笥底	高台	乳白～淡黄白	乳白・紺	乳白・紺	福建・広東系	16c 815と同一個体
470	Ⅵ区 SZ-08	青花	皿	—	—	—	—	—	淡灰白	淡黄白・紺	淡黄白・紺	福建・広東系	16c前～中
471	Ⅵ区 SZ-10	青花	碗	—	—	—	—	—	白	乳白・紺	乳白・紺	景徳鎮	被熱 16c
472	Ⅵ区 SZ-11	青花	皿	—	—	—	—	—	淡黄白	淡黄・紺	淡黄・紺	景徳鎮	15c末～16c中
473	Ⅵ区 SZ-12	青花	皿	—	49	—	碁笥底	高台内面～外底	乳白	淡青白・紺	淡青白・紺	福建・広東系	16c
474	Ⅵ区 SZ-12	青花	碗	—	53	—	—	畳付き	淡灰白	淡青白・紺	淡青白・紺	景徳鎮	16c前～中
475	Ⅵ区 SB-05	青花	皿	143	—	—	—	—	淡黄	淡黄・紺	淡黄・紺	福建・広東系	16c前～中
476	Ⅵ区 SZ-16	青花	皿	109	70	27	碁笥底	畳付き	白	紺・乳白	紺・乳白	景徳鎮	16c後～17c初
477	Ⅵ区 SZ-16	青花	皿	—	—	—	碁笥底	—	白	紺・乳白	紺・乳白	景徳鎮	16c後～17c初
478	Ⅵ区 SZ-21、〈207〉	青花	碗	—	60	—	—	畳付き～高台内面	濁乳白	乳白・紺	乳白・紺	景徳鎮	16c前～中
479	Ⅵ区〈2746〉	青花	碗	—	—	—	—	—	乳白	紺	紺	景徳鎮	15c末～16c中
480	Ⅵ区 SZ-35	青花	碗	154	—	—	—	—	乳白	紺	紺	景徳鎮	被熱 15c末～16c中
481	Ⅵ区 SZ-35	青花	碗	—	—	—	蕉葉文	—	白	紺	紺	景徳鎮	16c前
482	Ⅵ区 SZ-35	青花	皿	102	42	27	碁笥底	畳付き～外底	淡黄白～淡橙	淡紺	淡紺	福建・広東系	16c中～末
483	Ⅵ区 SZ-35	青花	皿	—	—	—	—	—	白	淡紺	淡紺	景徳鎮	16c前～中
484	Ⅵ区〈180〉	青花	碗	124	—	—	—	—	白	乳白・紺	乳白・紺	景徳鎮	15c末～16c中
485	Ⅵ区〈210〉	青花	碗	139	—	—	—	—	白	乳白・紺	乳白・紺	景徳鎮	16c前～中
486	Ⅵ区〈212〉 南端PP	青花	碗	—	49	—	—	高台～外底	乳白	淡青白・淡紺	淡青白・淡紺	景徳鎮	被熱 16c
487	Ⅵ区〈421〉	青花	皿	100	—	—	—	—	乳白	淡青白・淡紺	淡青白・淡紺	景徳鎮	16c中～末
488	Ⅵ区〈803〉	青花	碗	115	—	—	—	—	白	淡紺	淡紺	福建系	16c
第140図 489	Ⅵ区〈821〉	青花	碗	—	—	—	—	—	白	紺	紺	景徳鎮	17c前
490	Ⅵ区〈992〉	青花	碗	143	—	—	—	—	淡灰白～白	乳白・紺	乳白・紺	景徳鎮	16c前
491	Ⅵ区〈1048〉	青花	碗	131	—	—	—	—	白	紺	紺	景徳鎮	文様不鮮明 15c末～16c中
492	Ⅵ区〈1916〉	青花	皿	—	—	—	—	—	乳白	淡紺	淡紺	景徳鎮	16c前
493	Ⅵ区〈1981〉	青花	碗	153	—	—	暗花文	—	乳白	紺	紺	景徳鎮	16c後
494	Ⅵ区〈2818〉	青花	碗	—	—	—	—	—	白	紺	紺	景徳鎮	16c後
495	Ⅵ区 Ⅰ～Ⅲ層	青花	皿	—	—	—	—	—	淡灰白	紺	紺	景徳鎮	16c
496	Ⅵ区 Ⅰ～Ⅲ層	青花	皿	101	—	—	—	—	淡黄	淡緑黄	淡緑黄	福建・広東系	16c 434と同一個体
497	Ⅵ区 Ⅱ層	青花	皿	—	—	—	—	—	淡灰白	淡青白	淡青白	景徳鎮	16c
498	Ⅵ区 Ⅲ層	青花	碗	—	—	—	—	—	淡灰～淡褐	淡黄・紺	淡青白	景徳鎮	16c
499	Ⅵ区 Ⅲ層	青花	小杯	—	—	—	—	—	白	乳白	乳白	景徳鎮	16c
500	Ⅵ区 Ⅱ～Ⅲ層	青花	皿	135	—	—	—	—	白	乳白・紺	乳白・紺	景徳鎮	17c前

表28　出土遺物観察表（12）　輸入陶磁器（6）

No	出土地	種類	器種	法量（mm）			調整・紋様	露胎	胎土色	釉調		産地	年代・備考
				口径	底径	器高				外面	内面		
第140図 501	Ⅵ区 Ⅲ層	青花	皿	—	80	—	—	畳付き	白	淡青白・紺	淡青白・紺	景徳鎮	16c
502	Ⅵ区 Ⅲ層	青花	皿	—	68	—	見込竜文	畳付き	白	乳白・紺	乳白・紺	景徳鎮	16c後～17c初
503	Ⅵ区 SD-13	褐釉陶器	壷	—	—	—	—	—	淡灰	暗茶灰～暗茶褐	橙褐	中国	14～16c
504	Ⅵ区 SD-18	褐釉陶器	壷	—	—	—	—	—	淡黄白	黒褐	暗灰紫	中国	14～16c
505	Ⅵ区 SD-61	褐釉陶器	壷	—	—	—	—	内面	橙～淡橙	暗褐～茶褐	暗褐～茶褐	中国	14～16c
506	Ⅵ区 SZ-32	褐釉陶器	壷	—	—	—	—	内面	橙～淡橙	暗褐～茶褐	暗褐～茶褐	中国	14～16c
507	Ⅵ区 Ⅱ層	褐釉陶器	壷	98	—	—	—	—	淡黄白	茶褐	暗紫褐～暗紫灰	中国	明代
508	Ⅵ区 SZ-12	褐釉陶器	壷	—	—	—	—	—	淡黄褐	茶～暗茶	暗紫	中国	14～16c
509	Ⅵ区〈2552〉	褐釉陶器	壷	—	—	—	—	—	暗灰～紫灰	淡黒褐	暗茶褐	中国	14～16c
510	Ⅵ区 SR-01	褐釉陶器	壷類	—	—	—	—	—	橙褐	暗灰褐	暗灰褐	中国	14～16c
第172図 756	Ⅶ区 SD-07	白磁	皿	98	—	—	—	内面下半	淡灰白	乳白	乳白	中国	16c
757	Ⅶ区 SR-01	白磁	皿	109	—	—	—	—	乳白	乳白	乳白	景徳鎮	14c後～15c
758	Ⅶ区 SD-07	白磁	皿	—	66	—	—	畳付き～高台内面	乳白	乳白	乳白	景徳鎮	16c
759	Ⅶ区 SZ-06	白磁	八角坏	102	—	—	—	—	淡黄白	淡黄白	淡黄白	景徳鎮	15c後～16c
760	Ⅶ区 SD-07	白磁	皿	124	—	—	—	外底	淡灰白	淡灰乳	淡灰乳	中国	16c
761	Ⅶ区 SZ-06	白磁	皿	—	61	—	内面：釉剥ぎ	外面下半～外底	乳白	乳白	乳白	景徳鎮	16c
762	Ⅶ区 北端Ⅲ層	白磁	八角小杯	—	—	—	—	—	乳白	白	白	中国	15c後～16c
763	Ⅷ区 Ⅲ層	白磁	碗	—	—	—	—	—	淡黄白	淡緑白	淡緑白	中国	12～13c
764	Ⅶ区 Ⅲ層	白磁？	碗	—	—	—	—	外面下半	淡灰～淡褐	淡灰	淡灰	中国	12～13c
765	Ⅶ区 Ⅲ層	白磁	皿	123	—	—	—	—	灰～淡灰	淡灰白	淡灰白	中国	14～15c
766	Ⅶ区 Ⅲ層	白磁	皿	74	—	—	—	—	白	乳白・見込淡灰色	乳白・見込淡灰色	中国	14c後～15c
767	Ⅶ区 Ⅲ層	白磁	皿	113	—	—	—	高台外面	乳白～淡黄白	淡黄白	淡黄白	中国	15c
768	Ⅶ区 Ⅲa層	白磁	碗	178	—	—	—	外面下半	白	乳白	乳白	中国	12～14c
769	Ⅶ区 北西落ち込み	白磁	皿	—	38	—	切高台 内面：胎土目積	畳付き	乳白	淡黄白	淡黄白	中国	14c後～15c
770	Ⅶ区 Ⅲ層	白磁	皿	—	46	—	切高台 内面：胎土目痕	—	淡黄白	淡黄白	淡黄白	中国	14c後～15c
771	Ⅶ区 北西部Ⅲa層	白磁	皿	—	44	—	—	外面下半～外底	乳白	乳白	乳白	景徳鎮	16c
772	Ⅶ区 Ⅲa層	白磁	皿	124	78	28	—	畳付き	白	乳白	乳白	景徳鎮	被熱 16c
773	Ⅶ区 Ⅲa層	白磁	皿	102	—	—	—	—	淡黄白	淡黄白	淡黄白	中国	15c
774	Ⅶ区 北西落ち込み	白磁	皿	98	—	—	—	—	白	白～緑白	白～緑白	中国	14c後～15c
775	Ⅶ区 SA-02	青磁	碗	—	—	—	劃花文	—	淡灰褐	暗オリーブ	暗オリーブ	龍泉窯	12～13c
776	Ⅶ区 東側SB群PP内	青磁	碗	187	—	—	—	外底	淡褐～乳白（底部）	緑褐	緑褐	中国	14c末～15c
777	Ⅶ区 SD-01	青磁	碗	—	70	—	—	内底 外底	淡褐	緑褐	緑褐	中国	14c末～15c
778	Ⅶ区 北東部Ⅲa層	青磁	小杯	71	31	38	—	畳付き～外底	淡灰白	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	15c
779	Ⅶ区 SD-07東端	青磁	碗	159	—	—	蓮弁文	—	乳白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	15c
780	Ⅶ区 SD-07東端から3～4m	青磁	碗	155	—	—	雷文帯	—	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c後～15c中
781	Ⅶ区 SD-03	青磁	碗	—	—	—	印花文	—	淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	13～14c
782	Ⅶ区 SD-07	青磁	碗	—	—	—	印花文	—	淡灰～灰	暗オリーブ	暗オリーブ	龍泉窯	13～14c
783	Ⅶ区 SD-07東端から3～4m	青磁	碗	—	—	—	剣先蓮弁文	—	灰	淡灰	淡灰	龍泉窯	15～16c
784	Ⅶ区 SD-07	青磁	碗	—	50	—	—	畳付き～外底	淡灰褐	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c後～15c中
785	Ⅶ区 SZ-06	青磁	碗	—	—	—	雷文帯	—	淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c中
786	Ⅶ区 SZ-06	青磁	碗	—	—	—	—	—	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c後～15c前
787	Ⅶ区 SZ-06	青磁	皿	—	—	—	—	外面下半	淡灰	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	14～15c
788	Ⅶ区 SZ-06	青磁	大皿	269	178	44	内面：沈線	外底	淡灰～灰	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	15～16c
789	Ⅶ区 SZ-06	青磁	碗	—	61	—	見込印花文	高台内面～外底	淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c後～15c前
790	Ⅶ区 SZ-06	青磁	鉢？	123	—	—	剣先蓮弁文	—	淡灰白	淡オリーブ灰	淡オリーブ灰	龍泉窯	13c後～14c
791	Ⅶ区 Ⅱ層	青磁	碗	—	70	—	内面：胎土目積	畳付き～外底	淡青灰～灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	被熱 14c末～15c中
792	Ⅶ区 Ⅲ層	青磁	碗	150	—	—	内面の文様は不明瞭	—	淡灰	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	14c後～15c中
793	Ⅶ区 Ⅱ層	青磁	碗	—	53	—	見込印花文	—	灰～淡青灰	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	14c末～15c
794	Ⅶ区 Ⅲ層	青磁	碗	—	—	—	雷文帯	—	淡灰	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	14c末～15c中
795	Ⅶ区 Ⅲ層	青磁	碗	137	—	—	剣先蓮弁文	—	淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	13c後～14c
第173図 796	Ⅶ区 Ⅲ層	青磁	碗	193	—	—	鎬蓮弁文	—	淡灰～灰	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	13c後～14c中
797	Ⅶ区 Ⅲ層	青磁	碗	150	—	—	雷文帯	—	淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c後～15c中
798	Ⅶ区 Ⅲ層	青磁	碗	—	50	—	—	畳付き～外底	淡灰～淡灰褐	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c後～15c前
799	Ⅶ区 Ⅲ層	青磁	盤	246	—	—	内面に蓮弁	—	淡灰～淡橙褐	緑褐	緑褐	龍泉窯	14c後～15c中
800	Ⅶ区 Ⅲ層	青磁	香炉	102	—	—	—	—	淡灰	褐	褐	龍泉窯	14c後～15c中

表29　出土遺物観察表（13）　輸入陶磁器（7）

No	出土地	種類	器種	法量（mm）			調整・紋様	露胎	胎土色	釉調		産地	年代・備考
				口径	底径	器高				外面	内面		
第173図 801	Ⅶ区 Ⅲ層	青磁	瓶壺類	—	30	—	畳付き：胎土目積	内面	淡黄～淡灰白	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	13～14c
802	Ⅶ区 Ⅲa層	青磁	碗	215	—	—	—	—	淡灰～淡灰褐	淡灰オリーブ	淡灰オリーブ	龍泉窯	13～14c前
803	Ⅶ区 Ⅲa層	青磁	碗	—	—	—	蓮弁文	—	淡灰白～淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	14c末～15c
804	Ⅶ区 Ⅲa層	青磁	稜花型皿	129	—	—	—	—	淡灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	15c中～16c前
805	Ⅶ区 北端Ⅲ層	青磁	碗	168	—	—	—	—	淡灰褐	淡オリーブ	淡オリーブ	龍泉窯	15c中～16c初
806	Ⅶ区 SD-07	青花	小杯	67	—	—	—	—	白	紺	紺	中国	16c末～17c前
807	Ⅶ区 SD-07	青花	碗	—	—	—	—	—	白	淡紺	淡紺	景徳鎮	16c後
808	Ⅶ区 SD-07	青花	碗	130	—	—	—	—	淡灰白	紺	紺	景徳鎮	16c
809	Ⅶ区 SD-07 東端	青花	碗	124	—	—	—	—	乳白	淡紺	淡紺	景徳鎮	16c
810	Ⅶ区 SD-07	青花	碗	122	—	—	—	—	白	紺	紺	景徳鎮	16c
811	Ⅶ区 SD-07	青花	碗？	—	—	—	—	—	白	紺	紺	景徳鎮	16c後
812	Ⅶ区 SD-07	青花	皿	117	—	—	—	—	乳白～淡橙褐	暗緑・乳白	暗緑・乳白	福建・広東系	16c後
813	Ⅶ区 SD-07	青花	皿	175	—	—	—	—	白	淡紺～紺	淡紺～紺	景徳鎮	16c後
814	Ⅶ区 SD-07	青花	皿	—	80	—	—	—	白	淡紺	淡紺	景徳鎮	16c
815	Ⅶ区 SD-07	青花	皿	—	46	—	碁笥底	外底	乳白	淡紺	淡紺	福建・広東系	16c 470と同一個体
816	Ⅶ区 SD-07	青花	皿	—	136	—	—	畳付き	淡灰白	紺	紺	景徳鎮	16c
817	Ⅶ区 Ⅲ層	青花	碗	150	—	—	—	—	白	紺	紺	景徳鎮	16c
818	Ⅶ区 Ⅲa層	青花	碗	120	—	—	—	—	白	紺	紺	景徳鎮	16c
819	Ⅶ区 Ⅲa層	青花	碗	—	—	—	—	—	淡黄白	淡赤褐	淡赤褐	景徳鎮	16c
820	Ⅶ区 Ⅲa層	青花	皿	—	35	—	碁笥底	外面下半～外底	淡黄	淡黄褐	淡黄褐	福建・広東系	16c後～17c初
821	Ⅶ区 Ⅲa層	青花	皿	—	—	—	碁笥底	—	淡黄白	淡黄	淡黄	福建・広東系	16c
822	Ⅶ区 Ⅲa層	青花	皿	—	—	—	—	—	白	紺	紺	景徳鎮	16c
823	Ⅶ区 北端中央撹乱	青花	皿	—	70	—	—	畳付き	白	紺	紺	景徳鎮	16c末～17c初
824	Ⅶ区 Ⅲ層	褐釉陶器	天目茶碗	—	—	—	—	外面下半	暗灰～灰	淡黒褐	淡黒褐	中国	14～16c
825	Ⅶ区 Ⅲa層	褐釉陶器	甕？	—	—	—	—	—	淡茶灰～淡橙褐	淡黒褐	淡茶黄	中国	14～16c
826	Ⅶ区 SD-07 東端	褐釉陶器	甕	—	—	—	—	内面	淡黄～淡灰黄	暗茶褐	暗茶褐	中国	14～16c
827	Ⅶ区 北端Ⅲ層	褐釉陶器	壷	—	—	—	—	—	橙～淡橙	暗褐	橙褐	中国	14～16c
第188図 938	Ⅷ区 Ⅲ層	白磁	皿	94	40	22	—	畳付き	乳白	乳白	乳白	中国	15c
934	Ⅷ区 Ⅲ層	鉄釉陶器	碗	119	—	—	漆継痕	外面下半	淡黄褐	紺～青黒	紺～青黒	中国	14～15c
935	Ⅷ区 Ⅲ層	青磁	碗	175	—	—	—	—	淡灰～灰	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	14c後～15c 中
936	Ⅷ区 Ⅲ層	青磁	碗	—	—	—	内面：陽刻文	—	淡灰	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	14c後～15c 中
937	Ⅸ区 SD-01	青磁	碗	187	—	—	鎬蓮弁文	—	淡灰～灰	オリーブ	オリーブ	龍泉窯	13～14c中
938	Ⅸ区 SD-01	青磁	稜花型皿	114	56	28	—	内底	淡灰～灰	オリーブ灰	オリーブ灰	龍泉窯	15c中～16c前

表30　出土遺物観察表（14）　近世国産陶磁器（1）

No	出土地	種類	器種	法量（mm）			調整・紋様	露胎	胎土色	釉調		産地	年代・備考
				口径	底径	器高				外面	内面		
第50図 54	2 Tre Ⅱ層	陶器	碗	—	—	—	—	—	暗褐	淡黄	淡茶褐	熊本	18c
55	2 Tre Ⅱ層	染付	端反り碗	108	—	—	—	—	乳白	紺、透明	紺、透明	肥前系	19c前
56	2 Tre Ⅱ層	陶器	鉢か片口	251	—	—	—	—	暗褐～褐灰	暗緑～淡黄	淡黄～緑～暗緑	福岡～中国地方 上野、岩見	18c後～19c
57	2 Tre Ⅱ層	陶器	鉢	—	—	—	—	—	暗橙褐～褐	黒褐	暗茶褐	薩摩	18～19c前
58	2 Tre Ⅱ層	陶器	徳利	—	—	—	—	—	淡灰褐	暗茶褐	暗茶褐	福岡か	18c後～19c
59	4 Tre Ⅱ層	陶器	碗	114	—	—	—	—	淡灰白	オリーブ灰	オリーブ灰	南九州	18c後～19c
60	Ⅱ区 Ⅱ層	染付	碗	118	—	—	—	—	白	乳白、紺	乳白、紺	肥前	18c
61	Ⅱ区 Ⅱ層	青磁染付	碗	—	40	—	砂目積（畳付き）	—	淡灰白	淡オリーブ	乳白、淡紺	肥前	18c後
62	Ⅱ区 Ⅱ層	陶器	灯明皿	80	—	—	—	—	淡茶橙	淡緑黄	淡緑黄	肥前か	17c後～18c
63	Ⅱ区 Ⅱ～Ⅲ′層	陶器	瓶	—	—	—	—	—	暗褐	暗灰褐～暗茶褐	暗茶	薩摩か肥前	16c末～17c初
64	Ⅱ区 Ⅱ層	陶器	鉢	—	107	—	貝目積	外底一部	暗紫褐	暗緑	暗青黒	薩摩	17c
65	Ⅱ区 Ⅱ層	陶器	擂鉢	—	—	—	—	—	淡橙茶	暗褐～橙褐	暗褐～橙	肥前	17c中～後
66	Ⅲ区 Ⅱ層	染付	皿	—	—	—	—	—	白	乳白	乳白	肥前か	18c代
67	Ⅱ区 Ⅱ層	染付	碗	118	—	—	—	—	白	紺、透明	紺、透明	肥前系、呉須	19c初～幕末
68	Ⅳ区 Ⅰ～Ⅲ層	陶器	蝋燭立て	—	35	—	—	—	淡褐	暗茶	暗茶	福岡か	19c
69	Ⅴ区 Ⅱ～Ⅲ層	染付	碗	102	—	—	—	—	白	透明、藍	透明、藍	肥前	18c後～19c初
第141図 511	Ⅵ区 SD-12 上層	近世国産陶器	天目茶碗	115	—	—	—	—	淡褐～淡灰	茶～暗茶褐	茶～暗茶褐	瀬戸美濃	16c

表31　出土遺物観察表（15）　近世国産陶磁器（2）

No	出土地	種類	器種	法量（mm）			調整・紋様	露胎	胎土色	釉調		産地	年代・備考
				口径	底径	器高				外面	内面		
第141図 512	Ⅵ区 SR-01	近世国産陶器	皮鯨手皿	110	50	35	—	畳付き～外底	淡灰～暗茶	淡緑乳・黒褐	淡緑乳・黒褐	肥前	16c末～17c初
513	Ⅵ区 SD-13	陶器	碗	—	—	—	—	高台	灰～淡灰褐	淡緑灰	淡緑灰	肥前	16c末～17c前
514	Ⅵ区 SD-13 上層	陶器	碗	—	40	—	—	外面下半～外底	灰～淡灰褐	淡緑灰	淡緑灰	肥前	17c前
515	Ⅵ区 SD-13	陶器	皮鯨手皿	123	—	—	—	—	淡灰	黒褐・透明	黒褐・透明	肥前	16c末～17c前
516	Ⅵ区 上層 SD-12 Ⅲa層	陶器	皿	114	—	—	—	—	茶褐	透明(茶褐)	透明(茶褐)	肥前	16c末～17c初
517	Ⅵ区〈205〉	陶器	皮鯨手皿	108	—	—	—	—	淡灰	淡緑灰 口縁：黒褐	淡緑灰	肥前	16c末～17c初
518	Ⅵ区 SR-01	灰釉陶器	皿	—	—	—	—	外底	淡灰	淡緑白	淡緑白	肥前	16c末～17c初
519	Ⅵ区 SD-13	陶器	皿	—	67	—	—	外面下半～外底	淡灰褐～淡橙褐	暗褐～淡赤褐	淡灰(釉)	肥前	16c末～17c初
520	Ⅵ区 SD-13	陶器	皿	130	—	—	—	—	暗灰	淡黄白	淡黄白	肥前	16c末～17c初
521	Ⅵ区 SD-13	陶器	皿	—	—	—	—	—	暗赤灰～暗灰褐	灰～灰褐	灰～灰褐	肥前	16c末～17c初
522	Ⅵ区 上層 SD-12 Ⅲa層	陶器	皿	259	—	—	—	—	暗灰～淡茶褐	淡緑灰	淡緑灰	肥前か福岡	17c前
523	Ⅵ区 SR-01	陶器	皿	—	—	—	—	—	暗灰褐	淡黄白	淡黄白	肥前	16c末～17c前
524	Ⅵ区 SZ-03	陶器	皿	—	—	—	—	—	暗褐～暗灰	茶灰	茶灰	肥前	16c末～17c初
525	Ⅵ区 SR-01	陶器	鉄絵皿	—	—	—	—	—	暗灰	透明・黒褐	透明・黒褐	肥前	16c末～17c初
526	Ⅵ区 SD-11	陶器	皿	—	—	—	—	外面一部	灰褐～茶褐	淡灰	淡灰	肥前	16c末～17c初
527	Ⅵ区〈205〉	陶器	皿	—	—	—	—	—	暗灰褐	濁灰白	濁灰白	肥前	16c末～17c初
528	Ⅵ区 SD-13	陶器	皿	—	47	—	—	外面下半～外底	暗褐～橙褐	灰白	灰白	肥前	16c末～17c初
529	Ⅵ区〈2918〉	染付	碗	—	—	—	—	—	淡灰白	淡紺	淡紺	肥前	17c後
530	Ⅵ区 SZ-03	陶器	皿	—	—	—	—	—	暗灰褐	緑灰	緑灰	肥前	16c末～17c初
531	Ⅵ区 SZ-27	染付	皿	—	—	—	—	—	白	紺	紺	肥前	19c～幕末
532	Ⅵ区 SD-13	白磁	壷の蓋	100	—	—	—	内面	淡灰白	淡緑白	淡緑白	肥前	17c
533	Ⅵ区 SK-94	陶器	甕	—	103	—	—	—	暗褐～橙褐	淡緑灰	暗紫褐	肥前	17c後～18c前
534	Ⅵ区 Ⅱ層	陶器	瓶	—	90	—	—	畳付き	白	乳白	乳白	肥前	17c後か
535	Ⅵ区 SR-01	陶器	擂鉢	—	—	—	—	—	灰褐～褐	暗緑褐	—	肥前か福岡	17c初
536	Ⅵ区 SR-01	陶器	鉢	—	—	—	—	口唇部	淡灰褐～灰	暗緑褐	暗緑褐	薩摩	17c前
537	Ⅵ区 SZ-15	陶器	土瓶	—	—	—	—	—	暗灰褐	淡黒褐	淡黒褐	薩摩	19c前
538	Ⅵ区 上層 SD-13	陶器	鉢	265	—	—	口唇：貝目積	口唇部	暗赤褐～暗灰褐	暗緑灰	暗茶褐	薩摩	17c代
539	Ⅵ区〈2711〉	褐釉陶器	徳利瓶	285	—	—	—	口唇部	灰橙～橙褐	暗茶褐	暗茶褐	薩摩	17c後
540	Ⅵ区 SR-01	陶器	鉢	234	—	—	口唇：貝目積	口唇部	淡灰褐	暗茶褐	暗茶褐	薩摩	17c代
541	Ⅵ区 SZ-03	陶器	鉢	—	195	—	—	—	暗赤褐～暗褐	灰褐	灰褐	薩摩	17c代
542	Ⅵ区 下 SZ-08 PP	褐釉陶器	袋物	—	—	—	外底：貝目積	外面一部	暗紫褐	淡緑褐	暗青灰	薩摩か	17c代
第142図 543	Ⅵ区 SR-01	陶器	瓶	—	—	—	—	内面	淡灰	透明・暗緑褐	透明・暗緑褐	南九州	19c前
544	Ⅵ区 Ⅲ層	陶器	皿	—	—	—	内面：カキ目	—	暗茶褐	透明(暗緑灰)	口～内面：淡黄白	福岡か	19c前
545	Ⅵ区 SR-01	陶器	皿	—	—	—	—	外面下半	淡灰褐～淡茶褐	淡緑灰	淡緑灰	南九州	18～19c
546	Ⅵ区 SK-28	陶器	袋物	—	—	—	—	—	暗灰褐	透明(暗緑灰)	透明(暗緑灰)	南九州	19c
547	Ⅵ区 上位 SA-01	陶器	壷か？	—	—	—	—	外面下半	暗赤褐	暗茶・暗紫灰	暗紫褐	在地 (肥後あたりか)	18c後～19c前か
548	Ⅵ区 Ⅱ層	陶器	鉢	—	88	—	貝目痕	外底	暗紫褐	暗茶褐	暗茶褐	関西系	19c前
549	Ⅵ区 上層 SD-13	陶器	皿	—	40	—	—	内面、外面下半～外底	淡黄～淡灰	暗緑黄	淡緑黄	九州	17c第1四半期
550	Ⅵ区 Ⅱ層	陶器	碗	—	—	—	—	—	淡橙	淡黄白・黄緑	黒褐	京焼系	軟質施釉 17c
551	Ⅵ区 Ⅰ～Ⅲ層	陶器	亀型水滴	—	—	—	—	内面	淡褐・白	暗緑・淡黄	—	関西系	19c
第174図 828	Ⅶ区 SD-07	陶器	碗	—	—	—	—	—	茶灰～淡茶褐	乳白	乳白	瀬戸美濃	16c後
829	Ⅶ区 Ⅲa層	陶器	天目茶碗	—	—	—	—	—	淡黄白	茶～暗茶	茶～暗茶	瀬戸美濃	16c
830	Ⅶ区 SD-07	陶器	碗	—	—	—	—	—	淡灰白	淡オリーブ	淡オリーブ	肥前か	17c前
831	Ⅶ区 SD-07	陶器	碗	—	—	—	—	—	淡灰白	同緑釉	淡灰白	肥前	17c末～18c前
832	Ⅶ区 SD-07	陶器	碗	—	—	—	—	—	淡黄白	暗青褐～緑青	茶褐～淡茶黄	肥前	17c後
833	Ⅶ区 SD-07	陶器	碗	—	—	—	—	—	淡黄白～淡灰白	淡灰黄	淡灰黄	肥前か	17～18c
834	Ⅶ区 Ⅱ層	半磁器	碗	—	43	—	—	外面下半～外底	白	淡緑青～黄緑	乳白	肥前 (内野山窯)	17c末～18c前
835	Ⅶ区 SD-07	陶器	碗	123	—	—	—	—	淡黄白	淡青緑	淡灰褐	肥前 (内野山窯)	17c末～18c前
836	Ⅶ区 SD-07	陶器	碗	117	47	69	—	畳付き～外底	淡黄白	緑青	淡褐	肥前 (内野山窯)	17c後
837	Ⅶ区 SD-07	青磁	碗	—	—	—	—	—	乳白	淡オリーブ	白	肥前	17c後
838	Ⅶ区 Ⅲa層	鉄釉陶器	袋物	—	—	—	—	外面下半	淡灰白	暗茶	暗茶	肥前か	17c
839	Ⅶ区 北端Ⅲ層	白磁	碗	107	—	—	—	—	乳白	白	白	肥前	19c
840	Ⅶ区 SD-07	染付	碗	126	—	—	—	—	白	淡紺	淡紺	肥前	17c後
841	Ⅶ区 北西部 Ⅱ層	染付	碗	90	—	—	—	—	乳白	紺・淡黄褐	紺・淡黄褐	肥前	17c後
842	Ⅶ区 北端 中央攪乱	染付	碗	—	43	—	—	畳付き～外底	淡黄白	暗緑褐・淡黄～橙褐	暗緑褐・淡黄～橙褐	肥前	18c前

表32　出土遺物観察表（16）　近世国産陶磁器（3）

No	出土地	種類	器種	法量（mm）			調整・紋様	露胎	胎土色	釉調		産地	年代・備考
				口径	底径	器高				外面	内面		
第174図 843	Ⅶ区 SD-07	染付	碗	—	—	—	—	—	白	紺	紺	肥前	17c後～18c
844	Ⅶ区 北西部	染付	碗	—	—	—	—	—	淡橙褐～淡灰白	淡紺・淡灰白	淡紺・淡灰白	肥前	18c代
845	Ⅶ区 SD-07	染付	碗	—	—	—	—	—	白	紺	紺	肥前	18c
846	Ⅶ区 SD-07	染付	網目文碗	113	—	—	—	—	淡褐白	淡紺	淡紺	肥前	18c前～中
847	Ⅶ区 SD-07 南縁	陶器	碗	—	37	—	—	外面下半～外底	淡黄～淡黄白	淡黄褐	淡黄褐	肥前	18c前
848	Ⅶ区 SD-07	染付	網目文碗	—	—	—	—	—	乳白	淡紺	淡紺	肥前	18c後
849	Ⅶ区 SD-07	染付	碗	120	—	—	—	—	乳白	紺	紺	肥前	18c
850	Ⅶ区 SD-07	染付	碗	—	49	—	—	畳付き	白	淡紺	淡紺	肥前	18c後
851	Ⅶ区 SD-07 南縁	染付	碗	—	87	—	—	畳付き	淡灰褐	緑釉	緑釉	肥前	18c代
852	Ⅶ区 SD-07	染付	碗	—	—	—	—	—	白	紺	紺	肥前	19cか
853	Ⅶ区 SD-07	染付	碗	96	—	—	—	—	白	淡紺	淡紺	肥前	19c前
854	Ⅶ区 北西部 Ⅱ～Ⅲ層	白磁	碗	101	—	—	—	—	白	乳白～白	乳白～白	肥前	19c
855	Ⅶ区 SD-07	鉄釉陶器	皿	—	—	—	—	—	茶褐～暗灰褐	乳白～淡灰	灰～暗灰・黒褐	肥前	16c末～17c初
856	Ⅶ区 SZ-02	陶器	皿	—	53	—	—	畳付き	淡黄白	淡黄白	淡黄白	肥前（内野山窯）	1610～40年代
857	Ⅶ区 北端Ⅱ層	陶器	皿	—	—	—	—	外面下半	淡灰白	淡茶褐	青緑～青褐	肥前（内野山窯）	17c末～18c前
858	Ⅶ区 SD-07	青磁染付か	筒型碗	—	42	—	—	畳付き	淡灰白	淡褐～淡黄白	淡褐～淡黄白	肥前	18c後
859	Ⅶ区 Ⅰ層	青磁染付	鉢	—	92	—	—	外底一部	白	紺	紺	肥前	18c後
860	Ⅶ区 SD-07	染付	小杯	—	—	—	—	—	淡灰	紺灰	紺灰	肥前	19c
861	Ⅶ区 SD-07	染付	小杯	—	28	—	—	畳付き	白	紺	紺	肥前	18c代
862	Ⅶ区 SD-07	染付	小杯	—	28	—	—	畳付き	乳白	暗緑褐	暗緑褐	肥前	18c代
863	Ⅶ区 SD-07	染付	瓶	—	—	—	—	内面一部	淡灰白	淡紺・暗緑褐	淡灰白	肥前	18c後～19c初
864	Ⅶ区 Ⅱ層	染付	筒型碗	—	46	—	—	畳付き	白	淡紺	淡紺	肥前系	18c後～19c初
865	Ⅶ区 SD-07 上位Ⅱ層	染付	瓶	—	82	—	—	内面畳付き	淡褐	紺・淡灰乳	紺・淡灰乳	肥前	18c後～19c前
866	Ⅶ区 北端Ⅲ層	染付	碗	—	—	—	—	—	淡灰白	紺	紺	肥前系	1820～60年代
867	Ⅶ区 SD-07 南縁	染付	碗	104	—	—	—	—	乳白	淡紺	淡紺	肥前系	1820～60年代
868	Ⅶ区 SD-07 南縁	染付	筒型碗	78	—	—	—	—	白	淡紺	淡紺	肥前系	18c後～19c初
869	Ⅶ区 SD-07 南縁	染付	碗？	218	—	—	—	—	乳白	紺	紺	肥前系	18c後～19c初
第175図 870	Ⅶ区 SD-07	染付	筒型碗	—	36	—	見込コンニヤク印	—	白	紺	紺	肥前系	18c後
871	Ⅶ区 SD-07	染付	碗	—	—	—	—	—	淡灰	淡紺緑	淡紺緑	肥前系	19c前
872	Ⅶ区 SD-07	染付	碗	—	—	—	—	—	淡灰	淡紺緑	淡紺緑	肥前系	19c前
873	Ⅶ区 Ⅱ層	染付	碗	—	—	—	—	—	白	紺	紺	肥前系	19c
874	Ⅶ区 SD-07	染付	碗	121	—	—	—	—	白	紺	紺	肥前系	19c前
875	Ⅶ区 SD-07	染付	瓶	—	—	—	—	—	白	淡紺	淡紺	肥前系	19c前
876	Ⅶ区 SD-07	染付	皿	—	65	—	—	外底	白	紺	紺	肥前系	19c前
877	Ⅶ区 SD-07	染付	皿	148	—	—	—	—	白	紺	紺	肥前系	18c末～19c前
878	Ⅶ区 SD-07	染付	蓋	43	—	—	—	畳付き	白	紺	紺	肥前系	幕末～明治
879	Ⅶ区 SD-07	染付	小杯	72	—	—	—	—	白	紺	紺	肥前系	17c後か
880	Ⅶ区 SD-07	染付	小杯	70	—	—	—	—	乳白	淡紺	淡紺	肥前系	19c前
881	Ⅶ区 SD-07	染付	小杯	89	—	—	—	—	白	紺	紺	肥前系	19c前
882	Ⅶ区 SD-07	染付	火入れか瓶	—	—	—	—	内面	白	紺	紺	肥前系	19c幕末
883	Ⅶ区 Ⅱ層	染付	鉢	—	—	—	—	—	乳白	紺	紺	肥前系	19c前
884	Ⅶ区 SD-07 南縁	陶器	小碗	90	—	—	—	—	白	暗茶～暗茶褐	暗茶～暗茶褐	薩摩	17c後
885	Ⅶ区 SD-07 南縁	陶器	袋物	—	—	—	—	—	暗青灰～茶橙	茶褐～暗茶褐	茶褐～暗茶褐	薩摩か	17c
886	Ⅶ区 SD-07	陶器	甕	—	170	—	—	内面	茶橙～暗灰褐	淡緑灰	—	薩摩	内面：灰被 17c
887	Ⅶ区 SD-07	陶器	甕	—	114	—	外底：貝目積痕	外底	暗灰褐～灰	暗緑褐色自然釉	暗灰褐～灰	薩摩	17c
888	Ⅶ区 北端中央攪乱	陶器	擂鉢か鉢	265	—	—	—	口唇	灰褐・茶橙	暗茶褐	暗茶褐	薩摩	18c代
889	Ⅶ区 SD-07	陶器	擂鉢	285	—	—	—	口唇	茶橙～橙褐	暗茶褐	暗茶褐	薩摩	18c代
890	Ⅶ区 SD-07	陶器	擂鉢	—	—	—	—	外・内面	橙褐	—	—	薩摩	17～18c
891	Ⅶ区 SD-07	陶器	擂鉢	—	—	—	—	—	淡赤褐	暗茶褐	暗茶褐	薩摩	18c代
892	Ⅶ区 SD-07	陶器	擂鉢	—	—	—	—	—	淡灰褐	暗緑褐	暗緑褐	薩摩	18c代前
893	Ⅶ区 SD-07	陶器	擂鉢	—	—	—	口：釉掻き取り	内面	茶橙	暗茶～茶褐	暗茶～茶褐	薩摩	18～19c前
894	Ⅶ区 SD-07	陶器	擂鉢	—	—	—	—	口唇	淡灰褐	暗緑褐	暗緑褐	薩摩	18～19c初
895	Ⅶ区 SD-07	陶器	瓶	—	113	—	—	—	暗茶褐	暗緑～暗緑灰	暗青灰	薩摩	17c前
896	Ⅶ区 SD-07	陶器	甕？	—	—	—	—	—	淡褐～淡灰褐	暗緑褐	暗緑褐	薩摩	18c代
897	Ⅶ区 SD-07	陶器	土瓶	—	—	—	—	内面下半	暗紫灰	暗茶褐	暗茶褐～淡緑白	薩摩	19c前

表33　出土遺物観察表（17）　近世国産陶磁器（4）

No	出土地	種類	器種	法量（mm）			調整・紋様	露胎	胎土色	釉調		産地	年代・備考
				口径	底径	器高				外面	内面		
第175図 898	Ⅶ区 SD-07	陶器	碗	—	46	—	—	—	淡灰白～乳白	乳白	乳白	南九州	18c～幕末
899	Ⅶ区 SD-07	陶器	碗	—	—	—	—	—	乳白	淡緑	淡緑	南九州	18c～幕末
第176図 900	Ⅶ区 SD-07	陶器	袋物	—	—	—	—	内面下半	淡灰褐	暗黄褐	暗黄褐	南九州	17～18c
901	Ⅶ区 Ⅱ層	陶器	袋物	—	—	—	—	外底	淡灰	乳白・淡緑黄	乳白・淡緑黄	南九州	18c～幕末
902	Ⅶ区 Ⅱ層	陶器	Ⅲ	128	—	—	—	—	淡灰白	乳白～暗茶褐	乳白～暗茶褐	南九州	18c～幕末
903	Ⅶ区 Ⅱ層	陶器	蓋物	100	—	—	—	—	淡灰白	淡灰白	淡灰白	南九州	18～19c
904	Ⅶ区 SD-07	陶器	壷	—	—	—	—	—	茶橙～淡赤褐	褐灰～淡橙褐	淡赤褐～茶橙	沖縄	17c末～18c代
905	Ⅶ区 SD-07	陶器	碗	—	—	—	—	—	淡褐～褐	淡褐(透明)	淡褐(透明)	在地系	18c
906	Ⅶ区 SD-07	陶器	碗	125	—	—	—	—	淡灰～淡灰褐	淡灰褐～淡緑灰	淡灰褐～淡緑灰	在地	18～19c前
907	Ⅶ区 SD-07	陶器	碗	—	49	—	—	畳付き	淡灰白～淡黄白	淡黄緑	淡黄緑	在地系	18c末～19c前
908	Ⅶ区 SD-07	陶器	碗	—	43	—	—	畳付き～外底	淡褐～淡茶褐	黒褐	黒褐	在地	18c代
909	Ⅶ区 SD-07	褐釉陶器	壷	—	—	—	—	内面	茶橙	暗茶褐～暗褐	—	九州産	18c後～19c
910	Ⅶ区 SD-07	瓦質土器	手あぶり	175	—	—	—	—	良	—	—	在地	18c代か
911	Ⅶ区 Ⅰ～Ⅲ層	陶器	土瓶の蓋	48	—	—	—	—	淡橙褐	淡黄	淡黄	在地	18c後～19c
912	Ⅶ区 Ⅱ～Ⅲ層	陶器	碗	—	50	—	内面：釉剥ぎ	畳付き	淡灰白	オリーブ	オリーブ	熊本	19c
913	Ⅶ区 SD-07	陶器	鉢？	237	—	—	—	—	暗灰～茶褐	淡黄白・暗緑	淡黄白・暗緑	福岡～中国地方	18～19c
914	Ⅶ区 SD-07	陶器	碗	—	94	—	—	高台～畳付き	褐～茶褐	黒褐	淡黄褐	関西系	18c後～19c前
915	Ⅶ区 北端Ⅲ層	陶器	碗	—	63	—	胎土目積	外底～畳付き	茶褐～淡茶橙	茶褐	茶褐	関西系	19c
916	Ⅶ区 SD-07	陶器	土瓶	86	—	—	—	外面	淡褐白	青・白	青・白	関西系	明治
917	Ⅶ区 SD-07	陶器	鉢	—	88	—	胎土目積	外底	暗紫褐	暗茶褐	暗茶褐	関西系	貝目痕 19c前
918	Ⅶ区 SD-07	陶器	筒型碗	—	48	—	—	—	淡黄白	淡黄	淡黄	関西系	19c前

表34　出土遺物観察表（18）　Ⅵ～Ⅶ区出土銭貨

No	出　土　地	銭貨名	初鋳年
第143図 552	Ⅵ区 SK-78	開元通寶	621年
553	Ⅵ区 SK-78	開元通寶	621年
554	Ⅵ区 SK-78	唐國通寶	959年
555	Ⅵ区 SK-78	開元通寶	960年
556	Ⅵ区 SK-78	咸平元寶	998年
557	Ⅵ区 SK-78	咸平元寶	998年
558	Ⅵ区 SK-78	景德元寶	1004年
559	Ⅵ区 SK-78	景德元寶	1004年
560	Ⅵ区 SK-78	祥符通寶	1009年
561	Ⅵ区 SK-78	祥符通寶	1009年
562	Ⅵ区 SK-78	祥符元寶	1009年
563	Ⅵ区 SK-78	天禧通寶	1017年
564	Ⅵ区 SK-78	天禧通寶	1017年
565	Ⅵ区 SK-78	天聖元寶	1023年
566	Ⅵ区 SK-78	天聖元寶	1023年
567	Ⅵ区 SK-78	天聖元寶？	1023年
568	Ⅵ区 SK-78	景祐元寶	1034年
569	Ⅵ区 SK-78	皇宋通寶	1038年
570	Ⅵ区 SK-78	皇宋通寶	1038年
571	Ⅵ区 SK-78	皇宋通寶	1038年
572	Ⅵ区 SK-78	皇宋通寶	1038年
573	Ⅵ区 SK-78	皇宋通寶	1038年
574	Ⅵ区 SK-78	皇宋通寶	1038年
575	Ⅵ区 SK-78	皇宋通寶	1038年
576	Ⅵ区 SK-78	皇宋通寶	1038年
577	Ⅵ区 SK-78	嘉祐元寶	1056年
578	Ⅵ区 SK-78	治平元寶	1064年
579	Ⅵ区 SK-78	治平通寶	1064年
580	Ⅵ区 SK-78	熙寧元寶	1068年
581	Ⅵ区 SK-78	元豊通寶	1078年
582	Ⅵ区 SK-78	元豊通寶	1078年
583	Ⅵ区 SK-78	元豊通寶	1078年
584	Ⅵ区 SK-78	元豊通寶	1078年

No	出　土　地	銭貨名	初鋳年
585	Ⅵ区 SK-78	元豊通寶	1078年
586	Ⅵ区 SK-78	元豊通寶	1078年
587	Ⅵ区 SK-78	元豊通寶	1078年
588	Ⅵ区 SK-78	元豊通寶	1078年
589	Ⅵ区 SK-78	文字不明	不明
590	Ⅵ区 SK-78	元豊通寶	1078年
591	Ⅵ区 SK-78	元祐通寶	1086年
592	Ⅵ区 SK-78	元祐通寶	1086年
593	Ⅵ区 SK-78	元祐通寶	1086年
594	Ⅵ区 SK-78	元祐通寶	1086年
595	Ⅵ区 SK-78	紹聖元寶	1094年
第144図 596	Ⅵ区 SK-78	紹聖元寶	1094年
597	Ⅵ区 SK-78	大観通寶	1107年
598	Ⅵ区 SK-78	天盛元寶	1158年
599	Ⅵ区 SK-78	慶元通寶	1195年
600	Ⅵ区 SK-78	紹定通寶	1228年
601	Ⅵ区 SK-78	至大通寶	1310年
602	Ⅵ区 SK-78	洪武通寶	1368年
603	Ⅵ区 SK-78	洪武通寶	1368年
604	Ⅵ区 SK-78	洪武通寶	1368年
605	Ⅵ区 SK-78	洪武通寶	1368年
606	Ⅵ区 SK-78	永楽通寶	1408年
607	Ⅵ区 SK-78	永楽通寶	1408年
608	Ⅵ区 SK-78	永楽通寶	1408年
609	Ⅵ区 SK-78	永楽通寶	1408年
610	Ⅵ区 SK-78	永楽通寶	1408年
611	Ⅵ区 SK-78	永楽通寶	1408年
612	Ⅵ区 SK-78	永楽通寶	1408年
613	Ⅵ区 SK-78	永楽通寶	1408年
614	Ⅵ区 SK-78	永楽通寶	1408年
615	Ⅵ区 SK-78	永楽通寶？	1408年
616	Ⅵ区 SK-78	文字不明	不明
617	Ⅵ区 SK-78	文字不明	不明

No	出　土　地	銭貨名	初鋳年
618	Ⅵ区 SK-78	文字不明	不明
第145図 619	Ⅵ区 SK-100	景德元寶	1004年
620	Ⅵ区 SZ-31	皇宋通寶	1038年
621	Ⅵ区 SZ-32	至和元寶	1054年
622	Ⅵ区 排土	熙寧元寶	1068年
623	Ⅵ区 SZ-31	熙寧元寶？	1068年
624	Ⅵ区 SZ-31	熙寧元寶	1068年
625	Ⅵ区〈2594〉	元祐通寶	1086年
626	Ⅵ区 SD-61 西撹乱	政和通寶	1111年
627	Ⅵ区〈1402〉	洪武通寶	1368年
628	Ⅵ区 SZ-24	洪武通寶	1368年
629	Ⅵ区 SZ-27	洪武通寶	1368年
630	Ⅵ区〈2920〉	洪武通寶	1368年
631	Ⅵ区 SZ-35	洪武通寶	1368年
632	Ⅵ区 SZ-24	洪武通寶	1368年
633	Ⅵ区〈2236〉	洪武通寶	1368年
634	Ⅵ区 SZ-24	洪武通寶	1368年
635	Ⅵ区〈1422〉	洪武通寶	1368年
636	Ⅵ区 SZ-08下PP	洪武通寶	1368年
637	Ⅵ区〈1422〉	洪武通寶	1368年
638	Ⅵ区 SD-54	永楽通寶	1408年
639	Ⅵ区 SD-61西撹乱	永楽通寶	1408年
640	Ⅵ区 SD-49	永楽通寶	1408年
641	Ⅵ区 SD-54	朝鮮通寶	1423年
642	Ⅵ区 SK-65	文字不明	不明
643	Ⅵ区〈163〉	文字不明	不明
第177図 919	Ⅶ区〈237〉	開元通寶	621年
920	Ⅶ区 北縁Ⅲ層	明道元寶	1032年
921	Ⅶ区 北東部Ⅲa層	元豊通寶	1078年
922	Ⅶ区 北東部Ⅲa層	元豊通寶	1078年
923	Ⅶ区 Ⅲa層	元祐通寶	1086年
924	Ⅶ区〈492〉	永楽通寶	1408年

表35　出土遺物観察表（19）　玉類

No	出 土 地	器　種	法量（mm）		色　調	材質	備考
			外径	厚さ			
第146図 644	Ⅵ区 SK-111	ソロバン玉	4.65	12.5	淡青色	ガラス	
645	Ⅵ区 SZ-03	ソロバン玉	11.7	12.5	透明	水晶	
646	Ⅵ区 SZ-03	小玉	4	2.9	緑色半透明	ガラス	白色風化
647	Ⅵ区 SZ-03	小玉	4.2	2.5	青緑色	ガラス	
648	Ⅵ区 SZ-03	小玉	3.9	2.55	紫色	ガラス	
649	Ⅵ区 SZ-03	小玉	4.4	2～2.6	紫青色	ガラス	
650	Ⅵ区 SZ-03	小玉	4.5	2.4	緑色半透明	ガラス	
651	Ⅵ区 SZ-03	小玉	3.3	1.55	淡黄色	ガラス	
652	Ⅵ区 SZ-03	小玉	4.55	2.4	紫色	ガラス	

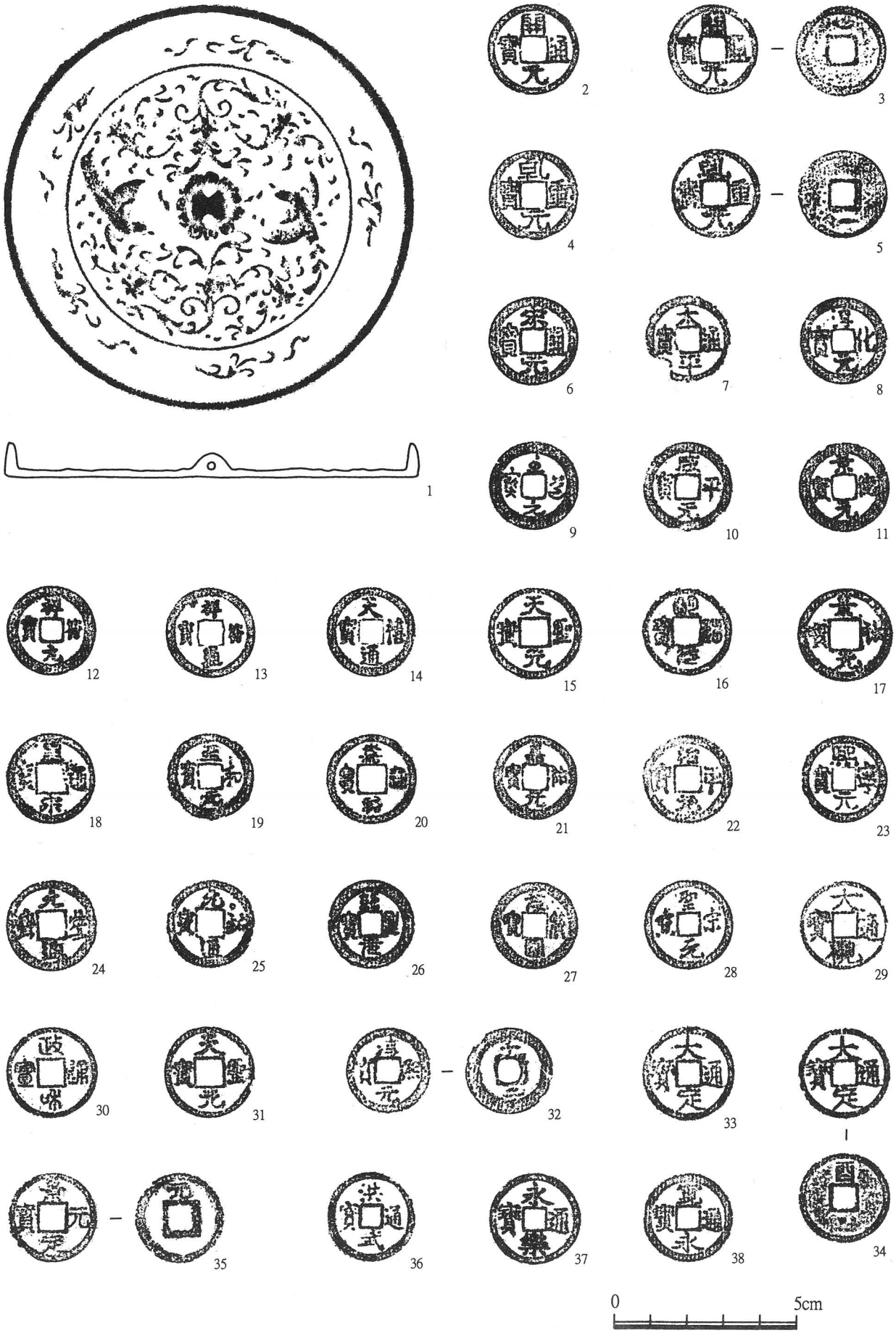
No	出 土 地	器　種	法量（mm）		色　調	材質	備考
			外径	厚さ			
653	Ⅵ区 SZ-03	小玉	4	1.9～3	緑色半透明	ガラス	
654	Ⅵ区 SZ-03	小玉	4	2.45	緑色半透明	ガラス	白色風化
655	Ⅵ区 SZ-03	小玉	3.1	2.7	淡青白色	ガラス	風化
656	Ⅵ区 SZ-03	小玉	4	2.65	半透明	ガラス	
657	Ⅵ区 SZ-03	小玉	4.5	2.5	緑色半透明	ガラス	
658	Ⅵ区 SZ-03	小玉	4	2.65	淡紫色	ガラス	
659	Ⅵ区 SZ-03 下PP	小玉	4.9	6.25	淡青色	ガラス	4重
660	Ⅵ区 Ⅱ層	小玉	3.15	2	水色	ガラス	

表36　出土遺物観察表（20）　鉄器・鉄製品・金属製品

No	出土地	器種	法量（mm） 長さ	幅	厚さ
第189図 939	Ⅴ区〈30〉	鉄製品の基部か	86	4	5
940	Ⅵ区 SK-10	鉄釘	(44)	(12)	(7)
941	Ⅵ区 SK-10	鉄釘	(37)	(9)	(2)
942	Ⅵ区 SK-10	鉄釘	(32)	(3)	(3)
943	Ⅵ区 SK-11	鉄釘	21	4	2
944	Ⅵ区 SK-11	鉄釘	17	8	2
945	Ⅵ区 SK-11	鉄釘	(16)	(3)	(3)
946	Ⅵ区 SK-11	鉄釘	(16)	(9)	(7)
947	Ⅵ区 SK-78	鉄釘？	37	2	3
948	Ⅵ区 SK-78	鉄鍋	(口) 284	(底) 130	(高) 108
949	Ⅵ区 SK-99	鉄釘片？	(30)	6	(5)
950	Ⅵ区 SK-99	鉄釘	(93)	(7)	(8)
951	Ⅵ区 SK-117	用途不明鉄製品	(10)	(5)	(4)
952	Ⅵ区 SK-118	鉄鏃	(101)	(21)	(9)
953	Ⅵ区 SR-01 南半上層	刀子か？	(79)	(10)	3
954	Ⅵ区 SD-13 上層	用途不明鉄製品	(110)	(43)	(6)
955	Ⅵ区 SD-39	用途不明銅製品	17	6	2
956	Ⅵ区 SD-48	鉄滓	68	34	24
957	Ⅵ区 SD-56	刀子	(151)	(24)	(4)
958	Ⅵ区 SZ-03	金銅製匙	(62)	(17)	2
959	Ⅵ区 SZ-05 東端	鉄釘	39	35	3
960	Ⅵ区 SZ-12	用途不明鉄製品	(77)	36	13
961	Ⅵ区 SZ-32	刀子	(82)	(14)	3
962	Ⅵ区 SZ-29	刀子？	172	16	3
963	Ⅵ区〈197〉	金銅製品	(65)	6	2
964	Ⅵ区〈195〉	用途不明鉄片	(58)	(40)	(3)
965	Ⅵ区〈1253〉	用途不明鉄製品	(63)	(14)	(13)
966	Ⅵ区〈1714〉	用途不明鉄製品	(91)	(6)	(6)
967	Ⅶ区〈295〉	紡錘車状鉄製品	最大径：52	孔径：(3)	—
968	Ⅶ区 北西部 Ⅲ層	用途不明鉄製品	(78)	(15)	(5)
969	Ⅶ区 Ⅲa層	刀子？	(45)	(11)	(3)
970	Ⅶ区〈146〉	鉄片	(34)	(26)	(3)

表37　出土遺物観察表（21）　石器・石製品

No	出土地	器種	法量（mm） 長さ	幅	厚さ	重さ g	石材	備考
第51図 70	4 Tre Ⅲ層	石鏃	16	13	3	—	玉髄	
71	Ⅴ区 Ⅳa層	石匙未製品	47	19	5	4	ハリ質安山岩	
72	Ⅲ区 Ⅲ層	石包丁	(22)	(32)	3	4	粘板岩	両面穿孔
73	Ⅳ区 Ⅰ～Ⅲ層	用途不明石器	36	27	13	23	硬砂岩？	両面の縁部が特に擦れている
74	Ⅱ区 Ⅱ層	硯	(37)	54	10～15	50	粘板岩	
75	Ⅱ区 SD-02	砥石	181	113	41	1800	砂岩	
第147図 661	Ⅵ区 SK-17	五輪塔 地輪転用	290	(158)	165	8400	軽石	
662	Ⅵ区 SK-17	五輪塔 地輪転用	290	(154)	165	8200	軽石	
663	Ⅵ区 SK-17	五輪塔 地輪転用	303	(180)	65	4500	軽石	
664	Ⅵ区 SK-17	五輪塔 地輪転用	303	(165)	114	4400	軽石	
665	Ⅵ区 SK-17	五輪塔 地輪転用	298	297	95	9000	軽石	
666	Ⅵ区 SK-17	五輪塔 地輪転用	338	355	92	8400	軽石	
667	Ⅵ区 SK-17	五輪塔 地輪残欠？	(183)	(191)	(92)	2400	軽石	
第148図 668	Ⅵ区 SD-40	五輪塔 空輪	(146)	(192)	(192)	1800	軽石	
669	Ⅵ区 SD-40	五輪塔 空風輪	193	195	190	4600	軽石	
670	Ⅵ区 SD-40	五輪塔火輪	(300)	423	190	10400	軽石	
671	Ⅵ区 SD-40	五輪塔火輪	382	—	292	23800	軽石	
672	Ⅵ区 SD-40	五輪塔地輪	(423)	422	205	35000	軽石	
第149図 673	Ⅵ区 Ⅲ層	石鏃	27	16	4	1	黒曜石	
674	Ⅵ区 Ⅳ′層	石鏃	20	14	4	—	チャート	
675	Ⅵ区〈2552〉	石鏃	20	13	3	—	チャート	
676	Ⅵ区 SZ-27	磨製石鏃	25	22	2	1	粘板岩	
677	Ⅵ区 SR-01 下PP	ノミ状石器	42	24	5	10	黒色粘板岩	
678	Ⅵ区 排土	石包丁	20	29	4	2	粘板岩	
679	Ⅵ区〈1310〉	砥石	116	67	31	378	硬砂岩	
680	Ⅵ区 SR-01	砥石	128	43	28	230	砂岩	
681	Ⅵ区 SK-10	砥石	95	81	19	208	砂岩	
682	Ⅵ区 SR-01	砥石	231	99	55	1600	砂岩	
683	Ⅵ区 SK-56	砥石	72	30	4	25	泥岩	
684	Ⅵ区 SR-01	砥石	(105)	73	31	296	砂岩	
685	Ⅵ区 SR-01	玉砥石	(126)	47	24	252	砂岩	
686	Ⅵ区〈359〉	砥石	(28)	57	13	23	砂岩	
第150図 687	Ⅵ区〈420〉	砥石	57	55	7	40	砂質頁岩	
688	Ⅵ区 SR-01	砥石	121	39	54	344	砂岩	
689	Ⅵ区 SD-64	石鍬	173	88	25	312	砂岩	
690	Ⅵ区 SD-64	硯	(64)	41	(9)	42	粘板岩	
691	Ⅵ区 SK-58	硯	177	64	13	194	砂質砂岩	未製品
692	Ⅵ区 SD-48	礫器	126	125	28	484	粘板岩	
693	Ⅵ区 SZ-17	礫器	(120)	103	31	595	砂質頁岩	
694	Ⅵ区 SK-117	砥石	240	139	48	2800	硬砂岩	
695	Ⅵ区 SK-117	石製容器？	(155)	(194)	150	2600	軽石	
696	Ⅵ区 SK-23 PP	用途不明石製品	(173)	(230)	72	2400	軽石	
第151図 697	Ⅵ区〈2332〉	石製容器か？	(口) 370	—	—	635	軽石	
698	Ⅵ区 SZ-15	軽石製品	(口) 165	—	—	72	軽石	
699	Ⅵ区 SA-01 PP内	用途不明石製品	(底) 155	—	—	585	軽石	
700	Ⅵ区〈1746〉	茶臼	(口) 330	—	—	75	溶結凝灰岩	
701	Ⅵ区 SR-01 側溝	石臼	188	173	115	3200	溶結凝灰岩	
702	Ⅵ区 SK-111	茶臼	264	(142)	105	4200	溶結凝灰岩	
703	Ⅵ区 SD-64	石臼	(241)	(126)	62	1800	溶結凝灰岩	
704	Ⅵ区 SD-39	石臼	295	(142)	110	5800	溶結凝灰岩	
705	Ⅵ区 SD-27	茶臼	(73)	(18)	81	124	砂岩	
706	Ⅵ区 SZ-32 南半PP	茶臼	(77)	(27)	(20)	34	砂岩	
第152図 707	Ⅵ区 SK-114	用途不明石製品	230	—	205	9000	軽石	
708	Ⅵ区 SR-01	用途不明石製品	(177)	(143)	(64)	1600	軽石	
709	Ⅵ区 SD-39	用途不明石製品	(93)	(148)	67	1000	軽石	
710	Ⅵ区 SZ-09 下PP	五輪塔 水輪転用	250	260	190	11200	軽石	
711	Ⅵ区 SD-18	五輪塔 地輪半截か	(316)	206	112	7400	軽石	
712	Ⅵ区 SA-02	台石	361	310	115	18200	溶結凝灰岩	
第190図 971	Ⅶ区 SD-07	すり石	83	73	28	59	軽石	
972	Ⅶ区 SD-07	すり石	98	67	43	64	軽石	
973	Ⅶ区 SD-07	用途不明石製品	(92)	93	50	142	軽石	
974	Ⅶ区 SD-07	用途不明石製品	79	87	79	160	軽石	
975	Ⅶ区 SD-07	盆栽鉢？	104	126	53	172	軽石	
976	Ⅶ区 SD-07	石臼	228	105	84	2600	溶結凝灰岩	
977	Ⅶ区〈815〉	砥石	(115)	77	29	388	砂岩	
978	Ⅶ区〈220〉	砥石	62	93	71	515	硬質泥岩	
979	Ⅶ区 Ⅲa層	石鏃	17	(13)	3	—	チャート	
980	Ⅶ区 排土	石包丁	(37)	(64)	5	16	粘板岩	
981	Ⅶ区 Ⅲ層	用途不明石製品	(口) 390	—	—	2400	軽石	
第191図 982	Ⅶ区 Ⅲa層	五輪塔	(95)	(134)	(72)	1200	軽石	
983	Ⅶ区 Ⅲa層	五輪塔	(84)	(176)	60	1400	軽石	
984	Ⅷ区 Ⅲ層	石鏃	21	(17)	3	—	チャート	
985	Ⅷ区 Ⅲ層	磨製石鏃	(31)	24	2	2	粘板岩	
986	Ⅷ区 Ⅲ層	器面調整具	45	14	6	5	砂質頁岩	
987	Ⅷ区 Ⅲ層	石鍋片 再加工品	38	46	7	21	砂岩	
988	Ⅸ区 SD-01	石臼	(139)	(170)	65	1200	溶結凝灰岩	



第203図　市内上江431番地出土　和鏡と銭貨

表38　市内上江431番地出土　銭貨一覧

	銭貨名	初鋳年	出土枚数
2	開元通寶	621年	A種 12
3	開元通寶	621年	B種 2
4	乾元重寶	758年	A種 3
5	乾元重寶	758年	B種 1
6	宋通元寶	960年	2
7	太平通寶	976年	2
8	淳化元寶	990年	2
9	至道元寶	995年	9
10	咸平元寶	998年	6
11	景德元寶	1004年	6
12	祥符元寶	1009年	9
13	祥符通寶	1009年	8
14	天禧通寶	1017年	6

	銭貨名	初鋳年	出土枚数
15	天聖元寶	1023年	12
16	明道元寶	1032年	1
17	景祐元寶	1034年	5
18	皇宋通寶	1038年	42
19	至和元寶	1054年	4
20	嘉祐通寶	1056年	9
21	嘉祐元寶	1056年	4
22	治平元寶	1064年	5
23	熙寧元寶	1068年	28
24	元豊通寶	1078年	36
25	元祐通寶	1086年	33
26	紹聖元寶	1094年	18
27	元符通寶	1098年	6

	銭貨名	初鋳年	出土枚数
28	聖宋元寶	1101年	10
29	大観通寶	1107年	2
30	政和通寶	1111年	13
31	天盛元寶	1158年	2
32	淳熙元寶	1174年	2
33	大定通寶	1178年	1
34	大定通寶	1189年	1
35	景定元寶	1260年	1
36	洪武通寶	1368年	4
37	永楽通寶	1408年	3
38	寛永通寶	1624年	1
	不明		18
	合　計		329

上記資料は、市内在住の福留幸雄氏寄贈品であり、約50年前、井戸掘削の際に一括して出土したらしい。和鏡は12世紀後半と推定され、保存状態が良い。銭貨には寛永通宝１枚もあるが、福留氏の他の収集品が混入したものとみたい。とすれば最新の銭貨は永楽通宝であり、15世紀初頭～前半の埋納もしくは貯蔵物と推定され、和鏡の年代と差が大きい。従って、和鏡と銭貨は隣接する別遺構から出土したものと推定される。

付　　篇

北田遺跡04号溝出土垂飾品の蛍光X線分析

長友恒人
（奈良教育大学）

はじめに

溝状遺構から出土した金属遺物について、エネルギー分散型微小部蛍光X線分析装置（EDAX Japan製 EAGLE XXL-NR型、分析時のX線管の管電圧は20kV、管電流は70μA）により、定性的な元素分析を行った。分析では

（測定１）青銅製の金属片であるかどうかの確認すること

（測定２）傷（敲打痕？）の部分の成分元素を確認すること

に着目して分析を行った。

測定１

肉眼観察で地の部分を選び、写真１の小孔から１㎜ほど離れた部位の直径0.1㎜の円形の範囲（図１）を分析した。蛍光X線スペクトルを図２に示す。Cr（クロム）のK-X線ピークは検出器に依存するものであり、測定試料の成分ではない。試料の成分としてはCu（銅）、Sn（錫）、Pb（鉛）以外に顕著なピークは見られず、典型的な青銅器のスペクトルを示している。形状から銅鏡片であると推定される。なお、スペクトルの低エネルギー領域で分析装置に組み込まれたプログラムによってRbL（ルビジウムのL-X線）と表記されているピークがあるが、正確には遺物の表面に付着した微量の土壌に由来するSiまたはAlであろう推測される。

測定２

遺物の表面に肉眼観察で、長さ２㎜程度、幅0.1～0.2㎜程度の白っぽく傷のように見える光沢のある部分が認められた。この部分を直径0.1㎜の円形の範囲（図３）で分析したスペクトルを図４に示す。図４のCu（銅）、Sn（錫）、Pb（鉛）のピーク比は図２と同様であるが、Fe（鉄）の微小なピークが認められる。同じ光沢部分の測定部位を変えて測定してもFeのピークが認められた。

考察

（測定１）の結果から、この金属遺物は銅鏡の一部であると考えてよい。（測定２）の結果において光沢部分にFeが認められることに関しては、２つの解釈が考えられる。そのひとつは、この金属遺物を鋼のような固い鉄製品で何らかの加工を施そうとしたときに金属鉄が痕跡として残ったという解釈である。しかし、青銅より硬い鉄で工作したときに鉄の成分が青銅表面に付着するということは考え難い。２つ目の解釈として、遺物の縁の平面部分が図１に見られるようにヤスリ様のもので削られている痕跡が明らかであることから、その削りくずが傷様の光沢部分に付着した可能性が考えられる。ヤスリ様のもので削った後に、布などで表面を磨くなどの操作をしても鋭い凹面に入り込んだ鉄は残るであろう。

この分析では短期間に定性的な分析をしたに過ぎないので、断定的には言えないが、図１のヤスリで削ったような痕跡と測定の結果から、銅鏡片の一部に鋼のような固い鉄の工具で何らかの加工を施そうとしたであろうと推定される。

分析装置の使用にあたっては、奈良大学の西山要一教授に便宜を図っていただいたことを付記し、感謝する。

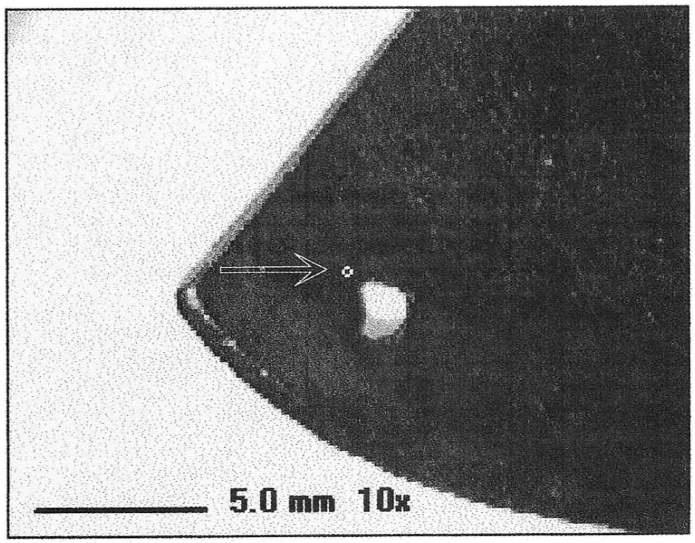


図１　光沢がある微少部分の分析箇所。

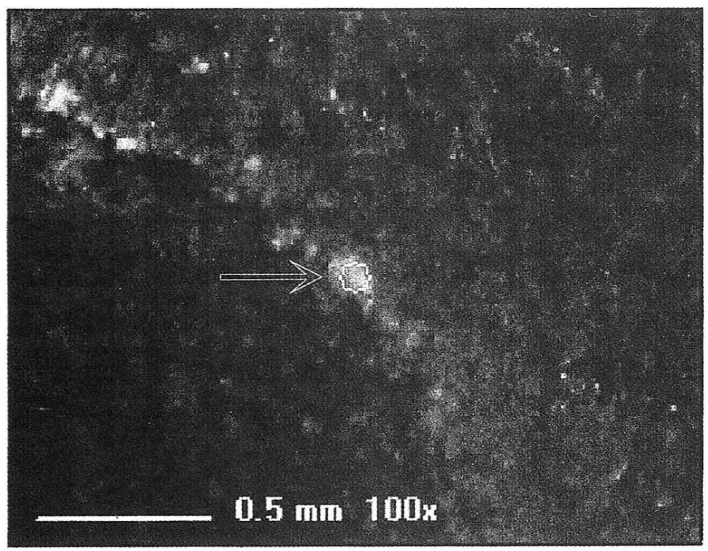


図２　傷がない分析箇所　矢印 。縁の平面部分にヤスリをかけたような痕跡がある。

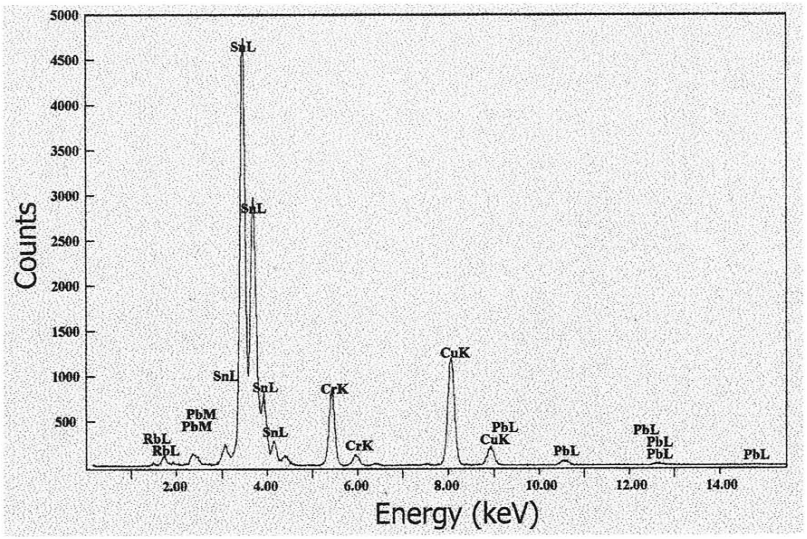


図２　図１に示した部分の蛍光Ｘ線スペクトル。
（RbLは自動判定の誤りと考えられる）

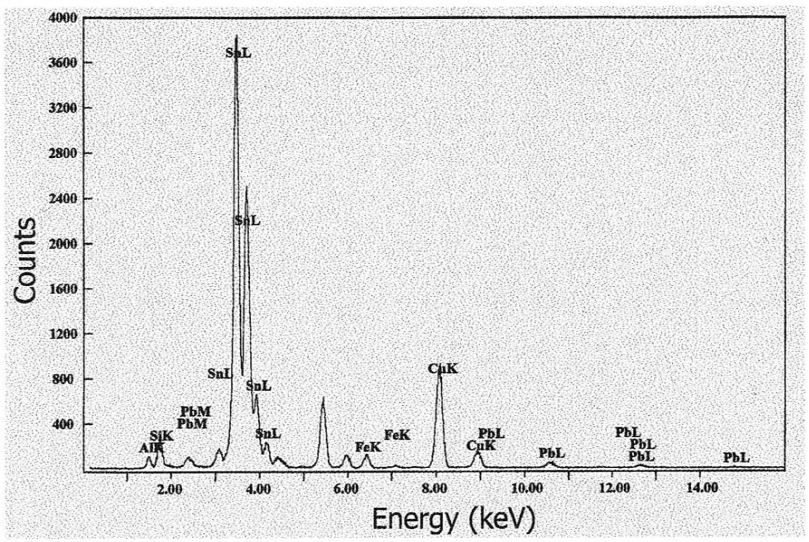


図４　図３に示した部分の蛍光Ｘ線スペクトル。
（図２にはないFeのピークがある）

北田遺跡
写真図版

小岡丸地区遺跡群とその周辺（右が北）

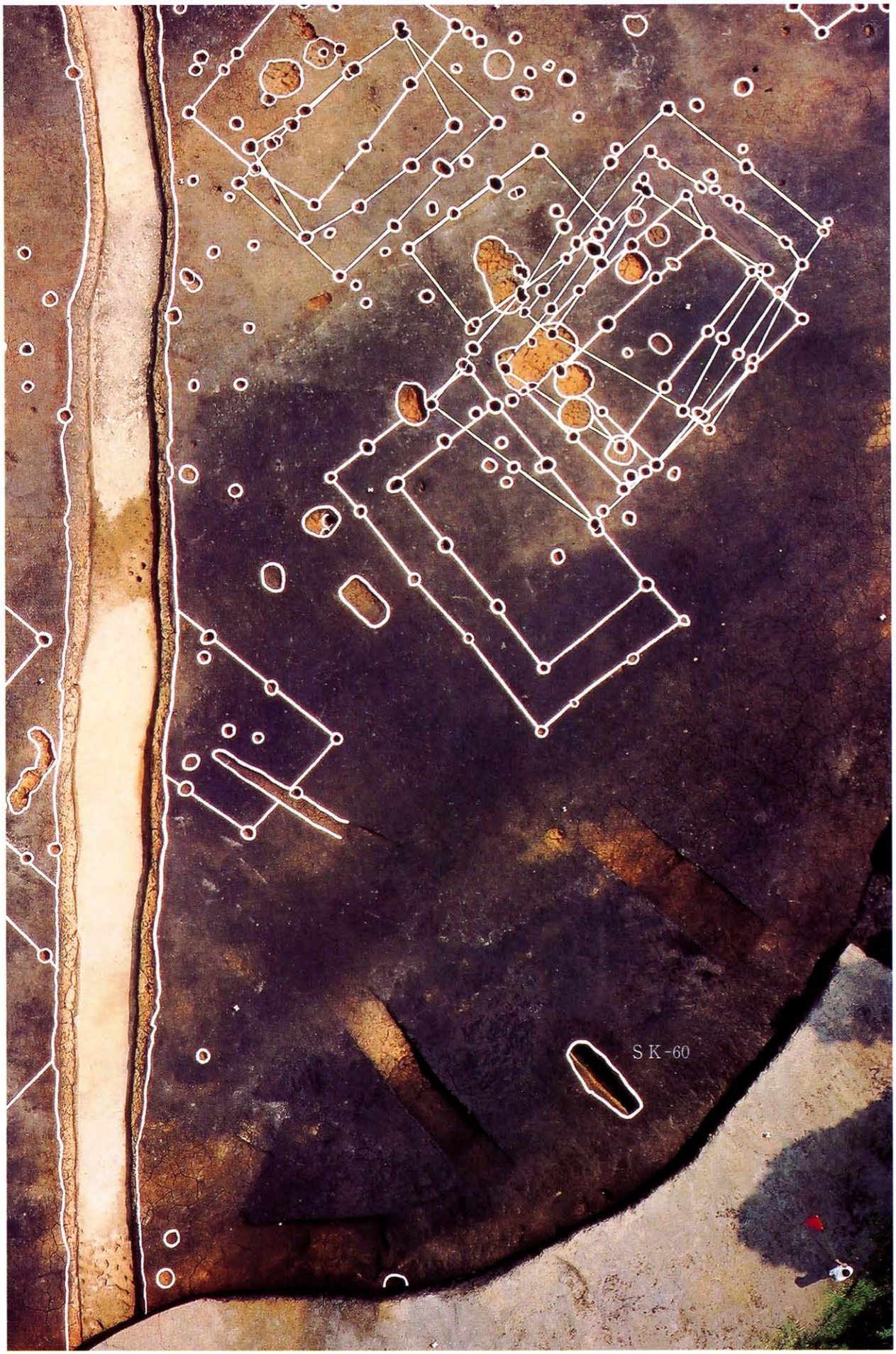
図版2

調査地とその周辺（約25年前）

北田遺跡遠景（南西から）

北田遺跡　全景（右が北）

図版4



陥し穴（SK-60）とその周辺

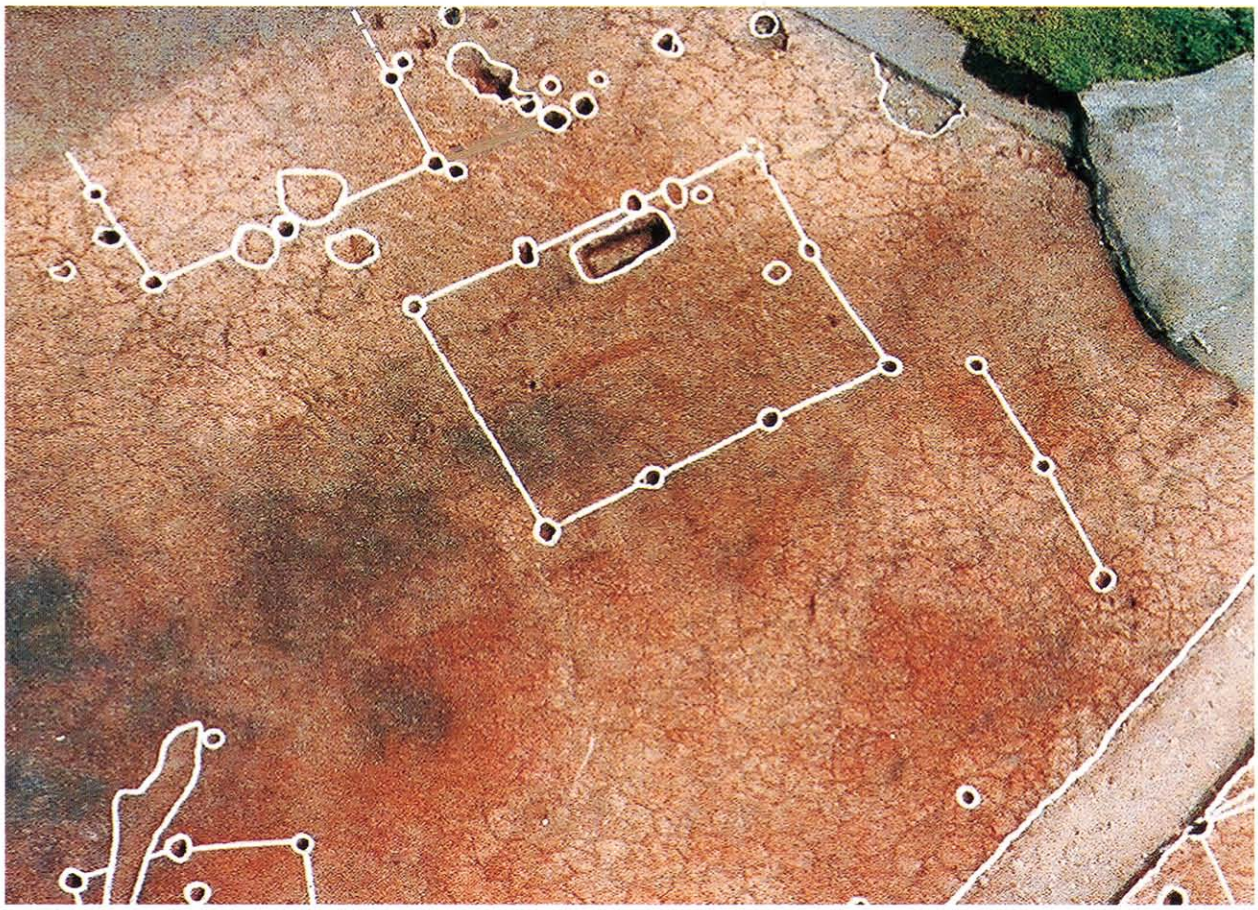
中央　建物密集部（右が北）

図版6

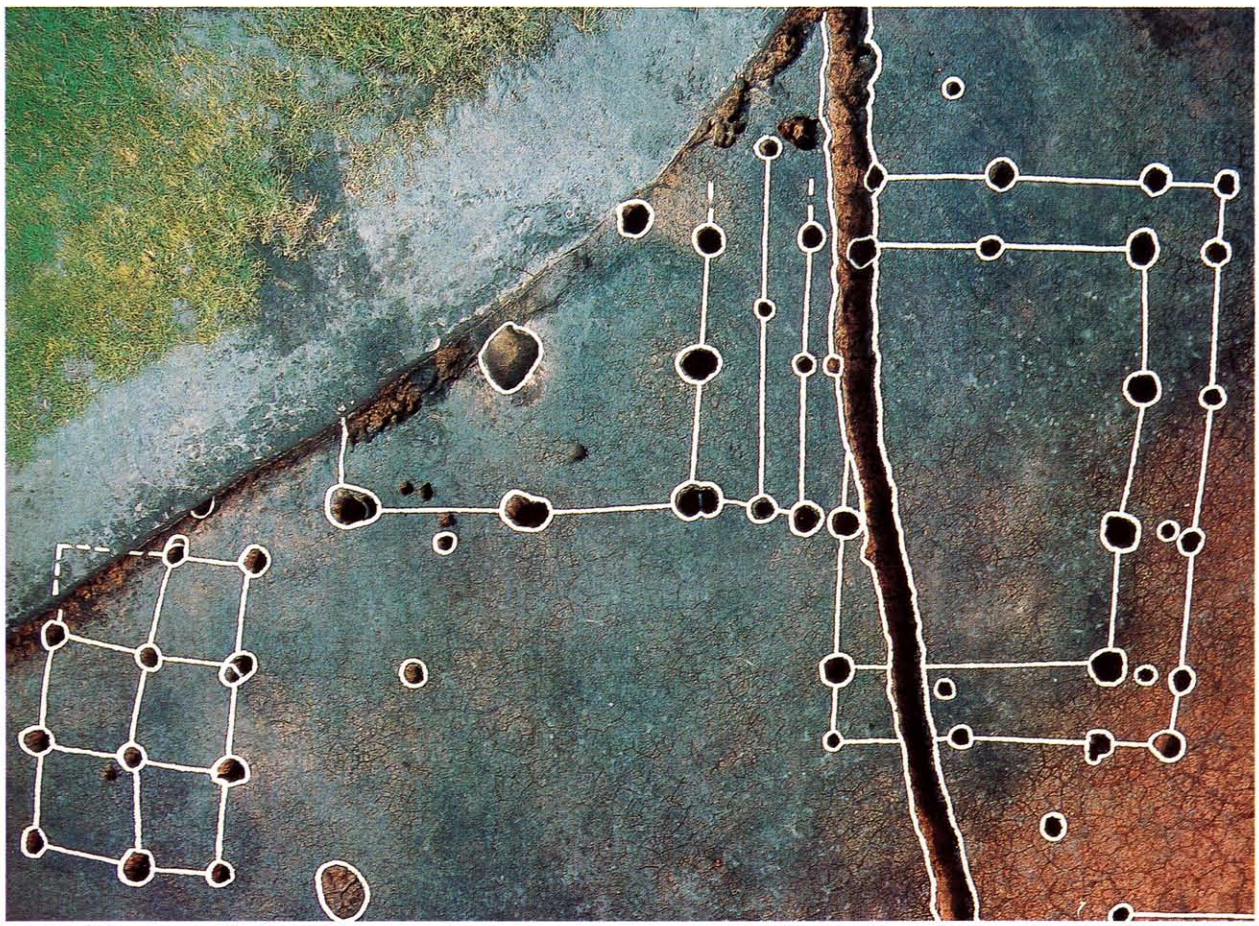
01号道路北半とその周辺

01号道路南半とその周辺

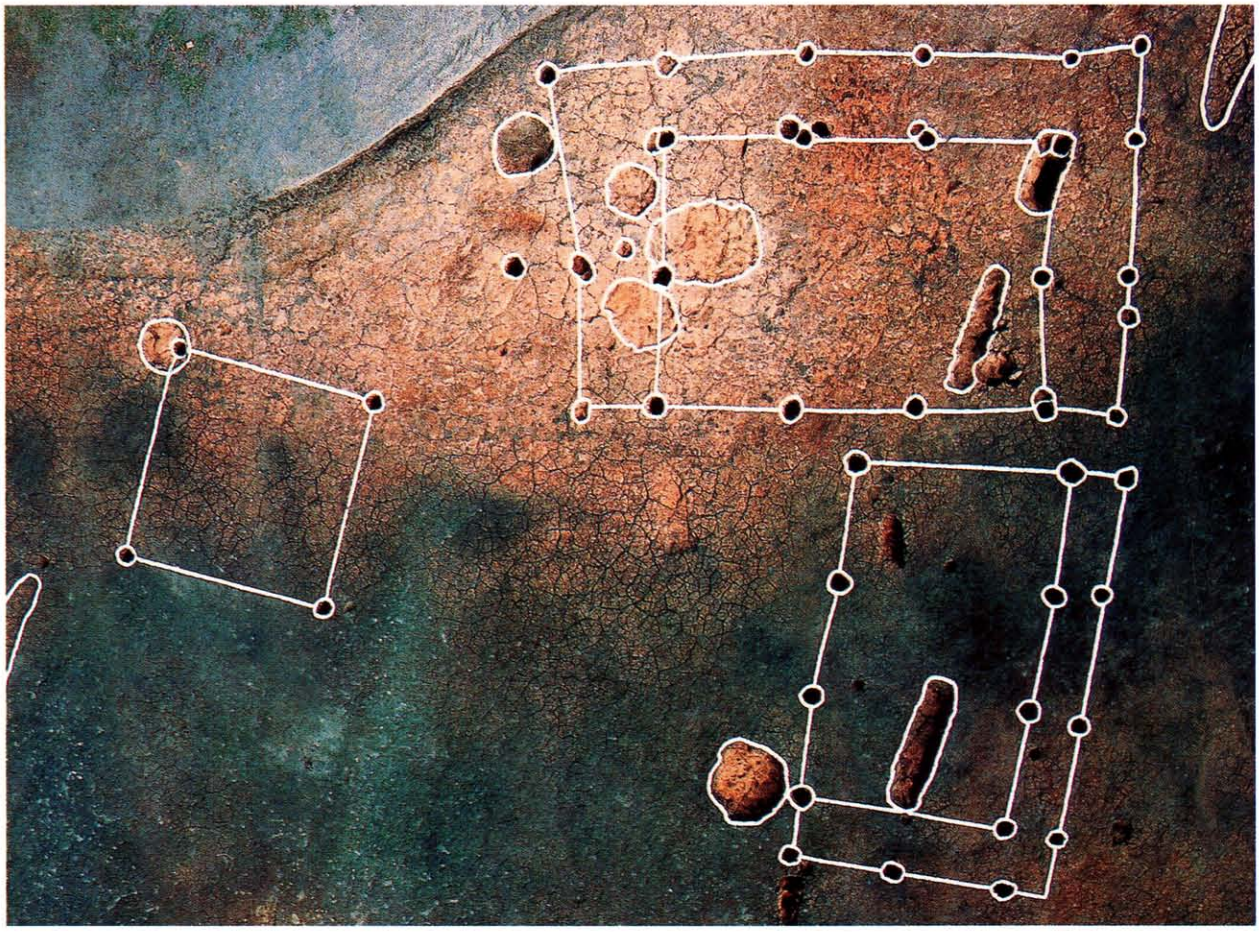
図版8



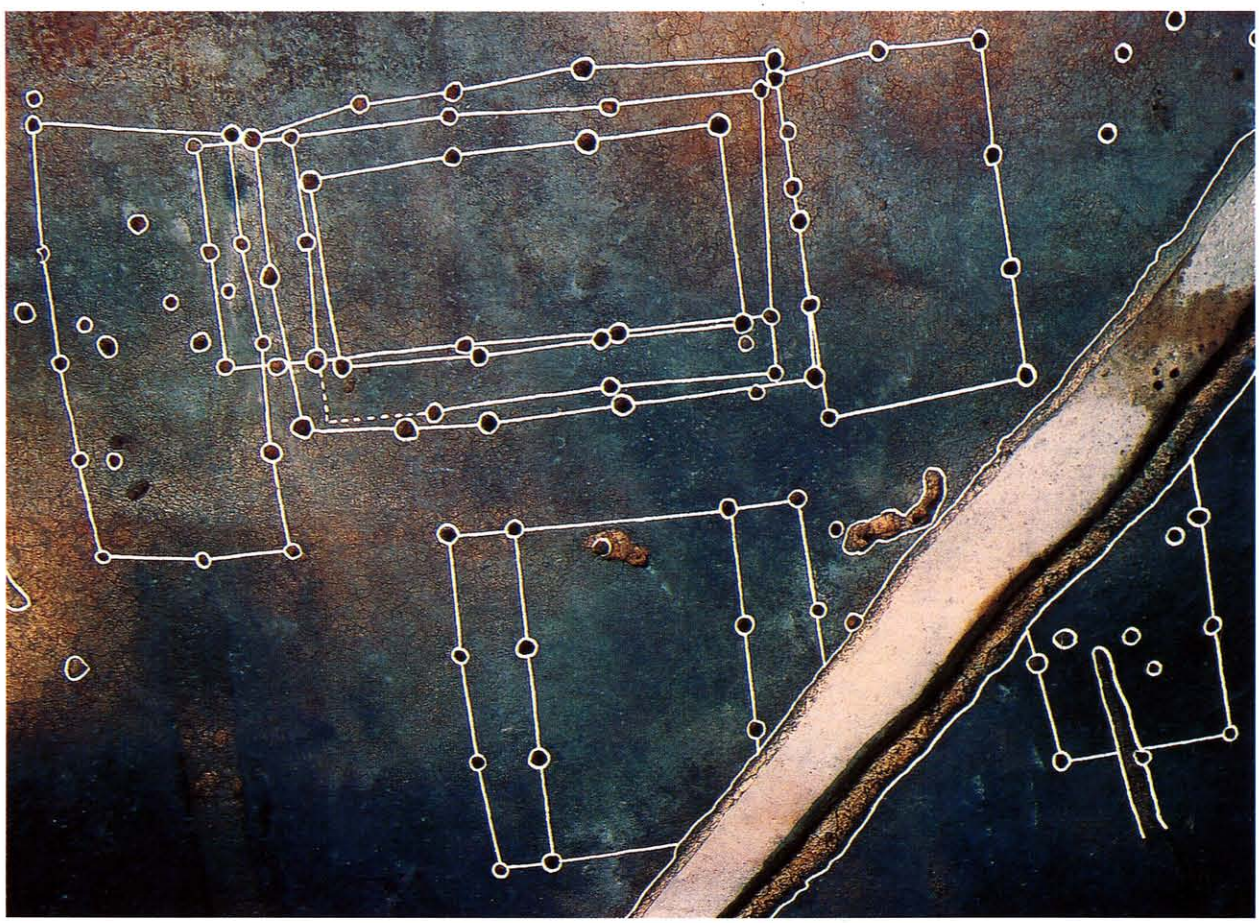
ＳＢ-31・61，ＳＦ-01　周辺



ＳＢ-28～30　全景

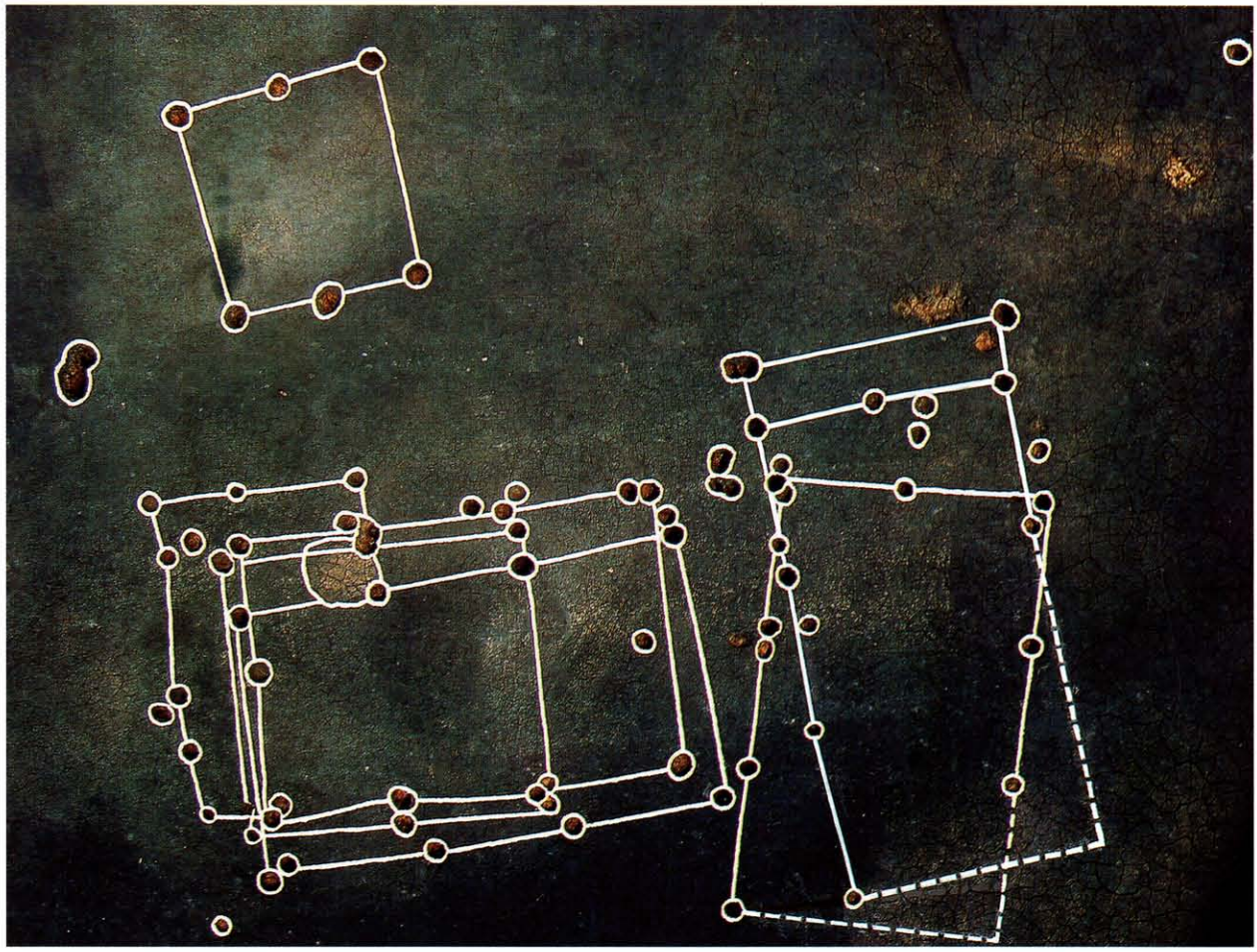


ＳＢ-26・27・10　全景

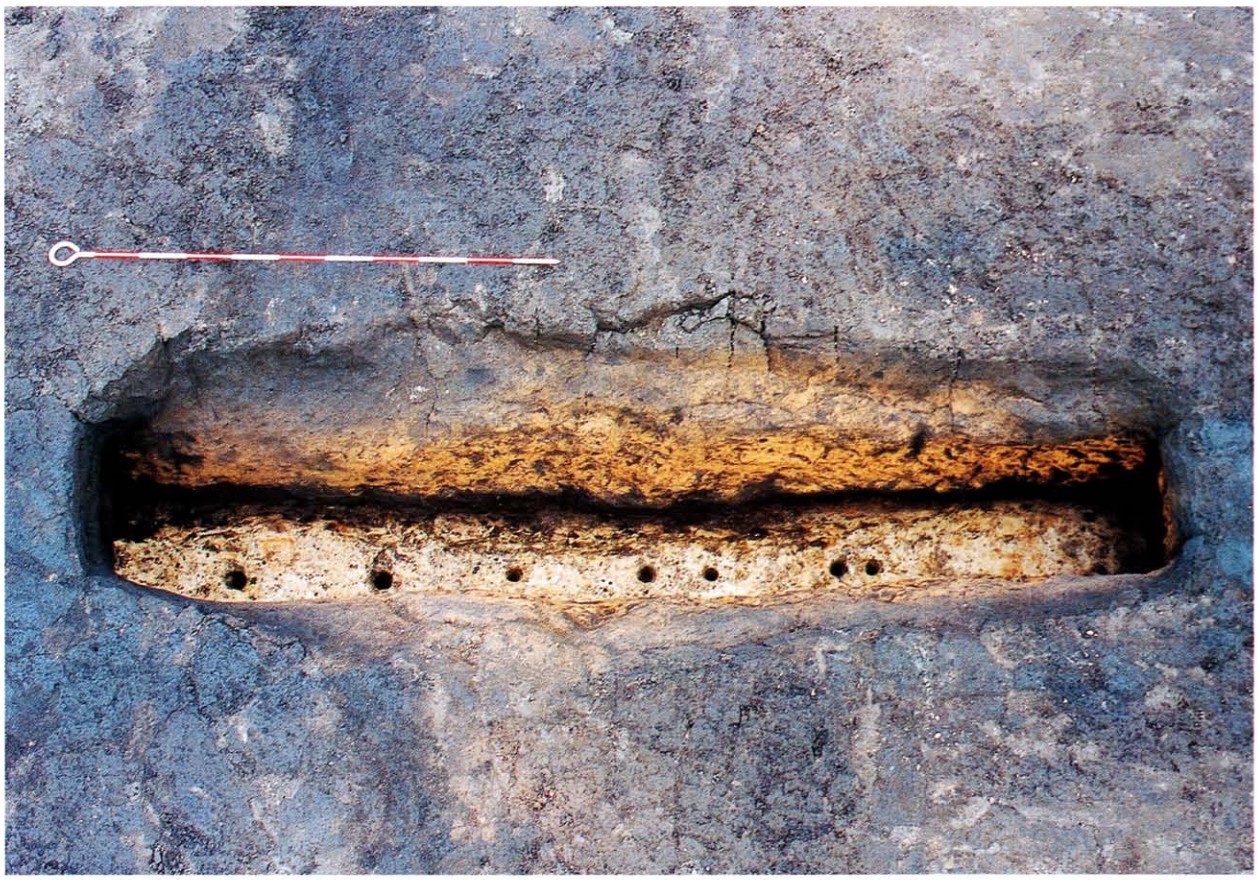


ＳＢ-20～24・47　全景

図版10

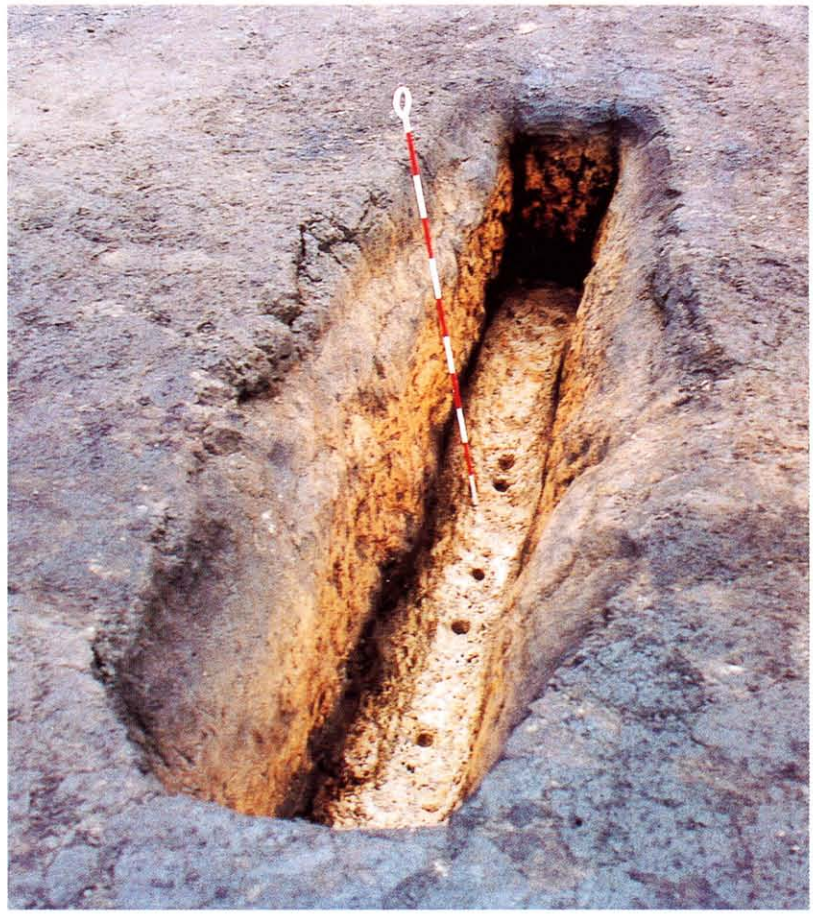


ＳＢ-01～05・69　全景



ＳＫ-60　完掘全景（西から）

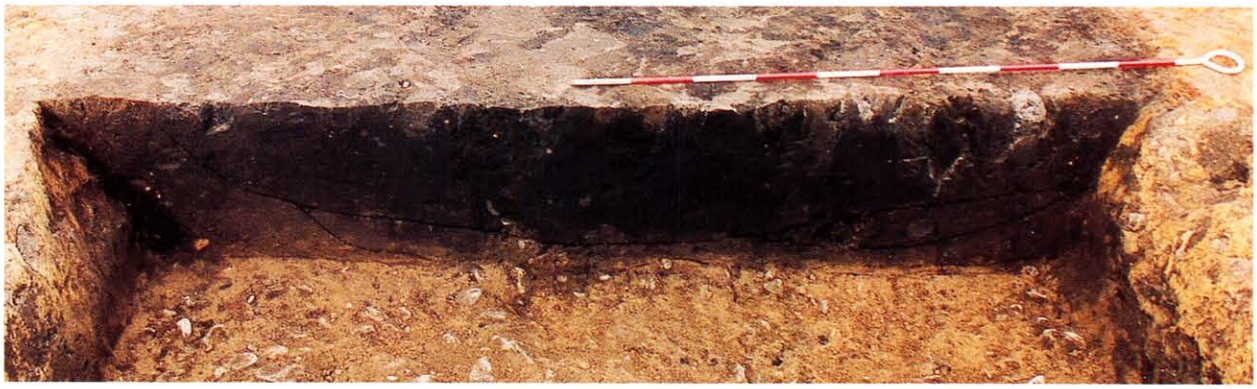
ＳＫ-60
完掘全景
（北から）



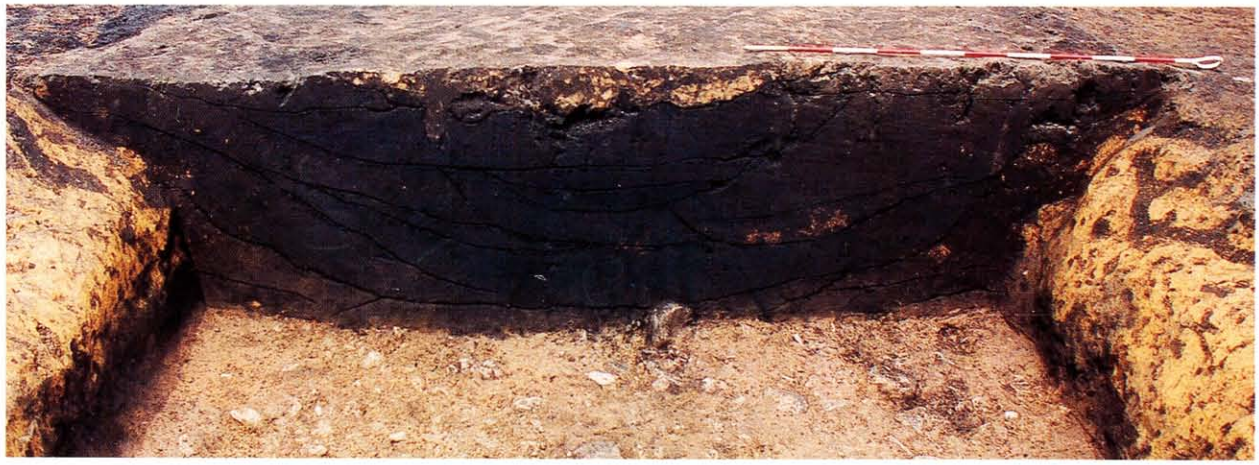
ＳＤ-04　南壁層序（Ａ-Ａ′）

図版12

ＳＤ-04　断面層序　G-G′



同　上　F-F′



同　上　E-E′

同　上　D-D′

ＳＤ-04　断面層序Ｃ-Ｃ′

同　上　南壁

図版14

ＳＤ-04　北部　遺物出土状態

（南東から）

同　上

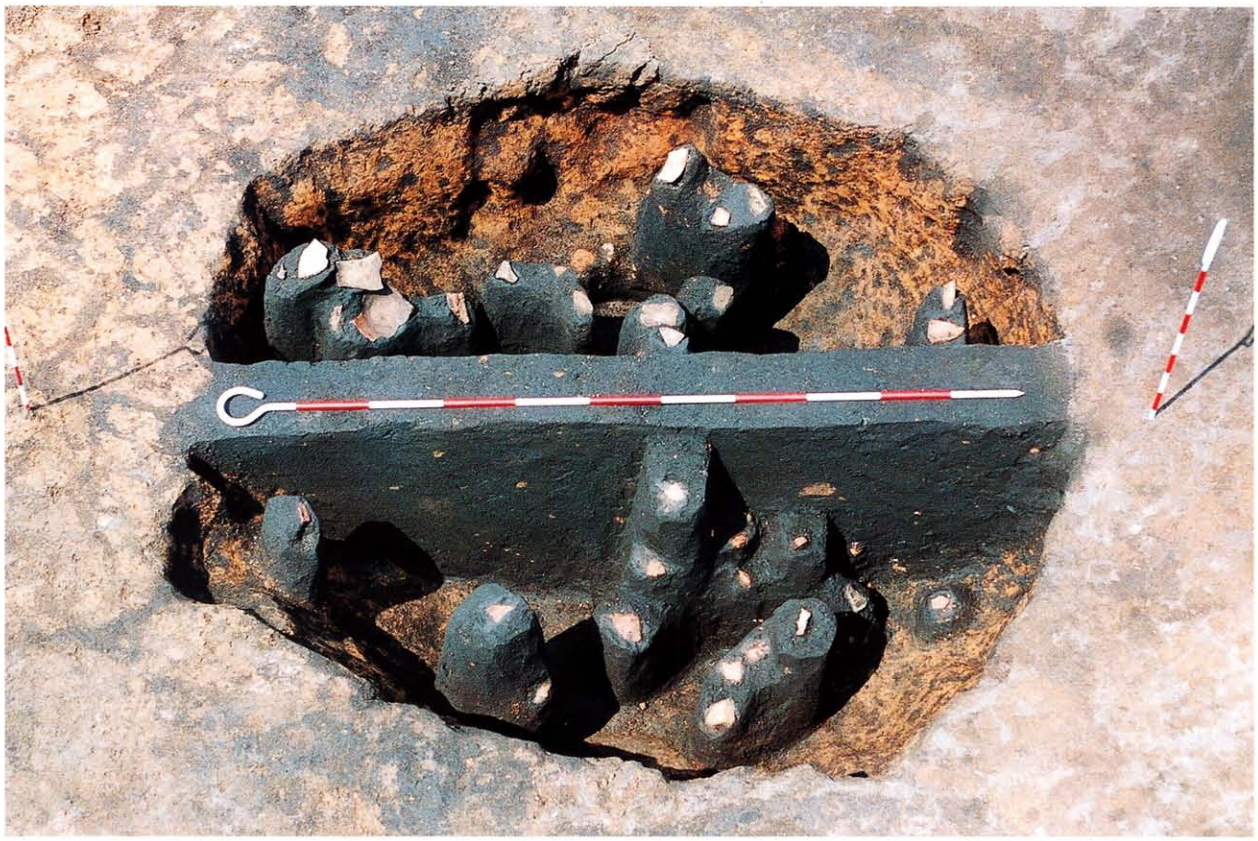
南西部　拡大

同　上　北東部　拡大

ＳＤ-04　南側　遺物出土状態（断面Ｂ-Ｂ′）

同　上　接写

図版16



ＳＫ-06　遺物出土状態
（東から）

同　上
断面層序

同　上
完掘　全景

ＳＡ-01
炭化材等
出土状態
（南から）

同　上
東西セクション
東側南壁
断面層序

同　上
完掘全景
（南から）

図版18

ＳＫ-10　遺物出土状態（北西から）

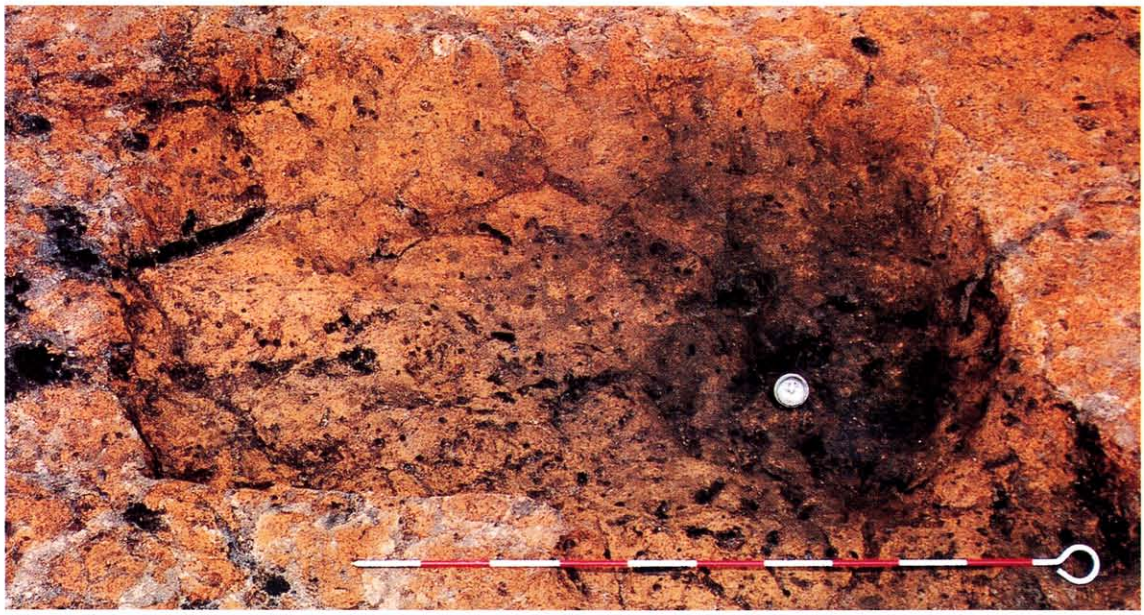
同　上　セクション除去　崩落礫・遺物出土状態（東から）

ＳＫ-10　完掘・石組状態・炭化物出土状態（西から）

上：ＳＫ-41　断面層序（南から）　　下：同　完掘全景（南から）

図版20

ＳＫ-30　完掘全景（東から）



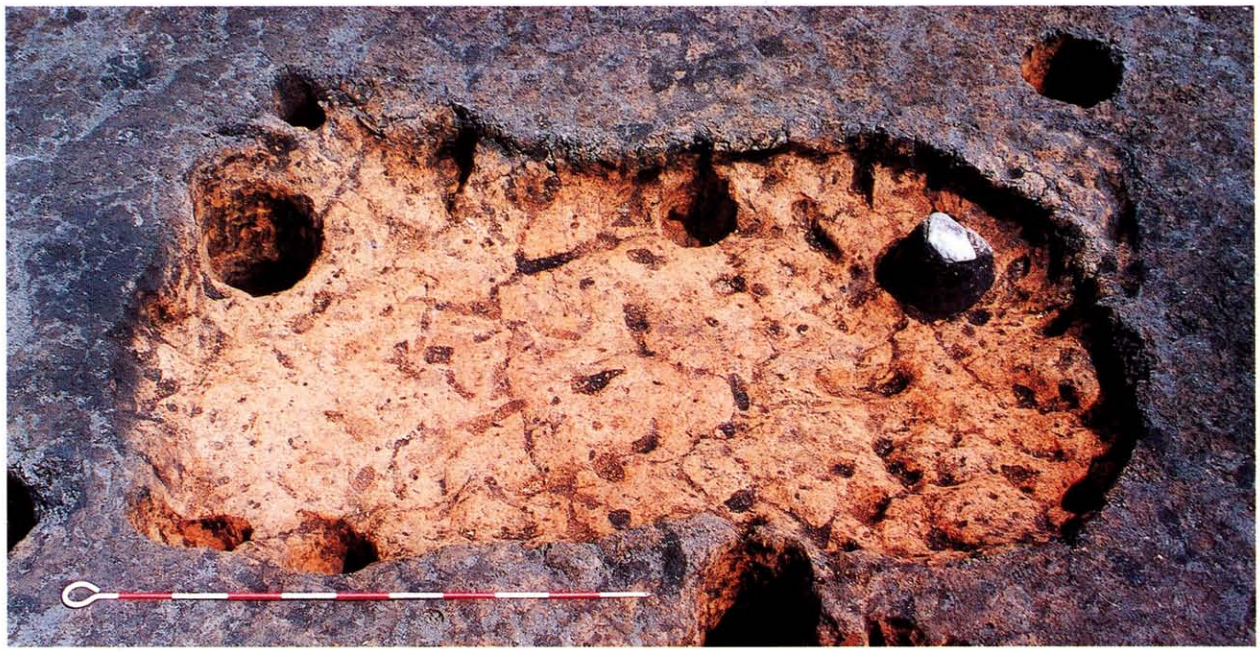
ＳＫ-56
完掘
全景
（東から）

同　上
青白磁
合子
出土状
態
（北から）

ＳＫ-04　完掘全景（南から）

上：ＳＫ-13　断面層序（西から）　　下：同　完掘全景（西から）

図版22



ＳＫ-24　完掘全景（南から）

上：ＳＫ-31　断面層序（西から）　　下：同　完掘全景（西から）

ＳＫ-28
完掘全景
（北西から）

ＳＫ-32
断面層序
（南から）

ＳＫ-59
断面層序
（西から）

図版24

ＳＲ-01　北端部（南東から）

同　上　北側セクション北壁層序（北西から）

ＳＲ-01　中央やや北側　底面と新旧側溝（北西から）

同　上　南側セクション北壁層序（北西から）

図版26

ＳＲ-01　南側セクション北壁とその周辺

同　上　南端部底面の石敷

ＳＤ-04　出土　土師器（1）

同　左（2）

同　上（3）

同　左（4）

同　上（5）

調査区出土　土師器・土師質土器

図版28

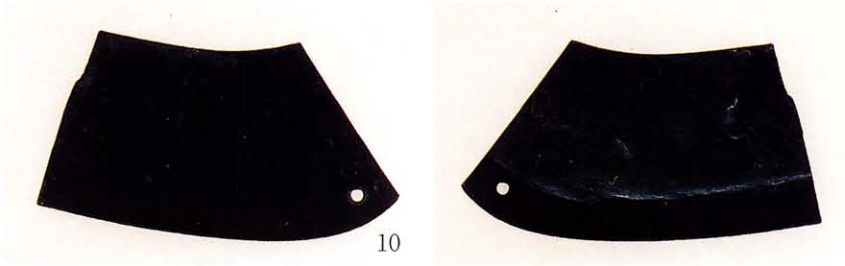
調査区出土　輸入陶磁器　外面

同　上　　内面

ＳＫ-56　出土　青白磁　合子

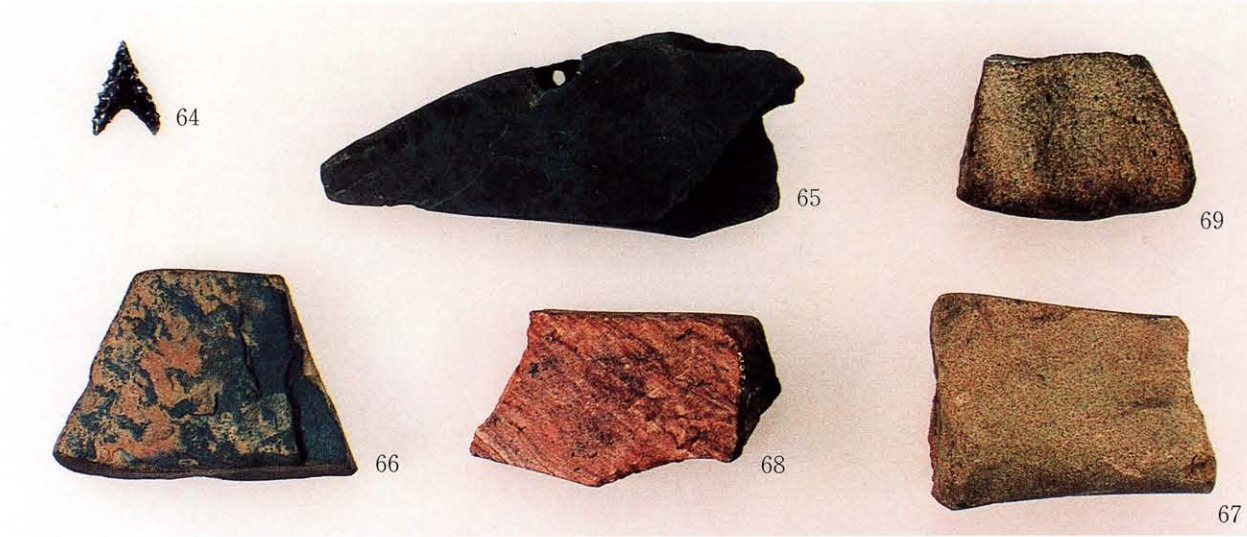
調査区出土　中世・近世国産陶磁器　　上：外面　下：内面

ＳＤ-04出土
用途不明
金属製品



ＳＫ-10出土
鉄器

図版30



調査区出土　石器・石製品

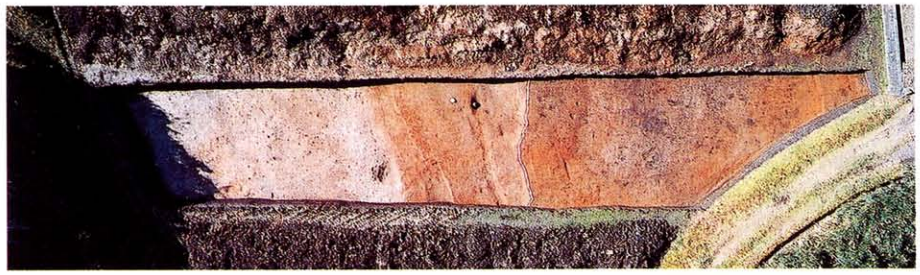
田之上城跡
写 真 図 版

田之上城跡とA・B区近景（北から）

図版32

A・B区　近景（右が北）

A区
全景
（右が北）



同　上　　東壁層序（南西から）

同　上　　中央部（西から）

同　上　　南端（西から）